

下馬周辺遺跡 (No.200)

鎌倉市由比ガ浜二丁目 113 番 5、9 地点

例 言

1. 本報は鎌倉市由比ガ浜二丁目 113 番 5、9 地点に所在する遺跡の発掘調査である。
2. 発掘調査は自己用店舗併用住宅にかかる建築範囲約 12 m²を対象とし、平成 21 年 10 月 13 日から 11 月 13 日にかけて実施した。
3. 現地での調査体制は以下の通り
担当者 伊丹まどか
調査員 榎岡ケイト
作業員 小口照男・倉沢六郎・清水政利（社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本報作成は以下の分担で行った。
遺物実測 岩崎卓司・岡本夏奈・須佐直子・鍋島昌代
遺物図版作成 鍋島昌代・田畑衣理
遺構図版作成 岡本夏奈・田畑衣理
遺構・遺物観察表 岡本夏奈・田畑衣理
遺構写真 伊丹まどか
遺物写真 須佐仁和
写真図版作成 田畑衣理
執筆・編集 田畑衣理
5. 本調査に係る出土遺物・図面・写真等の記録資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は調査段階では「GKI」としていたが、市教育委員会の統一基準により「GB0910」として整理した。
6. 本報の凡例は以下の通りである。
・挿図縮尺 遺構全測図：1/60 個別遺構図：1/40 実測遺物図：1/3 銭：1/1
なお各挿図にはスケールを表示してある。
・遺構図版 遺構のレベルは海拔標高の数値を示す。
・遺物図版 釉薬の範囲は $\cdot - \cdot -$ 、加工痕・使用痕は $\text{♀} \leftarrow \text{————} \rightarrow \text{♀}$ 、生産地加工痕 $\text{♀} \leftarrow \rightarrow \text{♀}$ 。
・文中で「かわらけ」と記載したものは「轆轤成形かわらけ」を指し、「手づくね成形かわらけ」は「手づくね」と記載している。
7. 本文の都合から遺物に関する詳細は観察表にまとめて掲載している。また復元して実測した遺物は計測値に（ ）を、最大遺存値に [] を付して表している。
8. 遺物の分類及び編年は下記を参考にした。
瀬戸窯製品・尾張型山茶碗：藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
常滑・渥美窯製品：中野晴久 2012 『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』愛知県／藤澤良祐他 2015 「中世常滑窯編年の再検討—5 型式以降を中心に—」『上県 2 号窯跡第 9 次調査発掘調査概要報告書』愛知学院大学文学部歴史学科
舶載陶磁器：大宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡 X V —陶磁器分類編—』
火鉢：河野眞知郎 1993 「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢 神奈川第 2 集』神奈川県考古学会
9. 発掘調査及び報告書作成に関しては下記の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。（敬称略・五十音順）
押木弘己・汐見一夫・玉林美男・福田誠・渡邊美佐子

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	322
第1節 遺跡の位置と歴史的環境 (図1)	
第2節 周辺遺跡の調査成果 (図1)	
第二章 調査の概要	327
第1節 調査の経過・方法と調査区設定 (図2)	
第2節 堆積土層図 (図3)	
第三章 発見された遺構と遺物	333
第1節 第1面の遺構と遺物 (図4・6～9)	
第2節 第2面の遺構と遺物 (図4・10～12)	
第3節 第3面の遺構と遺物 (図5・13～16)	
第4節 第4面の遺構と遺物 (図5・17)	
第5節 最終トレンチ・表採遺物 (図3・17)	
第四章 まとめ	351

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	325	図10 第2面各遺構	339
図2 調査区配置図	328	図11 第2面各遺構・出土遺物	340
図3 堆積土層図・最終トレンチ位置図	329	図12 第2面面上・構成土・出土遺物	342
図4 第1面・第2面全測図	331	図13 第3面遺構22・25	344
図5 第3面・第4面全測図	332	図14 第3面遺構22・出土遺物	345
図6 第1面各遺構	333	図15 第3面遺構25・出土遺物	346
図7 第1面各遺構・出土遺物	335	図16 第3面各遺構・出土遺物	347
図8 第1面面上・出土遺物	336	図17 第4面各遺構・表採・出土遺物	350
図9 第1面構成土・出土遺物	337		

表目次

表1-1 第1面遺構観察表	334	表2 出土遺構観察表	352
表1-2 第2面遺構観察表	341	表3 出土遺物破片数表	357
表1-3 第3面遺構観察表	348		
表1-4 第4面遺構観察表	349		

図 版 目 次

図版1 360

1. 第1面全景 (南から)
2. 第2面全景 (南から)
3. 第2面全景 (西から)
4. 第3面全景 (南から)
5. 第3面全景 (北から)
6. 第3～4面全景 (南から)
7. 第4面全景 (南から)
8. 最終トレンチ (北から)

図版2 361

1. 調査区西壁① (東から)
2. 調査区北壁② (東から)
3. 調査区北壁③ (東から)
4. 調査区北壁④ (東から)
5. 調査区南壁① (北から)
6. 調査区南壁② (北から)

図版3 362

1. 第1面遺構22 (北から)
2. 第1面遺構3～7 (南から)
3. 第2面遺構8 (北から)
4. 第2遺構15・16 (西から)
5. 第3面遺構21 (北から)
6. 第3面遺構24 (南から)
7. 第3面遺構29 (東から)
8. 第3面遺構33 (南から)

図版4 363

1. 第3面遺構22 (東から)
2. 第3面遺構22側板・杭 (北から)
3. 第3面遺構22 (南から)
4. 第3面遺構22 (北から)
5. 第3面遺構22 (東から)
6. 第4面遺構31下駄 (東から)
7. 第4面遺構34 (西から)

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と歴史的環境（図1）

本調査地点はJR鎌倉駅南南西約550mの鎌倉市由比ガ浜2丁目113番5外に所在する。北側に下馬四つ角から長谷観音・大仏方面に至る県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）が東西に走り、扇ガ谷から南下する道路と交叉する通称六地蔵交差点の東南に位置する。六地蔵周辺は中世の刑場の跡とされ、作物が育たない飢渴畑と呼ばれていた。長い間荒廃地となっていたのを供養し、弔うために六体の地蔵を安置したと伝わる。神奈川遺跡台帳に拠れば、六地蔵交差点は4遺跡が接し、北東一帯が若宮大路を中心に南北に広い若宮大路周辺遺跡群（No. 242）、北西一帯が今小路周辺遺跡（No. 201）、南西一帯が長谷小路周辺遺跡（No. 236）、そして南東一帯は本調査地点が位置する下馬周辺遺跡（No. 200）とされている。

下馬周辺遺跡は、現下馬四つ角より南の東西500m×南北最大350mの範囲が呼称され、西に滑川が南下しほぼ中央を若宮大路が南北に貫く。遺跡名でもある「下馬」は鶴岡八幡宮への敬意を表して馬から下りたことに由来し、『吾妻鏡』には中の下馬橋、下の下馬橋がみられ、若宮大路に架かっていたという。『大庭文書』によれば3か所としているが、上の下馬橋は文献上には見えない。中の下馬橋は現二の鳥居前、下の下馬橋は現下馬四つ角にあったと考えられている。調査地点の北側を走る県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）は、古代においては五畿七道制が改変された宝亀2年（771）以前の古海道、また中世においては大町大路と重複するものと考えられている。東は名越の切通しから西は極楽寺坂・大仏坂へと至り、鎌倉とその域外とを東西に結ぶ中世鎌倉の幹線道路であった。調査地点より東での大町大路は、八幡宮から南の海浜に向けて南北に貫く若宮大路と現下馬四つ角で、宝戒寺前から若宮大路の東を南北に平行して走る小町大路と現大町四つ角付近で交叉する。現下馬四つ角付近は市街域を流れる小河川が滑川に交流し、下の下馬橋がかけられていたとされ、『吾妻鏡』に拠れば仁治2年（1241）11月には、三浦市氏と小山氏が下の下馬の西側の妓楼において祝宴の末に喧嘩に至り騒動になったとある。現大町四つ角付近の名越に至る道筋に沿っては、『吾妻鏡』建長3（1251）年及び文永2（1265）年に幕府から裁許を受けた商業地として定められた「大町」「米町（穀町）」「魚町」などの商業地が在った。幕府諸機関や武家屋敷が建ち並ぶ地域とは異なり、活発な商業活動が行われた商業地だけでなく、遊興的な施設をも備えた鎌倉における繁華の中心であったことが推察できる。

調査地点より西では、寿福寺前から若宮大路の西を平行して走る今小路と六地蔵周辺で交叉し、現道筋を長谷小路と名を変えている。遺跡名にも付される長谷小路は、一般的には鎌倉中期以降に創建されたという長谷寺と六地蔵までの道筋をいうが、中世期に他の大路（小路）の様に幹線道路として通されていたかは定かではない。この道筋には倉庫や工房等の機能が想定される方形堅穴が建ち並び、出土遺物から観ると職能人が多く居住した地域である。更に六地蔵より市道を海岸に向かい南に行くと、小坪から由比ヶ浜にかけて造営された下向原古墳群の一つで人物埴輪も出土した采女塚（近世においては無情堂塚とも呼ばれていた）と呼ばれた古墳時代後期の高塚式円墳が存在していたが、現在ではその様相は見る影もない。

※本章は、地点2の第一章-1（田畑2000）を加筆・修正して転載した。

第2節 周辺遺跡の調査成果（図1）

調査地周辺が砂丘を主体とした地形であることは、これまでの地質調査や発掘調査などによって明らかにされている。南北方向の若宮大路では下馬四つ角交差点周辺海拔3.8mが最も低く、鎌倉女学院北西交差点周辺海拔4.6mへと緩やかに北から南へと上がり、一の鳥居周辺海拔10.0mを海岸砂丘頂部とし、また海に向かって緩やかに下っていく。東西方向は県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）沿いに六地蔵周辺海拔7.9m、

地点2は海拔7.2m、地点3は海拔7.7m、本調査地点は海拔7.5m、地点9は海拔6.1m、地点10は海拔5.8m、江の島・鎌倉電鉄踏切周辺海拔5.0m、下馬四つ角海拔3.8m、JR横須賀線踏切周辺海拔6.8mである。下馬四つ角付近は北西佐助ヶ谷から東に流下する佐助川と、北から流下する扇ガ谷川が、若宮大路の東を流れる滑川へと交流する前の2河川の合流地点となり、市街地で最も低い地域となる。これは下馬周辺遺跡の南側海浜部と今小路西遺跡北西一帯の山裾までは微高地状の砂丘が横たわり、県道鎌倉葉山線に沿った一帯はその両砂丘に挟まれた後背湿地にあたる。粘質土ないし土壌化した砂質土を中心に、地盤の影響を受けながら堆積整地していることが確認できる。

県道鎌倉葉山線の南側に広がる「下馬周辺遺跡」では本調査地点を含め23ヶ所程（地点1～23・2018年3月末現在）となり、県道北側に広がる若宮大路周辺遺跡群（地点24～31）や今小路西遺跡（地点32）もふまえて、本調査地点周辺の主な調査成果を説明する。

地点2～7は本調査地点から南西範囲80m内外に位置し、県道南側に広がる砂丘後背湿地状の地盤に立地する為に砂層は僅かに確認されるのみで、粘質土ないし土壌化した砂質土を中心に明確ではないものの整地層を確認している。地点2は生活面を4時期とし、最終面は堆積土層が南西に傾斜しており、中世以前の遺構の確認はできなかったものの、古墳時代後期の遺物が出土している。13世紀代にかけてこの湿地状の土地を克服したのか、骨材加工に携わる生活の痕跡が観られる。その後あまり間をおかずに、木材基礎構造を持つ建物址（板壁建物？）が14世紀代にかけて繰り返し興廃していくが、次第に15世紀に近づいてくると遺構が希薄で活発な土地利用は見受けられない。海拔4.6mで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。地点3は近世を含めて3時期にわたる生活面で、遺構は地割溝と通路、それに平行して床下から木材を組み上げた建物址（板壁建物？）や礎板を伴う方形土坑が検出され、概ね13世紀後半～14世紀中葉としている。海拔4.9mで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。地点4は中世3時期を確認しているが、調査面積が小さい為か遺構は土坑のみで、概ね13世紀後半～14世紀中葉としている。調査後のトレンチでは海拔4.9mで中世基盤層と考えられる暗茶褐色砂質土層と灰色砂層が確認されている。地点5は厚く堆積した貝殻を多量に含む軟弱な暗褐色粘質土で検出された鎌倉石を伴う多数の方形堅穴建物をもとに、5時期で面を区別している。中世遺構面より検出された礎板・杭・横板の遺存状態は悪いが、板壁建物の一部もしくは掘立柱建物の可能性も考えられ、概ね13世紀中頃～14世紀代としている。海拔5.3～5.4mの暗褐色粘質土を中世基盤層とし、更に海拔5.0mでは黒色粘質土の中世以前の包含層も検出している。地点6は近世を含めて4時期にわたる生活面を検出。中世面は土坑・ピット・掘立柱建物あるいは板壁建物に伴うと考えられる礎板がみつき、少なくとも2棟の時期の異なる建物が存在し、概ね13世紀後半～14世紀前半としている。海拔4.9mで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。地点7は中世4枚の生活面を検出し、13世紀後半～15世紀代と幅広い年代が与えられている。溝・土坑・ピットを検出し、遺構覆土内と面上に遺存していた礎板から掘立柱建物が存在していた可能性を指摘している。調査後のトレンチでは、海拔3.9mで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。

地点24～27、31～32は本調査地点より北100m内外に位置し、県道北側に広がる砂丘上に営まれた一帯。地点24は中世～近世に至る2時期の遺構群を検出。近世遺構としては溝状遺構1条と多数の埋葬人骨出土で、上層には宝永四（1707）噴火の富士山降灰層が堆積していた。人骨群に伴う副葬品、溝状遺構出土遺物の示す年代観から近世末期の遺構とされているが、棺箱の形態や六銅銭年代から年代観の再検討も示唆されている。中世遺構は根太等床下構造の痕跡を伴うものを含む方形堅穴建物と溝状土坑・土坑等を検出。方形堅穴建物間の空閑地に道路状遺構の可能性を指摘し、各遺構群は若宮大路の規制外の方向性を示すとされている。年代は概ね13世紀後葉～14世紀代で、海拔6.4m前後の灰黄褐色砂質土層を中世基盤層としている。地点25

は 2 面 3 時期の中世遺構より方形堅穴建物・側溝を伴う道路状遺構・土坑等を検出し、各遺跡は検出された道路状遺構の軸方位を意識して営まれている。この道路状遺構は、側溝を伴うことやその幅員から幹線道路に近い規模を有するものとされ、若宮大路とは直行・平行関係にはないことが指摘されている。また遺構こそ確認されていないものの、中世以前の遺物が一定量出土していることから、付近には古代の遺構も存在する可能性が指摘されている。年代は概ね 13 世紀後半～14 世紀代で、海拔 6.6～6.7m 前後より上層が黄褐色砂層、下位につれて灰白色細砂と褐色粗砂の互層を中世基盤層としている。地点 26.27 は未報告のため詳細不明だが、特筆すべき点として中世基盤層は黄褐色砂層で、その下に堆積する黒色砂層^{*1}の下から中世以前の土器が土坑等の遺構と共に検出している。地点 31 は砂丘上に営まれた方形堅穴建物・土坑・溝状土坑と版築面（道路か）を検出している。海拔 6.4m 前後の茶褐色砂層を中世基盤層とし、その下に確認できる黒色弱粘質砂層（黒色砂層 1^{*1}）より古代末～中世初頭の遺物が出土していることから、最も古い遺構は 13 世紀初頭から成立し、15 世紀代まで遺構は存続していたとしている。地点 32 は海拔 7.6m の砂丘状に 2 時期の中世遺構を検出。狭少な調査区ながらも遺構密度が高く、主な遺構は溝・方形堅穴建物・土坑・柱穴等で、年代は概ね 13 世紀後半～14 世紀前半とし、海拔 7.0m の黄灰色砂層を中世基盤層としている。

地点 9～10、28～30 は本調査地点から東 120m 内外に位置し、北西佐助ヶ谷から東に流れる佐助川に向かって下る砂丘斜面に営まれ、湧き水が多い。本調査地点である地点 1 と地点 9 間の現地表海拔も 1.4m 前後の高低差があり、中世当時の状況を反映している。地点 9 は 13 世紀後半～14 世紀初頭に至る中世を 4 時期に分け、灰色を基調とする砂層（濁くと灰白色）よりピット・土坑・溝・根太等床下構造の痕跡を伴う大型～小型堅穴建物を検出。北側海拔 5.6m～南側 5.2m で確認できる黄灰色砂層（灰色粗砂と互層）を中世基盤層とする。地点 10 は傾斜地斜面に 13 世紀後半～14 世紀代にかけての中世 3 枚の生活面を検出している。最上位の 1 面からは方形堅穴建物・井戸・土坑・柱穴が多数検出された他に、第 1 面より上層から掘り込まれた堅穴内に切石を配置している石敷の方形堅穴建物が検出されている。第 2 面においても方形堅穴建物・井戸・土坑・柱穴群が主要な遺構として形成されており、東に柱穴群、西に方形堅穴建物という配置も基本的には変化ない。ただし、柱穴群は線状に集まる状況が窺われ、南北方向の柱穴列として区画割を示唆している。第 3 面は調査区の東側地域のみ層位的に確認し、礎板を伴う柱穴の他に 1 辺 10～15cm ほどの小穴や杭の遺存する小穴、それと浅い土坑を検出している。東側は海拔 3.9m で黒褐色粘質砂、西側は海拔 5.1m で黄白色砂を中世基盤層としている。地点 28 は方形堅穴建物・土坑・柱穴等が検出されている。確認された中世基盤層の黄白砂層は南側海拔 5.7m 前後で、北側では海拔 4.5m でも検出されず、佐助川の影響で土層全体が北に向かって下っていることがわかる。年代は概ね 13 末～14 世紀代としている。地点 29 は海拔 5.1m で中世基盤層が黄褐色砂層を検出する板壁建物や方形堅穴建物を中心とする遺構で、概ね 13 世紀後半～14 世紀前半としている。地点 30 は海拔 5.4m 付近で黄褐色～黄茶褐色砂層・灰褐色を中世基盤層とする。13 世紀後半～14 世紀前半にかけて 9 棟の方形堅穴建物が激しく切り合った状態で検出。湧水が多い為、建物の下部構造の木材の遺存状態が良好なうえに、付属の張り出し部分の床面より推定 4 万枚を超える備蓄埋納銭が納められた曲物を検出している。この方形建物は方形堅穴建物＝工房や倉庫としてだけでなく、商売や金融業等の商業活動の痕跡を示すとしている。

地点 13～17 は本調査地点から東 200m 内外に位置し、若宮大路で最も低い下馬四ツ角交差点周辺海拔 3.8m に向けて低くなる一帯である。地点 13 は中世 2 位時期に区分され、13 世紀末頃～14 世紀前半を中心とした柱穴・土坑・溝等を検出。建物を想定できる柱穴列も検出されているが、狭少な調査区の為に遺構の全容は理解しがたいとしている。海拔 2.4～2.5m の青灰色砂層で中世基盤砂層を確認している。地点 15 は 3 段階に分けて掘り下げ、1 次で近代井戸・建物基礎の松杭列・土丹版築・浅い窪み状の土坑を検出。2～3 次で調

査区の殆どが北東から南西に南北に走る流路・河川址と推測でき、護岸に使用していたであろう木杭も廃棄された状態で検出されている。建物遺構の存在は皆無であり、町屋的な要素を持つ建物の拡がりの東の限界であろうと予想される。南東角に中世基盤層と思われる黒褐色粘質土を海拔 2.7m前後で部分的に確認し、遺構の年代は概ね 13 世紀後半～15 世紀代としている。未報告である地点 17 に於いても後背湿地状の地盤に土丹を使用した護岸状の落込みが南北方向で検出されており、地点 15 以東は河川址と推測される。そのまま県道沿いに本調査地点から東 380mに位置する地点 22 は、上層・下層と 2 分割した 13 世紀代の中世面より南北に走る道路状遺構とそれを挟む 2 つの側溝が検出しており、河川址の東側限界は確認できていない。海拔 4.8 m前後の黄褐色砂層を中世基盤層としている。

他に地点 8 は本調査地点から南東 100mに位置する。中世 2 枚の生活面を検出し、海拔 4.7m前後の第 2 面で検出した貝殻粒を多く含み褐鉄分が染み込んだ暗灰褐色砂層土の硬化面より、掘立柱建物・道路・木組みの土留遺構柱穴・溝などを検出している。概ね 13 世紀後葉～14 世紀代とし、調査面積の狭さや湧水に伴う崩落の危険性から掘削深度制約の為、中世基盤層は確認できていない。地点 19 は海浜砂丘の北側裾部に位置し、中世 3 時期。最下層の 13 世紀前半は沼のような湿地の窪地が存在し、柿経や笹塔婆などを多量投棄した特殊な行為が確認され、鎌倉前期のこの場を考える上で重要な意味合いを含むといえる。13 世紀中頃からは生活の営みが認められる空間が広がり、13 世紀後葉～14 世紀中頃は溝や段で区画された中に堅穴建物・井戸・通路・土坑などの検出に伴い、多くの遺物も出土し、町屋的空間に変貌したと考えられている。

以上の結果より、現地表においては県道鎌倉葉山線を境に北側と南側の海拔差は殆どないが、中世遺構検出海拔高は 100 cm以上の差があり、砂丘の影響で中世期には南にむかって海拔高が下がる後背湿地状に形成され、それに伴った板壁建物址掘立柱建物を検出する調査地周辺であることがわかっている。

【引用・参考文献（※第 4 章 まとめも含む）】

- ※1 降谷順子・斎木秀雄「長谷小路周辺遺発掘調査報告書―（仮称）由比ガ浜こどもセンター建設に伴う由比ガ浜三丁目 194 番 1、262 番 1 地点―」2016 年の調査結果以降、黒色弱粘質砂質土あるいは黒色弱粘質砂層と表現していた土層を黒色砂層 1 と改められている。
- 上本進二 「鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『東国歴史考古学研究所調査研究報告 第 26 集 神奈川県逗子市棧敷戸遺跡発掘調査報告書』2000 年
「鎌倉の地形発達史」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 118 集 国立歴史民俗博物館 2004 年
- 高柳光寿 『鎌倉市史 総説編』1959 年 吉川弘文館
- 高柳光寿・貫達人 『鎌倉市史 社寺編』1959 年 吉川弘文館
- 赤星直忠 『鎌倉市史 考古編』1959 年 吉川弘文館
- 貫達人・川副武胤 『鎌倉廃寺事典』1980 年 有隣堂
- 白井英二 『鎌倉事典』1976 年 東京堂出版
- 下中邦彦 『日本歴史体系 14 卷 神奈川県地名』1984 年 平凡社
- 神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会 『神奈川県皇国地誌 相模国鎌倉郡村誌』1991 年 神奈川県図書館協会

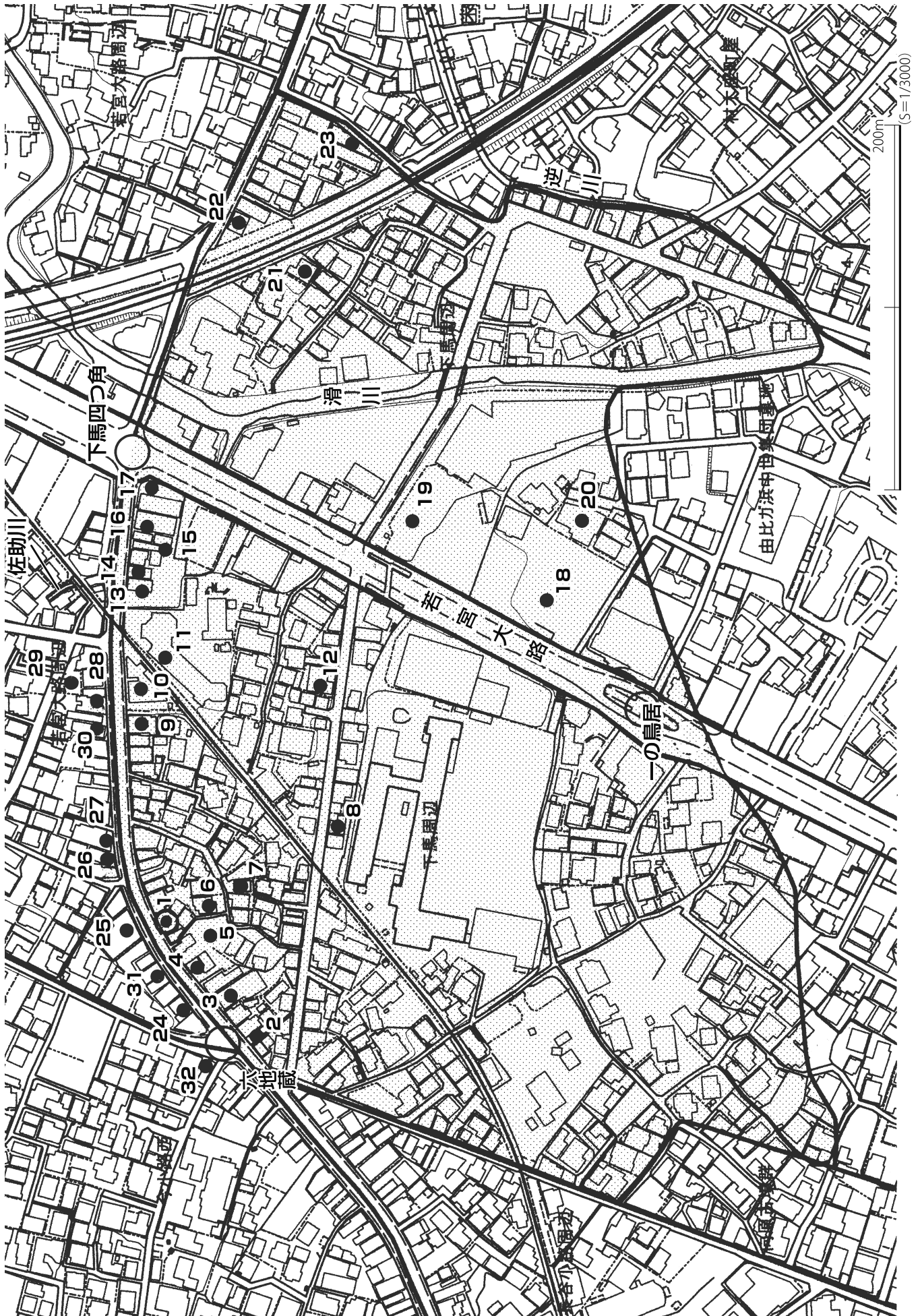


図1 調査地点と周辺の遺跡

【調査地点及び報告書】

下馬周辺遺跡群(No.200)地点一覧		
1	由比ガ浜二丁目113番5外	本調査地点
2	由比ガ浜二丁目106番6、7	汐見・田畑他2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
3	由比ガ浜二丁目107番1	汐見1997『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
4	由比ガ浜二丁目107番5	鈴木(絵)・福田2018『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34(第1分冊)』神奈川県教育委員会
5	由比ガ浜二丁目107番10、108番2	松山2017『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』(株)斉藤建設
6	由比ガ浜二丁目110番5	菊川・小林2001『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
7	由比ガ浜二丁目54番15	伊丹2017『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
8	由比ガ浜二丁目39番14	原2010『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
9	由比ガ浜二丁目19番4	馬淵・沖本他2013『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
10	由比ガ浜二丁目18番12	宗臺1992『下馬周辺遺跡－東京電力鎌倉営業所改築に係る発掘調査報告書』下馬周辺遺跡発掘調査団
11	由比ガ浜二丁目18番1	田代・汐見2003『神奈川県埋蔵文化財調査報告45』神奈川県教育委員会
12	由比ガ浜二丁目27番9	田代1990『神奈川県埋蔵文化財調査報告32』神奈川県教育委員会
13	由比ガ浜二丁目3番6	宮田・滝澤2010『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』(株)博通
14	由比ガ浜二丁目3番7	田代2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告51』神奈川県教育委員会
15	由比ガ浜二丁目2番12	齊木・熊谷1998『鎌倉遺跡調査会調査報告7』鎌倉遺跡調査会 ・『下馬周辺遺跡発掘調査報告書4』下馬周辺遺跡発掘調査団
16	由比ガ浜二丁目2番10	福田1992『神奈川県埋蔵文化財調査報告34』神奈川県教育委員会
17	由比ガ浜二丁目2番2	福田1990『神奈川県埋蔵文化財調査報告32』神奈川県教育委員会
18	由比ガ浜二丁目1075番外	植山・馬淵他2014『下馬周辺遺跡－鎌倉警察署建設に伴う発掘調査－』財団法人 かながわ考古学財団
19	由比ガ浜二丁目1011番1	大河内1998『下馬周辺遺跡発掘調査報告書－鎌倉女学院地点－』下馬周辺遺跡発掘調査団
20	由比ガ浜二丁目1058番5	宮田・森2009『神奈川県埋蔵文化財調査報告54』神奈川県教育委員会
21	材木座一丁目1002番1外	福田2008『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』鎌倉市教育委員会
22	大町二丁目1001番4	馬淵・松原他2011『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
23	大町二丁目975番6	宮田・森2006『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
若宮大路周辺遺跡群(No.242)地点一覧		
24	由比ガ浜一丁目129番5	清水1995『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団
25	由比ガ浜一丁目128番7	馬淵1988『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』鎌倉市教育委員会
26	由比ガ浜一丁目120番2	斎木2008 調査(未報告)
27	由比ガ浜一丁目120番6	原1993『神奈川県埋蔵文化財調査報告35』神奈川県教育委員会
28	由比ガ浜一丁目117番1	斎木1991『由比ガ浜1-117-1地点遺跡』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団
29	由比ガ浜一丁目116番9	滝澤・安藤2015『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』(有)博通
30	由比ガ浜一丁目117番14外1筆	滝澤・安藤2016『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』(株)博通
31	由比ガ浜一丁目128番1	降矢順子 2017『若宮大路周辺遺跡発掘調査報告書』(株)斉藤建設
今小路西遺跡(No.201)地点一覧		
32	由比ガ浜一丁目183番1	汐見・田畑他2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2分冊)』鎌倉市教育委員会

第二章 調査の概要

第1節 調査の経過・方法と調査区設定（図2）

本調査は鎌倉市由比ガ浜二丁目113番5、9地点における、自己用店舗併用住宅建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が近隣で行った確認調査の結果に基づき実施された。この結果、地表下約60cmの表土層直下で中世の遺物包含層が、地表下約80cmで暗褐色弱粘質土上を第1面とし、地表下約140cmで黄褐色砂質土上を第2面とし、地表下約180cmで黄褐色弱粘質土上を第3面とし、地表下200cmで黒褐色弱粘質土の地山かと推察される面が検出され、少なくとも4枚以上の中世遺構面の存在があることを確認した。以上の調査結果を受け、建築計画の実施に先立ち本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

調査期間は平成21年10月13日から11月13日まで、調査面積は12（3m×4m）㎡。地表下60cmまでは重機で掘削し、以下は人力による掘削に移行した。調査は一括全面で行い、下層においては調査面積を狭めトレンチを設定し、調査に伴う残土は敷地内処理している。

測量に当たっては調査区に任意の方眼紙を設け、基本点Aと見返り点Bを設定して遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行った。現地調査では日本測地系（座標AREA9）の国土座標値を使用し、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフトweb版「TKY2JGD」で世界測地系（第IX系）に変換し、図2に表記した。図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより30°7′20″東に振れている。

第2節 堆積土層図（図3）

本調査地点は砂丘間の後背湿地状の窪地と考えられる県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）に沿った一帯に位置し、砂層は僅かに確認されたのみで、粘質土ないし土壌化した砂質土を中心に堆積していた。北壁・東壁の上層は攪乱に削平されるものの、下層は全方位で層を確認することが出来た。一部測溝の関係で、図示した調査区壁の堆積土層図は平面調査の検出状況とは合致しないことを前以て明記する。

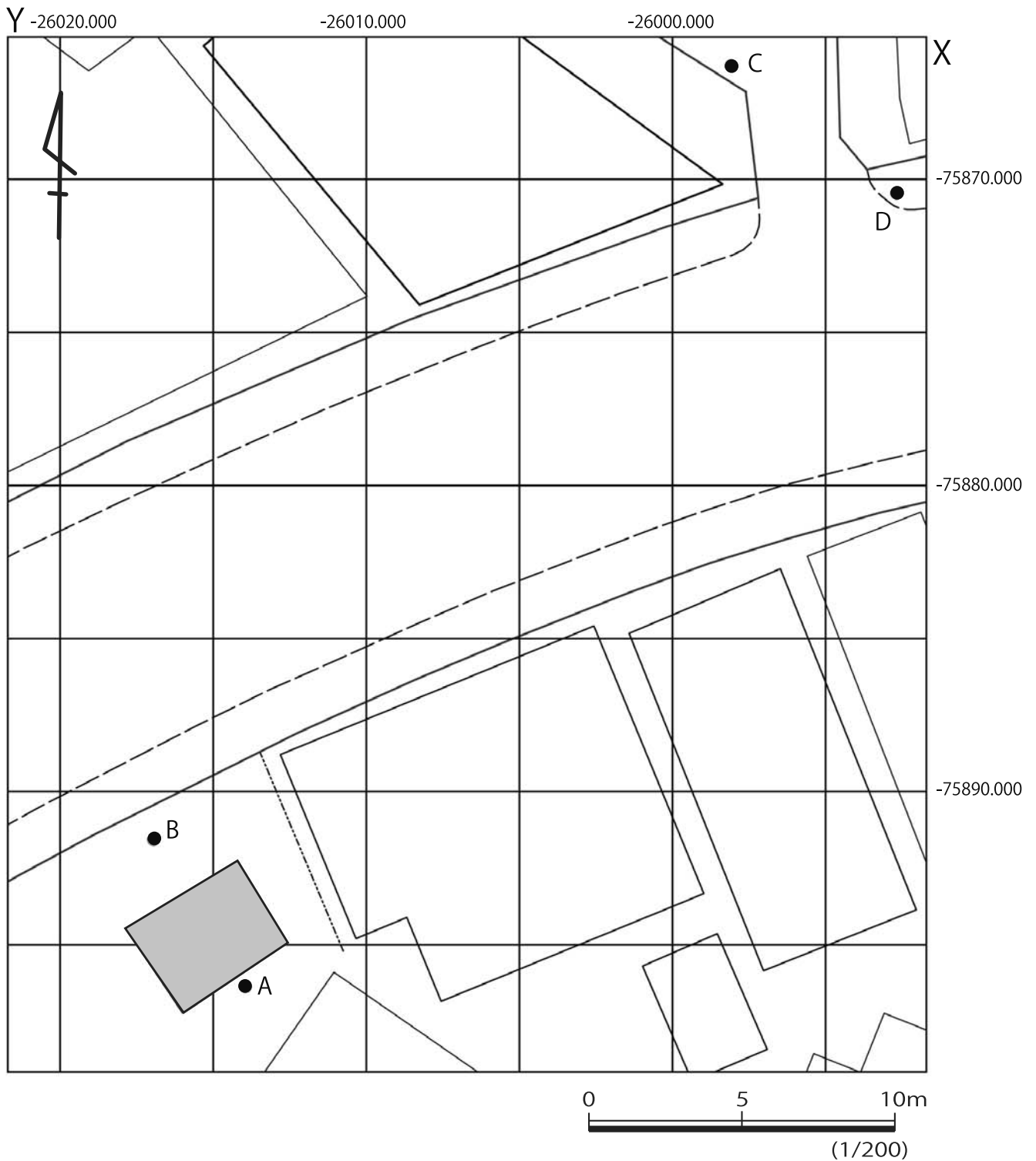
調査前の現地表海拔は7.4m前後で、ほぼ平坦な土地を形成していた。地表下約60cm（海拔6.8～6.9m）の表土層直下で版築のように硬く締まる泥岩粒多量・炭化物多量・玉石を含む暗褐色弱粘質土（第2層）を検出したが遺構の検出が伴わず、更に40cm掘り下げた海拔6.5m前後で検出の大型泥岩・泥岩粒多量・炭化物・玉石少量を含む硬く締まった暗褐色弱粘質土（第3層）上を第1面とした。

第2面は海拔6.3～6.4m前後で検出された褐色砂質土多量・泥岩・泥岩粒少量・炭化物・有機質土・貝砂を含む暗（茶）褐色弱粘質土上（第5層）とした。

第3面は海拔6.1～6.2m前後で検出された泥岩粒・炭化物・貝砂含む、部分的に上層硬化した黄褐色砂質土上（第21層）とした。板壁かと思われる側板を伴う方形竪穴建物等を検出するなど、本調査の中で最も遺構密度の高い生活面となる。

第4面は残土の関係で南西部のみを掘り下げ、海拔5.9～6.0m前後で検出された炭化物少量・貝砂・褐色砂を含む粘性の強い黒褐色弱粘質土上（第38層）とした。上面に炭化物多量・貝砂多量・褐鉄・黄褐色砂を多量に含む黄褐色弱粘質土（第37層）の硬化面が部分的に広がる。

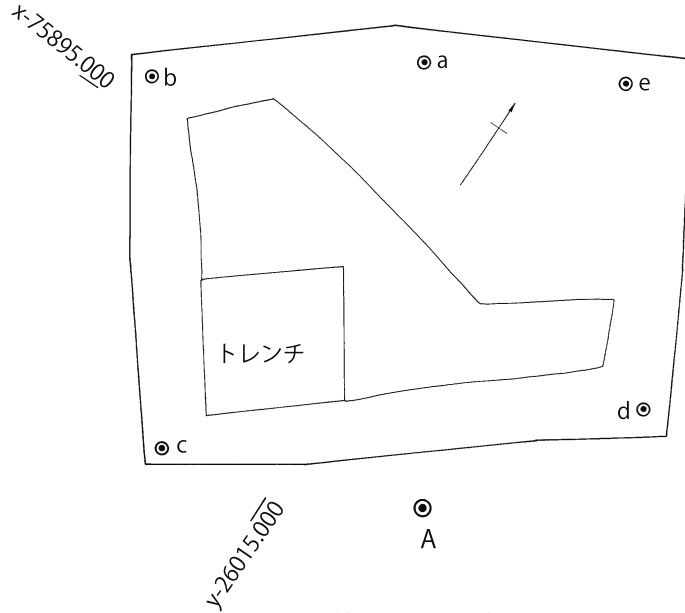
第4面以降の堆積状況はトレンチを設定し、海拔4.5m前後まで掘り進め、4層（第44～48層）を検出した。また東壁遺構25の下層より検出された海拔5.1m前後の第49層・青灰色砂質土は風成砂層の基盤層の可能性あり。



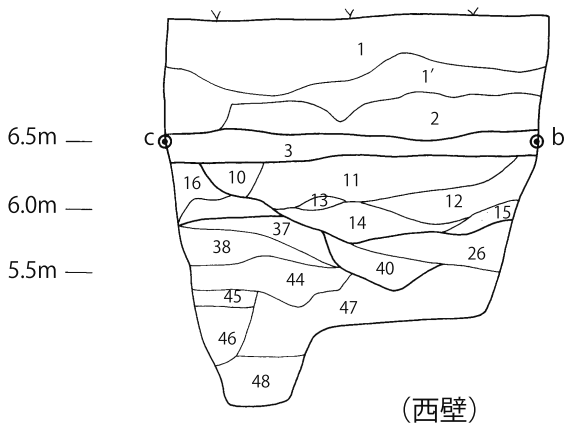
地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76253.080	-25720.517	-75896.3747	-26013.9525
B	-76248.277	-25723.517	-75891.5714	-26016.9522
C	-76222.994	-25704.656	-75866.2901	-25998.0899
D	-76227.160	-25699.249	-75870.4563	-25992.6836

図2 調査区配置図

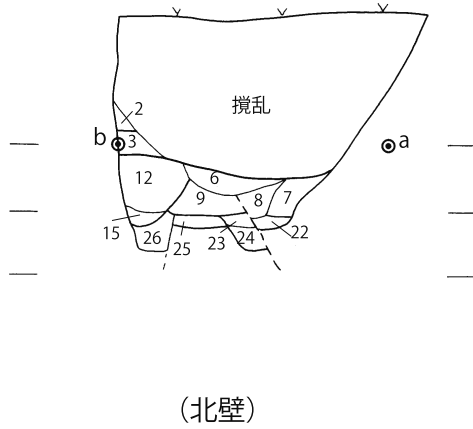
B
●



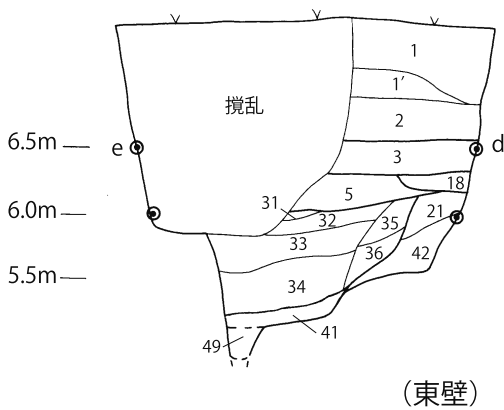
< 最終トレンチ位置図 >



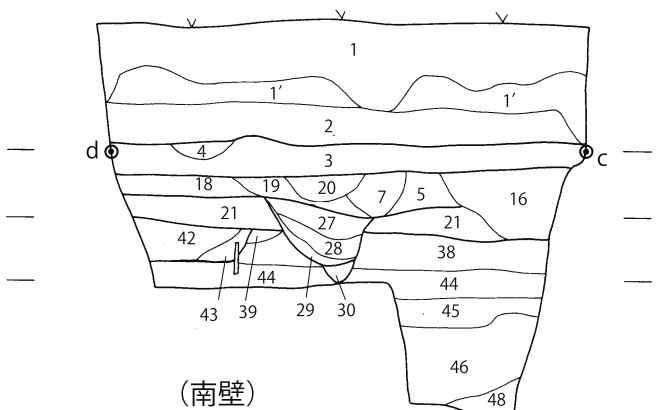
(西壁)



(北壁)



(東壁)



(南壁)

< 堆積土層図 >

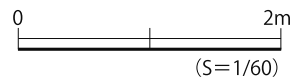


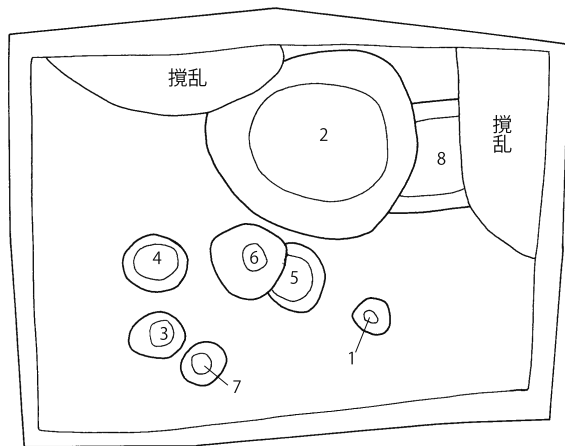
図3 堆積土層図・最終トレンチ位置図

<土層注記>

1. 表土：褐色弱粘質土（現代埋土）
- 1' 表土：褐色弱粘質土（近世耕作土）
2. 中世遺物包含層：黒褐色弱粘質土 泥岩粒多量・炭化物多量・玉石・硬く締まる
3. 暗褐色弱粘質土：泥岩(大)・泥岩粒多量・炭化物・玉石少量・砂質土・硬く締まる(第1面構成土)
4. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物多量・砂質土
5. 暗(茶)褐色弱粘質土：褐色砂質土多量・泥岩・泥岩粒少量・炭化物・有機質土・貝砂（第2面構成土）
6. 暗褐色砂質土：泥岩・泥岩粒少量
7. 暗褐色弱粘質土：泥岩少量・泥岩粒・炭化物多量、下層に貝砂・黄褐色砂質土多量
8. 褐色弱粘質土：褐色砂質土・泥岩多量・貝砂
9. 褐色砂質土：貝砂多量・黄褐色砂・有機質土
10. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒少量・炭化物(遺構14)
11. 暗褐色弱粘質土：泥岩(大)多量・泥岩粒・貝砂少量・炭化物(遺構14)
12. 暗褐色弱粘質土：褐色砂質土・泥岩粒少量・炭化物・貝砂多量（遺構14）
13. 褐色砂質土：炭化物・褐鉄・粘質土(遺構14)
14. 暗褐色弱粘質土：褐色砂・炭化物多量・貝砂・有機質土・締まりなし(遺構14)
15. 暗褐色弱粘質土：炭化物・有機質土・貝砂（遺構14）
16. 暗褐色弱粘質土：泥岩多量・泥岩粒多量・炭化物・貝砂
17. 灰褐色砂質土：炭化物微量・貝砂
18. 褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物少量・貝砂少量(遺構15)
19. 暗褐色弱粘質土：泥岩・炭化物少量・玉石・砂質土(遺構15)
20. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物・褐鉄(遺構15)
21. 黄褐色砂質土：泥岩粒・炭化物・貝砂(第3面構成土)
22. 暗褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物多量・貝砂多量・有機質土
23. 暗褐色砂質土：炭化物多量・貝砂少量
24. 暗褐色砂質土：炭化物・貝砂・有機質土(遺構22)
25. 暗褐色砂質土：炭化物多量・貝砂少量(遺構20)
26. 褐色砂質土：貝砂多量・黄褐色砂・有機質土
27. 黄褐色弱粘質土：褐色砂・泥岩・泥岩粒多量・炭化物（遺構18）
28. 暗褐色弱粘質土：炭化物・貝砂・有機質土(遺構18)
29. 暗褐色弱粘質土：褐色砂質土・貝砂・褐鉄(遺構18)
30. 黄褐色弱粘質土：泥岩少量・木片・有機質土
31. 炭褐色砂質土：炭化物(遺構25)
32. 褐色弱粘質土：褐色砂質土・炭化物多量・貝砂多量（遺構25）
33. 褐色砂質土：泥岩・泥岩粒少量・炭化物多量・貝砂多量・有機質土
34. 褐色弱粘質土：泥岩大多量・泥岩粒・炭化物・貝砂・有機質土(遺構25)
35. 褐色弱粘質土：褐色砂質土・泥岩粒少量・炭化物少量（遺構25掘方）
36. 褐色弱粘質土：黄褐色砂質土・泥岩・炭化物少量・貝砂少量（遺構25掘方）
37. 黄褐色弱粘質土：炭化物多量・貝砂多量・褐鉄・黄褐色砂多量な硬化面(第4面構成土)
38. 黒褐色弱粘質土：炭化物少量・貝砂・褐色砂・粘性強い（第4面構成土）
39. 灰褐色砂質土：炭化物微量・貝砂
40. 暗褐色弱粘質土：黄暗褐色砂多量・炭化物多量・有機質土
41. 青灰色砂質土：泥岩粒・炭化物(遺構25)
42. 茶褐色弱粘質土：泥岩粒少量・炭化物・貝砂・有機質土（遺構35）
43. 暗褐色弱粘質土：炭化物微量・貝砂・褐鉄（遺構35）
44. 黄褐色弱粘質土：泥岩少量・木片・有機質土
45. 黒褐色弱粘質土：泥岩粒・木片・有機質土・硬く締まる
46. 黒褐色弱粘質土：泥岩・木片・有機質土多量
47. 褐色弱粘質土：黄褐色弱粘質土・炭化物・有機質土
48. 黒褐色弱粘質土：青灰色弱粘質土・泥岩・木片・有機質土
49. 青灰色砂質土（風成砂層の基盤層か?）

B x-75891.5714
 ● y-26016.9522

x-75895.000



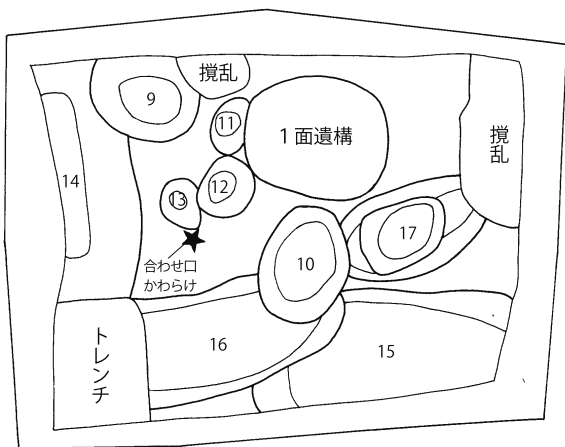
y-26015.000

● x-75896.3747
 A y-26013.9525

< 第1面全測図 >

B x-75891.5714
 ● y-26016.9522

x-75895.000



y-26015.000

● x-75896.3747
 A y-26013.9525

< 第2面全測図 >

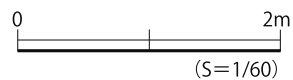
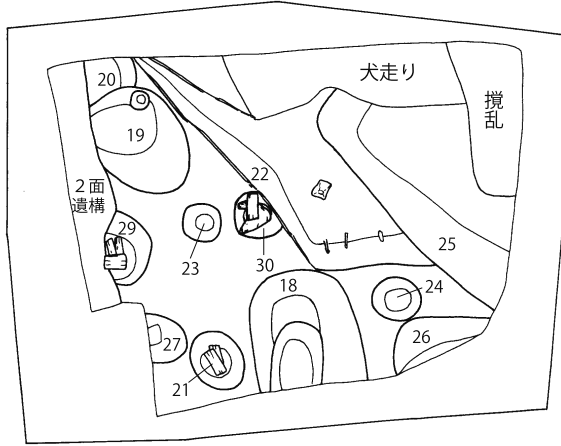


図4 第1面・第2面全測図

B x-75891.5714

● y-26016.9522

x-75895.000



y-26015.000

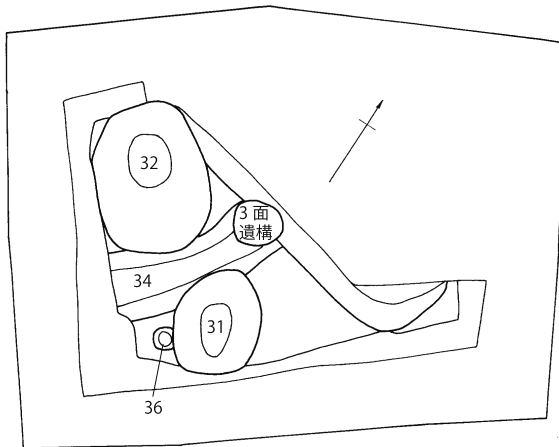
● A x-75896.3747
y-26013.9525

< 第3面全測図 >

B x-75891.5714

● y-26016.9522

x-75895.000



y-26015.000

● A x-75896.3747
y-26013.9525

< 第4面全測図 >

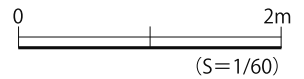


図5 第3面・第4面全測図

第三章 発見された遺構と遺物

本調査では現地表から約 60cm 下まで重機によって表土掘削を行ない、その後は人力によって遺構の発見・記録をした。調査区は南北 3.0m×東西 4.0m で、本報告では 4 面とした。報告の際の遺構番号は遺構確認時点もしくは整理段階で付したものであり、遺構の新旧を表すものではない。本文内では各面の特徴的な遺構・遺物出土のある遺構のみを説明しており、その他は各面ごとの遺構観察表にまとめて提示した。

出土遺物は遺物整理箱に総数 11 箱（うち木製品 4 箱）である。各面で発見した遺物の詳細は出土遺物観察表にまとめ、その他の遺物の様相は遺物破片数表を提示した。以下、発見した遺構は上層から下層の順に第 1 面から第 4 面・最終トレンチと分けて調査日誌を参考に事実記載を記した。調査開始前現地表の海拔は 7.4～7.5m 前後である。

第 1 節 第 1 面の遺構と遺物（図 4・6～9）

地表下約 60cm（海拔 6.8～6.9m）の表土層直下で版築のように硬く締まる泥岩粒多量・炭化物多量・玉石を含む暗褐色弱粘質土を検出し、遺構の精査を試みた。しかし中世遺物は混入するものの、遺構の検出が伴わず、更に 40cm 掘り下げた海拔 6.5m 前後で検出の大型泥岩・泥岩粒多量・炭化物・玉石少量を含む硬く締まった暗褐色弱粘質土上を第 1 面とした。検出遺構は 8 基だが、大型土坑の遺構 2・8 以外は覆土等を確認しても明確に遺構とは言い難い。

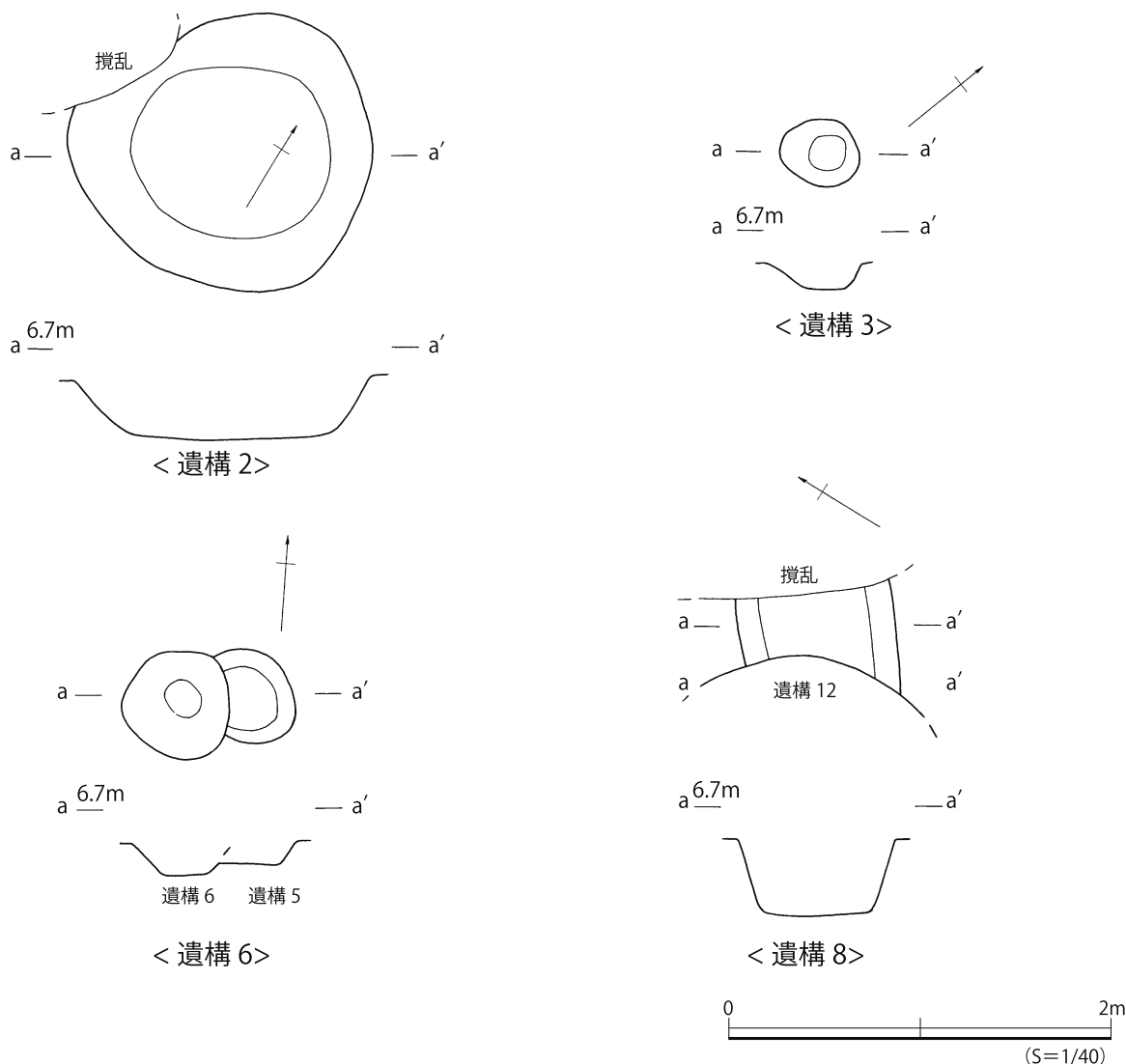


図 6 第 1 面各遺構

遺構 2 (図 6～7)

調査区北部で検出された楕円形状の大型土坑。遺構 8 を切る。検出規模は長軸 159×短軸 145cm、確認面からの深さ 33cm (海拔 6.2m) 前後を測る。覆土は炭化物・玉石を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-24° -W を示す。

出土遺物：図 7-1 は小型かわらけ。2 はかわらけ質の小型短頸壺。胎土は焼成良好な砂の少ない粉質土。3 は青磁鎬連弁文碗。4～8 は常滑諸製品。4 は片口鉢Ⅱ類で、口縁端部は方形で平坦面をもつタイプである。5 は口径 20 cm 強となるため、大型広口壺とした。6～7 は甕。6 は口縁部が N 字状を呈する。8 は常滑甕の転用研磨陶片。

遺構 3 (図 6～7)

調査区南西部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸 42cm×短軸 35cm、確認面からの深さ 13cm (海拔 6.4m) 前後を測る。覆土は砂質土混入・炭化物微量を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-49° -W を示す。

出土遺物：図 7-9 は瀬戸御皿底部片。未調整の平底で、内底面の灰釉は一部飴色となる。10 は口縁部が N 字状を呈する常滑甕口縁部片。

遺構 6 (図 6～7)

調査区中央部で検出された円形状小ピット。遺構 5 を切る。検出規模は長軸 56cm×短軸 56cm、確認面からの深さ 15cm (海拔 6.35m) 前後を測る。覆土は砂質土混入・泥岩・泥岩粒微量の炭化物を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-36° -W を示す。

出土遺物：図 7-11 は常滑甕の底部片。12 は瓦器碗の底部片で、内底面見込みに菊花状の暗文。13 は鉄釘。

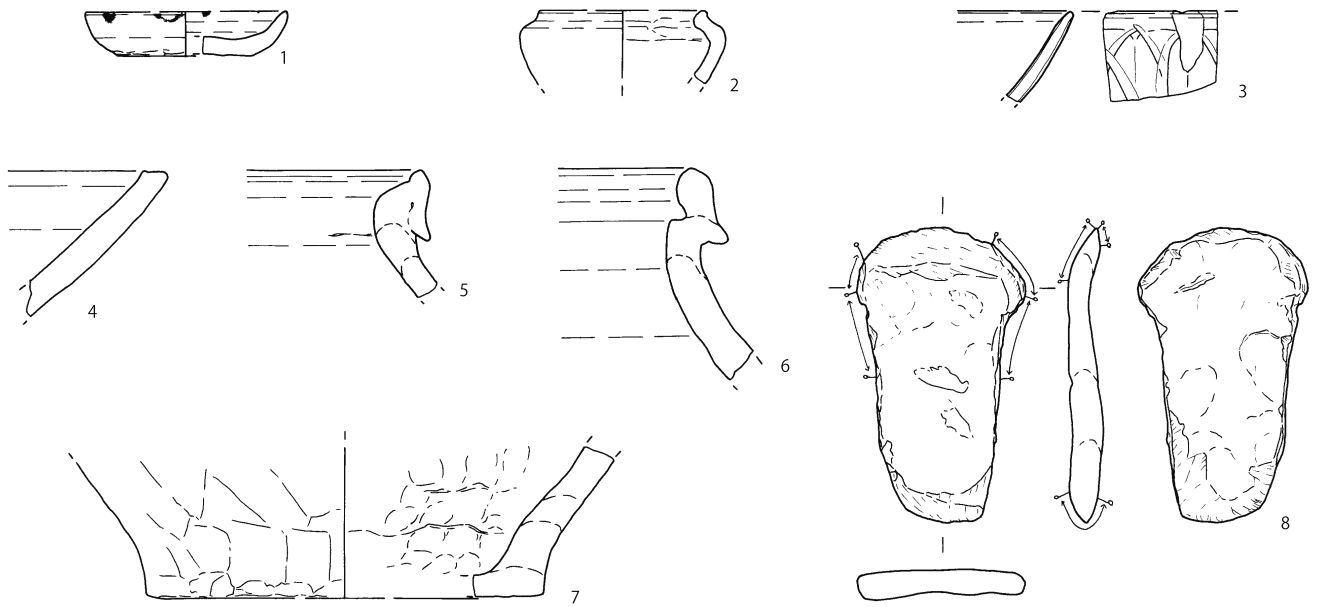
遺構 8 (図 6～7)

調査区北東部で検出された楕円形状土坑。遺構 2 に切られる。検出規模は長軸 70cm 以上×短軸 80cm、確認面からの深さ 40cm (海拔 6.1m) 前後を測る。覆土は炭化物・玉石を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-51° -E を示す。調査時は第 2 面遺構としたが、遺構 2 調査中に大型泥岩混入を覆土とした遺構の重複を確認。その状況は攪乱 1 の断面からも確認できた為、第 1 面下の遺構と考え、ここに示した。

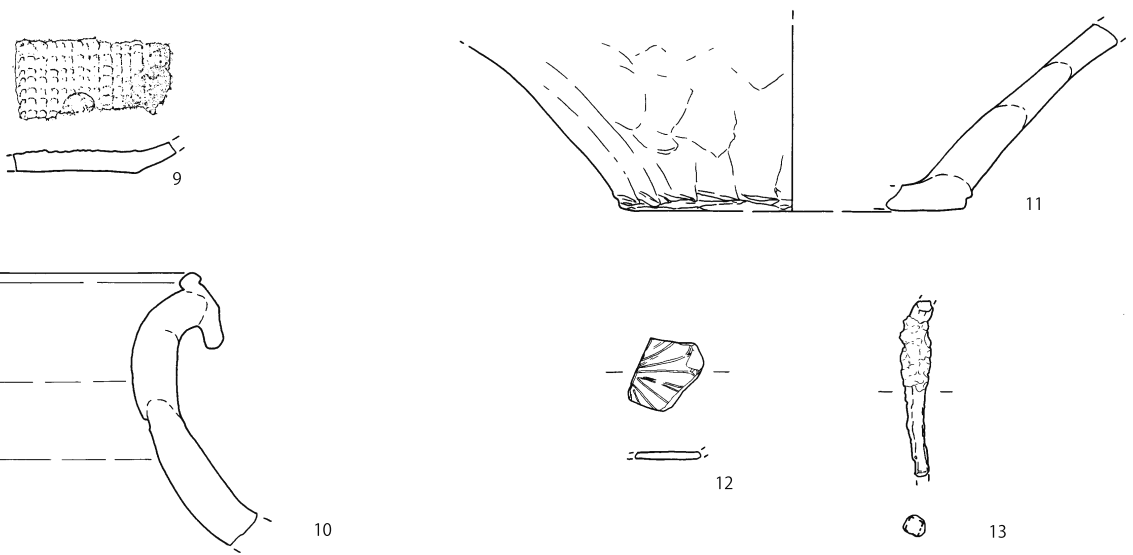
出土遺物：図 7-14 は大型かわらけ。体部下位に強い稜をもつ器壁は、やや内弯しながら立ちがある。15 は青磁の無文皿。16 は常滑片口鉢Ⅰ類の口縁部片。17～18 は金属製品。17 は鉄釘で、両端部欠損。18 は刀子 (小刀か)。厚い錆ぶくれで砂粒・砂礫が付着し、目釘穴は確認できない。かわらけ小片や数本の釘が刀子を挟むように重なっていた為、著しい腐蝕となっていた。わずかに薄い木片のような繊維質と刃部に紐を巻き付けたような痕跡あり。紐らしき部分は、土中で分解されたのか青灰色の砂粒となって消失か。木製の鞘部分が筒状ではなく、挟み込み紐で巻き付けるタイプの可能性も考えられる。

表 1-1 第 1 面遺構観察表

遺構No.	覆土		長軸	短軸	深さ
遺構1	暗褐色弱粘質土	砂質土・炭化物微量	28	27	20
遺構2	暗褐色弱粘質土	泥岩多量・泥岩粒・炭化物・玉石	159	145	33
遺構3	暗褐色弱粘質土	炭化物微量・砂質土混入	42	35	13
遺構4	暗褐色弱粘質土	泥岩・炭化物・玉石・貝(アカニシ)多量	47	4.2	19
遺構5	暗褐色弱粘質土	泥岩多量・炭化物微量・玉石	50	34	10
遺構6	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・砂質土	56	56	15
遺構7	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒	35	30	13
遺構8	暗褐色弱粘質土	大型泥岩・安山岩・炭化物微量	(70)	80	40

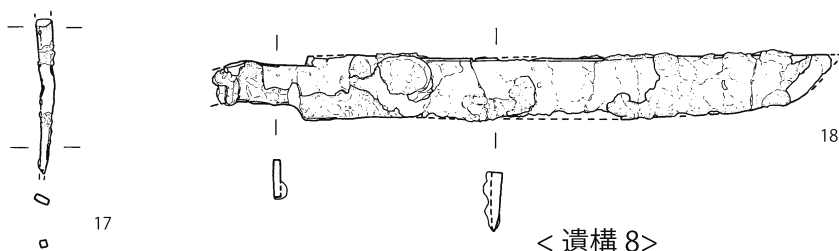
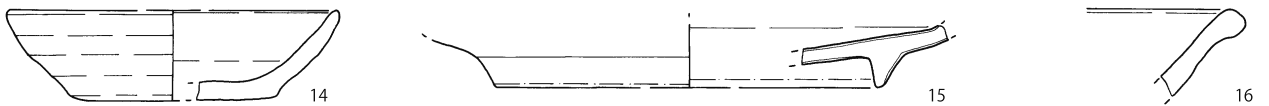


<遺構 2>



<遺構 3>

<遺構 6>



<遺構 8>



図7 第1面各遺構・出土遺物

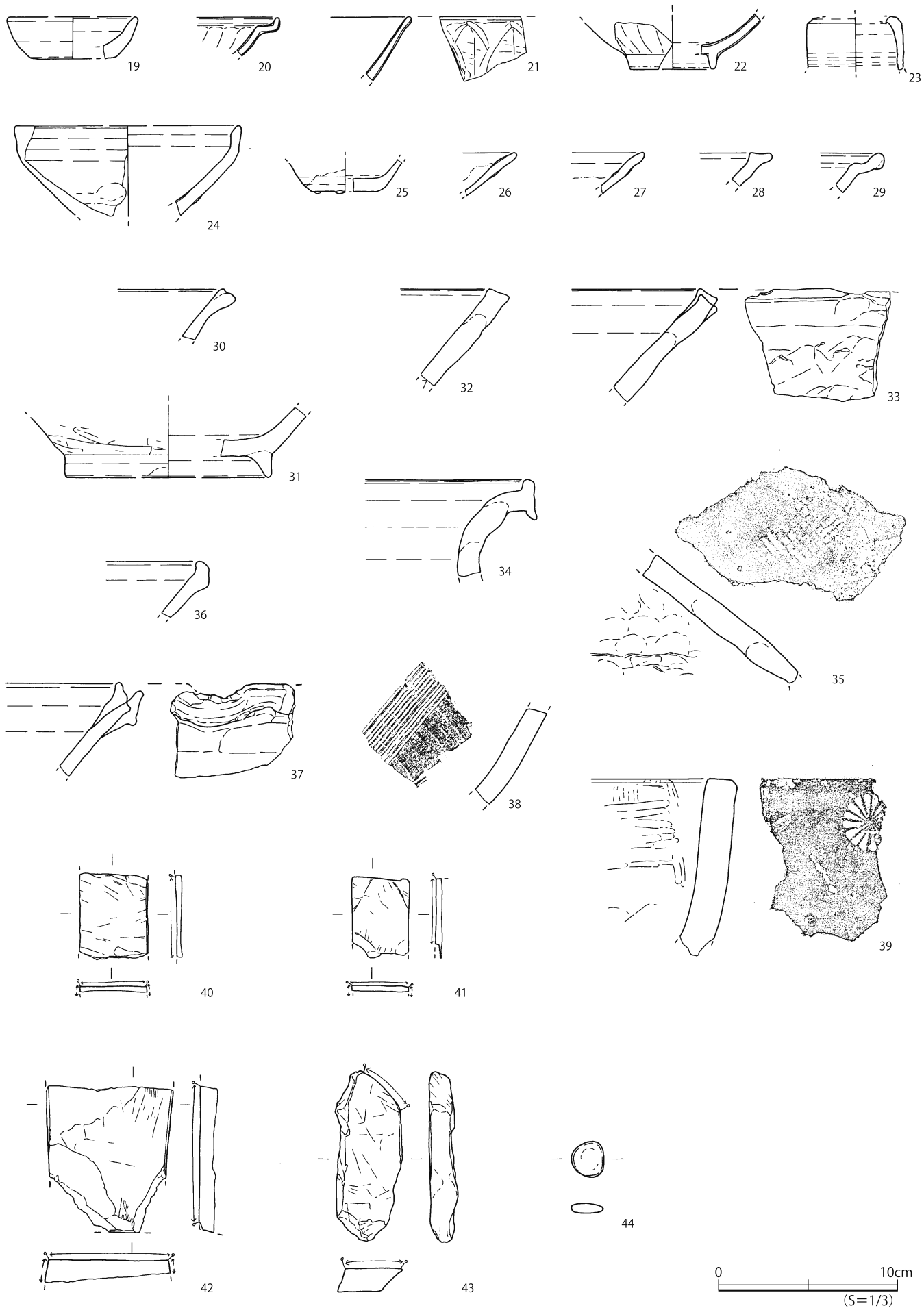


图8 第1面上・出土遺物

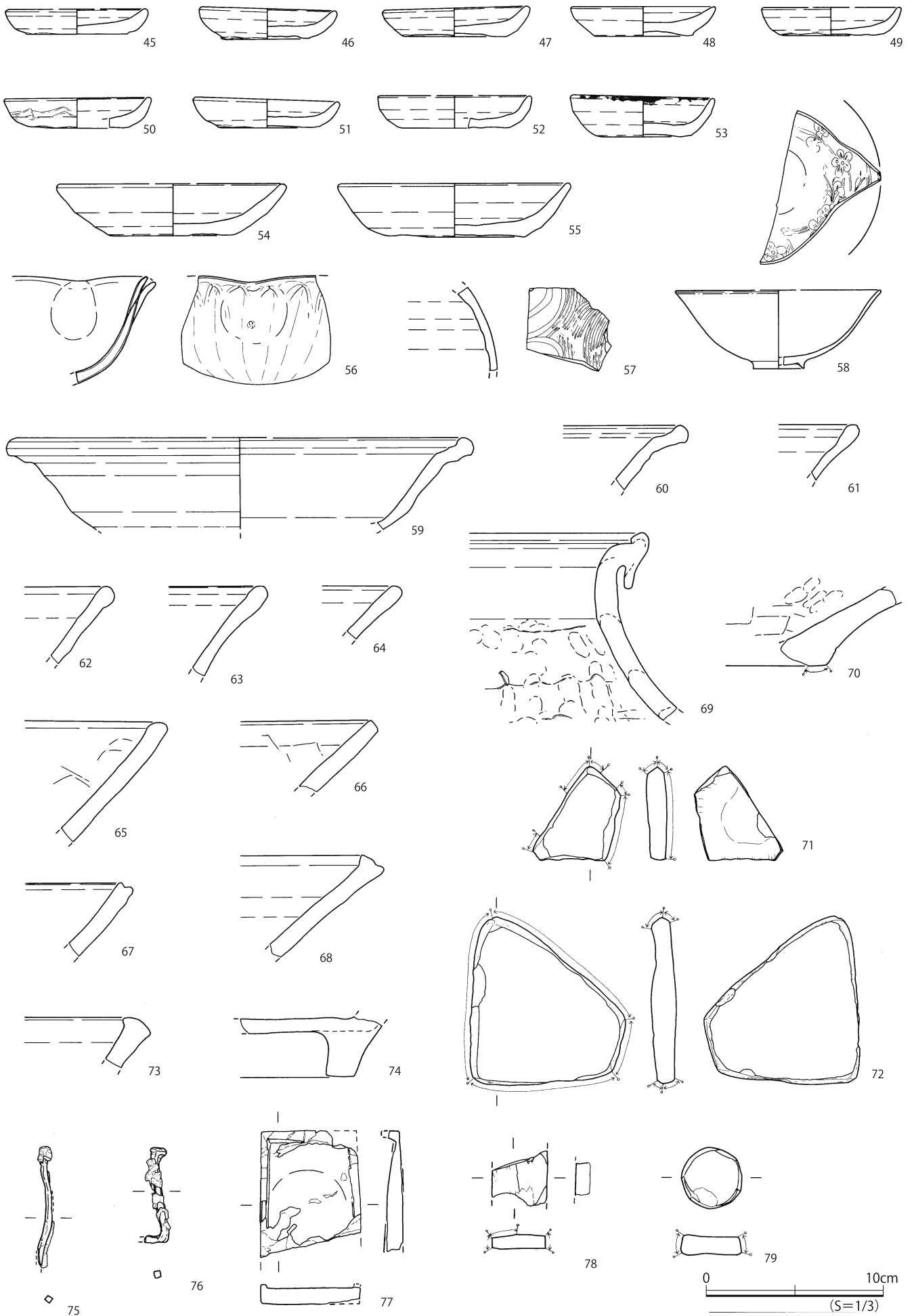


图9 第1面構成土・出土遺物

第1面面上・構成土・出土遺物（図8～9）

図8-19～44は面上出土遺物。19は小型かわらけ。20は青磁折縁鉢、21～22は青磁鎚連弁文碗、23は青白磁梅瓶の蓋。24～29は瀬戸窯諸製品。24は天目茶碗。鉄釉を厚く漬け掛け。25は器形的に輪花型の入子とした。体部内外面は淡灰緑色を呈する自然釉が掛かる。26は緑釉、27は鉄釉の縁釉小皿。内外面口縁部に厚く漬け掛けし、体部～底部は露胎。28は卸皿、29は折縁深皿。概ね瀬戸窯は後期前半か。30～35は常滑窯諸製品。30～31は片口鉢Ⅰ類。31は口唇部に沈線のような陵が巡る。32は内面の摩滅顕著。32～33は片口鉢Ⅱ類、34～35は甕。36～37は東播系こね鉢、38は備前すり鉢。条線は11本確認できる。39は瓦器質輪花型火鉢、40～42は鳴滝産仕上砥、42～43は赤間ヶ石産硯転用の研磨製品。44は基石か。

図9-45～79は構成土出土遺物。45～53は小型、54～55は大型かわらけ。56は青磁鎚連弁文碗。暗灰緑色不透明釉をやや厚く施釉し、内外面に細かな貫入（氷裂文様を意識したか）が入る。口縁部内外面の凹凸は輪花状（6弁）に成形した可能性も示唆する。57は青白磁梅瓶。58は内面に梅花文を配する白磁口元印花文碗。新安枢府様式系の碗かと鎌倉市教育委員会玉林美男氏にご教示頂く。59～60は瀬戸折縁深皿。61は尾張型山茶碗。62～72は常滑諸製品。62～64は片口鉢Ⅰ類、65～68は片口鉢Ⅱ類。69～70は甕。70の甕底部に磨り痕あり。71～72は転用研磨製品。73～74は瓦質～瓦器質火鉢。75～76は鉄釘。77は鳴滝産長方硯。78は砥石仕上砥、79は円盤状土製品。

第2節 第2面の遺構と遺物（図4・10～12）

第2面に向けて掘り下げるものの、明確な層の違いが判らずに少しずつ掘り下げて調査を行った。その結果、第2面は海拔6.3～6.4m前後で検出された褐色砂質土多量・泥岩・泥岩粒少量・炭化物・有機質土・貝砂を含む暗（茶）褐色弱粘質土上とした。狭い調査区の中で大型の方形状土坑が切りあい、概ね暗茶褐色砂質土を覆土とした土坑6基・ピット3穴を検出した。遺構13の南側で13世紀後半と推定できる合わせ口かわらけが構成土中から出土している（図4の★印＝出土地点）。合わせ口かわらけに伴う遺構を見逃した可能性は大きい。合わせ口の中は土のみで、特殊なものは含まれていない。

遺構9（図4・10～11）

調査区北西部で検出された楕円形状土坑。遺構14より新しく、東側は攪乱に切られる。検出規模は長軸85×短軸66cm、確認面からの深さ23cm（海拔6.1m）前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒多量・炭化物・貝砂を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-60°-Eを示す。

出土遺物：図8-80～82はかわらけ。80は小型の手づくね、81は小型、82は大型。83は青磁連弁文碗。

遺構10（図10～11）

調査区中央部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸88cm×短軸66cm、確認面からの深さ18cm（海拔6.15m）前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物多・貝砂・砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-30°-Wを示す。

出土遺物：図10-84～85は小型かわらけ。

遺構11（図10～11）

調査区中央部で検出された楕円形状小ピット。第1面遺構に切られる。検出規模は長軸47cm×短軸30cm、確認面からの深さ25cm（海拔6.05m）前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・玉石を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-17°-Wを示す。

出土遺物：図11-86は小型かわらけ。

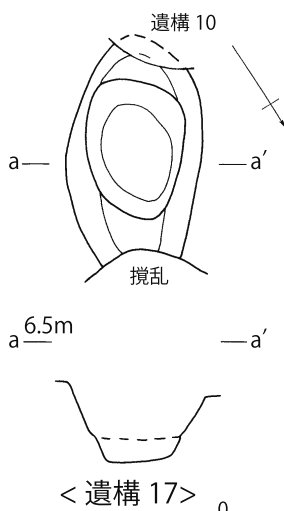
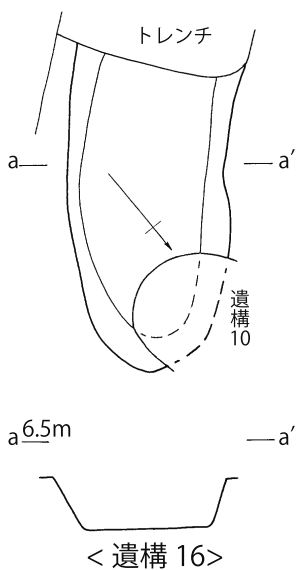
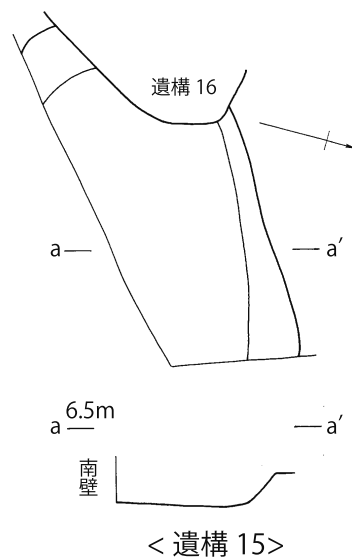
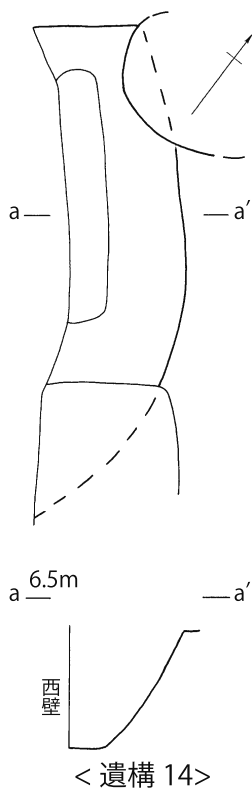
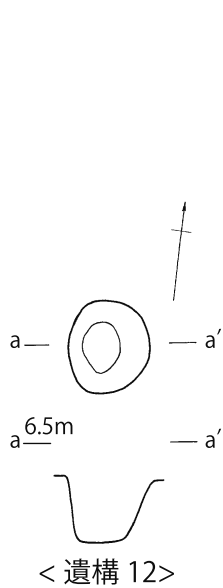
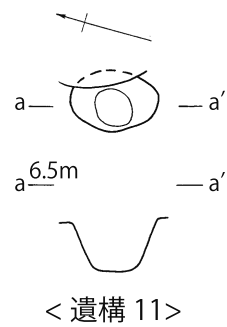
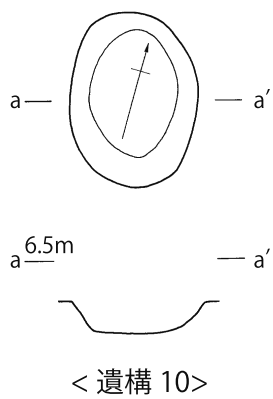
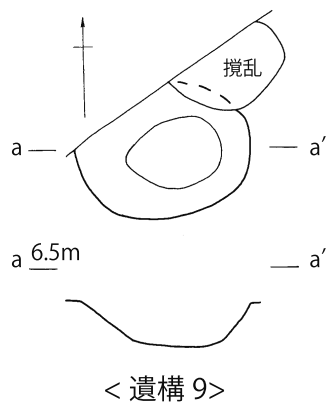


図 10 第 2 面各遺構

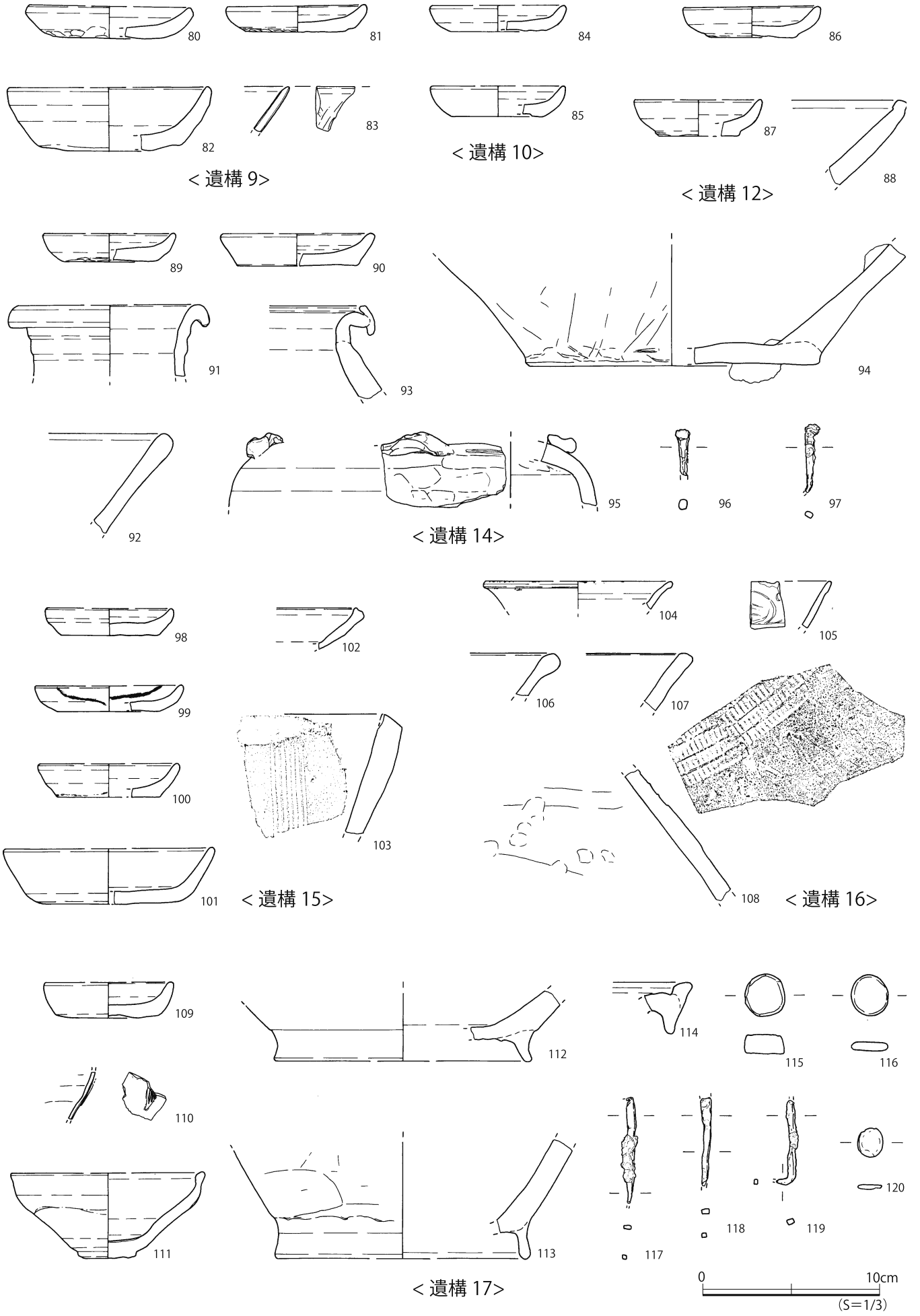


图 11 第 2 面各遺構・出土遺物

遺構 12 (図 10～11)

調査区北中央部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸 45cm 以上×短軸 40cm、確認面からの深さ 30cm (海拔 6.1m) 前後を測る。覆土は大型泥岩・炭化物多・玉石を含む暗褐色弱粘質土。遺構底面には破碎泥岩が密につき、根固めの可能性もあり。南北軸方位は N-15° -W を示す。

出土遺物：図 11-87 は小型かわらけ。88 は常滑片口鉢Ⅱ類。

遺構 14 (図 10～11)

調査区西部で検出された方形状大型土坑。遺構の西半分は壁にかかる。検出規模は長軸 250cm 以上×短軸 68cm 以上、確認面からの深さ 18cm (海拔 6.0m) 前後を測る。覆土は砂質土混入・泥岩・泥岩粒微量の炭化物を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-37° -W を示す。

出土遺物：図 11-89～90 は小型かわらけ。91 は白磁壺。92 は常滑片口鉢Ⅰ類。93～94 は常滑甕。95 は産地不明陶器の四耳壺。常滑四耳壺を模倣した中世窯の製品と推測される。96～97 は鉄釘。

遺構 15 (図 10～11)

調査区南東部で検出された方形状大型土坑。遺構 16 に切られる。検出規模は長軸 183cm 以上×短軸 84cm 以上、確認面からの深さ 15cm (海拔 6.35m) 前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒多・泥岩・固く締まる砂質土が混入する暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-60° -E を示す。

出土遺物：図 11-98～101 はかわらけ。98～100 は小型、101 は大型。102 は瀬戸卸皿。103 は備前播鉢。

遺構 16 (図 10～11)

調査区南西部で検出された楕円形状大型土坑。西側はトレンチ、東側は遺構 10 に切られる。検出規模は長軸 154cm×短軸 80cm、確認面からの深さ 27cm (海拔 6.05m) 前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒多・炭化物・貝砂・砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-39° -E を示す。

出土遺物：図 7-104～105 は青磁舶載品。104 は皿、105 は画花文碗。106～108 は常滑窯諸製品。106 は片口鉢Ⅰ類、107 は片口鉢Ⅱ類、108 は甕肩部の押印文。

遺構 17 (図 10～11)

調査区西部で検出された楕円形状土坑。西側は遺構 10、東側は攪乱 1 に切られる。検出規模は長軸 110cm×短軸 70cm、確認面からの深さ 30cm (海拔 6.0m) 前後を測る。更に遺構底面直下から 3 面までの遺構を検出。検出規模は長軸 70cm×短軸 50cm、確認面からの深さ 10cm (海拔 5.9m) 前後を測る。共に覆土は泥岩・泥岩粒。炭化物・貝砂を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-38° -E を示す。

出土遺物：図 17-109 は小型かわらけ。110 は青白磁器種不明品。草花文様の貼付壺または水注等の袋物か。気泡多く、失透気味。111 は舶載天目茶碗。黒褐釉を厚く施釉している。112～113 は常滑窯諸製品。112～113 は片口鉢Ⅰ類、114 は甕。112 の内面の摩滅痕は顕著。共に第 6a～6b 型式の製品と推測できる。115 はかわらけ転用の円盤状土製品。116 は石製品の基石か。117～119 は鉄釘。120 は骨製品の基石か。

表 1-2 第 2 面遺構観察表

遺構No.	覆土		長軸	短軸	深さ
遺構9	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒多量・炭化物・貝砂	85	66	23
遺構10	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物多量・貝砂・砂質土	88	66	18
遺構11	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・玉石	47	30	25
遺構12	暗褐色弱粘質土	大型泥岩・炭化物多量・玉石	45	40	30
遺構13	暗褐色弱粘質土	泥岩粒多量・炭化物・貝砂・砂質土	40	30	12
遺構14	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・玉石多量・固く締まる	(250)	(68)	59
遺構15	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒多量・炭化物・固く締まる	(183)	(84)	18
遺構16	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒多量・炭化物・貝砂・砂質土	(154)	80	27
遺構17	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂少量	(110)	70	30

第2面面上・構成土・出土遺物（図12）

図12-121～127は面上出土遺物。121は小型かわらけ。122～123は瀬戸卸皿。123の卸目は深く鋭く、使用の痕跡はみられない。共に体部中位まで灰釉を施し、底部は露胎となる。概ね中期頃の製品か。124は常滑片口鉢I類。125～126は鉄釘。127は鳴滝産仕上砥。

図12-128～140は構成土出土遺物。128～130は小型、131～132は図4の★印より合わせ口で出土した大型かわらけ。これに伴う遺構を見逃した可能性は大きい。かわらけは泥岩粒・砂粒を含む粗土気味な胎土で、口径が小型化し全体的にぼってりとしている。概ね13世紀後半代と考えられる。合わせ口の中は土のみで、特殊的なもの含まれていない。133～134は青磁鎚連弁文碗。135は白磁口兀碗か皿。136は常滑甕の押印文で、巴文を呈する。137は瓦質火鉢。138は鉄釘。139はU字型の原体を切り取った後の獣骨の加工骨。140は土師器の相模型甕。口縁部はヨコナデ、内面頸部にヘラミガキ調整あり。

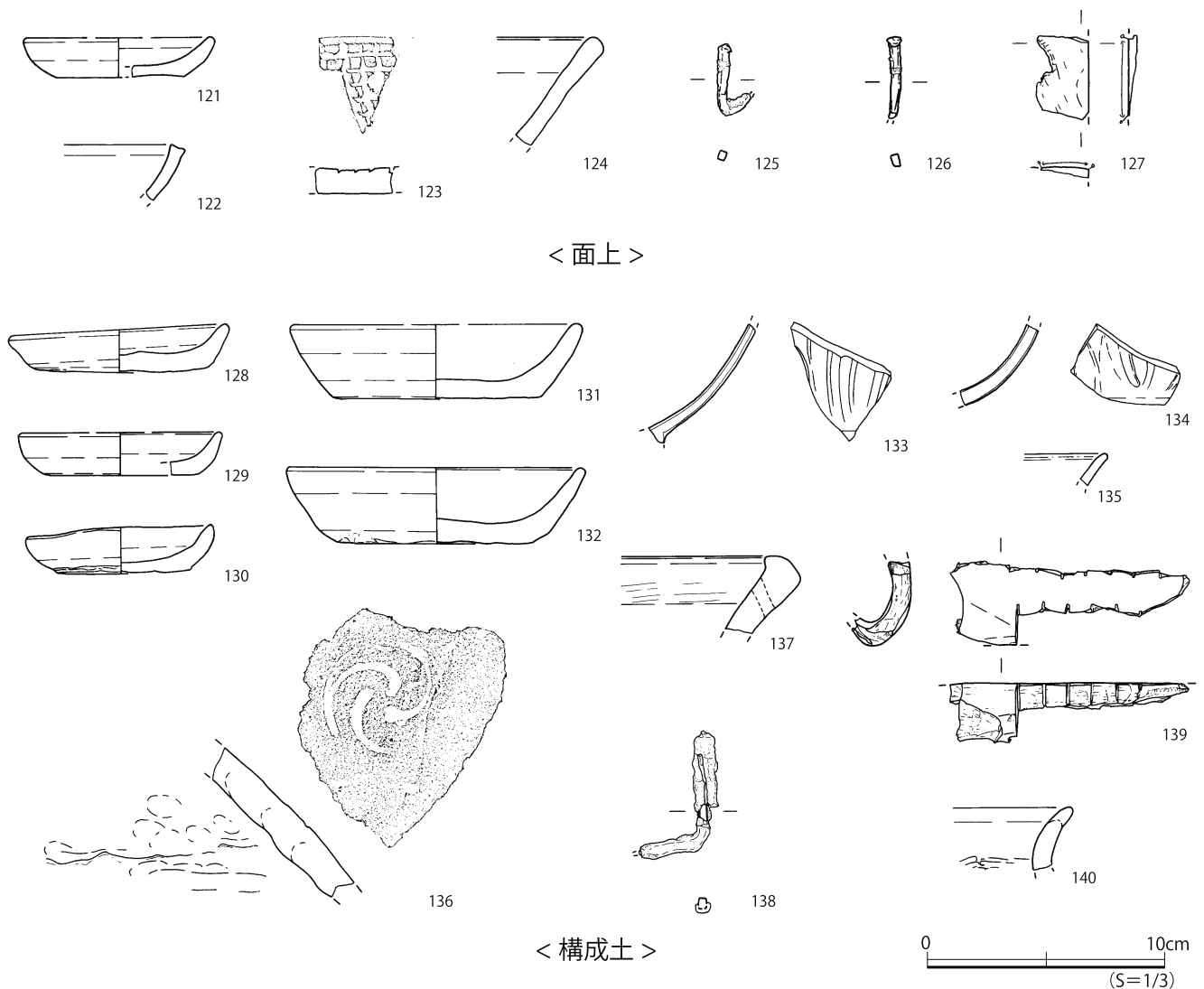


図12 第2面面上・構成土・出土遺物

第3節 第3面の遺構と遺物（図5・13～16）

第3面は海拔6.1～6.2m前後で検出された泥岩粒・炭化物・貝砂含む、部分的に上層硬化した黄褐色砂質土上とした。板壁かと思われる側板を伴う建築址2軒の切り合いを中心に土坑3基、ピット7穴を検出し、本調査の中で最も遺構密度の高い生活面となる。概ね覆土は3種類に分類され、新しい順から暗褐色弱粘質土→褐色弱粘質土→黒褐色弱粘質土と新旧が分けられる。構成土中には炭化物・焼痕の残る木製品や遺構22に伴う部材もみられる。ここでは遺構の番号順ではなく、建物址を中心に説明していく。

遺構22・25（図5・13～15）

遺構22は調査区北部で検出された板壁かと思われる側板を伴う方形堅穴建物。北側は調査区外・東側は遺構25に切られるため、全体の形状・規模は不明。当初の遺構検出時においては遺構22が遺構25を切っていたが、東西セクションにより遺構22の上方に別の遺構の堆積土を確認し、遺構25に切られることが判明した。遺構22の北壁・東壁は攪乱の為、上方に検出した遺構の様相は確認できなかった。板壁かと思われる横板は、上面の削平や廃棄の際に抜かれたものか遺存状況は良くない。杭と杭の間に横板を挟んでいた様相があり、杭Bを見る限り杭に伴う掘り込みや礎板はなく、先端を加工し尖らせていたことから打ち込まれた可能性がある。また北東側にやや平行して検出された横板は、遺構22の上方で検出された遺構に伴うと考えられる。検出規模は長軸220cm以上×短軸64cm以上、遺構深度22cm（海拔5.65m）前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物・貝砂・有機質土・遺物片を含む黒褐色弱粘質土。南北軸方位はN-97°-Eを示す。

遺構25は調査区北東部で検出された方形堅穴建物。遺構22を切る。調査区外に広がるため、全体の形状・規模は不明。検出規模は長軸204×短軸130cm、遺構深度68cm（海拔5.17m）前後を測る。覆土は泥岩塊多量・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む褐色弱粘質土。南北軸方位はN-79°-Wを示す。両遺構は第3面遺構35と新旧関係にあり、短期間での作り替えが考えられる。下層より基盤層の可能性のある青灰色砂質土を確認。

出土遺物：図14-141～158は遺構22出土遺物。141～144は小型、145は大型かわらけ。146は青磁皿もしくは浅型碗か。147～153は常滑窯諸製品。147は片口碗、148は山茶碗、149～150は片口鉢Ⅰ類、151～152は片口鉢Ⅱ類。153は甕の押印文。154～158は木製品。154は下駄、155は篋状木製品。156～157は杭、158は柱。その他に大型・小型かわらけ、青磁鎚連弁文碗・無文碗、白磁碗、常滑片口鉢Ⅰ・Ⅱ類、尾張型山茶碗、火鉢、獣骨が出土。

図15-159～171は遺構25出土遺物。159は大型手づくね、160～161は小型かわらけ。162は青磁鎚連弁文碗。163～164は産地不明（瀬戸美濃窯か）の筒状容器の蓋と身で対の可能性あり。共に胎土は黒色微砂を少量含む精良土で、全体的に丁寧なナデ調整、蓋の天井部は回転ヘラ削り調整が施される。接合できない破片は別遺物として集計した。165～168は常滑諸製品。165は片口鉢Ⅱ類、166は甕、167～168は甕転用研磨製品。169～171は木製品。169は箸状、170～171は用途不明。

柱穴列—遺構21・24・29・30（図5・16）

調査区南西部で検出された円形～楕円形状のピット群。遺構24以外は礎板を伴う為、調査区西側または南側に展開する掘立柱建物址を想定して提示した。検出規模は南北×東西1間で、海拔5.8～5.9m前後に検出される礎板の柱間距離は遺構21-29・29-33は1.0m、遺構21-24は1.45m、遺構24-30は1.2mである。遺構30のみ、礎板の下に海拔5.7m前後で礎石を検出しており、下の遺構が絡んでいる可能性もある。覆土は砂質土混入・泥岩・泥岩粒微量の炭化物を含む暗褐色～黒褐色弱粘質土。柱穴列の南北軸方位はN-38°-Eを示す。

出土遺物：図16-178は遺構21出土の瓦器質火鉢。

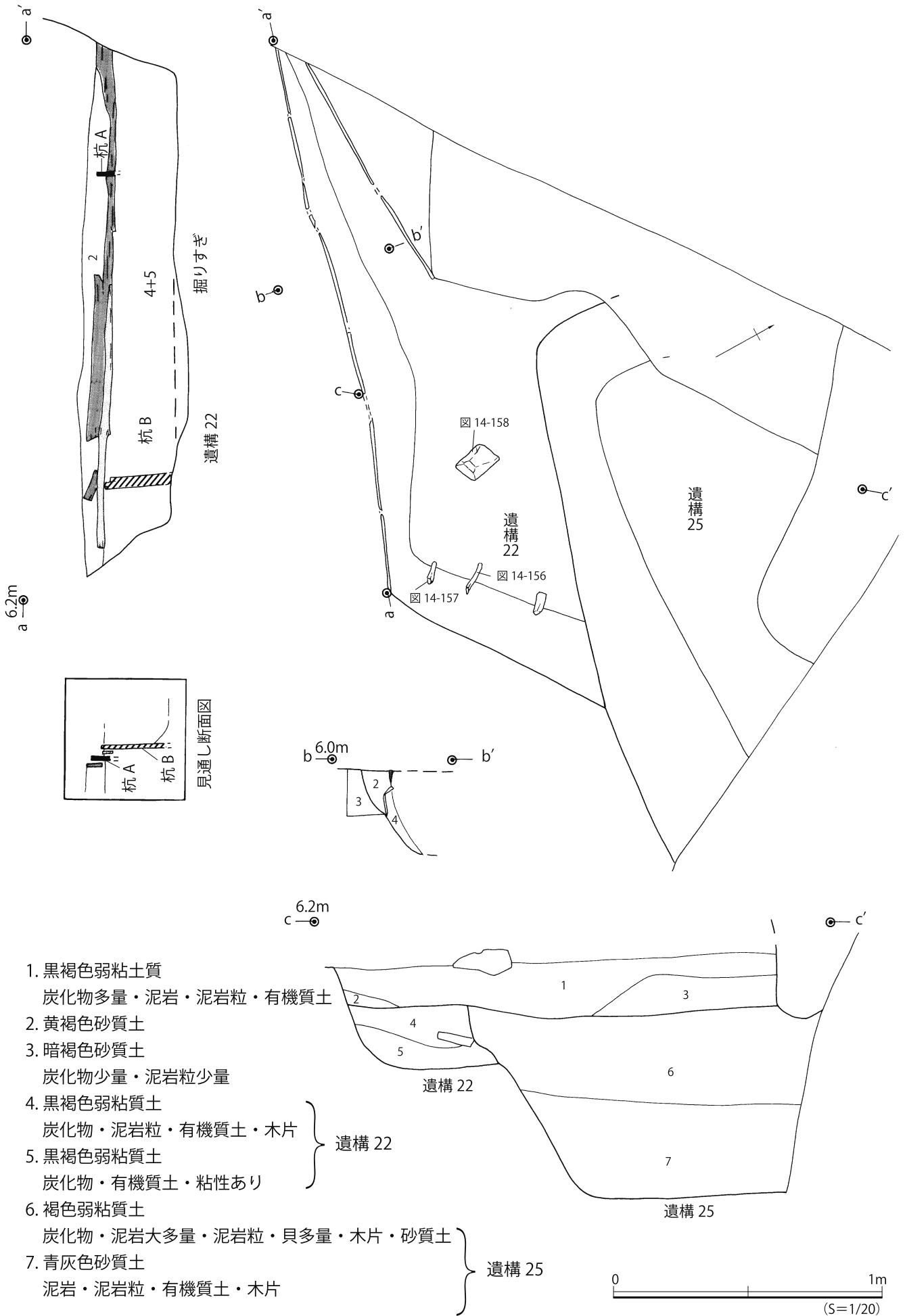


図 13 第 3 面遺構 22・25

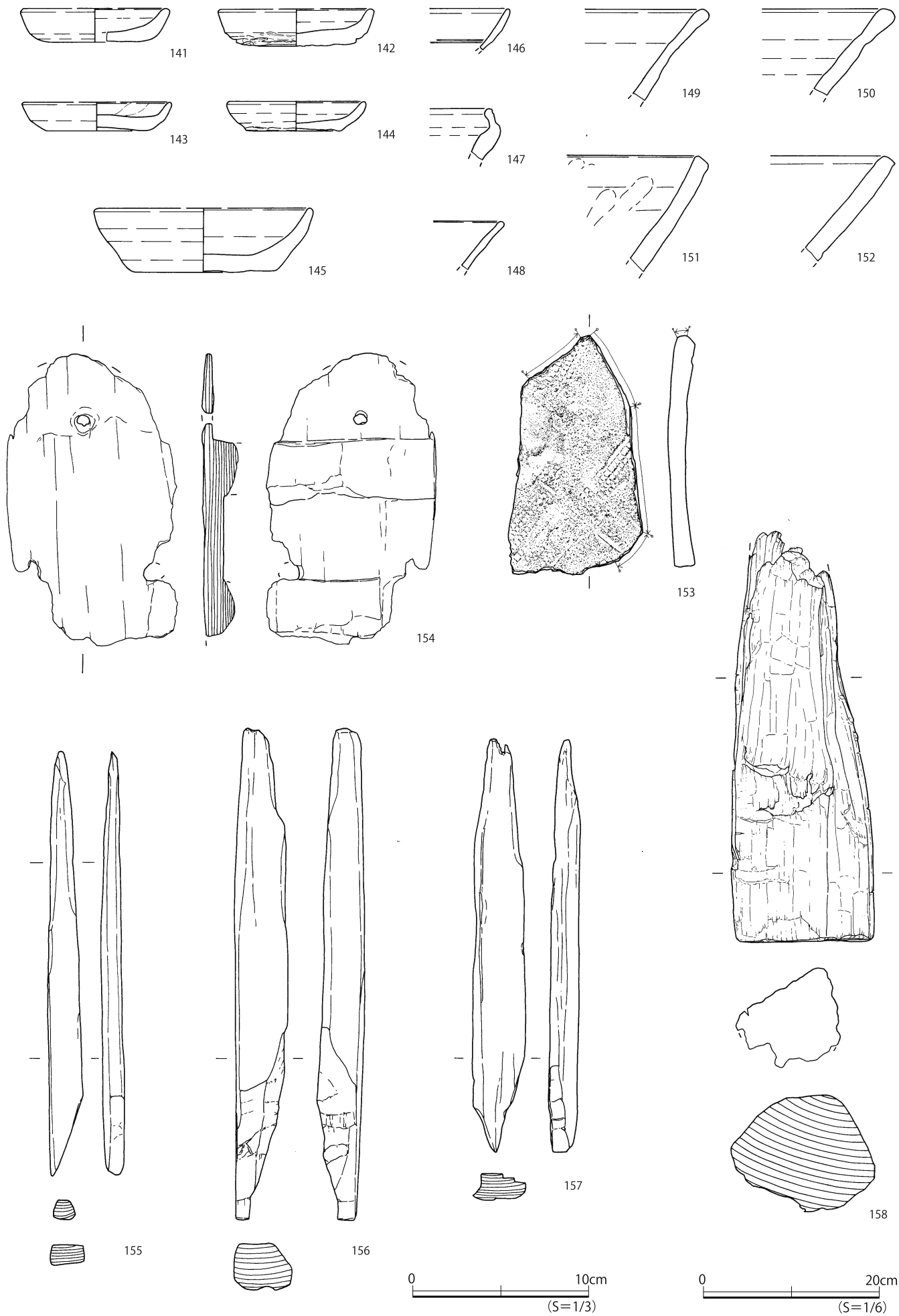


图 14 第 3 面遺構 22・出土遺物

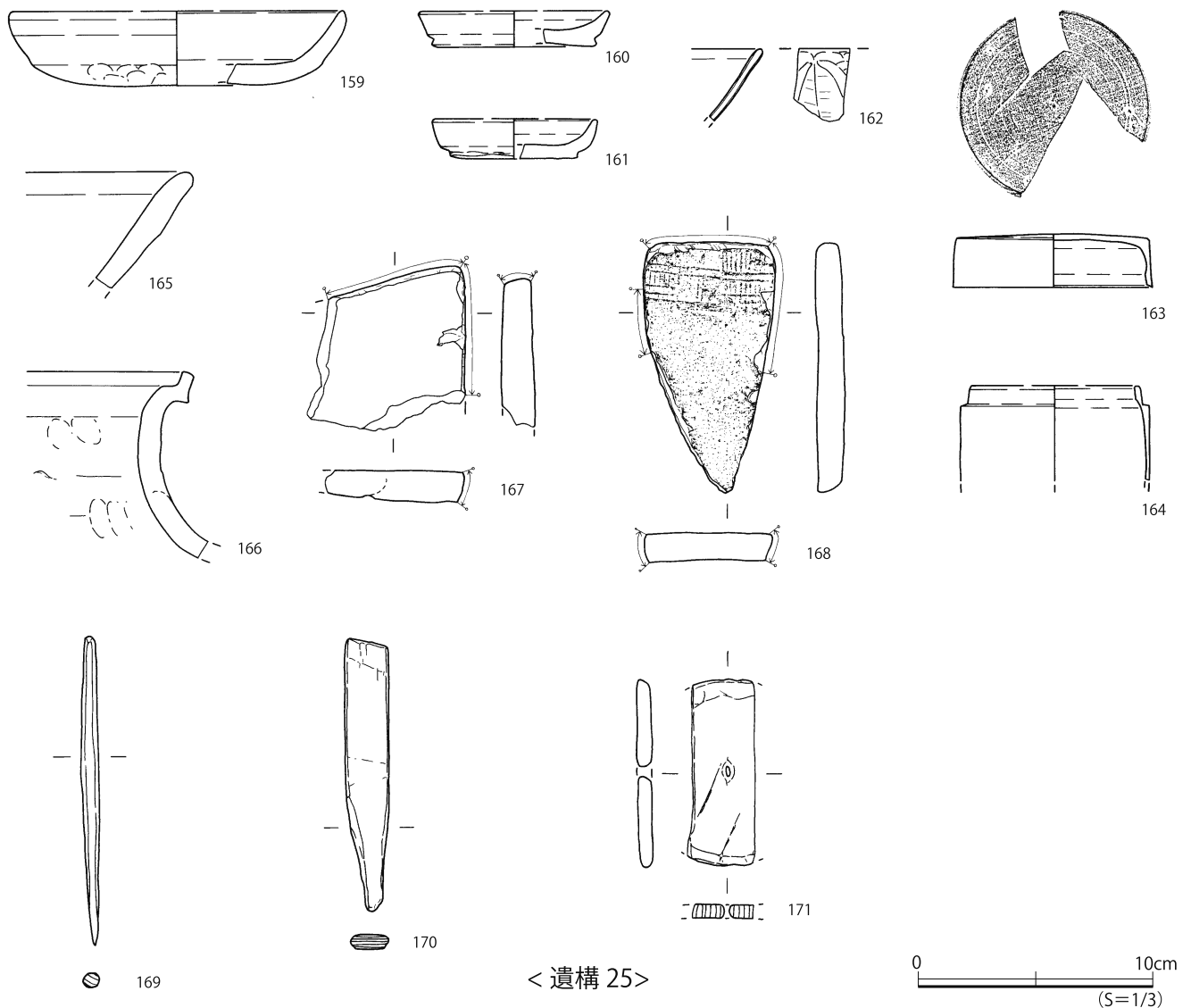


図 15 第 3 面遺構 25・出土遺物

遺構 18 (図 5・16)

調査区南部で検出された方形状土坑。南側は調査区南壁にかかる。検出規模は長軸 89cm 以上×短軸 82cm、確認面からの深さ 39cm (海拔 5.65m) 前後を測る。更に遺構底面直下から 4 面までの遺構を検出。検出規模は長軸 52cm 以上×短軸 40cm、確認面からの深さ 12cm (海拔 5.5m) 前後を測る。覆土は黄褐色弱粘質土～暗褐色弱粘質土で、底面下遺構は木片・有機質土を含む。南北軸方位は N-30° -W を示す。

出土遺物：図 16-172 は大型かわらけ。173 は器種不明の近世舶載陶器。盤であろうか。調査区南壁に接した遺構の為、調査区外表土からの混入と考える。

遺構 19 (図 5・16)

調査区北西部で検出された楕円形状土坑。西側は調査区外、北側は遺構 20 を切る。検出規模は長軸 89cm ×短軸 67cm 以上、確認面からの深さ 30cm (海拔 5.8m) 前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物少・貝砂少・木片を含む底面硬土な暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-42° -E を示す。遺構底面南東部に 15cm 内外の小ピットを伴う。

出土遺物：図 16-174 は小型かわらけ。175 は青磁無文碗。176 は渥美片口碗、177 は渥美壺。

遺構 26 (図 5・16)

調査区南東部で検出された方形状土坑。東側・北側は調査区外に広がる。検出規模は長軸 70cm 以上×短軸 38cm 以上、確認面からの深さ 30cm (海拔 5.85m) 前後を測る。覆土は泥岩粒多・有機質土・黄褐色砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-122° -W を示す。

出土遺物：図 16-179 は白磁四磁壺の底部片。

第 3 面上・構成土・出土遺物 (図 16)

図 16-180~185 は面上出土遺物。180~181 は大型、182 は小型糸切りかわらけ。181 は口唇部に油煤痕があり、灯明皿とする。183 は青磁鎬連弁文碗。184 は常滑片口鉢 I 類。185 は土錘。

図 16-186~189 は構成土出土遺物。186~187 は小型糸切りかわらけ。188 は青磁鎬連弁文碗。189 は白磁皿か。

表 1-3 第 3 面遺構観察表

遺構No.	覆土		長軸	短軸	深さ
遺構 18	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・木片・有機質土・貝砂少・玉石・底面粘土質多	89	82	39(50)
遺構 19	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物少・貝砂少・木片・底面硬土	90	(67)	33
遺構 20	暗褐色弱粘質土	炭化物多・有機質土多・貝砂・木片	(47)	(34)	23
遺構 21	黒褐色弱粘質土	泥岩粒多・泥岩・貝砂・木片	46	38	23
遺構 22	黒褐色弱粘質土	泥岩粒少・炭化物多・貝砂多・有機質土多・遺物多	(220)	(64)	22(37)
遺構 23	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物少	30	29	7
遺構 24	暗褐色弱粘質土	泥岩多・炭化物多・有機質土・遺物なし	37	33	7
遺構 25	褐色弱粘質土	泥岩塊多・泥岩粒・炭化物少・貝砂	(204)	(130)	68(83)
遺構 26	暗褐色弱粘質土	泥岩粒多・有機質土・黄褐色砂質土	(70)	(38)	20
遺構 27	黒褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩少・炭化物・貝砂多	40	(27)	23
遺構 28	欠番				
遺構 29	黒褐色弱粘質土	泥岩・炭化物多・貝砂・有機質土・遺物なし	54	(40)	32
遺構 30	黒褐色弱粘質土	炭化物・貝砂・有機質土・黄褐色砂・礎石礎板あり	37	34	45(18)

第 4 節 第 4 面の遺構と遺物 (図 5・17)

第 4 面は残土の関係で南西部のみを掘り下げ、海拔 5.9~6.0m 前後で検出された炭化物少量・貝砂・褐色砂を含む粘性の強い黒褐色弱粘質土上とした。上面に炭化物多量・貝砂多量・褐鉄・黄褐色砂多量を含む黄褐色弱粘質土の硬化面が部分的に広がる。検出遺構は方形竪穴建物址 1 軒、溝状遺構 1 条、土坑 2 基、ピット 1 穴を検出した。

遺構 31 (図 5・17)

調査区北部で検出された楕円形状の大型土坑。遺構 8 を切る。検出規模は長軸 159×短軸 145cm、確認面からの深さ 33cm (海拔 6.2m) 前後を測る。覆土は炭化物・玉石を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-32° -W を示す。

出土遺物：図 17-190~191 は大型の手づくねと糸切り。190 は底面裏に貫通しない穿孔途中の痕跡あり。192 は縦線の押印文が施された渥美甕。193 は鉄釘。

遺構 34 (図 5・17)

調査区西部で検出された溝状土坑。遺構 31・32・35 に切られる。検出規模は長軸 130cm 以上×短軸 50cm、確認面からの深さ 29~41cm (海拔 5.2m) 前後を測る。覆土は 3 層にわかれ (表 4 参照)、暗褐色砂質土~弱粘質土を呈する。南北軸方位は N-32° -E を示す。本調査内で最も古い遺構となるが、測溝を間に西壁堆積土層と照合できない。

出土遺物：図 17-194 は鉄製品。195 は箸状、196 は不明木製品。197 は須恵器坏蓋。

遺構 35 (図 5)

調査区東部で検出された方形状土坑。遺構 22・32 に切られ、遺構 34 を切る。遺構 22 と新旧関係のある方形竈穴建物。遺構の半分以上が調査区外であるが、南壁に検出された杭により南壁沿いに遺構上場がまわると推測できる。検出規模は長軸 246cm 以上×短軸 67cm、確認面からの深さ 33cm (海拔 5.35m) 前後を測る。覆土は泥岩粒・有機質土・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土を呈する。南北軸方位は N-105° -E を示す。

第 4 面面上・出土遺物 (図 17)

図 17-198 は青磁鎚連弁文碗。

表 1-4 第 4 面遺構観察表

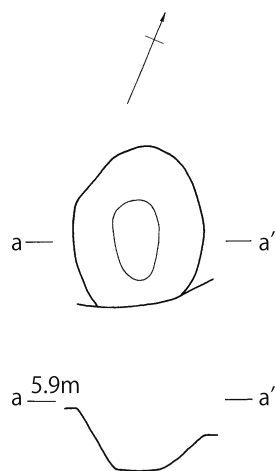
遺構No.	覆土		長軸	短軸	深さ
遺構31	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・有機質土・木片・焼痕多	80	65	31
遺構32	黒褐色弱粘質土	炭化物・有機質土・木片・灰褐色砂少・縮まりあり	112	85	32
遺構34-1	暗褐色砂質土	貝砂・有機質土	(130)	45~50	29~41
-2	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・灰褐色砂			
-3	暗褐色砂質土	泥岩粒・炭化物微・古代須恵器出土			
遺構35	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・有機質土・褐鉄	(246)	(67)	33
遺構36	暗褐色弱粘質土	泥岩粒	17	16	10

第 5 節 最終トレンチ・表採出土遺物 (図 3・17)

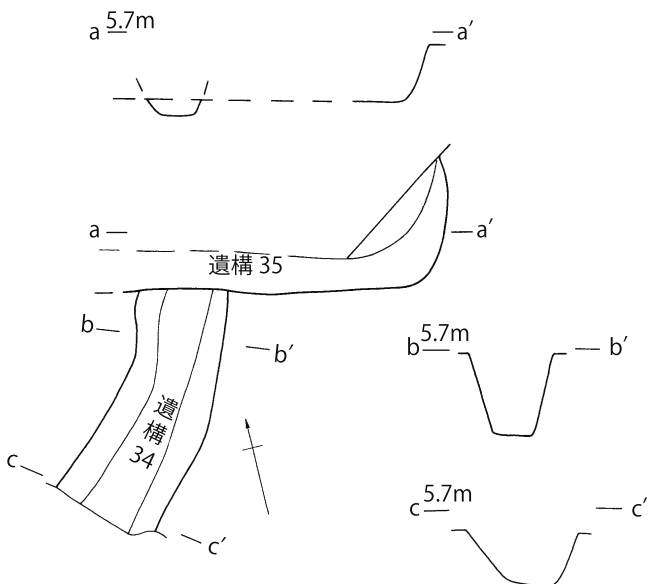
第 4 面検出後の下層堆積を確認するため調査区南西側にトレンチを設け、海拔 4.5m 前後まで掘り下げた。ほぼ水平な第 44 層~第 47 層と東から西に傾斜する第 48 層を検出。東壁遺構 25 の下層より検出された基盤層の可能性のある第 49 層の青灰色砂質土は確認できなかった。

表採出土遺物 (図 17)

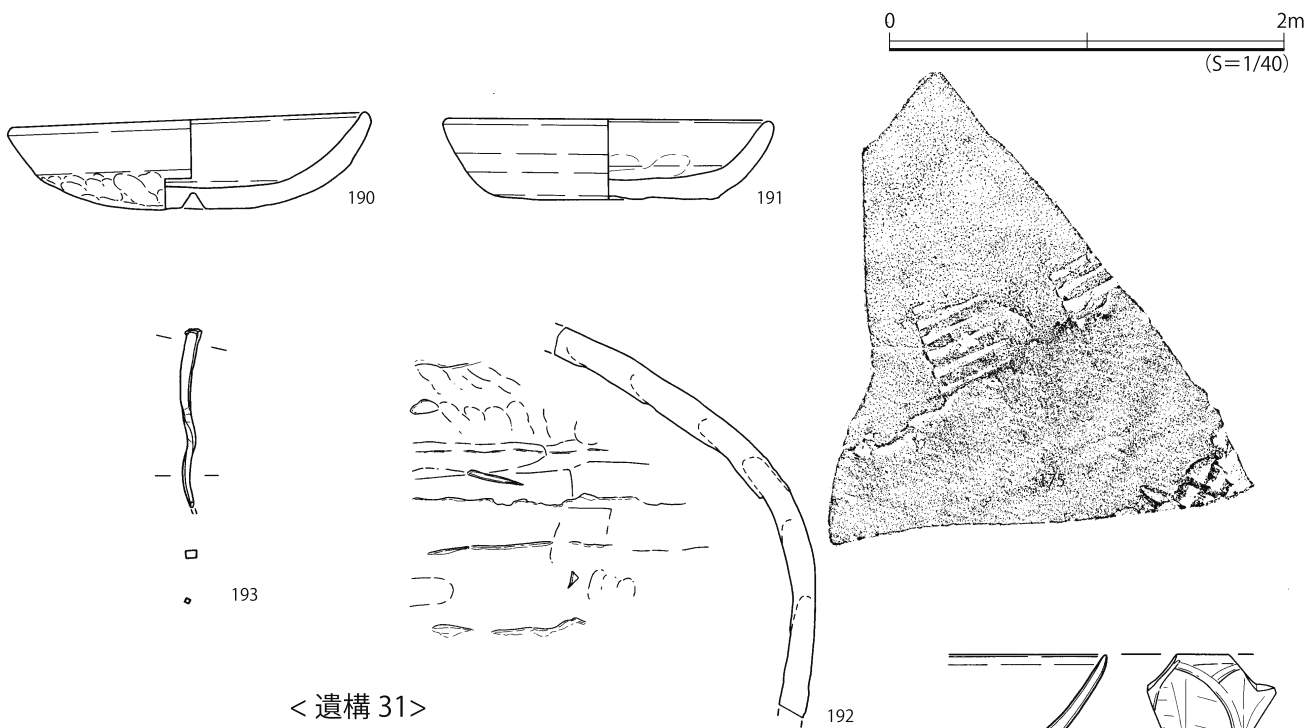
図 17-199~200 は小型、201 は大型かわらけ。



< 遺構 31 >

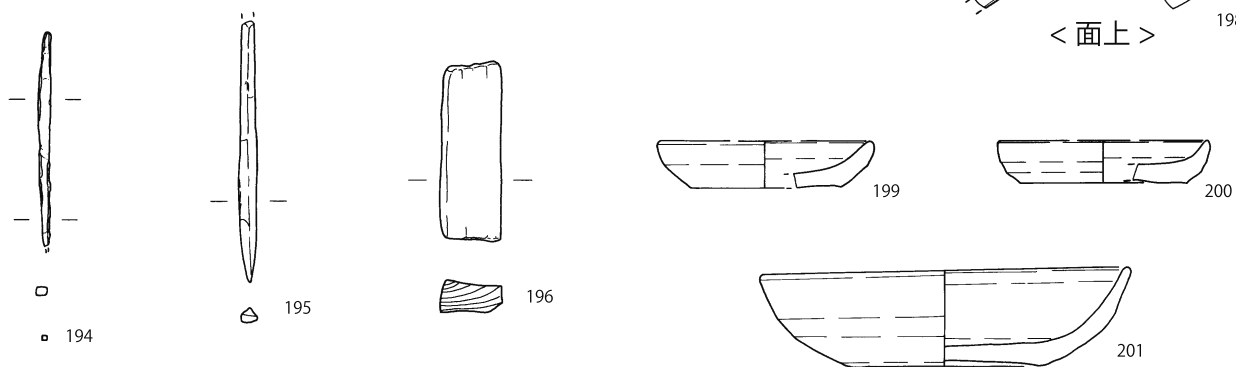


< 遺構 34・35 >



< 遺構 31 >

< 面上 >



< 表採 >

< 遺構 34 >

図 17 第 4 面各遺構・面上・表採・出土遺物

第四章 まとめ

本調査地点は砂丘間の後背湿地状の窪地と考えられる県道鎌倉葉山線（旧国道 134 号線）に沿った一帯に位置し、砂層は僅かに確認されたのみで、粘質土ないし土壌化した砂質土を中心に堆積していた。調査前の現地表海拔は 7.4m 前後のほぼ平坦な土地を形成していた。現地表から約 60cm の深さで堆積していた表土層を重機によって掘り下げ、層直下で版築のように硬く締まる泥岩粒多量・炭化物多量・玉石を含む暗褐色弱粘質土上（海拔 6.8～6.9m）で遺構精査を試みたものの遺構検出が伴わず、更に 40cm 掘り下げた大型泥岩・泥岩粒多量・炭化物・玉石少量を含む硬く締まった暗褐色弱粘質土（海拔 6.5m 前後）上で第 1 面とした。検出遺構は 8 基だが、大型土坑の遺構 2・8 以外は遺構とは言い難い。第 2 面は褐色砂質土多量・泥岩・泥岩粒少量・炭化物・有機質土・貝砂を含む暗（茶）褐色弱粘質土上（海拔 6.3～6.4m 前後）で、矮小な調査区内で土坑 6 基・ピット 3 穴を検出し、密に遺構が切り合う。第 3 面は泥岩粒・炭化物・貝砂を含む、部分的に上層硬化した黄褐色砂質土上（海拔 6.1～6.2m 前後）とした。板壁かと推測される側板を伴う建物址 2 軒と方形竪穴建物の切り合いを中心に、3 種類の覆土で新旧が分類される土坑 3 基・ピット 7 穴を検出している。第 4 面は調査区南西部のみを調査し、炭化物少量・貝砂・褐色砂を含む粘性の強い黒褐色弱粘質土上（海拔 5.9～6.0m 前後）とした。上面に炭化物多量・貝砂多量・褐鉄・黄褐色砂多量に含む黄褐色弱粘質土の硬化面が部分的に広がる。検出遺構は方形竪穴建物 1 軒、溝状遺構 1 条、土坑 2 基、ピット 1 穴。遺構 35 の建物址は 2 面で検出された遺構 22・25 と新旧関係にあり、短期間の間に少なくとも 4 回の建て替えが行われている。

後背湿地状の影響を受けて低い土地を数時期にわたって埋め立てる際に生じた堆積は、その後に建築される建物があまり重量のない方形竪穴建物か板壁建物を中心とするという調査地周辺の様相と一致する。また東壁遺構 25 下層より海拔 5.1m 前後で検出された基盤層の可能性のある青灰色砂質土は、調査区南西側に設けたトレンチを海拔 4.5m 前後まで掘り下げても確認できなかった。県道鎌倉葉山線を挟んで本調査地点北側に位置する図 1-地点 25 は海拔 6.6～6.7m 前後で黄褐色砂層、本調査地点南側に位置する図 1-地点 6 は海拔 4.9m、地点 7 は海拔 3.9m で青灰色砂層の基盤層を確認している。これは県道鎌倉葉山線を境に北側と南側の海拔差は現地表に於いては殆どないが、中世遺構検出海拔高は 100 cm 以上の差があり、砂丘の影響で中世期には南にむかって海拔高が下がる後背湿地状に形成された特徴を裏付けした結果と言える。

本調査地点の遺物出土点数は、接合後の破片数で 2,264 点（遺物整理箱総数 11 箱）を数える。出土遺物の傾向としては 50% 弱をロクロかわらけが占め、大型が主流である。25% 程度を 5～8 型式の常滑窯製品、15% 程度を自然遺物類で、他は舶載陶磁器、瀬戸窯製品、金属製品となる。舶載品は天目茶碗や輪花状の可能性のある青磁鎚連弁文碗、新安枢府様式系の可能性のある白磁口元印花文碗など多様である。瀬戸窯製品は中期～後期前半頃の遺物が出土している。第 2 面構成土より出土した合わせ口かわらけや備前すり鉢・東播系こね鉢も踏まえて、本遺跡の年代は概ね 13 世紀後半～14 世紀代と幅広い年代を与えたい。

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位:cm/():復元値	l:残存値	a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考	
図7-1	第1面 遺構2	かわらけ	(7.4)	(5.4)	(1.6)	a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針やや 多い・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:灯明皿 内外面口唇部に 油煤痕
-2		かわらけ質 小型短頸壺	(6.1)		[2.8]	a:ロクロ 全体的に横ナデ・内面頸部指頭ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 粉質気味良土 c:淡褐色 e:良好 f:口縁～体部1/6片
-3		青磁 鎚連弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 精良緻密土 d:灰緑色半透明釉をやや厚く施釉 e:堅緻 f:口 縁部片 g:龍泉窯系Ⅱ-b類
-4		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み 口縁部横ナデ b:暗灰色 微砂・白色粒多・黒色粒・長石 c:暗赤褐色 d:内面に厚く自然釉 f:口縁部片 g:第6b型式
-5		常滑 広口壺		縁部2.6		a:輪積み b:暗灰褐色 微砂・白色粒多・黒色粒・長石 c:暗赤褐色 d:内面口縁 部にわずかに自然釉 f:口縁部片 g:第8型式
-6		常滑 壺		縁部2.6		a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c:暗赤褐色 d:内面上部・外面縁部下 部・肩部に自然釉 f:口縁部片 g:第6a～b型式
-7		常滑 壺		(15.0)	[5.7]	a:輪積み 外面体部タテ・ナナメ位のヘラナデ・外底部に離れ砂付着 b:砂粒・黒灰 色・白色砂礫 c:暗褐色 d:内面に斑状に自然釉 e:硬質 f:底部1/6片
-8		常滑壺 転用研磨品	11.1	6.3	1.1	a:すり常滑 両面に抉りのような意図的な加工痕 b:淡灰褐色 白色粒・小石粒 f:肩部片転用 g:内外面上下先端に使用による顕著な磨り痕
-9	第1面 遺構3	瀬戸 御皿				a:ロクロ 平底で糸切り痕 b:灰色 砂粒・やや良土 c:灰色 d:暗灰緑色(灰釉)を 内底面と体部に漬け掛け? e:硬質 f:底部片 g:内底面に目跡痕・二次焼成? 中 期後半～後期前半?
-10		常滑 壺		縁部2.85		a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石多・石英 c:暗赤褐色 d:口縁部・肩 部に自然釉 f:口縁部片 g:第6b型式
-11	第1面 遺構6	常滑 片口鉢Ⅱ類		(13.0)	[7.0]	a:輪積み 外面体部タテ位のヘラナデ・外底部に離れ砂付着 b:暗灰色 砂粒・白 色砂礫やや多い c:暗赤褐色 e:硬質 f:底部1/6片 g:内面顕著な磨りによる使 用痕
-12		瓦器 碗				a:外底面指頭無調整・内面磨き b:灰白色 微砂・黒色粒・良土 c:内外面黒色処 理 e:硬質 f:底部片 g:見込み部に菊花状の暗文
-13		鉄製品 釘	[6.6]	0.6	0.5	a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい
-14	第1面 遺構8	かわらけ	(12.3)	(7.8)	(3.4)	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・白 色粒・砂礫僅か やや粗土 c:淡褐色 e:良好 f:1/4 g:内面に融着物付着
-15		青磁 無文皿		(14.6)	[2.3]	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒僅かに含む精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚く 施釉 僅かに気孔・細かな貫入 量付部分の掻きとり e:堅緻 f:底部片 g:龍泉窯 系
-16		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み b:灰色 砂粒多・白色粒・黒色粒・長石・石英 c:灰色 d:口縁部に自然 釉(淡灰緑色) f:口縁部片 g:第6a型式
-17		鉄製品 釘	[5.8]	0.6	0.3	a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい
-18		鉄製品 刀子(小刀)	刀身部[19.7] 茎部[3.5]	刀身部[2.5] 茎部[1.6]	刀身部[0.5] 茎部[0.3]	f:刀身～茎で全長[23.2] g:錆の付着激しく、目釘穴確認できず
図8-19	第1面 面上	かわらけ	(6.9)	(4.8)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒・砂粉質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
-20		青磁 鉢				a:ロクロ b:灰白色 わずかに黒色粒 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚 く施釉 e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系Ⅲ-3b類
-21		青磁 碗				a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 e:堅緻 f:口縁部片 g:内外面共にキズあり 龍泉窯系Ⅲ類
-22		青磁 碗		(4.6)		a:ロクロ b:白色粒 黒色粒 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 量付け部分は露胎 e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系Ⅲ類 高台量付の接地面 に磨り痕?
-23		青白磁 梅瓶蓋	肩部最大径 (5.2)			b:灰白色 黒色粒 精良緻密土 d:淡青灰色不透明釉を薄く施釉 f:1/6 g:気孔あ り
-24		瀬戸 天目茶碗	(12.0)			a:ロクロ b:灰～灰褐色 白色粒・黒色粒 良土 c:灰色 d:暗褐色(鉄釉)を厚く漬 け掛け 内外面体部下位～底部露胎 e:硬質 f:1/6 g:中期後半～後期前半
-25		瀬戸 輪花入子		(3.6)		a:ロクロ b:灰色 白色粒・黒色粒・良土 c:灰色 d:体部内外面に淡灰緑色を呈す る自然釉 e:硬質 f:底部1/4 g:外底面に重ね焼き痕あり 後期前半
-26		瀬戸 緑釉小皿				a:ロクロ b:灰色 白色粒・黒色粒・やや良土 c:黄灰色 d:淡緑色(灰釉)をやや厚 く漬け掛け e:硬質 f:口縁部片 g:後期前半
-27		瀬戸 緑釉小皿				a:ロクロ b:灰黄色 白色粒・黒色粒・やや良土 c:黄灰色 d:暗茶褐色釉(鉄釉)を やや厚く漬け掛け e:硬質 f:口縁部片 g:後期前半
-28		瀬戸 御皿				a:ロクロ b:灰色 白色粒・黒色粒・やや粗土 d:淡緑色(灰釉)を漬け掛け e:硬質 f:口縁部片 g:後期前半
-29		瀬戸 折縁深皿				a:ロクロ b:淡黄色 白色粒・黒色粒 粉質気味な粗土 d:淡灰緑色(灰釉)を薄くハ ケ塗り 部分的に二次焼成で被火 e:やや軟質 f:口縁部片 g:中期後半
-30		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み 口縁部に沈線のような陵が巡る b:灰色 砂粒多・白色粒・黒色粒・長 石・石英 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:第5～6a型式
-31		常滑 片口鉢Ⅰ類		(11.0)		a:輪積み 貼付高台 b:灰色 白色砂粒・小石粒多い c:灰色 e:硬質 f:底部1/3 g:内面顕著な磨滅 第5～6a型式
-32		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み b:茶褐色 砂粒・白色粒多・黒色粒・小石粒 c:茶褐色 e:硬質 f:口縁 部片 g:7～8型式
-33		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み b:茶褐色 砂粒・白色粒多・黒色粒・小石粒 c:暗赤褐色 e:硬質 f:口 縁部片 g:7～8型式
-34		常滑 壺		縁部幅2.2		a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:暗茶褐色 e:硬質 f:口縁 部片 g: 6a～6b型式
-35		常滑 壺				a:輪積み b:灰褐色 砂粒・小石粒・長石・石英 c:灰褐色 d:暗緑色(自然釉) e: 硬質 f:肩部片 g:外面格子状のスタンプ文
-36		東播磨 こね鉢				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:Ⅶ期?(13c後葉～14c前半)
-37		東播磨 こね鉢				a:輪積み b:暗灰色 砂粒・黒色粒多 c:暗灰色 d:外面口唇部に自然釉 e:硬質 f:口縁部片 g:Ⅶ期?(13c後葉～14c前半)
-38		備前 播鉢				a:輪積み b:暗赤褐色 白色粒・黒色粒 c:暗赤褐色 e:硬質 f:体部片 g:条線 11本確認
-39		瓦器質 火鉢				a:輪積み 内面口縁～胴部縦→横位のミガキ・下部ヘラナデ・外面縦位のミガキ b:灰色 白色粒・黒色粒・小石粒・粗土 c:暗灰～黒色(黒色処理) e:軟質 f:口縁 ～体部片 g:輪花状を呈し、体部外面に菊花文スタンプ・Ⅲ類
-40		石製品 砥石・仕上砥	[4.7]	3.8	0.4	a:砥面1面・側面2面・小口1面切り出し・折りとり痕 b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:赤 褐色 g:鳴滝産
-41		石製品 砥石・仕上砥	[4.4]	3.1	0.4	a:側面2面・小口1面切り出し痕 b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:赤褐色 g:鳴滝産
-42		石製品 硯	[8.0]	7.0	[1.3]	b:紫金石 c:暗赤褐色 g:赤間ヶ淵産 g:硯として使用後、砥石として使用か?

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位:cm/():復元値	():復元値	l:残存値	
図8-43	第1面 面上	石製品 硯転用研磨具	[9.3]	[3.6]	[1.4]	a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 b:紫金石 c:暗赤褐色 g:赤間ヶ関産 欠損後砥石として転用 使用痕顕著 側面 の磨り痕から手持ちでも使用か?
-44		石製品 碁石?	1.9	1.7	0.5	a:全体を簡易的に磨って成形? c:灰黒色 g:碁石の黒として使用か?
図9-45	第1面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.7)	1.4	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
-46		かわらけ	7.3	4.8	1.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・白色粒・海 綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:外面融着物付着
-47		かわらけ	8.0	5.7	1.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:外面融着物付着 器形の歪み 著しい
-48		かわらけ	7.9	5.6	1.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕顕著・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨 針・泥岩粒多 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:外面融着物あり
-49		かわらけ	(7.6)	(5.8)	1.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 や や粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:1/3 g:内面融着物あり
-50		かわらけ	7.9	5.6	1.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨針・泥 岩粒やや多い やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:ほぼ完形 g:口縁部外面の一部 サザラ状のものでナデた痕あり
-51		かわらけ	7.9	5.7	1.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 や や粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:ほぼ完形 g:外面融着物付着
-52		かわらけ	(8.3)	(6.2)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥 岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:内外面融着物付着
-53		かわらけ	(7.8)	(5.4)	2.2	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂微量・赤色粒・雲母・海綿骨 針・泥岩粒多・小石粒 粉質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:内外面口 唇部に油煤痕
-54		かわらけ	(13.0)	(7.6)	2.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・海綿骨針・赤色粒・ 白色粒・泥岩粒多 砂質粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
-55		かわらけ	12.6	7.7	3.0	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥 岩粒多 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:2/3
-56		青磁 鎚蓮弁文碗	(15.8)		[6.0]	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒・精良緻密土 d:暗灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 e: 堅緻 f:口縁部片 g:外面に鎚蓮弁文+内面から外面への凸み→口縁を輪花状 (6弁)に成形か?内外面に細かな貫入(氷裂文様を意識か?)あり・南宋
-57		青白磁 梅瓶蓋				a:ロクロ b:白色 黒色粒・精良緻密土 d:水青色不透明釉をやや厚く施釉 e:堅 緻 f:肩部片 g:細かな貫入あり
-58		白磁口元 印花文碗	(11.4)	(2.9)	4.4	a:ロクロ・型押し b:白色 精良緻密土 d:乳白色不透明釉を薄く施釉 e:堅緻 f: 1/3 g:内面に梅花?を主とした陽刻文を施す(新安枢府様式と言われる型式の碗 か?玉林氏ご教示)
-59		瀬戸 折縁深皿				a:ロクロ b:淡黄褐色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 d:淡灰緑色釉(灰釉)を薄 くハケ塗り e:良好・硬質 f:口縁部片 g:後期前半
-60		瀬戸 折縁深皿	(24.8)			a:ロクロ b:明灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 d:淡灰緑色釉(灰釉)を薄く 漬け掛け e:良好・硬質 f:口縁部1/8 g:中期後半~後期前半
-61		尾張型 山茶碗				a:輪積み 内外面ヨコナデ調整 b:明灰色 砂粒多・白色粒多・黒色粒 c:灰色 d: 口唇部から内面にかけ淡緑色(自然釉)e: f:口縁部片 g:6型式
-62		常滑 片口鉢I類				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g: 6a型式
-63		常滑 片口鉢I類				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・長石多 c:灰色 d:内外面淡緑色(自然釉) e: 硬質 f:口縁部片 g:6b型式
-64		常滑 片口鉢I類				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒多・黒色粒 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:6b型 式
-65		常滑 片口鉢II類				a:輪積み 口縁端部が隅丸方形 b:暗灰色 砂粒・白色粒多・小石粒・長石 c:暗赤 褐色 e:硬質 f:口縁部片 g:6a型式
-66		常滑 片口鉢II類				a:輪積み b:褐色 砂粒・白色粒多・黒色粒・小石粒 c:赤褐色 e:硬質 f:口縁部 片 g:6b型式
-67		常滑 片口鉢II類				a:輪積み 口縁端部が方形で、平坦面の中央部が凹むもの b:灰黒~淡橙褐色 砂粒・白色粒・小石粒・長石 c:暗赤褐色 e:硬質 f:口縁部片 g:7型式
-68		常滑 片口鉢II類				a:輪積み 口縁端部がやや肥厚し、下端はわずかに引き出されるもの b:淡灰褐色 ~淡橙褐色 砂粒・白色粒・小石粒多・長石 c:暗赤褐色 e:硬質 f:口縁部片 g: 8~9型式
-69		常滑 甕		縁帯幅 3.1cm		a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・小石粒・長石 c:灰褐色 d:縁帯口唇部~外面 に白濁した淡緑色の自然釉 e:硬質 f:口縁部片 g:6b~7型式
-70		常滑 甕				a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・小石粒・長石 c:暗赤褐色 d:内面に白濁した 淡緑色の自然釉 e:硬質 f:底部片 g:甕底部に磨り痕あり、転用陶片か?
-71		常滑甕 転用研磨品	5.2	4.9	1.1	b:灰褐色 砂粒・白色粒多・黒色粒 c:灰褐色 e:硬質 f:胴部片 g:転用陶片
-72		常滑甕 転用研磨品	9.4	8.7	1.4	b:暗橙褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒多 c:暗赤褐色 e:硬質 f:胴部片 g: 転用陶片
-73		瓦質 火鉢				a:内外面口縁部ヨコナデ・外部口縁下縦位のハケメ+指頭痕 b:灰色 微砂・黒色 粒・砂礫 c:灰色 e: f:口縁部片 g:IC類
-74		瓦器質 火鉢				a:炭素吸着による黒色処理 器面のミガキ調整は磨滅著しく不鮮明 外底面は砂底 b:灰白色 砂粒・小石粒多く・粗土 c:暗灰色 e:軟質 f:脚部片 g:III類・輪花状 か?
-75		鉄製品 釘	[6.3]	0.3	0.3	a:断面方形に鋳造 f:先端部わずかに欠損 g:錆の付着激しい
-76		鉄製品 釘	[6.3]	0.4	0.4	a:断面方形に鋳造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
-77		石製品 硯	[7.0]	(5.6)	0.9	b:黒色粘板岩 c:黒色 f:陸の下半分が欠損 g:鳴滝産?長方形 縁0.3cm幅で巡 らすが、ほぼ欠損。
-78		石製品 砥石・仕上げ砥	[3.0]	3.1	[0.8]	a:砥面? b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:赤褐色 g:鳴滝産仕上げ砥・剥離後も部分 的に砥面として使用か?
-79		かわらけ転用 円盤状土製品	3.4	3.4	1.1	a:ロクロ系切り底面転用 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・良土 c:暗黄褐色 g:裏 面は被火による黒色に変化・泥面子等の遊具か?
図11-80	第2面 遺構9	かわらけ	(8.9)	(7.9)	1.8	a:手づくね・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨針・泥岩粒少量 やや 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
-81		かわらけ	7.5	5.7	1.5	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 砂質やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
-82		かわらけ	(11.0)	(7.8)	3.5	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒多い やや粗土 c:暗褐色 e:良好 f:1/3
-83		青磁 鎚蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 黒色微砂 精良緻密土 d:灰緑色半透明釉をやや薄く施釉 e:堅緻 f:口縁部小片 g:龍泉窯系碗II-b類?

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位:cm/():復元値	():復元値	l: :残存値	
図11-84	第2面 遺構10	かわらけ	(7.3)	(5.4)	1.5	a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨針・ 白色粒 砂質粗土 c:赤褐色 e:やや甘い・胎土ナマ焼け f:1/3
		かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿 骨針・白色粒多・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
	第2面 遺構11	かわらけ	7.4	5.1	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒多・海綿骨 針・泥岩粒多・鉄分付着 砂質気味やや粗土 c:褐色～赤褐色 e:良好 f:完形
	第2面 遺構12	かわらけ	(7.0)	(4.4)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 粉 質気味やや良土 全体的に夾雑物少ない c:褐色 e:良好 f:1/6
		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み b:暗灰褐色 砂粒・白色粒・長石多 c:暗茶褐色 d:内面に白濁した淡 緑色の自然釉 f:口縁部片 g:6a型式
	第2面 遺構14	かわらけ	(7.1)	(4.9)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海 綿骨針・泥色粒 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
		かわらけ	(8.3)	(6.9)	1.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 色粒 粉質気味 c:黄灰色 e:良好 f:1/6
		白磁 壺	(10.0)			a:ロクロ b:灰白色 黒色砂粒 精良緻密土 d:淡灰緑色半透明釉をやや薄く施釉 気孔あり e:堅緻 f:口縁部片
		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石多 c:灰色 f:口縁部片 e:硬質 g:6b型式か?
		常滑 甕		縁帯幅 2.8cm		a:輪積み b:灰褐色 黒色粒・白色粒・小石粒 c:暗赤褐色 d:外面肩部に灰緑色 (自然釉) e:硬質 f:口縁部片 g:広口壺6a～7型式の可能性あり
	常滑 広口壺		(16.6)	[6.8]	a:輪積み b:暗灰色 白色砂粒・砂礫多い c:暗褐色 d:内面見込みに暗灰緑色の 自然釉と溶解付着物 e:硬質 f:底部片 g:底裏に粘土塊の融着物付着	
	産地不明 四耳壺			[4.0]	a:耳貼り付け b:茶～茶褐色 砂粒・白色粒・赤色粒 c:暗茶褐色 e:硬質 f:肩部 片 g:外面肩部に線刻あり 常滑四耳壺を模倣した中世窯か?	
	鉄製品 釘	[2.6]	0.4	0.5	a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい	
	鉄製品 釘	[3.8]	0.3	0.4	a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい	
第2面 遺構15	かわらけ	(6.8)	(5.2)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・や や粗土 c:褐色 e:良好 f:1/5	
	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・ 泥岩粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/4 g:口縁部内外面～底面油煤痕付着	
	かわらけ	(7.7)	(5.9)	1.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4	
	かわらけ	(11.0)	(7.4)	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4	
	瀬戸 御皿				a:ロクロ b:灰黄色 黒色粒・良土 d:淡緑色釉薄く刷毛塗り e:良好・硬質 f:口縁 部片 g:中期Ⅱ～Ⅲ期	
	備前 播鉢				a:輪積み b:暗赤灰色 長石・白色粒・砂粒多 c:暗灰色 e:良好・硬質 f:口縁～ 胴体部片 g:7本の条線	
	第2面 遺構16	青磁 皿	(10.3)			a:ロクロ b:灰白色 精良緻密土 d:灰緑色透明釉をやや薄く施釉 僅かに気孔 e:堅緻 f:口縁部片 g:口唇部に煤付着
		青磁 劃花文碗				a:ロクロ b:暗灰白色 精良緻密土 d:灰緑色半透明釉をやや薄く施釉 e:堅緻 f: 口縁部片 g:椀Ⅰ-2類
		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒多い c:灰色 d:淡緑色(自然釉) f:口縁部片 g:6a型式
		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み b:黒褐色～淡橙褐色 砂粒・白色粒・砂礫 c:暗赤褐色 d:淡緑灰色(自 然釉) f:口縁部片 g:6b型式
	常滑甕 押印文				a:輪積み b:灰褐色 黒色粒・白色粒・砂礫多い c:黄褐色 f:肩部片 g:縦線文+ 横線2本(縦長方格子)の押印文	
第2面 遺構17	かわらけ	(7.0)	(6.0)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切後にナデ?・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 色粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3	
	青白磁 器種不明				a:ロクロ b:白色 黒色粒・精良緻密土 d:水青色半透明釉を薄く施釉・気泡多い e:堅緻 f:胴部片 g:草花?文様を貼付た壺・水注等か。	
	舶載黒褐袖 天目茶碗	(10.6)	3.2	4.7	a:ロクロ・削り出し高台 b:灰色 白色粒・精良緻密土 d:黒褐色釉を厚く施釉 外 面体部中位～高台内まで露胎 e:堅緻 f:1/3 g:細かい気泡多い・内底面に目跡 あり	
	常滑 片口鉢Ⅰ類		(14.4)		a:輪積み・貼付高台 b:灰～淡灰褐色 微砂・白色粒・長石全て多い c:淡灰褐色 f:1/5底部片 g:内面の摩滅痕顕著 第6a～b型式	
	常滑 片口鉢Ⅰ類		(14.3)		a:輪積み・削り出し高台 b:灰色 微砂・白色粒・長石全て多い c:灰色 f:1/5底部 片 g:内面使用により摩滅・剥離 第6a～b型式	
	常滑 甕				a:輪積み b:暗灰褐色 白色粒 c:暗灰褐色 d:淡緑灰色(自然釉) f:口縁部片 g:第6a～b型式	
	かわらけ転用 円盤状土製品	2.4	2.2	1.0	a:かわらけ底部を転用し、円盤状に削りを施す b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い	
	石製品 基石	2.3	2.1	0.5	a:円盤状に削りを施す g:黒色	
	鉄製品 釘	[5.9]	0.4	0.2	a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい	
	鉄製品 釘	[4.9]	0.5	0.3	a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい	
	鉄製品 不明鉄製品	[4.6]	0.4	0.2	a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい 錠か?	
	加工骨 基石?	1.6	1.3	0.2	a:円盤状に削りを施す f:二次焼成を受けている	
図12-121	2面面上	かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒・小石粒・やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
		瀬戸 御皿				a:ロクロ b:灰色 黒色粒・良土 d:淡灰緑色の灰釉を薄く刷毛塗り e:良好・やや 軟質 f:口縁部片 g:二次焼成あり 中期前半
		瀬戸 御皿				a:ロクロ b:淡黄白色 微砂・白色粒・やや粗土 d:底部内外面露胎 e:良好・軟質 f:底部片(糸切り) g:御目は未使用 中期
		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み成形 b:灰色 微砂・白色粒多・小石粒 c:灰色 d:口唇部～内面に淡緑 色(自然釉) f:口縁部片 g:第6b型式
		鉄製品 釘	[4.0]	0.4	0.3	a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
		鉄製品 釘	[3.4]	0.3	0.5	a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
		石製品 砥石・仕上砥	[3.5]	[2.2]	[0.4]	a:砥面1面、他は欠損・剥離で不明 b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:暗赤褐色 g:鳴滝 産

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位:cm/():復元値	復元値	残存値	
図12-128	第2面 構成土	かわらけ	8.8	7.2	1.8	a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母少・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒・やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形 g:歪みあり・融着物の付着 や汚れあり
-129		かわらけ	(8.2)	(6.5)	1.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針極わず か粉質気味やや良土 c:黄褐色 e:やや甘い f:1/6
-130		かわらけ	7.6	5.7	1.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ顕著? b:微砂多・雲母・赤色粒多・白 色粒・海綿骨針・小石粒多 砂質気味やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:完形 g: 歪みあり
-131		かわらけ	(11.8)	(8.7)	(3.1)	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿 骨針・泥岩粒多・やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:合わせ口かわらけ・融着 物付着
-132		かわらけ	12.1	8.2	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・ 泥岩粒 粉質気味やや良土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:合わせ口かわらけ・融着 物付着
-133		青磁 鎚蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 精良緻密土 d:青緑色不透明釉を厚く施釉 僅かに気孔あり e:堅緻 f:体部～底部片 g:龍泉窯系施III-2C類
-134		青磁 鎚蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰色 精良緻密土 d:淡灰緑色不透明釉をやや薄く施釉 僅かに気孔 あり e:堅緻 f:体部片 g:龍泉窯系施II類
-135		白磁 口元皿か碗				a:ロクロ b:白色 黒色粒・精良緻密土 d:淡青灰色不透明釉を薄く施釉 貫入・二 次焼成で失透 口唇部露胎 e:堅緻 f:口縁部片
-136		常滑 甕押印文				a:輪積み 口縁下に穿孔あり b:暗灰褐色 砂粒・白色粒・砂礫多い 泥岩粒 c:黒 褐色 d:緑灰色(自然釉) f:肩部片 g:巴文叩き
-137		瓦質 火鉢				b:灰色 砂粒・白色砂礫・黒色粒 c:灰～暗灰色 f:口縁部片 g:lc類
-138		鉄製品 釘	[7.4]	0.4	0.3	a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
-139		加工獣骨 用途不明	[10.0]	3.5	2.5	a:U字型原体を約1cm幅で両側に切り取った後の加工骨 b:ウシ? g:刀装品の栗 形を作った残骸か
-140		土師器 甕				a:粘土紐積み上げ成形 内外面横ナデ→内面頸部へラマガキ b:微砂・雲母・海綿 骨針・白色粒 c:淡褐色 e:良好 f:口縁部片 g:相模型
図14-141	第3面 遺構22	かわらけ	(8.0)	(6.4)	1.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・ 泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3 g:融着物付着
-142		かわらけ	(8.4)	(6.4)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・ 海綿骨針・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:部分的に黒く 変色
-143		かわらけ	(8.1)	(5.8)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿 骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
-144		かわらけ	7.7	5.5	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・ 海綿骨針多・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
-145		かわらけ	(12.0)	(8.2)	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・ 白色粒 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:融着物付着
-146		青磁 皿か碗				a:ロクロ b:暗灰白色 精良緻密土 d:緑灰色透明釉を薄く施釉 気孔あり e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系皿又は浅形碗か
-147		常滑 片口碗				a:輪積み b:暗灰～黄灰色 微砂・白色粒・小石粒 c:暗茶褐色 d:内面に自然釉 f:口縁部片 g:第4～5型式
-148		尾張型 山茶碗				a:輪積み b:灰色 白色粒・黒色粒 c:灰色 d:内外面共に厚く自然釉 f:口縁部 片 g:第6～7型式か
-149		常滑 片口鉢I類				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰色 d:口唇部に自然釉 f: 口縁部片 g:第6a型式
-150		常滑 片口鉢I類				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c:灰色 d:口唇部自然釉 f:口縁部片 g:第6a型式
-151		常滑 片口鉢II類				a:輪積み b:暗灰色 砂粒多・白色粒・長石 c:暗茶褐色 d:口唇部～内面に自然 釉 f:口縁部片 g:第6a型式
-152		常滑 片口鉢II類				a:輪積み b:灰褐色 砂粒多・白色粒・長石 c:暗茶褐色 d:口唇部に自然釉 f:口 縁部片 g:第6a型式
-153		常滑 甕押印文				a:輪積み b:灰色 白色粒・砂礫多い c:茶褐色 d:体部に自然釉 f:肩部片 g: 縦線文+横線3本(格子)の押印文
-154		木製品 下駄	[16.3]	[9.6]	0.3～1.9	g:柾目材使用 部分的に欠損
-155		木製品 籠状木製品	24.0	1.0～2.0	1.0	a:先端に削りをいれて籠状に成形 g:柾目材使用 持ち手側は摩耗
-156		木製品 杭	27.8	1.9～3.0	2.6	a:先端はつり痕か? g:柾目材使用
-157		木製品 杭	23.3	2.4～2.9	1.5	a:先端はつり痕か? g:柾目材使用 転用品か?
-158		木製品 柱	[46.4]	16.0	[13.0]	a:全面はつり痕。下位は3面取りか? f:部分的に欠損
図15-159	第3面 遺構25	かわらけ	(13.9)	(12.2)	3.1	a:手捏ね・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・粉質気味やや良土 c:淡褐 色 e:良好 f:1/4
-160		かわらけ	(7.9)	(7.0)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母多・赤色粒・白色粒・泥 岩粒 c:褐色 e:良好 f:1/4
-161		かわらけ	(6.4)	(5.0)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒多・白色 粒・海綿骨針・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:淡褐色 e:良好 f:1/3
-162		青磁 鎚蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 僅かに 黒色粒 精良緻密土 d:青緑色不透明釉をやや厚く 施釉 失透し、気孔あり e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系施II類
-163		産地不明 筒状容器蓋	8.5		2.3	a:ロクロ 回転ナデ・天井部回転ヘラケズリ b:黄灰色 砂粒僅かな精良土 d:部分 的に自然降灰? e:良好・硬質 f:3/4 g:163の共蓋か?瀬戸美濃窯?
-164		産地不明 筒状容器身	(7.2)		4.0	a:ロクロ 回転ナデ b:黄灰色 微砂・黒色粒 良土 e:良好・硬質 f:1/5 g:164の 共筒か?瀬戸美濃窯?
-165		常滑 片口鉢I類				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒 c:灰色 d:口唇部～内面に自然釉 f:口縁部片 g:第4～5型式か?
-166		常滑 広口壺				a:輪積み b:灰褐～灰黒色 砂粒・白色粒 c:暗赤褐色 d:口唇部+外面肩部に自 然釉 f:口縁部片 g:第5～6a型式
-167		常滑 甕転用研磨品	7.0	6.7	1.5	a:すり常 b:暗灰～黄灰色 微砂・白色粒・小石粒 c:黄灰色
-168		常滑 甕転用研磨品	10.6	5.6	1.3	a:すり常 b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒多・長石 c:淡茶褐色 g:縦線文+横線4 本(格子)の押印文甕転用陶片
-169		木製品 箸状木製品	13.2	0.7	0.5	g:先端、細く削る

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位:cm/():復元値	l:残存値	a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考	
図15-170	第3面 遺構25	木製品 不明木製品	11.5	1.9	0.6	g:板目材使用 先端、細く削る
-171		木製品 不明木製品	[2.6]	8.4	0.6	g:柁目材使用 全体が円盤状になるか? 周囲に削りを施し、中央に穿孔あり
図16-172	第3面 遺構18	かわらけ	(12.1)	(8.0)	2.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・泥岩粒 粉質気味 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:内面に融着物付着
-173		近世船載陶器 器種不明				b:暗茶褐色 微砂・白色粒多・良土 d:褐色 内外面薄く施釉 e:硬質 f:口縁部片 g:盤か? 3面上に同一遺物あり、表土からの混ざり込み遺物と思われる
-174	第3面 遺構19	かわらけ	(8.7)	(5.8)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨針・泥岩粒 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
-175		青磁 無文碗				a:ロクロ b:暗灰白色 黒色微砂・精良緻密土 d:灰緑色半透明釉を薄く施釉 気孔僅かにあり e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系I類
-176		渥美 片口碗				a:輪積み b:灰色 微砂・僅かに小石粒 c:灰色 d:肩部に自然釉 f:口縁部片 g:第2a型式?
-177		渥美 壺		(9.2)		a:輪積み b:灰色 微砂・石英・僅かに小石粒 c:暗褐色 d:胴部外面・内底部に自然釉 f:胴~底部片1/5
-178	第3面 遺構21	瓦質 火鉢				a:輪積み b:灰色 砂粒多・白色粒・小石粒 c:黒灰~黄灰色 f:口縁~体部片 g:焼成前に内側から外側に0.7mmの刺突、僅かに貫通
-179	第3面 遺構26	白磁 四耳壺		(7.6)		a:ロクロ b:灰白色 僅かに黒色粒 精良緻密土 d:乳白色不透明釉をやや厚く施釉 底部脇へ畳付けは露胎 e:堅緻 f:体部~底部片1/6
-180	第3面 面上	かわらけ	7.2	5.3	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨針 c:淡褐色 e:良好 f:1/2 g:歪みあり
-181		かわらけ	8.9	6.8	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒極僅かな良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:口唇部一部打ち欠き+油煤痕、灯明皿
-182		かわらけ	(12.5)	(8.0)	3.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多 砂質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
-183		青磁 鎬蓮弁文碗		(4.3)		a:ロクロ b:暗灰白色 黒色粒僅か 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉を厚く施釉 僅かに気孔あり 畳付露胎 e:堅緻 f:体部1/4~高台 g:龍泉窯系碗III-2C類
-184		常滑 片口鉢I類				a:輪積み成形 b:灰色 砂粒・白色粒多・長石多・小石粒 c:灰色 d:口唇部に自然釉 f:口縁部片 g:第6a型式か?
-185		土製品 土鉢	5.3	3.3	2.6	b:微砂・雲母多量・赤色粒・白色粒・海綿骨針 c:赤褐色 e:良好 g:穿孔径φ0.9
-186	第3面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.1)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母多・赤色粒・白色粒・海綿骨針やや多い 泥岩粒多 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
-187		かわらけ	(8.8)	(7.2)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・赤色粒・雲母やや多い、海綿骨針少ない・泥岩粒多・粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:融着物付着
-188		青磁 鎬蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 僅かに黒色粒 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 部分的に失透 e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系II類
-189		白磁 皿				a:ロクロ b:灰白色 僅かに黒色粒 精良緻密土 d:乳白色不透明釉をやや薄く施釉 気孔あり e:堅緻 f:口縁部片 g:内面に篋描き文?
図17-190	第4面 遺構31	かわらけ	13.3	11.9	3.4	a:手づくね・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多 粉質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:焼成前、底裏φ0.8mmの穿孔途中の痕跡
-191		かわらけ	12.1	8.6	2.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕強・内底ナデ強 b:微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒海綿骨針・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:外面・口縁一部煤土融着物付着
-192		渥美 甕				a:輪積み b:灰褐~暗灰色 僅かに黒色粒・白色砂礫 c:暗灰色 d:外面肩部に白濁した灰釉 f:肩部片 g:縦線文の押印文
-193		鉄製品 釘	[6.7]	0.3	0.4	a:断面方形に鑄造 f:先端部僅かに欠損 g:錆の付着激しい
-194	第4面 遺構34	鉄製品 不明鉄製品	[8.0]	0.5	0.3	a:断面方形に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
-195		木製品 箸状木製品	[9.9]	0.7	0.5	g:板目材使用 先端、細く削る
-196		木製品 不明木製品	6.8	2.3	1.2	g:板目材使用 部材か?
-197		須恵器 坏蓋	(11.6)		[2.1]	a:ロクロ 回転ナデ b:灰色 微砂・白色粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:1/8 g:7c後半か? 坏身の可能性あり
-198	第4面 面上	青磁 鎬蓮弁文碗				a:ロクロ b:暗灰色 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 気孔あり e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系碗II-b類
-199	表採	かわらけ	(7.8)	(6.2)	(1.6)	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨針 砂質気味 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
-200		かわらけ	(7.9)	(5.7)	1.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒多・白色粒・海綿骨針多 良土 c:淡褐色 e:良好 f:1/4
-201		かわらけ	13.6	7.9	3.5	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針 良土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形

表3 遺物破片数表

遺物 遺構	かわらけ				青磁				白磁				青白磁		
	口口		手づくね		劃花文 碗・皿	蓮弁文 碗	無文 碗・皿類	鉢類	口兀 碗・皿	碗・皿類	壺類	皿	合子	梅瓶・ 梅瓶蓋	不明
	糸大	糸小	内折	手大											
表土・採集	29	7					1								
1面上	86	33				7	4	1						1(蓋)	
1面遺構	50	11				2	2		1					1	
1面構成土	82	29				3	3	3	2		1			3	
2面上	54	12				1							1	1	
2面遺構	241	41		5	4	6	3			1				1	2
2面構成土	56	20		2		3	2		2	1(皿)	1				
3面上	36	4				1									
3面遺構	145	62	1	6	1	1(皿)	1		1(皿)					2	
3面構成土	43	9		9		1			1(皿)						
4面上	1	1				1									
4面遺構	13	2		3	4		1								
4面構成土	1	1													
最終トレンチ															
合計	837	232	1	23	11	4	26	14	6	3	3	3	1	9	2
%	36.97	10.25	0.04	1.02	0.49	0.18	1.15	0.62	0.27	0.13	0.13	0.13	0.04	0.40	0.09

遺物 遺構	船載陶器				瀬戸				瀬戸美濃?			渥美					
	天目 茶碗	二彩? 盤	褐釉 壺	天目 茶碗	平碗	折縁 深皿	卸皿	緑釉 小皿	入子	壺	瓶子	筒状容器		甕	壺	片口碗	
												蓋	身				
表土・採集																	
1面上			1	1	2	1	1	3	1	6							
1面遺構						2	1										
1面構成土						2				3							
2面上		1					2				1						
2面遺構	1			1	1	1	1										
2面構成土																	
3面上				1													
3面遺構																	
3面構成土											1		2	1		1	
4面上																	
4面遺構														1			
4面構成土																	
最終トレンチ																	
合計	1	1	1	3	3	6	5	3	1	10	2	2	2	2	1	1	
%	0.04	0.04	0.04	0.13	0.13	0.27	0.22	0.13	0.04	0.44	0.09	0.09	0.09	0.09	0.04	0.04	0.04

表3 遺物破片数表

遺物 遺構	常滑										土器・土製品					
	甕	壺	片口鉢		片口碗	転用品 (すり常)	尾張型 山茶碗	不明 常滑 模倣?	備前 擂鉢	東播系 鉢	小壺	円盤状	土錘	伊勢系 土鍋	瓦器・瓦質	
			I類	II類											火鉢	平瓦
表土・採集	8		1												1	
1面面上	69	1	12	11				1	2						8	
1面遺構	29	1	6	2	1	1				1				3		
1面構成土	52		8	15	4	1					1			6		
2面上	20		4			1										
2面遺構	49	20	10	5			1	2			1			6	2	
2面構成土	35	1	8	1										3		
3面面上	15		3									1				
3面遺構	85	3	16	8	2	1								2	5	
3面構成土	18		2													
4面面上																
4面遺構	2					1										
4面構成土						1										
最終トレンチ																
合計	382	26	70	42	2	7	6	3	2	2	1	2	1	4	32	2
%	16.87	1.15	3.09	1.86	0.09	0.31	0.27	0.13	0.09	0.04	0.04	0.09	0.04	0.18	1.41	0.09

遺物 遺構	瓦器	金属製品					石製品				自然遺物					骨製品	
		碗	鉄釘	刀子 (小刀)	鉄滓	不明	滑石鍋	砥石	硯 転用品	碁石	玉石	鳴滝石	滑石	貝	獸骨	獸骨 加工骨	
																	鉄釘
表土・採集																	
1面面上		1		5			2	1	1	31	1			3	11		
1面遺構	1	3	1			1				9				2	4		
1面構成土		2		1			1			17				3	3		
2面上		2		1			1			2				1	2		
2面遺構		8			1					83				3	9	1	
2面構成土		2								4				8	5	1	
3面面上										2		1		2	3		
3面遺構	1	2								6				63	8		
3面構成土						1				1				29	2		
4面面上																	
4面遺構		1			1									5	2		
4面構成土																	
最終トレンチ																	
合計	2	21	1	7	2	2	4	1	2	159	1	1	1	133	54	2	
%	0.09	0.93	0.04	0.31	0.09	0.09	0.18	0.04	0.09	7.02	0.04	0.04	0.04	5.87	2.39	0.09	

表3 遺物破片数表

遺物 遺構	漆器		木製品										近世			古代		
	碗・皿	草履芯	下駄	筥	筥状	椀 樹皮	建築 部材	不明	壺	器種 不明	甕	土師器 坏	壺・甕	須惠器 坏蓋	不明			
表土・採集				2														
1面面上								4										
1面遺構												1						
1面構成土															1			
2面上																		
2面遺構									1	1								
2面構成土	1											1						
3面面上																		
3面遺構	1	4	2	7	1	1	4	7					1					
3面構成土												4						
4面面上																		
4面遺構	2				1			1										
4面構成土																		
最終トレンチ																		
合計	4	4	2	9	2	1	4	12	1	3	13	4	2	2	1			
%	0.18	0.18	0.09	0.40	0.09	0.04	0.18	0.53	0.04	0.13	0.57	0.18	0.09	0.09	0.04			

遺物 遺構	合計	%
表土・採集	76	3.36
1面面上	309	13.65
1面遺構	135	5.96
1面構成土	244	10.78
2面上	107	4.73
2面遺構	517	22.84
2面構成土	158	6.98
3面面上	75	3.31
3面遺構	465	20.54
3面構成土	122	5.39
4面面上	3	0.13
4面遺構	44	1.94
4面構成土	3	0.13
最終トレンチ	6	0.27
合計	2264	100.00
%	100.00	



△1. 第1面全景(南から)



△2. 第2面全景(南から)



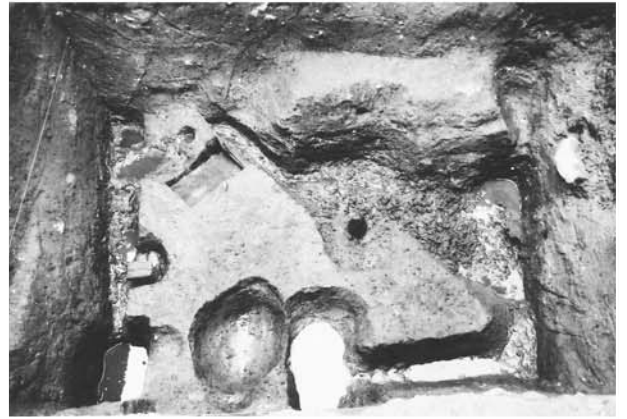
△3. 第2面全景(西から)



△4. 第3面全景(南から)



△5. 第3面全景(北から)



△6. 第3～4面全景(南から)



△7. 第4面全景(南から)



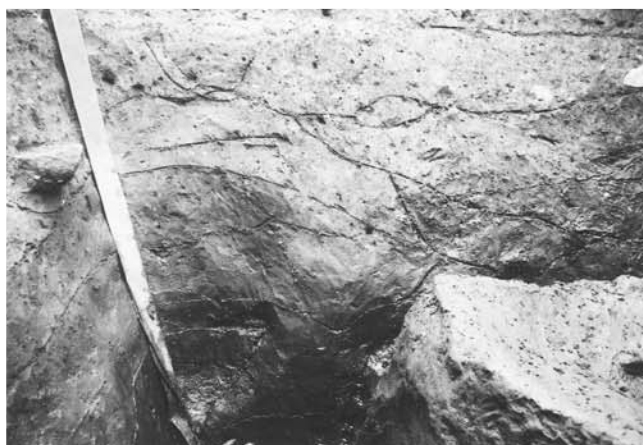
△8. 最終トレンチ(北から)



△ 1. 調査区西壁①(東から)



△ 2. 調査区西壁②(東から)



△ 3. 調査区西壁③(東から)



△ 4. 調査区西壁④(東から)



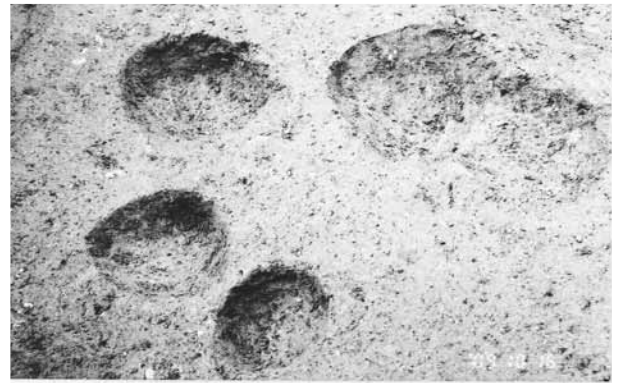
△ 5. 調査区南壁①(北から)



△ 6. 調査区南壁②(北から)



△1. 第1面遺構 22(東から)



△2. 第1面遺構 3~7(南から)



△3. 第2面遺構 8(北から)



△4. 第2面遺構 15.16(西から)



△5. 第3面遺構 21(北から)



△6. 第3面遺構 24(南から)



△7. 第3面遺構 29(東から)



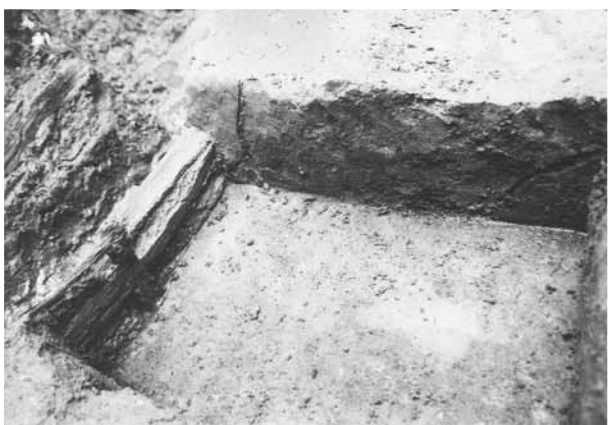
△7. 第3面遺構 33(南から)



△1. 第3面遺構 22(東から)



△2. 第3面遺構 22 側板・杭(北から)



△3. 第3面遺構 22(南から)



△4. 第3面遺構 22(北から)



△5. 第3面遺構 22(東から)



△6. 第4面遺構 31 下駄(東から)

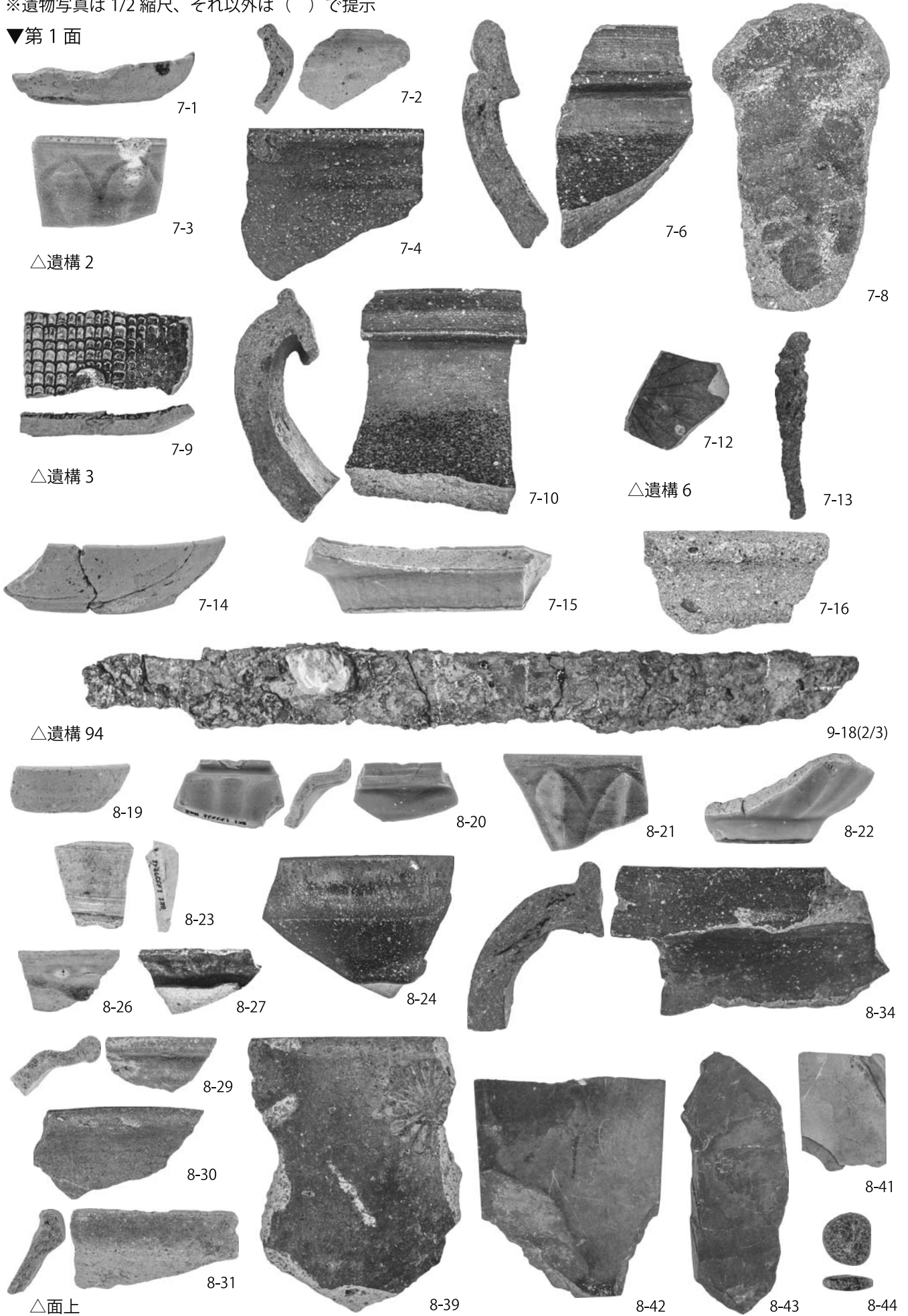


△7. 第4面遺構 34(西から)

図版 5

※遺物写真は 1/2 縮尺、それ以外は () で提示

▼第 1 面



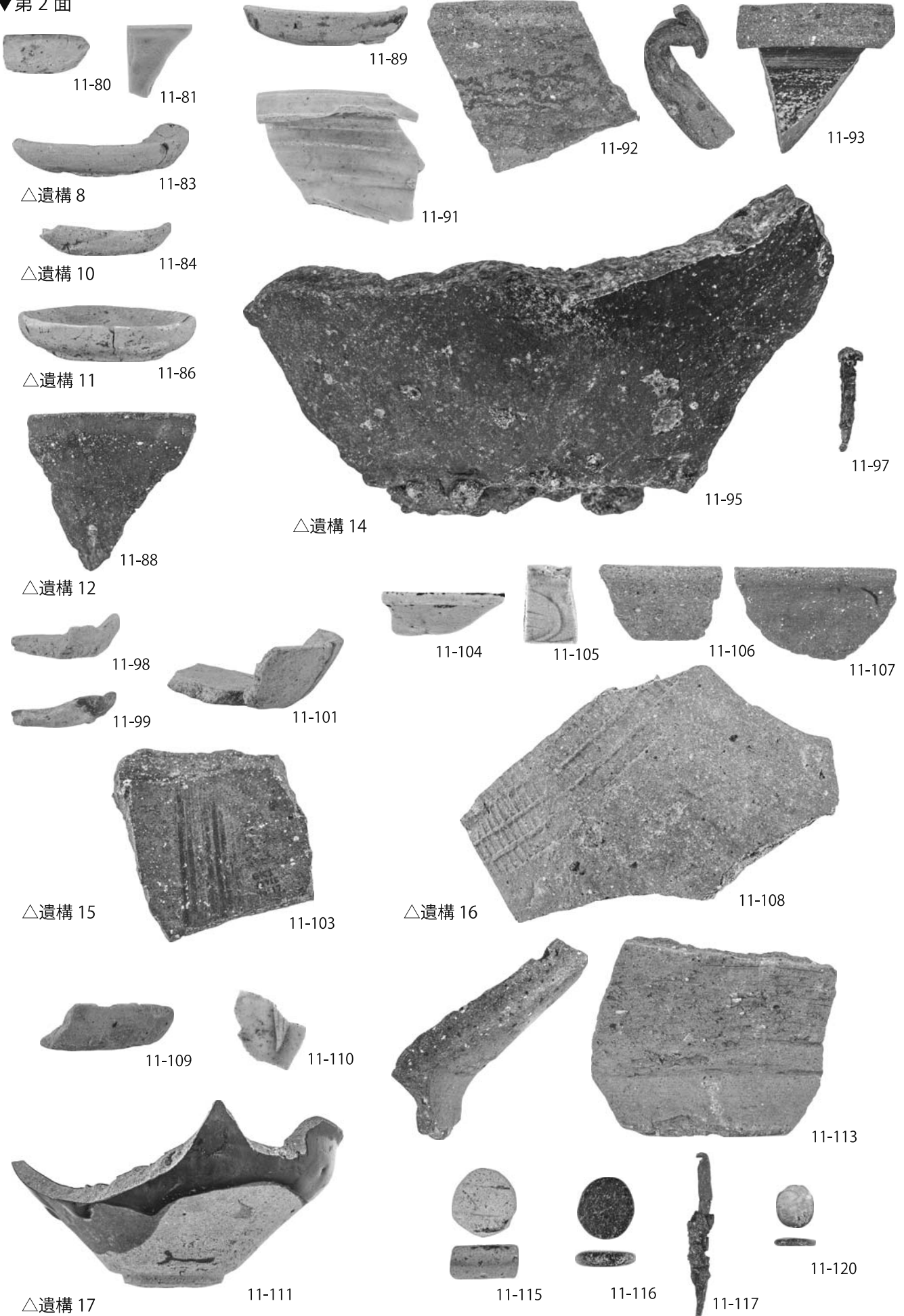
▼第 1 面



△構成土

図版 7

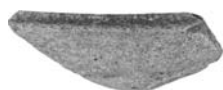
▼第 2 面



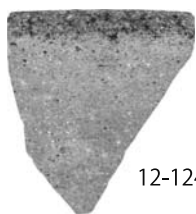
▼第 2 面



12-121



12-122



12-124



12-125

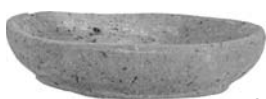


12-127

△面上



12-128



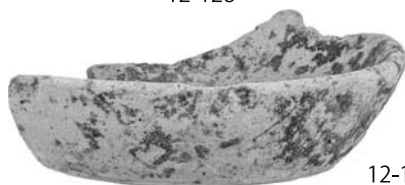
12-130



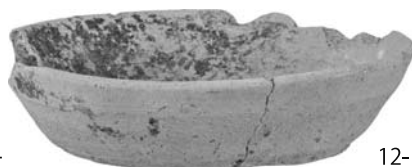
12-133



12-134



12-131



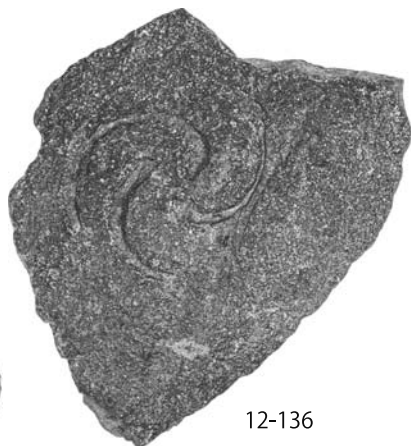
12-132



12-137

△構成土

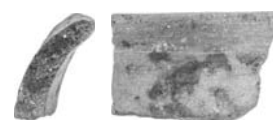
▼第 3 面



12-136



12-139



12-145



14-142



14-143



14-144



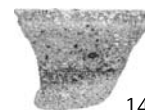
14-145



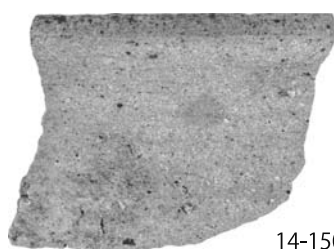
14-146



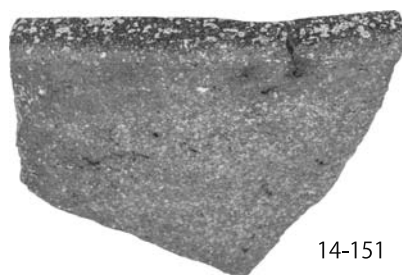
14-147



14-148



14-150

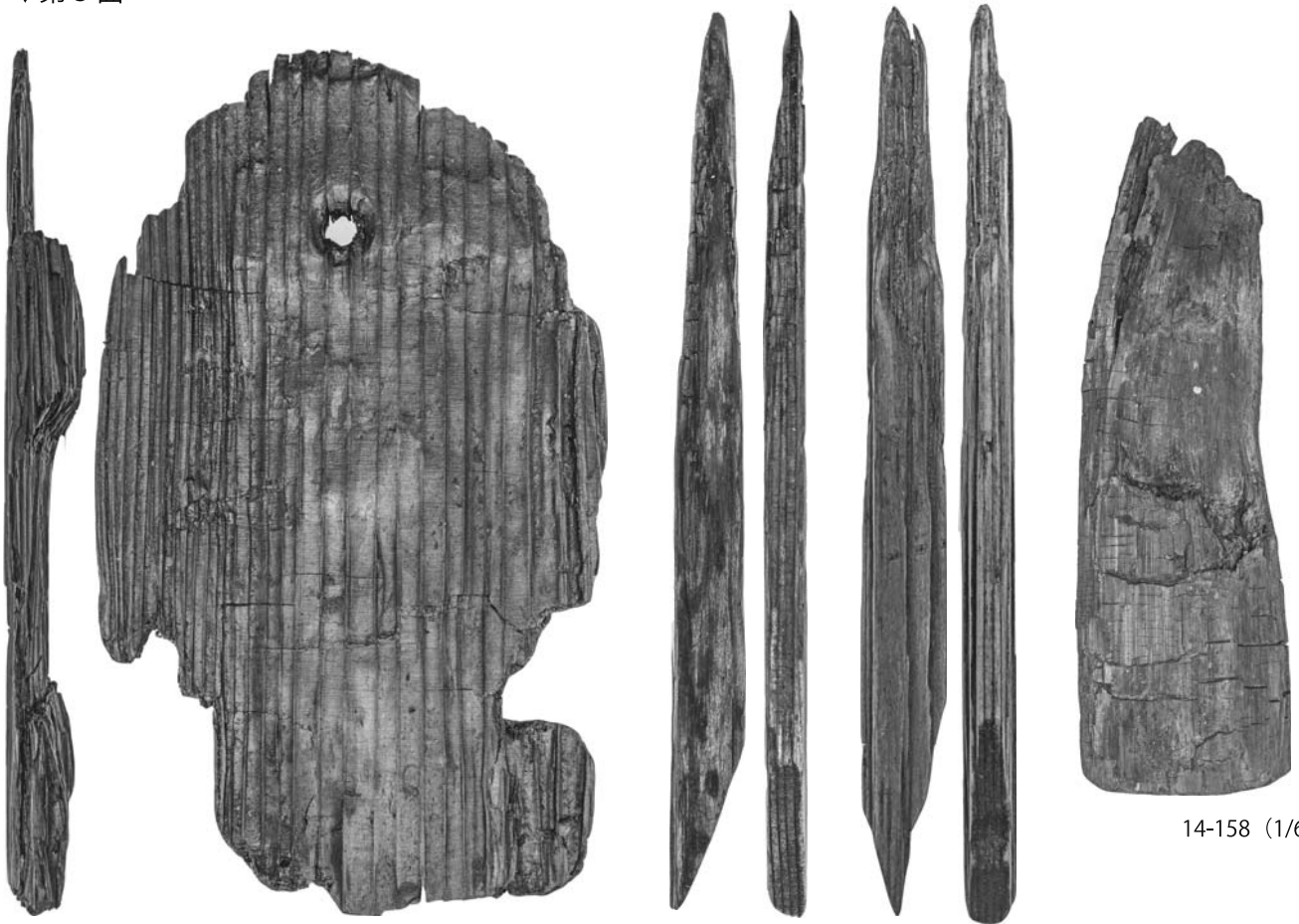


14-151



14-153

△遺構 22



14-154

14-155

14-157

14-158 (1/6)

△遺構 22



15-159

15-160

15-162

15-163

15-168

15-170

15-171



15-164

15-166



15-172

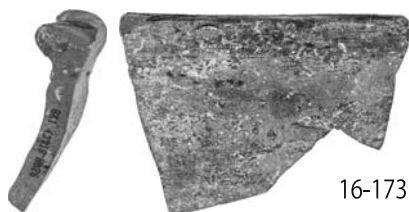
△遺構 25

▼第 3 面



16-172

△遺構 18



16-173



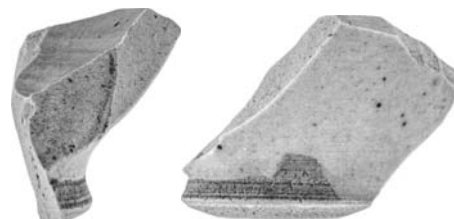
16-176

△遺構 19



16-178

△遺構 21



16-179

△遺構 26



16-180



16-181



16-182

△面上



16-183



16-185



16-186

△構成土



16-187



16-188

▼第 4 面



17-190



17-191

△遺構 31



17-192



17-193



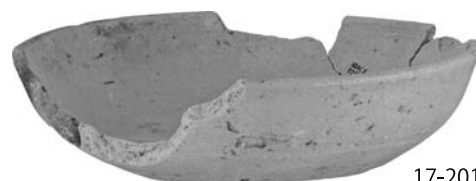
17-197

△遺構 34



17-198

△面上



17-201

△表採

川越重頼邸 (No.270)

浄明寺五丁目 423 番 1 外地点

例言

1. 本書は鎌倉市浄明寺五丁目 423 番 1 外地点における個人住宅建設に伴う発掘調査報告書である。調査面積は 45 m²である。

2. 調査は平成 22 年 7 月 1 日から同年 8 月 26 日にかけて実施した。

3. 調査体制は以下の通りである。

主任調査員 伊丹まどか

調査員 現地：梶岡ケイト・渡邊美佐子

測量：小野夏菜・須佐仁和

整理作業：岩崎卓治・清水由加里・菅野知子・須佐直子・鍋島昌代

渡邊美佐子

調査作業員 清水政利・鈴木啓之・吉沢巧・渡辺輝彦

4. 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測 岩崎卓治・須佐直子・鍋島昌代

遺構図版作成 清水由加里

遺物図版作成 清水由加里

グリッド図作成 清水由加里

遺物観察表 清水由加里・渡邊美佐子

破片遺物集計表 清水由加里

遺構計測表 清水由加里

遺構写真 伊丹まどか

遺物写真 須佐仁和

写真図版作成 吉田桂子

執筆・編集 伊丹まどか・渡邊美佐子

5. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。

6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図：1/50 個別遺構図：1/40 遺物実測図：1/3（* 銭は原寸）

なお各挿図にはスケールを表示してある。

7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	375
1. 歴史的環境	
2. 遺跡位置とグリッド配置	
3. 堆積土層	
第二章 発見された遺構と遺物	381
第1節 第1a面の遺構と遺物	
第2節 第1b面の遺構と遺物	
第3節 第2面の遺構と遺物	
第4節 第3面の遺構と遺物	
第三章 まとめ	400
(1) 検出した遺構と遺物	
(2) まとめ	

表目次

遺構計測表	402
遺物観察表	404
遺物破片数表	414

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	376	図11 第1b面・出土遺物	390
図2 遺跡位置とグリッド配置	379	図12 第1a面・1b面・構成土出土遺物	392
図3 堆積土層図	380	図13 第2面・全測図	394
図4 第1a面・全測図	381	図14 第2面・個別遺構・面上出土遺物	395
図5 第1a面・個別遺構・出土遺物	383	図15 第3面全測図	396
図6 第1a面・面上（遺構24）出土遺物（1）	384	図16 第3面・個別遺構・構成土出土遺物	397
図7 第1a面・面上（遺構24）出土遺物（2）	385	図17 表土採集遺物（1）	398
図8 第1a面・面上出土遺物	386	図18 表土採集遺物（2）	399
図9 第1b面・全測図	388		
図10 第1b面・個別遺構	389		

図版目次

図版1 I区・II区第1a面 / 遺構120・121・130	415	図版5 I区東壁堆積土層	419
図版2 I区・II区第1b面	416	図版6 II区西壁・南壁堆積土層	420
図版3 I区・II区第2面 / 遺構212	417	図版7 I区南壁堆積土層・II区北壁堆積土層	
図版4 I区・II区第3面		・最終確認トレンチ	421
/I区・II区最終確認トレンチ	418		

図版目次

図版8 第1a面遺構(6・116・125・127・128・129 ・130・132・24)出土遺物 422	図版11 第1 b 面遺構(155・156・157・159・161・163・ 167)遺物/第2面面上出土遺物 425
図版9 第1a面遺構24出土遺物 423	図版12 第3面構成土出土遺物/表土採集遺物 . . . 426
図版10 第1 a 面面上出土遺物/第1 b 面遺構(32・33 ・34・51・58・139・147・153)出土遺物 . . 424	図版13 高師小僧 427

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 歴史的環境（図1）

本調査地は鎌倉市街地の東、浄明寺五丁目 423 番 1 外地点に位置する。調査地の北東にあたる朝比奈切通し辺りの谷を水源とし鎌倉市街地を南北に走り相模湾に流れ出る滑川と、六浦道（現県道金沢鎌倉線）と呼ぶ中世鎌倉の幹線道路が調査地北側を東西に走っている。六浦道は北条泰時によって仁治元年（1240）に道路の敷設が決められ、翌年に着工されたことが『吾妻鏡』に記されており、六浦道が政治的に大きな意味を持っていたと考えられる。また、運送路としても大きな役割を担っており、武蔵国久良岐郡六浦津（現横浜市金沢区）で陸揚げされた品物や、六浦付近で生産される塩等の商品を、朝比奈切通しを超えて、十二所・浄明寺・大倉辻・大倉幕府の南側・筋違橋を経由して鎌倉市中に運んでいた。筋違橋・大倉辻は鎌倉時代中期に幕府によって商業地域として指定されている。また、六浦津は鎌倉の外港として機能し房総半島方面への交通路としての役割もあった。調査地点周辺から北東に約 1100m 行った峠村（現横浜市金沢区）から朝比奈切通しを超えて鎌倉に入った辺りには小字関上があり、かつて関所が置かれたことが推察される。調査地と六浦道・滑川を挟んだ泉水橋北側は公方屋敷の字名が残り、足利尊氏の旧宅で、代々の関東公方が住した屋敷跡があったと考えられている。関東公方とは関東の重要性を考えて室町幕府が設置した鎌倉府の首長で足利基氏・氏満・満兼・持氏・成氏の五代を言い、鎌倉御所・鎌倉公方・関東御所・鎌倉殿とも呼ばれた。調査地辺りが境界の地として重要視されたことがわかる。真偽は定かではないが調査地周辺には梶原景時や大江広元の屋敷跡と伝承の残る場所もあり、室町期までは武家屋敷が立ち並ぶ地域であった。また、調査地周辺には廃寺となった寺院址を含め多くの仏閣がある。北東 650m 辺りに位置する光触寺は時宗、岩蔵山と号し、開山は一遍と伝わるが、位牌等では弘安元年（1278）作阿の開祖といわれる。本尊の阿弥陀如来は頬焼阿弥陀として知られ、寺蔵の頬焼阿弥陀縁起絵巻（国指定重要文化財）では元は比企ヶ谷岩蔵寺の本尊といい、奥書に文和四年（1355）には十二所道場があったことが記されている。寺伝では岩蔵寺は当寺の前身で真言宗であったという。寺内には六浦の塩売りが商いの初穂として塩を供えると帰りには塩が無くなっていたとも、地蔵が光を放ったときに塩売りが塩を嘗めさせたところ光が止んだ等の伝承が残る塩嘗地蔵と呼ばれる石造地蔵像が地蔵堂に安置されている。同じく北東 300m 辺りに位置する明王院は真言宗御室派。通称は五大堂。嘉禎元年（1235）藤原頼経創建の寺で、初代の別当は元鶴岡八幡宮別当定豪。当院の別当職は鶴岡八幡宮・永福寺・勝長寿院の別当と並ぶ地位にあり、大きな力を有していた。その明王院の東側一帯にあったとされるのが廃寺となった大倉御堂とも呼ばれた大慈寺である。宗旨未詳。源実朝が君恩父徳に報いるために開創した寺で、『吾妻鏡』によると、建暦二年（1212）四月十八日に立柱・上棟し、七月に惣門を建立し、建保二年（1214）七月二十七日に開堂供養を行っている。導師は明庵栄西、実朝はじめ政子も臨席している。正嘉元年（1257）に大規模な修理を御行ったことが『吾妻鏡』に記されており、境内域は河あり山あり、水木ともにその便を得、地形の勝絶、おそらくは仙室というべき勝地であり、加えて境内を川が流れていたらしいなど、美しく整備された広い寺域の様子が記されている。大慈寺と滑川を挟んだ南側、光触寺の南に広がる谷戸は明石谷とよばれ、谷上の山を明石山という。一般的には現兵庫県播磨海岸の地名を模して名付けられたとみられ、当谷一帯が景勝の地であったと思われる。その他の廃寺には能満寺・昌楽寺・月輪寺・一心院がある。調査地の東の谷には約 20 穴からなる東泉水やぐらと呼ばれるやぐら群が残っている。その内 2 穴に壁刻が遺存し、1 穴は奥壁に三基、左壁に一基の五輪塔、

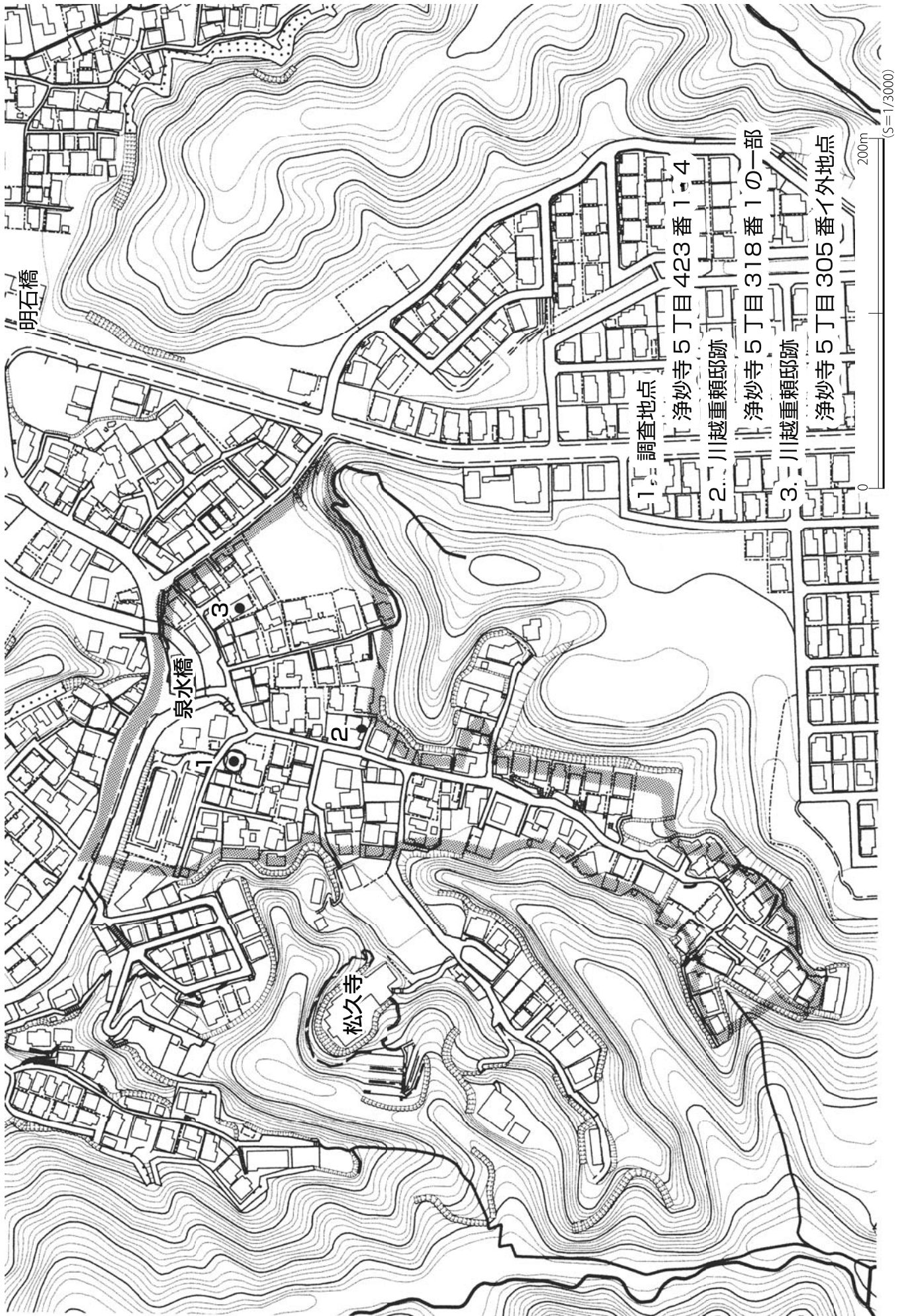


図1 調査地点と周辺の遺跡

右壁に層塔が半肉彫されている。層塔の彫刻は他のやぐらに例を見ない珍しいものである。他の一穴には五輪塔とともに奥壁に宝篋印塔が刻まれている。覚園寺百八やぐら群中に宝篋印塔の壁刻を見るが遺存状況は悪く、当地のやぐらは塔の細部や稜が失われておらず貴重なものとなっている。南の谷にある松久寺は曹洞宗。長盛山松久禅寺と号し、東京都港区芝白金より昭和四十一年現在地に移転した寺である。遺跡名の由来となる「河越重頼」の祖父重隆は武蔵国入間郡河肥荘の荘司として勢力を持ち。重頼の妻は頼家の乳母であり、娘は頼朝の媒介により義経の妻となり、重頼自身は頼朝挙兵以来信任を厚くし、数々の戦勝もたて伊勢国香取五ヶ郷の地頭職に命ぜられ頼朝に重用されていたが、時が過ぎ頼朝と義経が不和となると、義経との縁が逆に災いをもたらし、文治元年（1185）所領は没収され、誅されている。調査地周辺は鎌倉・室町期に鎌倉の境界として重要視され、武家屋敷・仏閣の並ぶ一帯であったが、近世になると農村の様相を見せる地域となった。

2. 遺跡位置とグリッド配置（図2）

調査開始にあたり調査区に任意の方眼軸を設け、基準点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基準点Aと、見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系（座標 AREA 9）の国土座標値を使用しているため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版 TKY2JGD」で世界測地系IX形に変換し、図2に表記した。

3. 堆積土層（図3）

本調査では4枚の生活面を発見した。調査前の現地表海拔高は19.60mで、ほぼ平坦な造成が行われていた。調査区南壁・東壁で観察した土層堆積を用いて調査区の堆積状況を上層より説明する。

最上層は調査前まで建っていた家屋の造成土である。重機によって造成土を約40cm掘り下げたところ、調査区南側で広範囲にかわらけが撒布している状態を発見し、第1面として遺構の検出を行った。第1面は現代埋土によって攪乱され、削平を受けていたために複数の生活面上の遺構を同一面上で検出し、重複が多いため第1a面・第1b面と分けて報告している。第1a面構成土は明茶褐色弱粘質土。泥岩・泥岩粒を多く含む地業層であるが、現代埋土により削平を受け平坦な地業面を検出することはできなかった。第1a面検出海拔高は19.40m～19.10m。第1b面構成土は茶褐色弱粘質土。泥岩・泥岩粒を多く含み、炭化物・褐色有機質土を含み堅く締まる。第1b面検出海拔高は19.20m。第1面検出後から第2面検出までは約50cmの厚さで泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土・褐鉄を含み、多くの高師小僧を発見した暗茶褐色弱粘質土が厚く堆積していた。第2面は、上層の堆積土同様に鉄分を含む堅く締まった地業層であった。第2面構成土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐色有機質土と褐鉄を多く含み固く締まる。第2面検出海拔高は約18.60mである。第3面は第1面・第2面に比べて遺構の検出数が減少する。第3面構成土は茶褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・泥岩と第2面同様に褐鉄を多く含んだ堅く締まった地業層である。第3面構成土からも高師小僧を多く発見している。第3面検出海拔高は18.40mである。

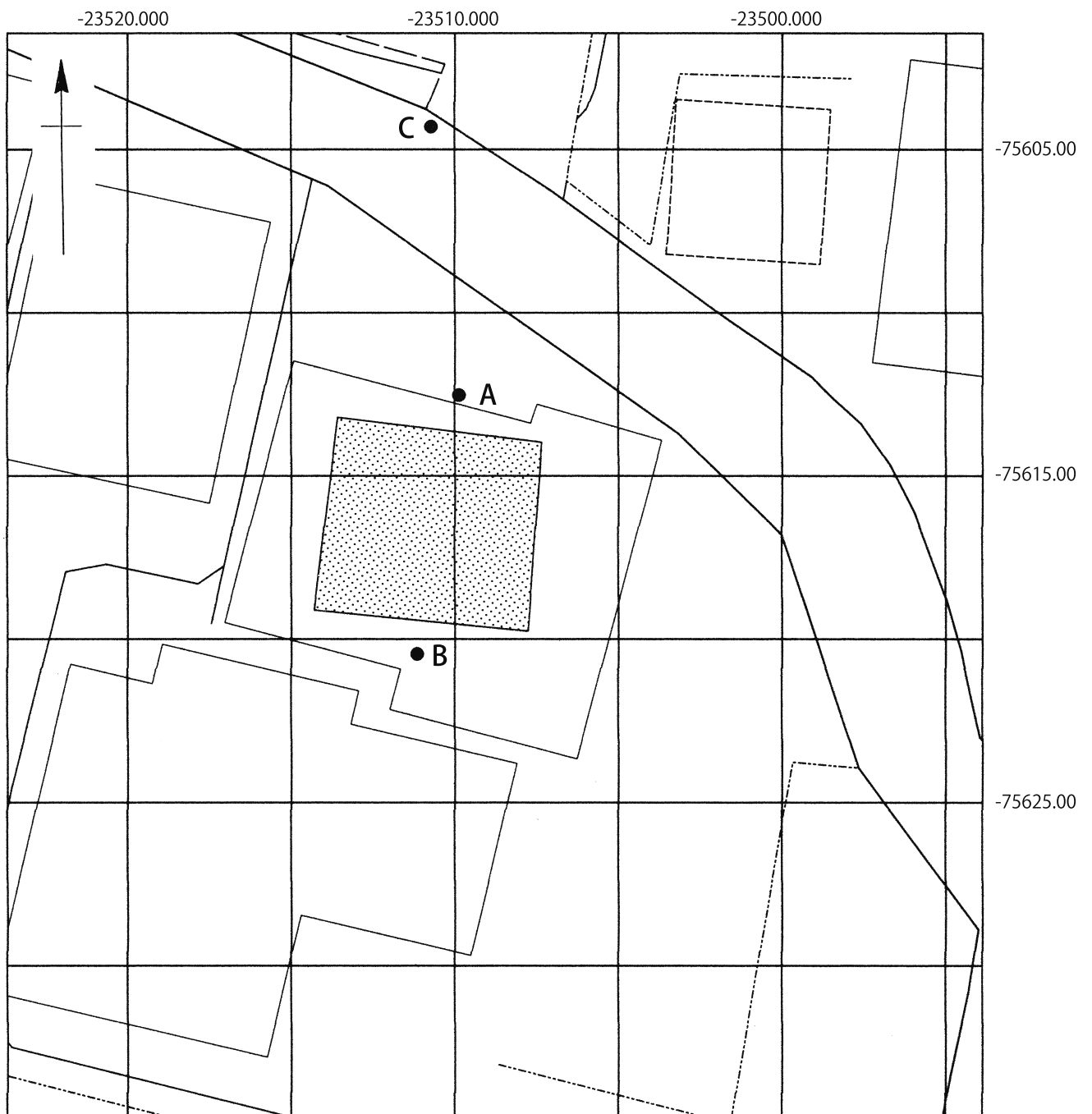
<参考文献>

- ・『日本歴史大系 14 巻』 「神奈川県の名」 平凡社 1984 年
- ・『鎌倉市史 総説編』 高柳光寿 吉川弘文館 1959 年

- ・『鎌倉市史 考古編』 赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・『鎌倉市史 社寺編』 高柳光寿・佐藤栄智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成4年 白井永二
- ・『廃寺事典』 有隣堂 貫達人・川副竹胤 1980年

<調査区東壁・南壁 土層注記>

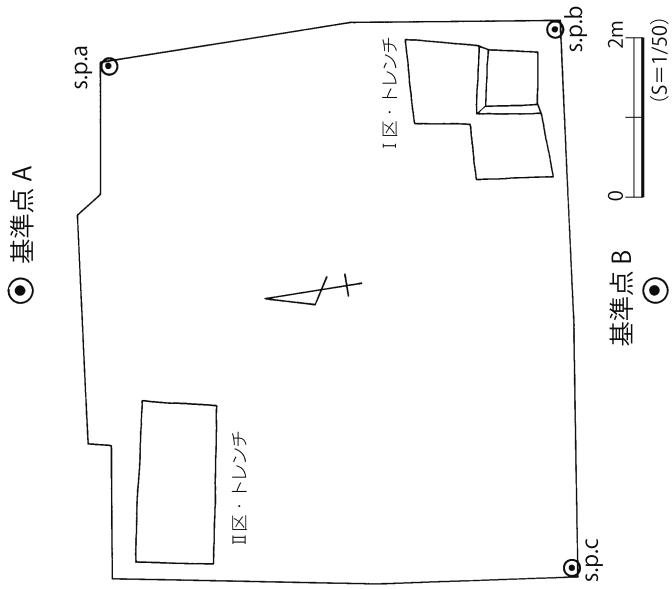
層位No.	土色	注記
1	暗褐色弱粘質土	玉石・ガラス・タイル・泥岩・泥岩粒 現代埋土
2	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色有機質土 中世遺物包含層
3	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物 凝灰質砂岩塊 褐鉄 第1a面構成土
4	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒多・炭化物・褐鉄
5	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色有機質土 褐鉄 第1b面構成土
6	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・褐鉄多
7	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・褐鉄多
8	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・褐鉄多
9	暗茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄
10	暗茶褐色弱粘質土	褐色粘質土・褐鉄
11	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多
12	暗茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物多
13	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色有機質土
14	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多・褐鉄
15	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多・褐鉄
16	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多・褐鉄
17	暗褐色弱粘質土	泥岩粒多・炭化物多・褐鉄
18	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒多・炭化物多・褐鉄
19	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色有機質土・褐鉄多・高師小僧多
20	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・暗褐色粘土・褐鉄多 19層に近似
21	灰褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・灰褐色砂質土多
22	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・暗褐色粘土・褐鉄
23	明茶褐色砂質土	暗褐色粘土
24	茶褐色粘質土	炭化物・褐鉄多 第2面構成土
25	暗褐色粘質土	炭化物・褐色有機質土多・褐鉄多 第2面構成土
26	茶褐色粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・褐鉄多 第3面構成土
27	黒褐色粘質土	炭化物・褐色砂質土
28	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多
29	灰茶褐色弱粘質土	褐色砂質土・炭化物・褐鉄
30	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐鉄多



世界測地系

	X	Y
A	-75612.530	-23509.870
B	-75620.458	-23511.159
C	-75604.307	-23510.724

図2 遺跡位置とグリッド配置図



<最終トレンチ位置図>
<セクションポイント位置図>

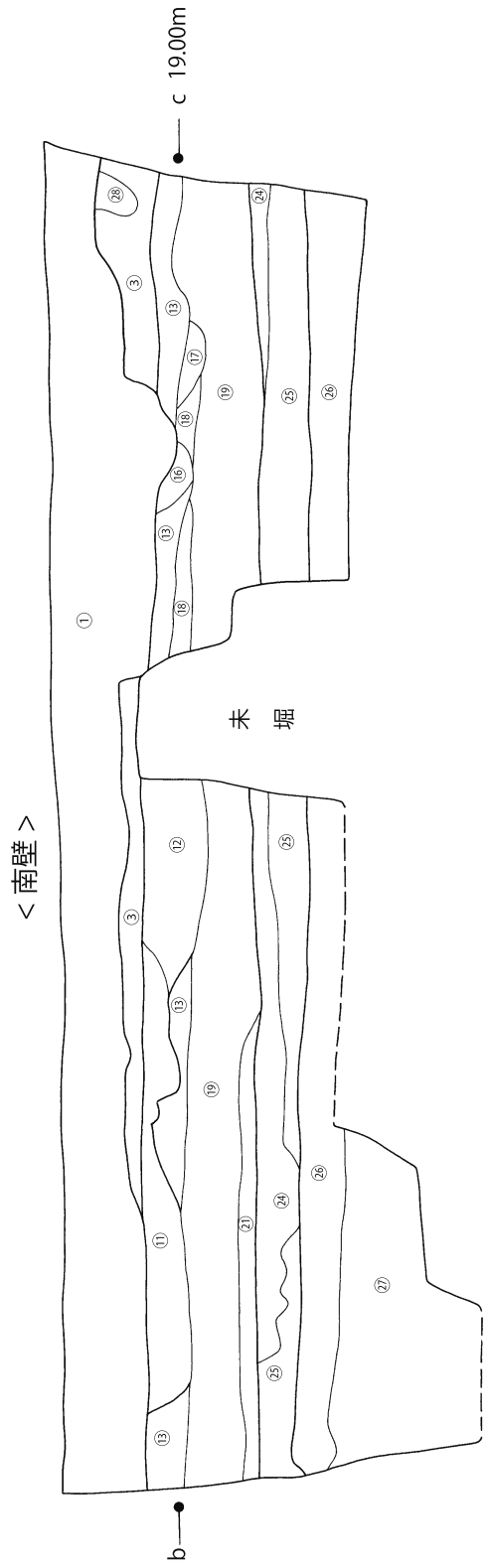
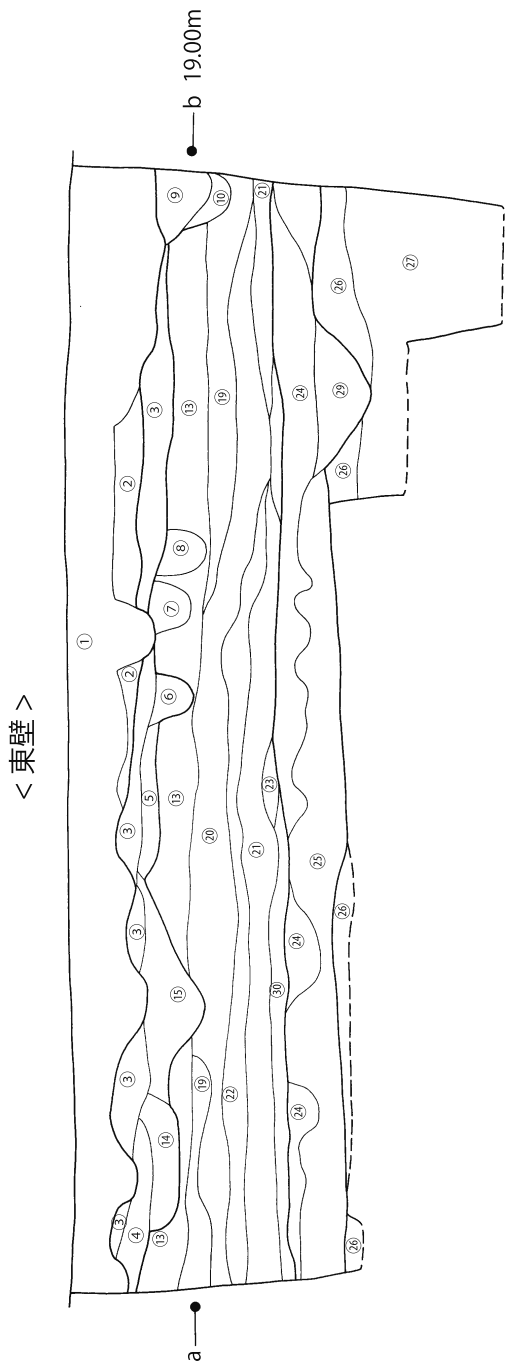


図3 調査区壁堆積土層図

第二章 発見された遺構と遺物

重機によって表土を約 40 cm 取り除き、調査区南側で広範囲にかわらけが撒布している状況を確認し、第 1 面として調査を開始した。第 1 面は現代埋土による削平・攪乱の影響を受け、遺構の重複が激しいため 2 枚の生活面に分けて報告している。第 1 面以下の生活面は狭い調査区内で廃土の処理を行うために、調査区を分割して調査を行った。第 1 面の遺構を確認した堆積層上層に一部ではあるが中世遺物包含層を調査区壁で確認しているが遺構は確認できなかった。本報告では第 1a 面・第 1b 面・第 2 面・第 3 面の 4 枚の生活面を報告している。以下、層位毎に発見した順に遺構・遺物の説明を加えていく。また、遺構No.は調査時に作業を簡便に進めるために付しており遺構の新旧を示すものではない。個別に図示していない遺構は全測図で形状を、遺構計測表で規模を参考にさせていただきたい。実測遺物は観察表に報告し本文中では詳細を省いている。

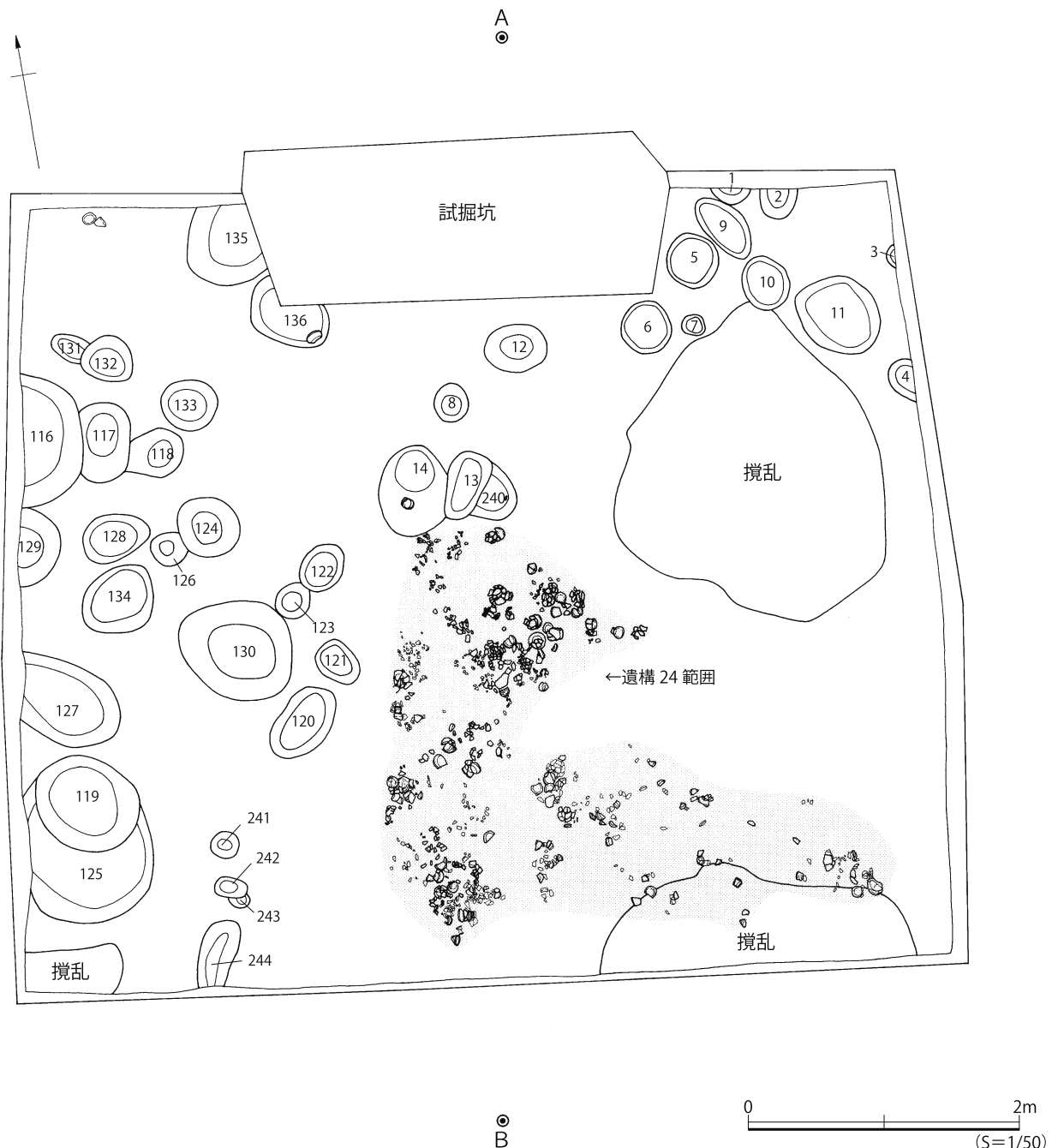


図 4 第 1a 面全測図

第1節 第1a面の遺構と遺物(図5～図8)

第1a面は明茶褐色弱粘質土上で遺構を検出した。調査区東側は現代埋土によって大きく攪乱・削平を受けていたが、南側でかわらけ廃棄が広がる様子を確認できた。検出した遺構は北側・西側に偏って発見されており、東側・南側は空闲地だった様子である。第1a面は遺構覆土の観察から2時期の遺構に分かれると考えている。発見した遺構は土坑11基・ピット29穴・かわらけ廃棄遺構である。遺構検出海拔高は19.40～19.10mである。

・遺構6(図5)

円形を呈するピットである。覆土は茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。

・出土遺物(図5)

1・2はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構14(図5)

不正円形を呈する土坑である。遺構13に切られる。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒を含む。

・出土遺物(図5)

3はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

・遺構116(図5)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。遺構117を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物多・泥岩粒を含む。

・出土遺物(図5)

4・5はかわらけ。6は土器質火鉢。7は瓦・平瓦。その他に常滑甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

・遺構125(図5)

楕円形を呈する土坑である。遺構119に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩塊を含む。遺構119に切られる。

・出土遺物(図5)

8・9はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

・遺構127(図5)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物(図5)

10は常滑片口鉢Ⅱ類。その他にかわらけが破片で出土している。

・遺構128(図5)

不正円形を呈するピットである。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒多・炭化物多を含む

・出土遺物(図5)

11・12はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構129(図5)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒多・炭化物・泥岩塊を含む。

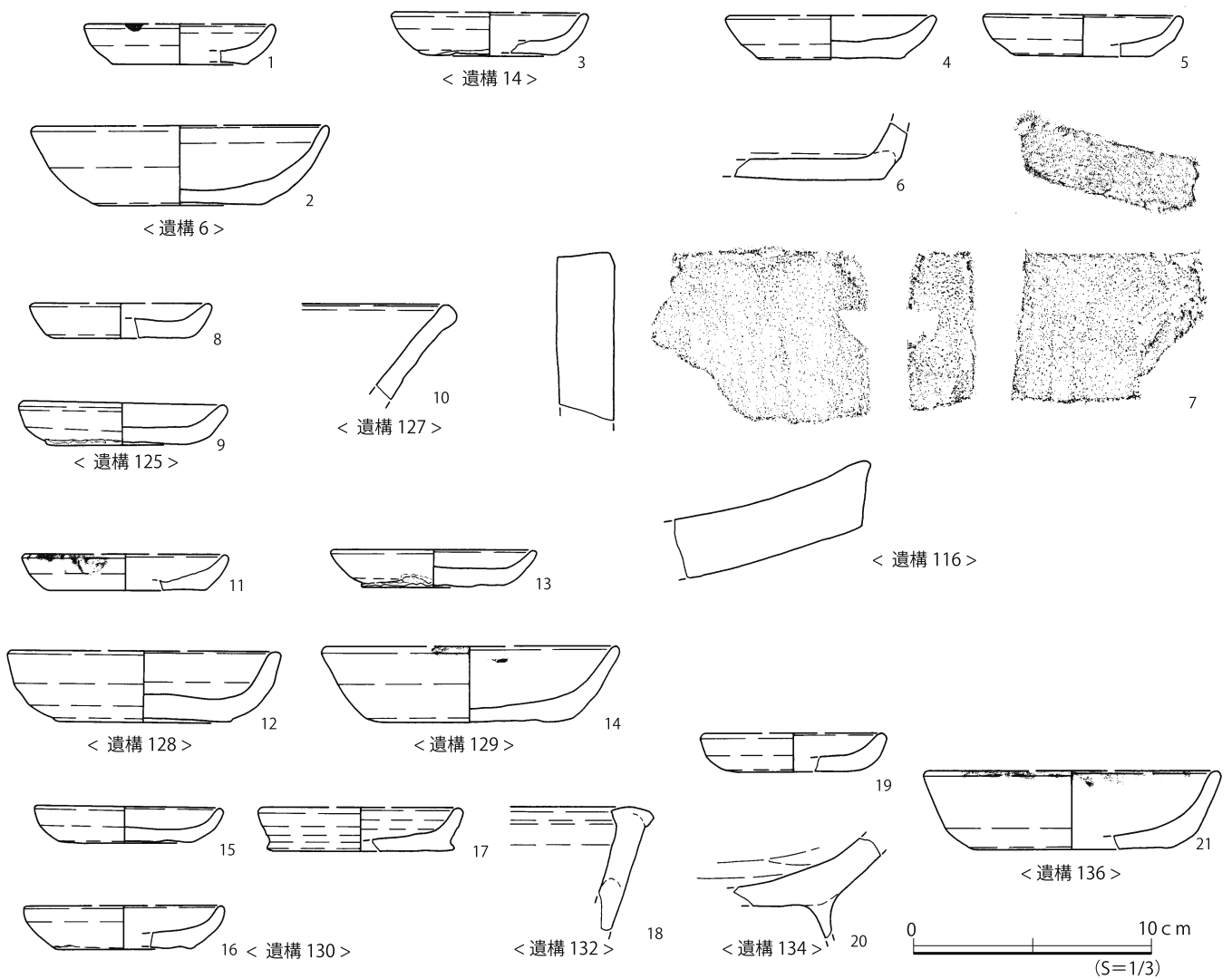
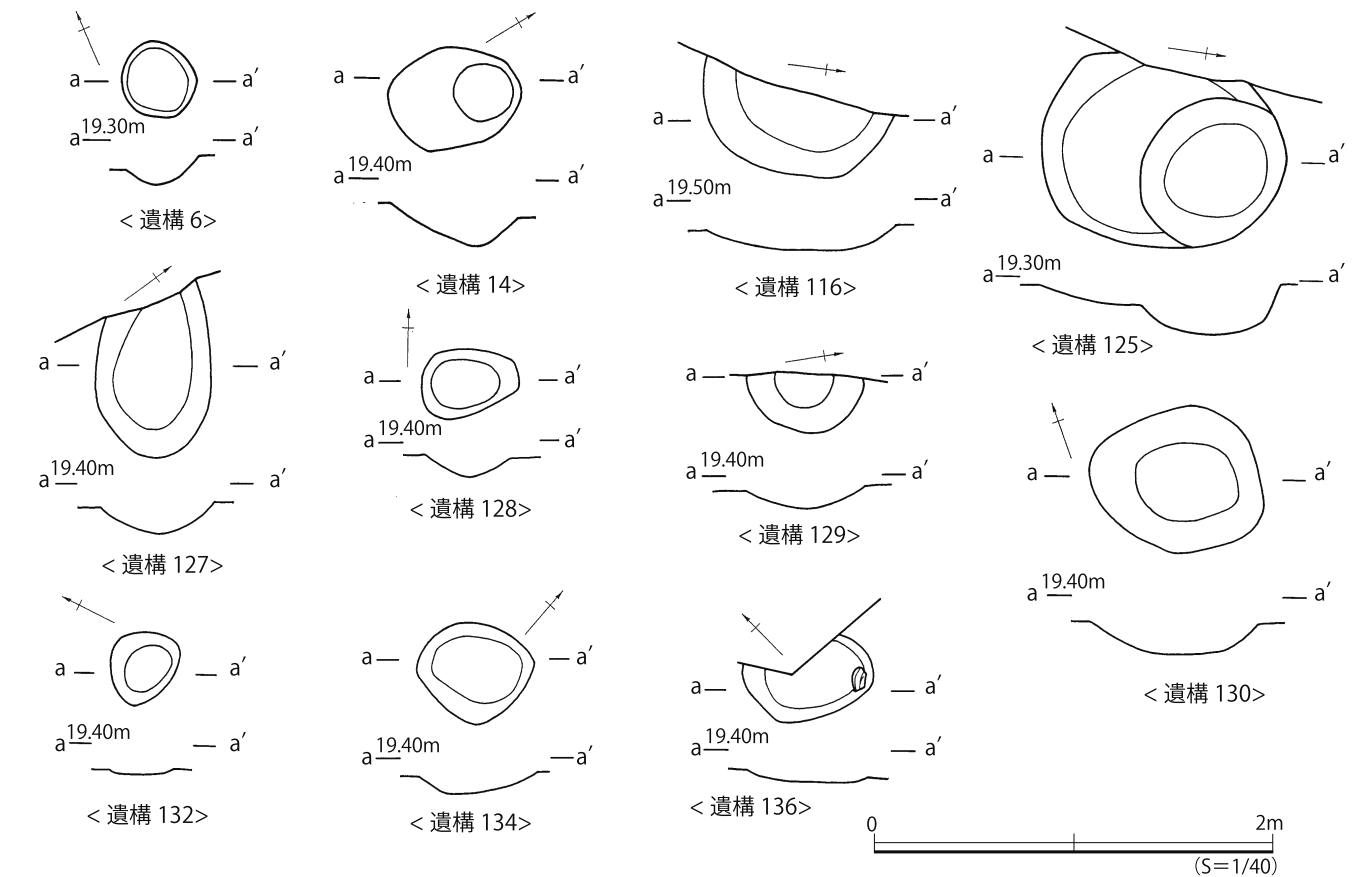


图5 第1a面个别遺構・出土遺物

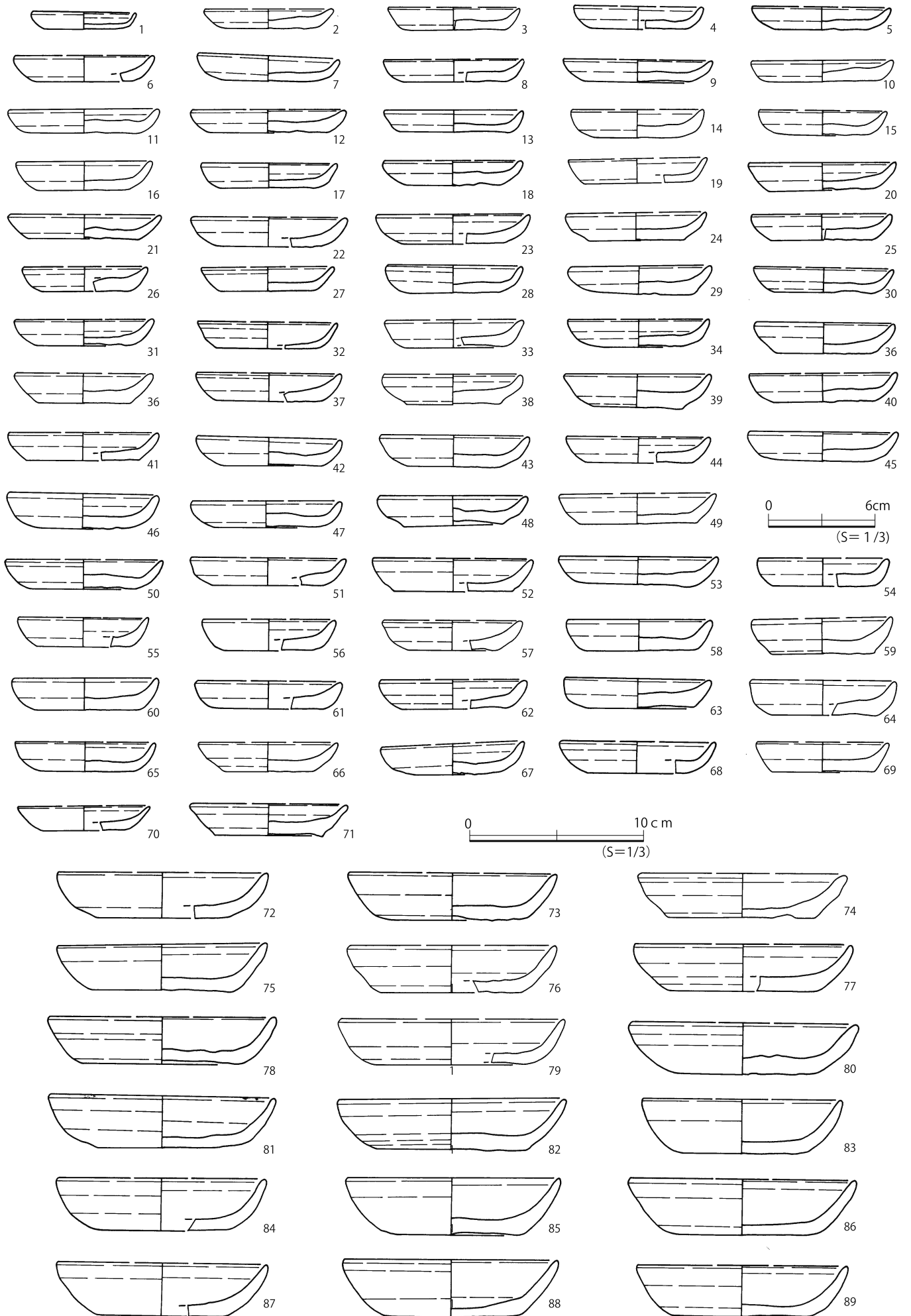


图6 第1a面面上(遺構24)出土遺物(1)

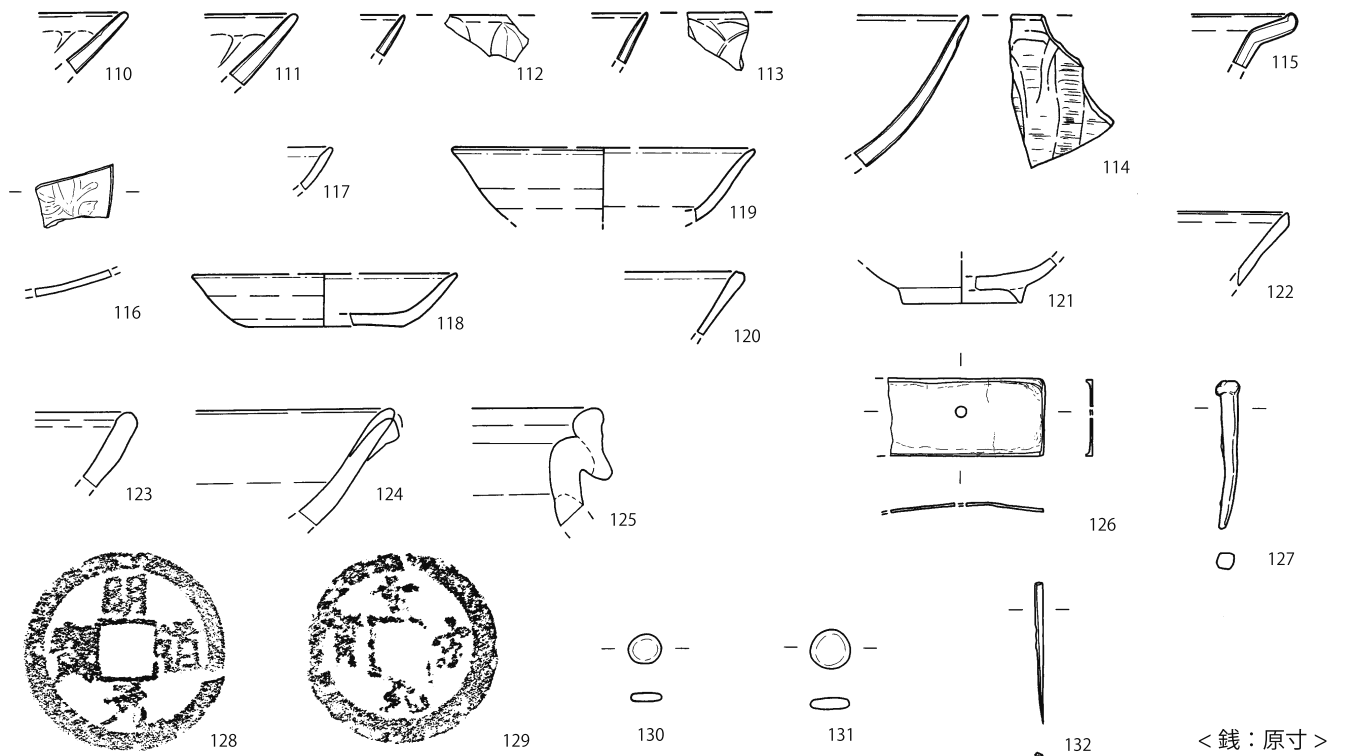
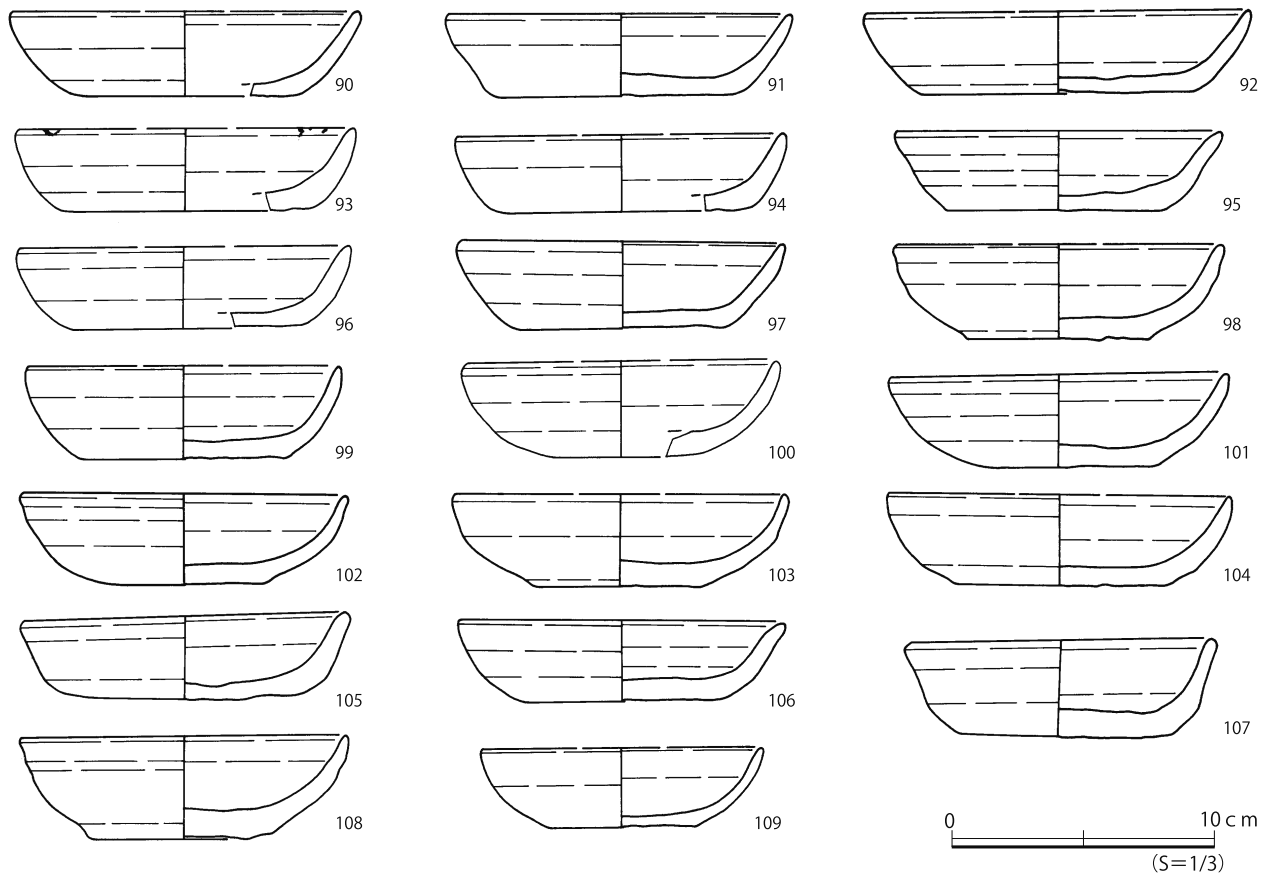


図7 第1a面面上（遺構24）出土遺物（2）

・出土遺物(図5)

13・14はかわらけ。その他に滑石片が出土している。

・遺構130(図5)

不正円形を呈する土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒多・炭化物を含む。

・出土遺物(図 5)

15~17 はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢 I 類が破片で出土している。

・遺構 132(図 5)

不正円形を呈するピットである。遺構 131 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物多を含む。

・出土遺物(図 5)

18 は土器質火鉢。その他にかわらけ・常滑片口鉢 I 類が破片で出土している。

・遺構 134(図 5)

不正円形を呈する土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物多を含む。

・出土遺物(図 5)

19 はかわらけ。20 は常滑片口鉢 I 類。その他に遺物は出土していない。

・遺構 136(図 5)

土坑である。試掘坑に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒多・炭化物多を含む。

・出土遺物(図 5)

21 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

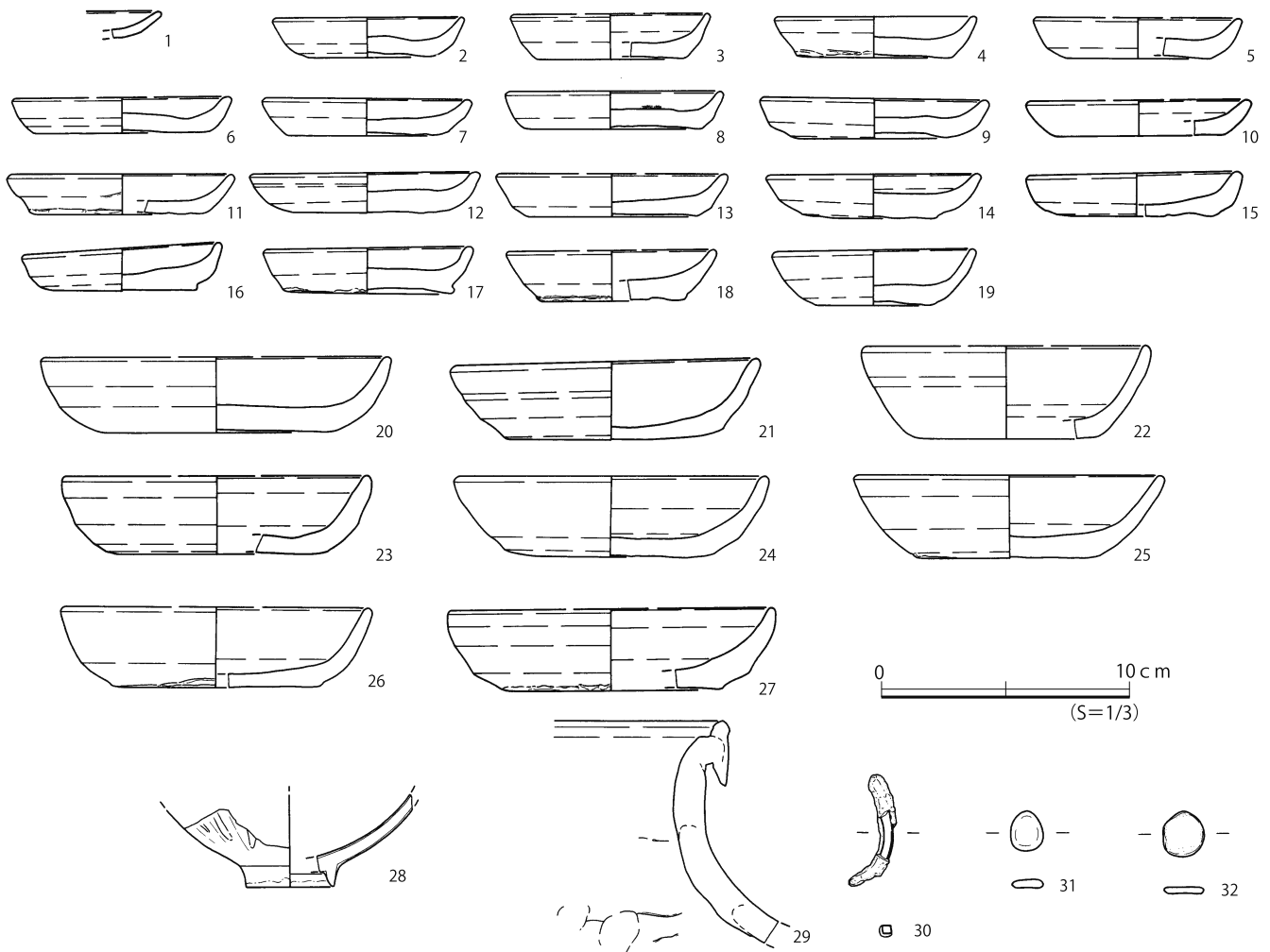


図 8 第 1 a 面面上出土遺物

・第 1 面面上(遺構 24)出土遺物(図 4・図 6~図 7)

第 1 面精査時に、面上に多くのかわらけが撒布(廃棄)して出土したため、撒布範囲を実測し、遺構

名を付けて採集し、後述する面上出土遺物とは分けて報告することにした。地業の一環としてかわらけを用いたとも考えたが、採集したかわらけに完形品が多いことや、限られた範囲のみで出土し、かわらけが撒布している場所でピット等の遺構を検出していないため、空閑地にかわらけを廃棄することになんらかの意味があったのかもしれないと考えている。実測したかわらけは 109 点であるが、破片数ではかわらけ（大）554 点、（小）214 点が出土している。採集した範囲は図 4 に示した。

1～109 はかわらけ。1 は内折れかわらけ。110・111 は青磁蓮弁文鉢。112～114 は青磁鎬蓮弁文碗。115 は青磁折縁鉢。116 は白磁碗。117～119 は白磁口元皿。120 は青白磁皿。121 は瀬戸器種不明。122 は山茶碗。123・124 は常滑片口鉢 I 類。125 は常滑甕。126 は銅製品種別不明。127 は金属製品釘。128～129 は金属製品銭。130～131 は石製品基石か。132 は木製品用途不明。

・第 1a 面面上出土遺物(図 8)

第 1a 面精査時に出土した遺物である。前述した遺構 24 とは別に掲載した。

1～27 はかわらけ。28 は青磁鎬蓮弁文碗。29 は常滑甕。30 は金属製品釘。31～32 は石製品基石。

第 2 節 第 1b 面の遺構と遺物 (図 9～図 12)

第 1a 面では調査区東側と南側が空閑地であったが、第 1b 面では調査区全体に遺構が広がる様子を確認している。第 1b 面は泥岩粒・炭化物・褐色有機質土・褐鉄を多く含む堅く締まった茶褐色弱粘質土の地業層上で遺構を検出した。遺構の切り合い、覆土の観察から少なくとも 2 時期の遺構を発見している。発見した遺構は土坑 20 基・ピット 67 穴である。第 1b 面検出海拔高は 19.20m である。

・遺構 15(図 10)

円形を呈するピットである。土坑 58 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物(図 11)

1 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構 18(図 10)

円形を呈する土坑である。遺構 17 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む。

・出土遺物(図 11)

2 はかわらけ。その他に手づくね成形白かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

・遺構 21(図 10)

円形を呈するピットである。遺構 19 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物(図 11)

3 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構 28(図 10)

円形を呈するピットである。遺構 33 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・凝灰質砂岩を含む。

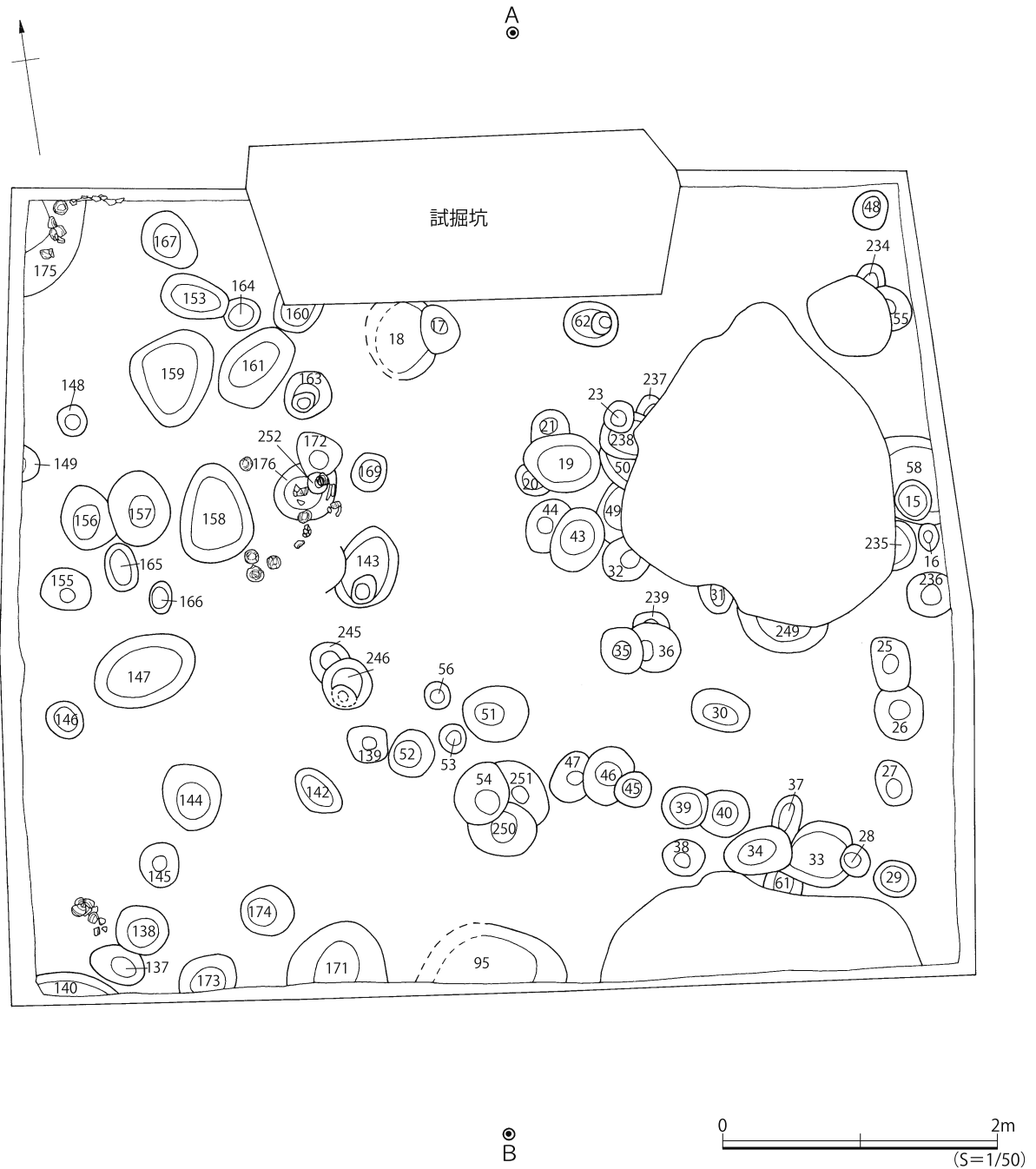


図9 第1b面全測図

・出土遺物(図11)

4はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構32(図10)

円形を呈するピットである。攪乱に切れ規模は不明。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。

・出土遺物(図11)

5はかわらけ。6は常滑甕。その他に手づくね成形かわらけ・ロクロ成形内折れかわらけ・瀬戸碗・金属製品釘が破片で出土している。

・遺構33(図10)

円形を呈する土坑である。遺構28・遺構34に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐鉄・炭化物・泥岩粒を含む。

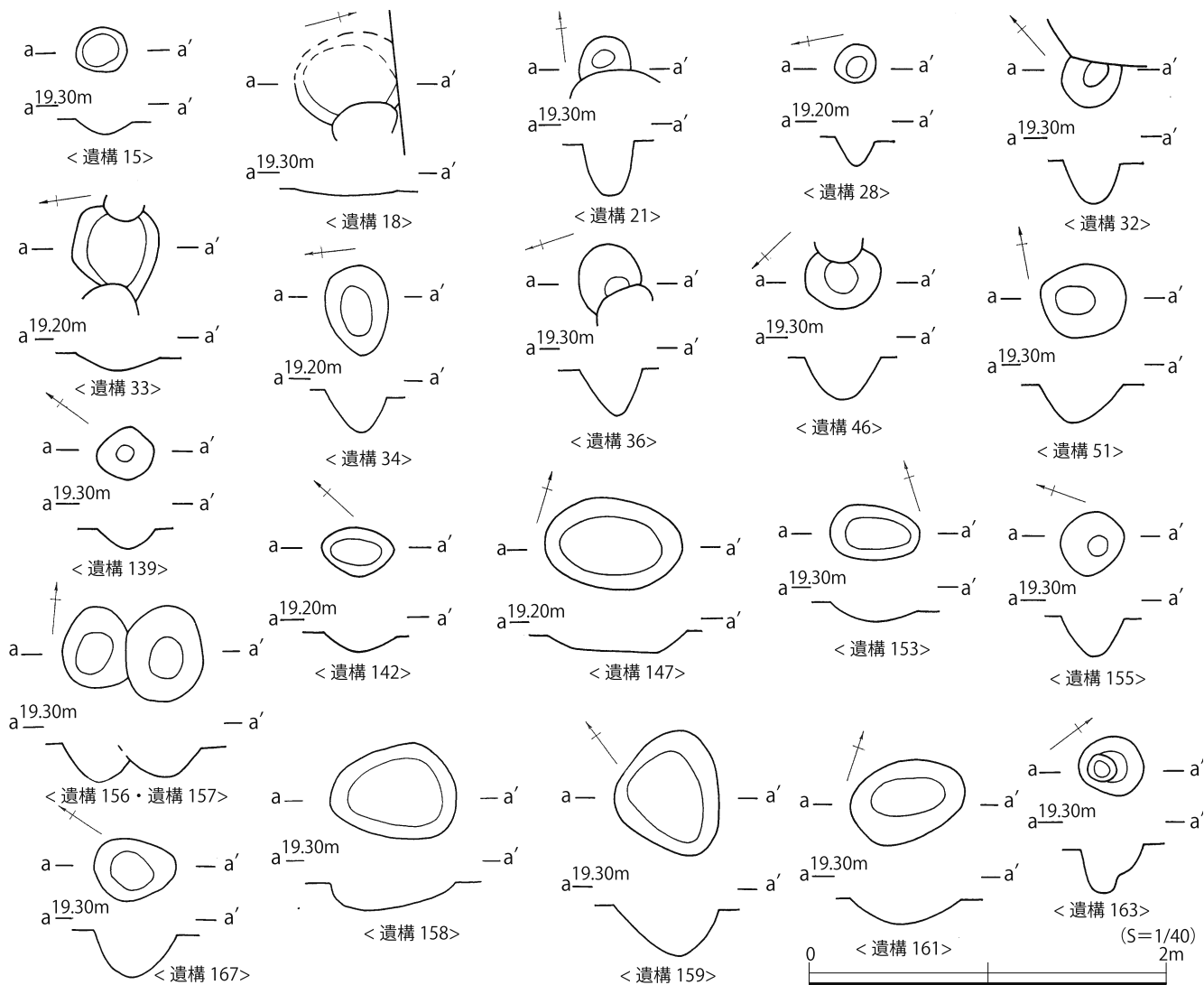


図 10 第 1b 面個別遺構図

・出土遺物(図 11)

7 は青白磁皿。その他にかわらけが破片で出土している。

・遺構 34(図 10)

楕円形を呈するピットである。遺構 33・遺構 37・遺構 61 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。

・出土遺物(図 11)

8 はかわらけ。9 は金属製品釘。その他に常滑甕が破片で出土している。

・遺構 36(図 10)

円形を呈するピットである。遺構 35 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物(図 11)

10 は手づくね。11 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構 46(図 10)

楕円形を呈するピットである。遺構 47 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物(図 11)

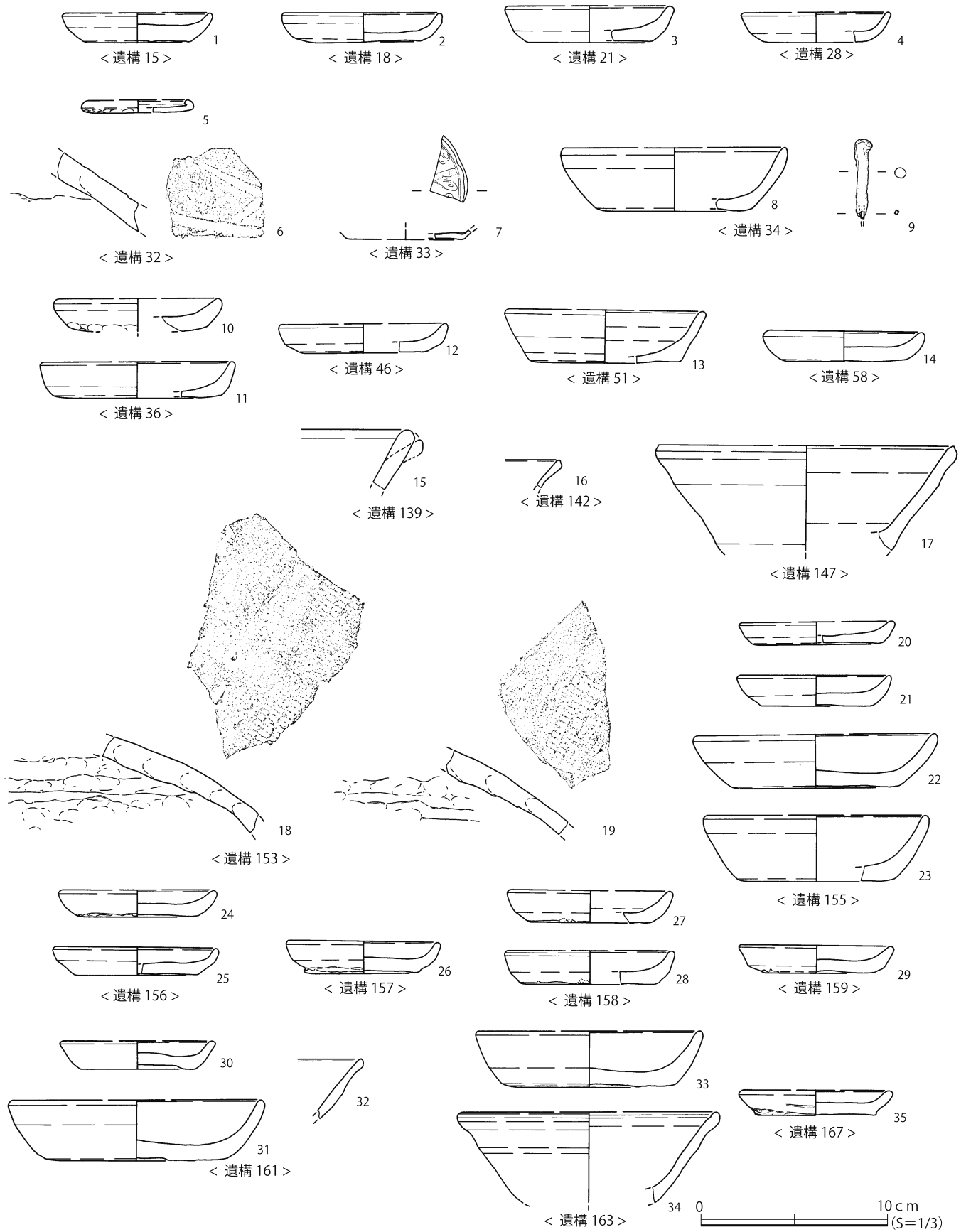


図 11 第 1b 面出土遺物

12 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構 51(図 10)

円形を呈するピットである。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物多・泥岩粒・褐鉄を含む。

・**出土遺物(図 11)**

13 はかわらけ。その他に滑石片が出土している。

・**遺構 58 出土遺物(図 9)**

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。個別に図面は掲載していない。遺構 15 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・**出土遺物(図 11)**

14 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 139(図 10)**

方形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩粒・炭化物多・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

15 は常滑片口鉢 I 類。その他にかわらけが破片で出土している。

・**遺構 142(図 10)**

不正円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩粒・炭化物・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

16 は山茶碗。その他にかわらけが破片で出土している。

・**遺構 147(図 10)**

楕円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩粒多・炭化物多を含む。

・**出土遺物(図 11)**

17 は山茶碗。その他にかわらけが破片で出土している。

・**遺構 153(図 10)**

楕円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

18・19 は常滑甕。その他にかわらけ・瀬戸縁釉小皿が破片で出土している。

・**遺構 155(図 10)**

円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

20～23 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 156(図 10)**

楕円形を呈する土坑である。遺構 157 に切られる。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒多・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

24～25 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 157(図 10)**

楕円形を呈する土坑である。遺構 156 を切る。暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒多・褐色粘土・泥岩塊を含む。

・**出土遺物(図 11)**

26 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 158 出土遺物(図 10)**

不正円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒・褐色粘土を含む。

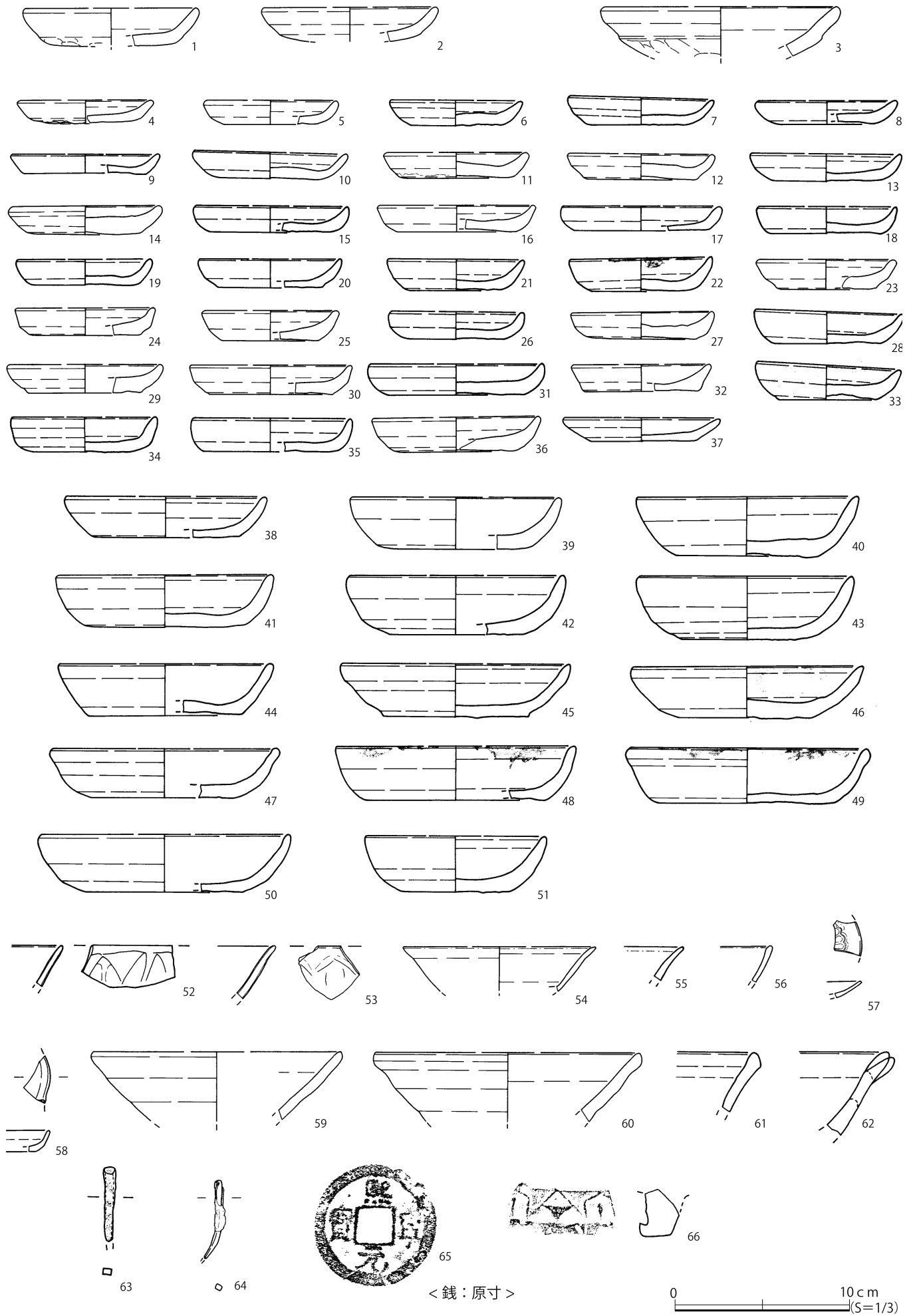


图 12 第 1a 面・第 1b 面構成出土遺物

・**出土遺物(図 11)**

27～28 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 159(図 10)**

不正円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

29 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 161(図 10)**

楕円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒多・褐色粘土・泥岩塊を含む。

・**出土遺物(図 11)**

30～31 はかわらけ。32 は山茶碗。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 163(図 10)**

円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒・褐色粘土多を含む。

・**出土遺物(図 11)**

33 はかわらけ。34 は山茶碗。その他に常滑片口鉢 I 類が破片で出土している。

・**遺構 167(図 10)**

不正円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒多を含む。

・**出土遺物(図 11)**

35 はかわらけ。その他に常滑鉢が破片で出土している。

・**第 1a 面・1b 面構成土出土遺物(図 12)**

第 1a 面・第 1b 面の遺構検出土後、第 2 面までの堆積層中で発見した遺物である。

1～3 は手づくね。4～51 はかわらけ。52・53 は青磁鎚蓮弁文碗。54 は白磁口元皿。55・56 は白磁口元碗。57 は青白磁皿。58 は瀬戸入子。59・60 は山茶碗。61・62 は常滑片口鉢 I 類。63・64 は金属製品釘。65 は金属製品銭。66 は瓦・宇瓦。

第 3 節 第 2 面の遺構と遺物 (図 13～図 14)

第 1 面の遺構検出後、第 2 面検出層の間には約 50 cm の厚さで褐鉄を多く含む堅く締まった土が堆積していた。特に 19 層 (図 3) では、高師小僧を多く採集し、鉄分を多く含んだ土であったことがわかる。第 2 面は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐色有機質土・褐鉄を多く含む地業層上で遺構を発見した。発見した遺構覆土内を含め、第 2 面では遺物の出土量が大きく減少する。発見した遺構は土坑 10 基・ピット 74 穴である。若干ではあるが、遺構検出数は調査区西側が多くなる。

・**遺構 70(図 14)**

円形を呈する土坑である。遺構 7 I を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄・褐色砂質土を含む。遺物は出土していない。

・**遺構 71(図 14)**

円形を呈するピットである。遺構 70 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物多・褐鉄を含む。



図 13 第 2 面全測図

遺物は出土していない。

・遺構 72(図 14)

楕円形を呈するピットである。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

・遺構 85(図 14)

円形を呈する土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄を含む。遺物は出土していない。

・遺構 86(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 87 に切られる。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄・褐色砂質土を含む。遺物は出土していない。

・遺構 87(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 86 を切る。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄を含む。遺物は

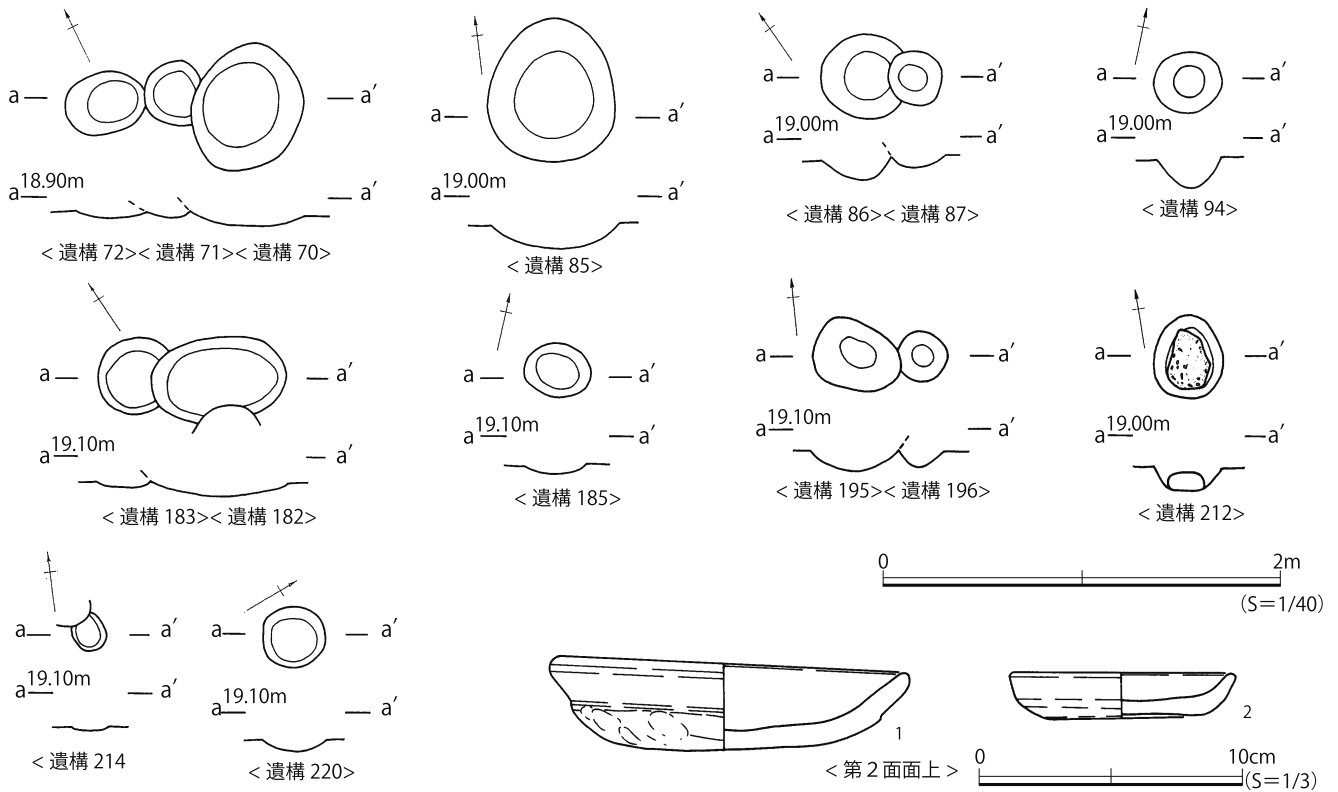


図 14 第 2 面個別遺構・面上出土遺物

わらけが破片で出土している。

・遺構 94(図 14)

円形を呈するピットである。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄を含む。遺物は出土していない。

・遺構 182(図 14)

楕円形を呈する土坑である。遺構 183 を切る。覆土は褐色砂質土。炭化物多・褐鉄・泥岩粒多を含む。遺物は出土していない。

・遺構 183(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 182 に切られる。覆土は褐色弱粘質土。炭化物多・褐鉄・泥岩粒を含む。遺物は出土していない。

・遺構 185(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 212・遺構 214 を切る。覆土は褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物を含む。遺物は出土していない。

・遺構 195(図 14)

楕円形を呈する土坑である。遺構 196 に切られる。覆土は褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒多・褐鉄を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

・遺構 196(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 195 を切る。覆土は褐色弱粘質土。褐鉄・炭化物・泥岩粒を含む。遺物は出土していない。

・遺構 212(図 14)

楕円形を呈するピットである。遺構底面に礎石が遺存していた。遺構 185・遺構 204 に切られる。覆土は茶褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物・褐鉄多を含む。遺物は出土していない。

・遺構 214(図 14)

楕円形を呈するピットである。遺構 185 に切られる。覆土は茶褐色弱粘質土。褐鉄・炭化物を含む。遺物は出土していない。

・遺構 220(図 14)

円形を呈するピットである。覆土は茶褐色弱粘質土。褐鉄・炭化物・褐色砂質土を含む。遺物は出土していない。

・第 2 面面上出土遺物(図 14)

第 2 面遺構精査時に面上で発見した遺物である。遺構覆土を含めて出土遺物は大きく減少する。1 は手づくね。2 はかわらけ。第 2 面構成土からは遺物が出土していない。

第 4 節 第 3 面の遺構と遺物 (図 15～図 16)

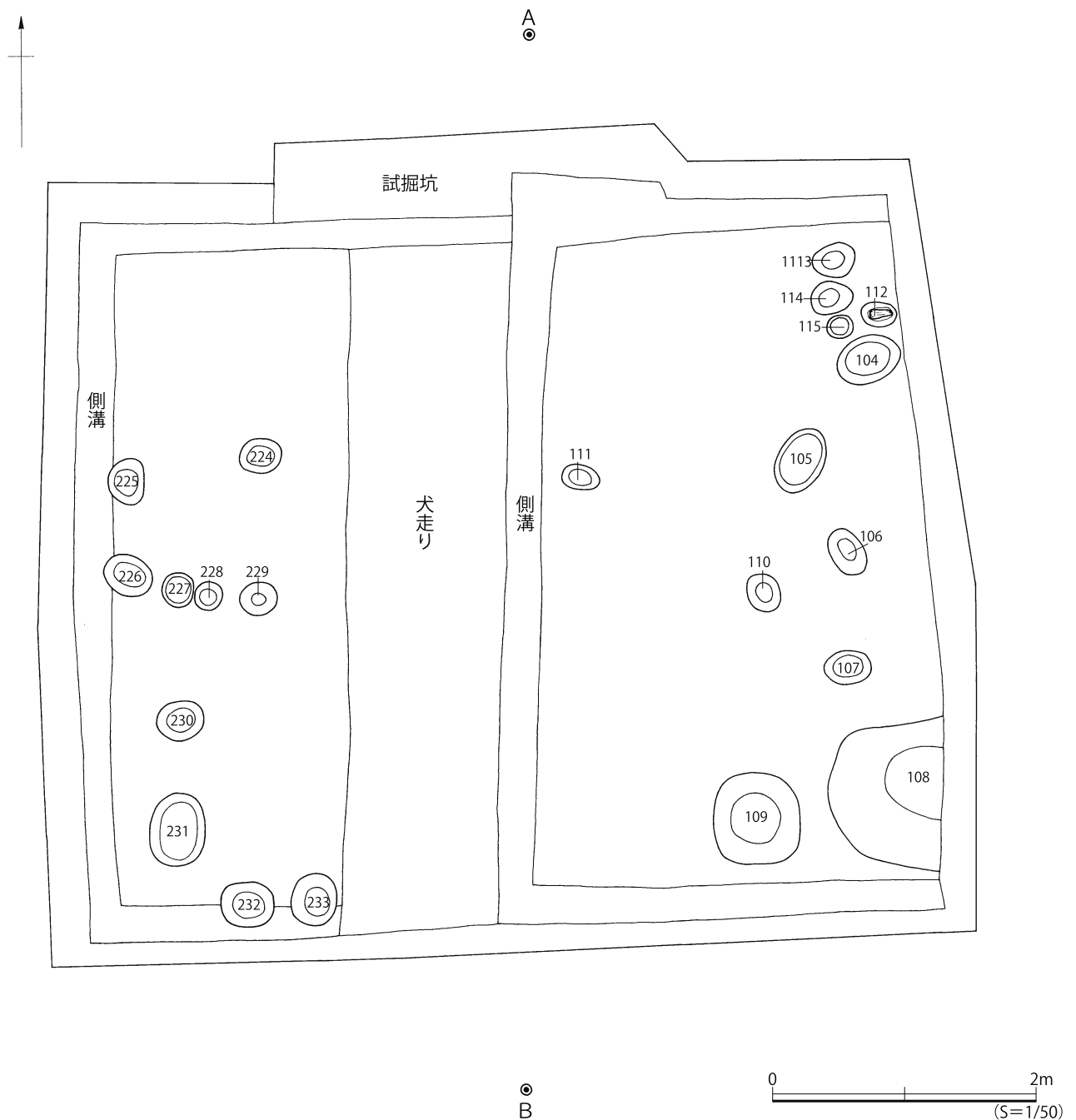


図 15 第 3 面全測図

泥岩粒・褐鉄を多く含む堅く締まった第2面構成土を除去し、平坦に堆積する茶褐色弱粘質土上で第3面を検出した。発見した遺構は土坑2基・ピット20穴であるが、上層の堆積に削平を受けているためか深さ10cm前後を測る深度の浅い遺構が大半であった。また、調査区東側(I区)で発見した遺構の覆土は弱粘質土であったが、西側(II区)で発見した遺構の覆土は砂質土を主体とする遺構覆土が大半である。西側(II区)の砂質土を覆土主体とする遺構は、深度や堆積状況などから遺構として比定するにはやや希薄な印象を受ける。第2面同様に遺構覆土内からの出土遺物はなく、堆積土内からの出土遺物も僅かであった。

・遺構 105(図 16)

楕円形を呈するピットである。覆土は黒褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄・植物遺体を含む。遺物は出土していない。

・遺構 108(図 16)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄多を含む。遺物は出土していない。

・遺構 109(図 16)

円形を呈する土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄多を含む。遺物は出土していない。

・遺構 224(図 16)

楕円形を呈するピットである。覆土は褐鉄多・黒色粘土・泥岩粒を含む灰褐色砂質土。遺物は出土していない。

・遺構 230(図 16)

楕円形を呈するピットである。覆土は褐鉄多・黒色粘土・泥岩粒を含む灰褐色砂質土。遺物は出土していない。

・第3面構成土出土遺物(図 16)

第3面遺構検出後、第3面の地業構成土となる、褐色砂質土・泥岩粒・褐鉄を含む茶褐色粘質土から出土した遺物である。図示した遺物の他には、自然遺物の木片が少量出土しているが中世遺物は発見していない。

1は須恵器坏。

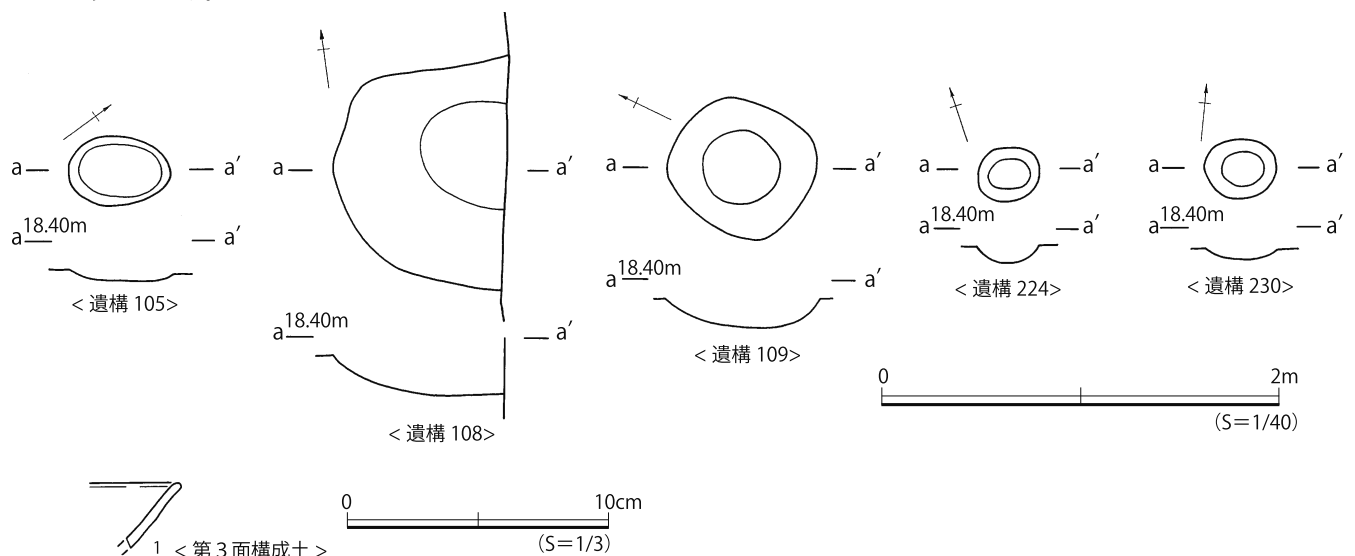


図 16 第3面個別遺構・構成出土遺物

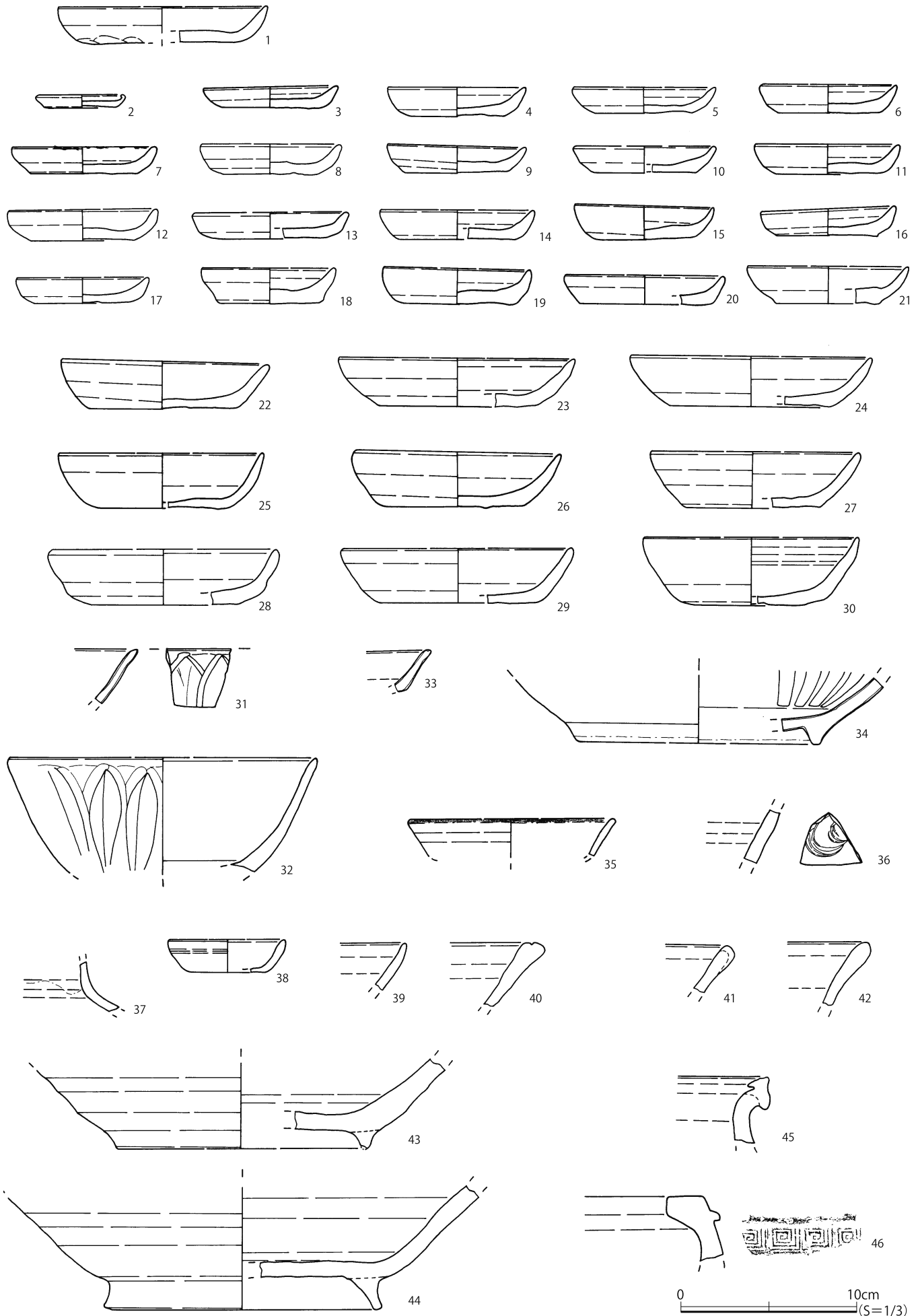


图 17 表土採集遺物

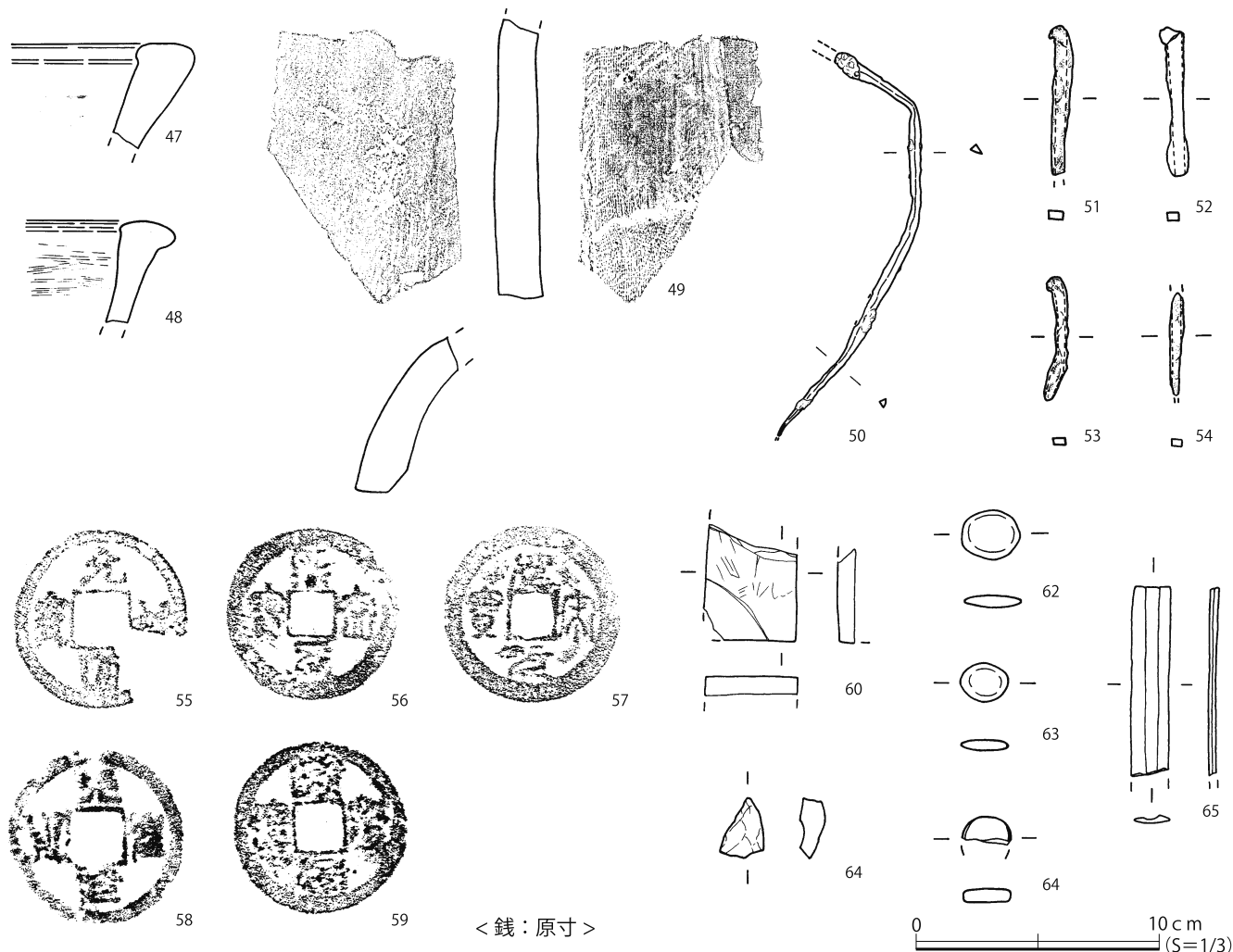


図 18 表土採集遺物

第 5 節 最終確認トレンチ (図 3)

掘削深度に制限があったため、I 区・II 区ともに第 3 面の遺構検出後にトレンチを設け下層の堆積を確認した。現地表下約 150cm で調査地は湧水する。第 3 面構成土下層は、I 区・II 区ともに茶色有機質土と炭化物を含む黒褐色粘質土が約 80cm 堆積していることを確認した。堆積土に遺物は含まれていなかった。トレンチ位置は図 3 に報告している。

第 6 節 表土採集遺物 (図 17～図 18)

調査前現地表から第 1 面検出層までの堆積土で発見した遺物である。調査前の段階で地表面には多数の中世遺物片が散布しており、現代の造成土が大きく遺構面を削平していたことが推察される。

1 は手づくね成形の白かわらけ。2～30 はかわらけ。31～32 は青磁鎚蓮弁文碗。33 は青磁折腰鉢。34 は青磁蓮弁文鉢。35 は白磁口元皿。36 は青白磁梅瓶。37 は緑釉・器種不明。38 は瀬戸入子。39 は瀬戸碗。40 は瀬戸片口鉢。41～44 は常滑片口鉢 I 類。45 は常滑甕。46 は瓦器質火鉢。47～48 は土器質火鉢。49 は瓦・丸瓦。50～59 は金属製品。50 は鉄製品火箸。51～54 は鉄製品釘。55～59 は銭。60 は石製品砥石。61 はチャート。62～63 は石製品基石。64 は骨製品双六の駒。65 は骨製品筭。

第三章 まとめ

本調査地を含め「川越重頼邸跡」に指定された遺跡地での調査例は僅か3例(図1)である。調査地の約40m北には中世の幹線道路であった六浦道と、道路に並行して流れる滑川が東西に走る。川と道路を挟んだ対面は「公方屋敷跡」と推定され、調査地を含む六浦道に沿った一帯は武家屋敷の立ち並ぶ場所だったと推定される。川越重頼は頼朝率いる幕府に重用されていた武将であったため、それなりに大きな館を構えていたと考えられるが、過去の調査では川越重頼邸跡を推定できる資料は発見されていない。

(1) 検出した遺構と遺物

重機によって表土を約40cm取り除き、調査区南側で広範囲にかわらけが撒布している状況を確認し第1面とした。第1面は現代埋土による削平・攪乱の影響を受け、遺構の重複が激しく複数の生活面を同時に検出し、若干の遺物の混乱もあったため、報告では第1a面・第1b面の2面に分けた。第1a面は、調査区の南側で広範囲にかわらけが撒布していたが、遺構は北側・西側に偏って発見され、かわらけが撒布された南側・東側は空閑地だった様子である。撒布されたかわらけは完形の物が多く、空閑地に意識的に廃棄したと考えている。第1a面で発見した遺構は2時期に分かれる。第1b面では調査区全体に遺構が広がる。多くの遺構を検出したが建物址を推定することはできず、遺構の性格も判断できなかった。第1b面も2時期に分かれると考えている。第1面は遺構の重複・遺物の混乱から幅広く14世紀から15世紀前半の年代を与えている。

第1面の遺構検出後、第2面検出層の間には約50cmの厚さで褐鉄を多く含む堅く締まった土が堆積し、堆積土の中からは高師小僧を多く採集している。高師小僧とは、地下水中の鉄分が葦等の根の周りに水酸化鉄として管状、紡錘状に沈殿してできた鉱物である。現在の調査地一帯は葦の生息するような湿地帯ではないが、約40m北には滑川が流れており、ある時期、調査地一帯が湿地の様相を呈していたと考えられる。第1b面同様に、第2面でも多くの遺構を発見した。礎石を伴うピットを検出しているが建物址は推定できなかった。また、面上出土として報告したロクロ成形かわらけ1点、手づくね成形かわらけ1点の他には、破片でロクロ成形かわらけ(大)36片・(小)9片しか出土していない。第2面は出土遺物が少なく年代の比定が困難であるが14世紀代の年代を考えている。

第2面検出後、第3面検出層の間には、上層の堆積土と同様に砂礫・泥岩粒・褐鉄・高師小僧を含む堅く締まった土が堆積していた。第3面検出層は平坦で固く締まった堆積層であったが地業層ではない。また、調査区西側(Ⅱ区)で発見した遺構は砂質土と褐鉄を主体とした覆土を持ち、深度や、堆積状況から遺構ではなく、大半が浅い落ち込みであった可能性もある。東側(Ⅰ区)では礎板を伴う遺構を検出しているが、建物址を推定することはできなかった。遺構覆土・面上からの出土遺物は無く、ロクロ成形かわらけ(大)の破片が1片であった。第3面構成土からは、須恵器坏の口縁部片のみ出土している。第2面同様に第3面も年代を比定する根拠となるべき出土遺物がなく、年代の比定が困難であるが13世紀半ばから後半の年代を考えている。

第3面検出後、Ⅰ区・Ⅱ区ともにトレンチを設け下層の堆積を確認した。両区ともに地業層を観察することはできなかったが、腐食した自然遺物・茶色有機質土と炭化物・褐色砂質土を含む黒褐色粘質土が現地表から約210cm(海拔高17.5m)下層まで堆積していた事を確認している。トレンチ内堆積土から遺物は出土しておらず、自然堆積土であったと思われる。

(2)まとめ

本調査では遺跡名の由来となる川越重頼邸に関する資料・遺構の発見は出来なかった。また、調査地の年代は、第1面が現代の造成土によって地業構成土・遺構が大きく削平を受けており、遺構・遺物ともに混乱してしまったことや、第1面以下の生活面からは出土遺物がほとんどないために遺跡地の年代の比定には、やや無理があるかもしれない。第1面から第2面までの間の、特に19層(図3)からは沼地に生えていた葦の根などに水酸化鉄が沈殿して生成される高師小僧を多く採集しており、調査地を含む周辺は北方40mに位置する東西に流れる滑川の氾濫原となり、一時期浅い沼地であったと考えられる。出土遺物の少なさ等はそれも一因かもしれない。

周辺の調査成果からは、概ね13世紀後半から15世紀半ばごろにかけての遺構・遺物が発見されている。本調査地も半ば湿地帯であった土地を造成し、13世紀代から15世紀前半にかけて生活が営まれていたと考えている。

遺構計測表

面	遺構No.	長軸	短軸	深さ	面	遺構No.	長軸	短軸	深さ
1a	1	(30)	(12)	6	1b	39	33	32	9
1a	2	(23)	27	6	1b	40	(31)	33	22
1a	3	(17)	(7)	4	1b	43	48	36	14
1a	4	(20)	(28)	8	1b	44	41	(22)	26
1a	5	39	38	17	1b	45	27	27	14
1a	6	38	37	15	1b	46	44	(26)	23
1a	7	18	16	9	1b	47	38	(26)	25
1a	8	29	25	12	1b	48	28	25	17
1a	9	56	28	6	1b	49	(44)	(17)	17
1a	10	40	35	17	1b	50	(36)	(24)	15
1a	11	67	57	11	1b	51	48	41	22
1a	12	47	37	21	1b	52	36	32	18
1a	13	52	32	32	1b	53	23	19	7
1a	14	68	(50)	21	1b	54	47	40	13
1a	116	99	(40)	15	1b	55	(35)	(19)	24
1a	117	58	(34)	20	1b	56	21	20	9
1a	118	(42)	37	11	1b	58	(63)	(33)	10
1a	119	81	67	21	1b	61	(42)	(14)	20
1a	120	63	36	19	1b	62	40	33	20
1a	121	36	26	14	1b	95	(62)	(39)	7
1a	122	40	31	20	1b	137	42	(26)	10
1a	123	(27)	25	12	1b	138	38	35	10
1a	124	48	44	16	1b	139	33	29	11
1a	125	(53)	(89)	8	1b	140	(57)	(16)	7
1a	126	(24)	25	11	1b	142	42	27	11
1a	127	(75)	58	16	1b	143	60	(41)	23
1a	128	50	35	12	1b	144	49	43	13
1a	129	(58)	(30)	12	1b	145	32	29	45
1a	130	85	73	15	1b	146	30	27	8
1a	131	(25)	19	4	1b	147	77	52	12
1a	132	39	35	4	1b	148	23	22	25
1a	133	42	37	9	1b	149	24	(12)	10
1a	134	55	49	11	1b	153	50	31	11
1a	135	(60)	(53)	25	1b	155	36	32	24
1a	136	(65)	(34)	6	1b	156	46	(35)	22
1a	240	(29)	38	4	1b	157	54	44	16
1a	241	23	21	9	1b	158	72	53	13
1a	242	24	15	14	1b	159	70	60	28
1a	243	(10)	(8)	3	1b	160	(23)	33	6
1a	244	(50)	28	11	1b	161	66	45	14
1b	15	31	25	9	1b	163	37	33	27
1b	16	19	15	10	1b	164	27	23	6
1b	17	35	28	29	1b	165	35	25	8
1b	18	70	(25)	4	1b	166	25	18	8
1b	19	56	42	18	1b	167	47	37	28
1b	20	25	(14)	21	1b	169	29	25	13
1b	21	(21)	30	30	1b	171	(45)	(68)	15
1b	23	24	21	9	1b	172	35	34	22
1b	25	40	28	22	1b	173	45	(25)	13
1b	26	(36)	35	29	1b	174	38	35	21
1b	27	34	26	19	1b	175	(70)	(40)	18
1b	28	24	21	16	1b	176	(30)	43	10
1b	29	32	25	7	1b	234	(19)	(17)	4
1b	30	43	28	20	1b	235	(35)	(15)	3
1b	31	(20)	(23)	17	1b	236	(32)	31	8
1b	32	(27)	32	24	1b	237	(13)	(17)	15
1b	33	59	48	11	1b	238	(27)	34	19
1b	34	50	35	24	1b	239	26	(9)	10
1b	35	39	32	26	1b	245	(18)	30	13
1b	36	(29)	35	24	1b	246	39	38	11
1b	37	(29)	21	11	1b	249	67	(21)	7
1b	38	31	27	16	1b	250	(34)	40	17

遺構計測表

面	遺構No.	長軸	短軸	深さ	面	遺構No.	長軸	短軸	深さ
1b	251	(55)	(28)	23	2	192	(27)	33	8
1b	252	17	15	57	2	193	(45)	34	14
2	63	21	18	6	2	194	(36)	(35)	8
2	64	20	18	9	2	195	44	34	11
2	65	25	24	7	2	196	25	24	9
2	66	42	31	11	2	197	(22)	30	10
2	68	15	14	5	2	198	41	(33)	8
2	69	32	28	8	2	199	29	24	3
2	70	68	54	7	2	200	52	(45)	8
2	71	33	(25)	4	2	201	41	28	9
2	72	42	31	2	2	202	(34)	38	9
2	73	43	38	12	2	203	28	24	9
2	74	19	17	6	2	204	28	27	10
2	75	36	25	4	2	205	24	19	4
2	76	26	23	6	2	206	25	(18)	5
2	77	61	33	7	2	207	(39)	39	3
2	78	19	18	6	2	208	49	43	7
2	79	29	23	4	2	209	19	15	5
2	80	30	(21)	9	2	210	18	13	5
2	81	22	18	7	2	212	41	36	12
2	82	23	22	8	2	213	23	19	9
2	83	43	34	5	2	214	(17)	17	2
2	84	38	33	12	2	216	27	18	6
2	85	72	65	13	2	217	27	22	8
2	86	(35)	43	10	2	218	32	29	5
2	87	29	28	6	2	219	34	31	10
2	88	(28)	(7)	5	2	220	33	32	6
2	89	(33)	34	4	2	221	20	19	3
2	90	43	34	6	2	222	35	26	5
2	91	28	25	10	2	247	34	27	10
2	92	37	30	18	2	248	35	(28)	5
2	93	38	32	16	3	104	50	36	6
2	94	33	32	17	3	105	53	34	6
2	96	44	42	13	3	106	38	24	8
2	97	(66)	39	9	3	107	36	25	8
2	98	31	28	19	3	108	(87)	116	19
2	99	28	(15)	19	3	109	70	67	14
2	100	30	27	18	3	110	32	25	8
2	101	28	27	20	3	111	29	20	4
2	102	(40)	(15)	17	3	112	28	19	7
2	103	25	22	12	3	113	33	26	10
2	178	36	35	8	3	114	32	24	9
2	179	23	21	9	3	115	20	18	5
2	180	(24)	27	9	3	224	33	28	9
2	181	35	34	5	3	225	36	27	10
2	182	68	(35)	7	3	226	38	30	5
2	183	(28)	37	3	3	227	27	24	8
2	184	32	29	9	3	228	23	21	5
2	185	35	27	5	3	229	30	25	7
2	187	47	(33)	10	3	230	36	30	6
2	188	29	27	8	3	231	54	42	2
2	189	28	27	18	3	232	40	34	14
2	190	37	29	6	3	233	40	35	13
2	191	34	32	9					

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ()=復元値 []=残存値
				()=復元値 []=残存値	()=復元値 []=残存値	()=復元値 []=残存値	
5	1	1a面 遺構6	かわらけ	(7.7)	(5.7)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4 g:口唇部一部油煤痕
5	2	1a面 遺構6	かわらけ	(12.1)	(7.4)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
5	3	1a面 遺構14	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
5	4	1a面 遺構116	かわらけ	(8.5)	(6.2)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 ・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
5	5	1a面 遺構116	かわらけ	(8.1)	(6.0)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+弱い板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5 g:内外面黒色に変色
5	6	1a面 遺構116	土器質 火鉢	-	-	-	b:淡灰褐色 砂粒・黒色粒・白色粒 c:灰色 e:良好 f:底部片 g:底裏ヘラによる調整痕 I類
5	7	1a面 遺構116	瓦 平瓦	-	-	2.6	a:凹面黒色微砂の離れ砂付着 縦位ナデ 凸面黒色微砂の離れ砂付着 狭端面・ 側面ヘラケズリ b:灰色 砂粒多 c:灰色 e:良好
5	8	1a面 遺構125	かわらけ	(7.3)	(5.8)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 ・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
5	9	1a面 遺構125	かわらけ	8.3	6.2	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
5	10	1a面 遺構127	常滑 片口鉢II類	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:暗赤褐色 降灰部淡緑色 e:良 好・硬質 f:口縁部片
5	11	1a面 遺構128	かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多い・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 や や粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/5 g:内外面口唇部厚く油煤痕 器壁剥離
5	12	1a面 遺構128	かわらけ	(11.0)	(7.4)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
5	13	1a面 遺構129	かわらけ	8.3	6.0	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
5	14	1a面 遺構129	かわらけ	(12.1)	(8.6)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母少量・赤色粒・海綿骨針・ 泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:内面・口唇部黒色に変色
5	15	1a面 遺構130	かわらけ	7.6	5.6	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒・小石粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
5	16	1a面 遺構130	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.8	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母少量・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良 好 f:1/4
5	17	1a面 遺構130	かわらけ	(8.1)	(6.4)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
5	18	1a面 遺構132	土器質 火鉢	-	-	-	a: b:灰色 砂粒・白色粒 c:黄褐色 e: f:口縁部片 I類
5	19	1a面 遺構134	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:粉質・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f:1/2
5	20	1a面 遺構134	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 砂粒・長石粒多 粗土 c:灰色 e:良好 f:底部片 g:6a型 貼付け 高台 内面摩耗
5	21	1a面 遺構136	かわらけ	(12.1)	(8.6)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:口唇部油煤痕
6	1	1a面 遺構24	かわらけ	5.7	4.8	1.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針 良土 c:黄灰 色 e:良好 f:完形 g:丁寧な整形 口唇部内折れ
6	2	1a面 遺構24	かわらけ	(7.0)	(4.6)	1.1	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小 石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	3	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	4	1a面 遺構24	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗 土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
6	5	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	5.2	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
6	6	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
6	7	1a面 遺構24	かわらけ	7.9	5.5	1.4	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
6	8	1a面 遺構24	かわらけ	(7.9)	(5.8)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
6	9	1a面 遺構24	かわらけ	(8.4)	(6.2)	1.3	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
6	10	1a面 遺構24	かわらけ	7.9	6.3	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
6	11	1a面 遺構24	かわらけ	8.4	6.2	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	12	1a面 遺構24	かわらけ	(8.6)	(6.7)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 砂質気味 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	13	1a面 遺構24	かわらけ	7.8	6.0	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗 土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
6	14	1a面 遺構24	かわらけ	(7.3)	(5.2)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	15	1a面 遺構24	かわらけ	(7.2)	(5.1)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	16	1a面 遺構24	かわらけ	7.4	5.2	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6
6	17	1a面 遺構24	かわらけ	7.5	5.2	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:5/6
6	18	1a面 遺構24	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				()=復元値 []=残存値			
6	19	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(6.2)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	20	1a面 遺構24	かわらけ	8.1	6.1	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:5/6
6	21	1a面 遺構24	かわらけ	(8.5)	(6.2)	1.4	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
6	22	1a面 遺構24	かわらけ	(8.6)	(6.0)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	23	1a面 遺構24	かわらけ	(8.5)	(6.2)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	24	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
6	25	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	26	1a面 遺構24	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
6	27	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	5.4	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
6	28	1a面 遺構24	かわらけ	7.5	6.1	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
6	29	1a面 遺構24	かわらけ	7.9	5.9	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
6	30	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	31	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	32	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(5.6)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
6	33	1a面 遺構24	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	34	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	5.0	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
6	35	1a面 遺構24	かわらけ	7.7	5.4	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
6	36	1a面 遺構24	かわらけ	(7.6)	5.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4
6	37	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
6	38	1a面 遺構24	かわらけ	(7.6)	(5.3)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	39	1a面 遺構24	かわらけ	8.1	4.9	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:5/6
6	40	1a面 遺構24	かわらけ	(8.2)	(5.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/5
6	41	1a面 遺構24	かわらけ	(8.3)	(6.3)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
6	42	1a面 遺構24	かわらけ	8.1	6.1	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
6	43	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	5.4	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	44	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
6	45	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	5.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	46	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	6.2	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5
6	47	1a面 遺構24	かわらけ	(8.3)	(6.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
6	48	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	5.8	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
6	49	1a面 遺構24	かわらけ	(8.8)	(6.8)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	50	1a面 遺構24	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
6	51	1a面 遺構24	かわらけ	(8.5)	(6.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
6	52	1a面 遺構24	かわらけ	(9.0)	(6.8)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	53	1a面 遺構24	かわらけ	8.8	5.8	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	54	1a面 遺構24	かわらけ	(7.2)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	55	1a面 遺構24	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
6	56	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	(4.9)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
6	57	1a面 遺構24	かわらけ	(7.7)	(5.1)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				()=復元値 []=残存値			
6	58	1a面 遺構24	かわらけ	8.0	6.0	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 芯 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	59	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.9)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
6	60	1a面 遺構24	かわらけ	8.0	5.6	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
6	61	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(6.5)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
6	62	1a面 遺構24	かわらけ	8.0	6.0	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 c:黄灰色 e:良 好 f:2/3
6	63	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	6.0	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	64	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(6.4)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・白色粒・海綿骨 針・泥岩粒多 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
6	65	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	5.6	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
6	66	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
6	67	1a面 遺構24	かわらけ	8.0	5.6	1.8	a:ロクロ・内底強いナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海 綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
6	68	1a面 遺構24	かわらけ	(8.6)	(5.8)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
6	69	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底平行糸切り+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿 骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
6	70	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	4.6	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄褐色 e:良 好 f:1/3
6	71	1a面 遺構24	かわらけ	(8.7)	6.0	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/5 g:見込み中央黒色に変色
6	72	1a面 遺構24	かわらけ	(11.7)	(7.6)	2.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
6	73	1a面 遺構24	かわらけ	(11.7)	(9.0)	2.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・ 泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
6	74	1a面 遺構24	かわらけ	(11.5)	(8.4)	2.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	75	1a面 遺構24	かわらけ	11.6	8.6	2.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
6	76	1a面 遺構24	かわらけ	(11.6)	(8.0)	2.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
6	77	1a面 遺構24	かわらけ	(12.2)	(8.4)	2.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
6	78	1a面 遺構24	かわらけ	(12.6)	(9.2)	2.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海 綿骨針・泥岩粒多 粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
6	79	1a面 遺構24	かわらけ	(12.6)	(9.0)	2.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
6	80	1a面 遺構24	かわらけ	(12.5)	(8.4)	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
6	81	1a面 遺構24	かわらけ	12.7	7.1	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:9/10 g:口唇部油煤痕
6	82	1a面 遺構24	かわらけ	12.7	8.6	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
6	83	1a面 遺構24	かわらけ	(11.1)	(7.6)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
6	84	1a面 遺構24	かわらけ	(11.5)	(8.0)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/5
6	85	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	7.9	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6
6	86	1a面 遺構24	かわらけ	(12.6)	(8.4)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4
6	87	1a面 遺構24	かわらけ	(11.7)	(7.2)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	88	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	7.7	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
6	89	1a面 遺構24	かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
7	90	1a面 遺構24	かわらけ	(12.8)	(8.7)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
7	91	1a面 遺構24	かわらけ	12.8	8.8	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:5/6
7	92	1a面 遺構24	かわらけ	(14.4)	(10.4)	3.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒・小石粒 粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
7	93	1a面 遺構24	かわらけ	(12.6)	(9.8)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5 g:口唇部油煤痕
7	94	1a面 遺構24	かわらけ	(12.2)	(9.9)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
7	95	1a面 遺構24	かわらけ	12.1	8.1	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
7	96	1a面 遺構24	かわらけ	(12.4)	(9.0)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ()=復元値 []=残存値
				()=復元値 []=残存値			
7	97	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	7.7	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
7	98	1a面 遺構24	かわらけ	(12.0)	6.8	3.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
7	99	1a面 遺構24	かわらけ	(11.5)	7.5	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色
7	100	1a面 遺構24	かわらけ	(11.6)	(5.6)	3.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
7	101	1a面 遺構24	かわらけ	12.6	6.8	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4
7	102	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	6.5	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
7	103	1a面 遺構24	かわらけ	(12.4)	(6.0)	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒多 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
7	104	1a面 遺構24	かわらけ	(12.7)	(8.0)	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
7	105	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	8.8	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3
7	106	1a面 遺構24	かわらけ	12.1	7.2	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
7	107	1a面 遺構24	かわらけ	11.2	8.2	3.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
7	108	1a面 遺構24	かわらけ	12.1	6.8	3.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
7	109	1a面 遺構24	かわらけ	(10.4)	5.4	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
7	110	1a面 遺構24	青磁 蓮弁文鉢	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:内面蓮弁文 外面無文
7	111	1a面 遺構24	青磁 蓮弁文鉢	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒多 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:内面蓮弁文 外面無文
7	112	1a面 遺構24	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片 外面蓮弁文 内面無文
7	113	1a面 遺構24	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片
7	114	1a面 遺構24	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:緑灰色 e:良好 f:口縁部片 g:蓮弁文に横方向の櫛目状の削りが入る
7	115	1a面 遺構24	青磁 折縁鉢	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片
7	116	1a面 遺構24	白磁 碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明乳白色 e:良好 f:胴部片 g:内面印花文の型押し
7	117	1a面 遺構24	白磁 口元皿	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片
7	118	1a面 遺構24	白磁 口元皿	(9.8)	(6.0)	2.0	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:底部1/3口縁部片
7	119	1a面 遺構24	白磁 口元皿	(11.3)	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部油煤痕
7	120	1a面 遺構24	青白磁 皿	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒極微量 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部露胎
7	121	1a面 遺構24	瀬戸 器種不明	-	(4.6)	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良土 軟質 c:黄灰色 e:良好 f:底部1/2 g:貼付高台
7	122	1a面 遺構24	山茶碗	-	-	-	a:ロクロ b:黒褐色 白色粒多 c:褐色 降灰部灰緑色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
7	123	1a面 遺構24	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒 c:灰色 降灰部灰緑色 e: f:口縁部片 g:6型式
7	124	1a面 遺構24	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒 c:灰色 e: f:口縁部片 g:6型式
7	125	1a面 遺構24	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:黒褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・石英少量・長石少量 c:黒褐色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6b型
7	126	1a面 遺構24	銅製品 種別不明	[5.9]	[2.9]	[0.3]	c:青銅色 f:板状の一片破損 g:径0.4cmの穿孔あり
7	127	1a面 遺構24	金属製品 釘	[5.5]	[0.7]	[0.6]	a:鍛造 断面四角形 f:先端部わずかに欠損 g:錆の付着が著しい
7	128	1a面 遺構24	金属製品 銅銭	外径2.5・孔幅0.65×0.65			g:明道元宝 北宋1032年 真書
7	129	1a面 遺構24	金属製品 銅銭	外径2.4・孔幅0.7×0.7			g:聖宋元宝 北宋1101年 行書
7	130	1a面 遺構24	石製品 用途不明	[1.1]	[1.2]	[0.3]	c:乳白色 f: g:基石か
7	131	1a面 遺構24	石製品 用途不明	[1.5]	-	[0.5]	b:黒色頁岩 c: f: g:基石か
7	132	1a面 遺構24	木製品 用途不明	[5.3]	[0.3]	[0.15]	g:繊細に形を切り出されている 爪楊枝型 先端は針状
8	1	1a面 面上	かわらけ	-	-	-	a:てづくね b: 雲母・海綿骨芯 c:白色 e:良好 f:口縁部片 g:白かわらけ
8	2	1a面 面上	かわらけ	7.5	5.1	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
8	3	1a面 面上	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				()=復元値 []=残存値			
8	4	1a 面上	かわらけ	7.9	6.3	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・海綿骨針・小石粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3
8	5	1a 面上	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
8	6	1a 面上	かわらけ	(8.5)	(7.1)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
8	7	1a 面上	かわらけ	8.1	6.3	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部打ち掻け痕2か所
8	8	1a 面上	かわらけ	8.4	7.2	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:赤色粒・雲母多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内面一部黒色に変色
8	9	1a 面上	かわらけ	8.8	6.3	1.6	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切 b:赤色粒・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
8	10	1a 面上	かわらけ	(8.7)	(6.8)	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・黒色粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/6
8	11	1a 面上	かわらけ	8.8	6.7	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:歪み著しい
8	12	1a 面上	かわらけ	8.8	6.4	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針多 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部油煤痕
8	13	1a 面上	かわらけ	(9.0)	(6.9)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色 内面一部に鉄分付着
8	14	1a 面上	かわらけ	8.3	5.4	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:赤色粒多・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
8	15	1a 面上	かわらけ	8.2	6.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒多・雲母・海綿骨針・石英 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6 g:歪み激しい
8	16	1a 面上	かわらけ	7.8	5.8	1.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
8	17	1a 面上	かわらけ	8.1	6.8	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1完形
8	18	1a 面上	かわらけ	(8.1)	(5.8)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
8	19	1a 面上	かわらけ	7.9	4.8	2.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針多・小石粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:完形
8	20	1a 面上	かわらけ	(13.7)	(9.6)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:赤色粒多・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
8	21	1a 面上	かわらけ	11.9	8.8	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針多・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:糸切痕を意図的にナデ消しか
8	22	1a 面上	かわらけ	(11.0)	(7.3)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/6
8	23	1a 面上	かわらけ	(12.0)	(8.8)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:口唇部わずかに黒色に変色
8	24	1a 面上	かわらけ	12.4	8.4	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 糸切り痕を意図的にナデ消しか b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
8	25	1a 面上	かわらけ	12.1	7.4	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針多・泥岩粒多・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
8	26	1a 面上	かわらけ	(12.0)	(8.4)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4 g:内外面黒色に変色
8	27	1a 面上	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針多・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
8	28	1a 面上	青磁 鎚蓮弁文碗	-	(3.5)	[3.6]	b:白色 精良堅緻 気孔あり d:緑灰色 e: f:底部片 g:外面蓮弁文
8	29	1a 面上	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・石英 c:暗褐色 d:自然釉(暗緑色) e: f:口縁部片 g:6a型
8	30	1a 面上	金属製品 釘	4.4	0.4	0.4	a:鍛造 断面方形 f:錆の付着が著しい
8	31	1a 面上	石製品 基石	1.6	1.3	0.4	
8	32	1a 面上	石製品 基石	1.8	1.6	0.3	
11	1	1b 遺構15	かわらけ	(7.7)	(5.4)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
11	2	1b 遺構18	かわらけ	(8.2)	6.9	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
11	3	1b 遺構21	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
11	4	1b 遺構28	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
11	5	1b 遺構32	かわらけ	(5.3)	(5.9)	0.7	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭によるナデ b:緻密な粉質の微細粒 良土 c:灰白色 e:良好 f:1/4 g:白かわらけ・口縁部内折れ
11	6	1b 遺構32	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石 c:灰色 降灰部淡緑色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:へらによる線刻窯印か
11	7	1b 遺構33	青白磁 皿	-	-	-	b:白色 精良堅緻 d:水青色 e:良好 f:底部片 g:型打ちによる双鱼蓮花文か
11	8	1b 遺構34	かわらけ	(11.6)	(8.2)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
11	9	1b 遺構34	金属製品 釘	[4.2]	[0.6]	[0.5]	a:鍛造 断面方形 f:先端部欠損

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ()=復元値 []=残存値
				()=復元値 []=残存値			
11	10	1b面 遺構36	てづくね	(8.5)	-	1.8	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
11	11	1b面 遺構36	かわらけ	(10.1)	(9.0)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f:1/6
11	12	1b面 遺構46	かわらけ	(8.7)	(7.0)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
11	13	1b面 遺構51	かわらけ	(10.2)	(8.0)	2.8	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
11	14	1b面 遺構58	かわらけ	8.1	6.7	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
11	15	1b面 遺構139	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石粒多 c:灰色 自然釉(淡緑色) e:良好 f:口縁部片 g:6a型
11	16	1b面 遺構142	山茶碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 砂粒・長石多 c:灰色 自然釉(淡緑色) e:良好・硬質 f:口縁部片
11	17	1b面 遺構147	山茶碗	(15.7)	-	[5.5]	a:ロクロ b:灰色 砂粒多・白色粒・長石・砂礫 粗土 c: e:良好・硬質 f:口縁部片
11	18	1b面 遺構153	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・石英・長石 c:暗褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:格子文の押印
11	19	1b面 遺構153	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:褐色 砂粒・長石多・石英多 やや粗土 c:暗褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:格子文の押印
11	20	1b面 遺構155	かわらけ	(8.1)	(7.0)	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
11	21	1b面 遺構155	かわらけ	7.9	6.0	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
11	22	1b面 遺構155	かわらけ	(12.7)	(9.0)	2.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:内外面黒色に変色 器壁剥離
11	23	1b面 遺構155	かわらけ	(11.6)	(8.3)	3.5	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3 g:外面一部黒色に変色
11	24	1b面 遺構156	かわらけ	(8.0)	(6.5)	1.4	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3
11	25	1b面 遺構156	かわらけ	(8.5)	(6.6)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3 g:内外面一部黒色に変色
11	26	1b面 遺構157	かわらけ	7.9	6.2	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
11	27	1b面 遺構158	かわらけ	(8.5)	(6.6)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
11	28	1b面 遺構158	かわらけ	(8.7)	(7.4)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
11	29	1b面 遺構159	かわらけ	8.0	6.0	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針少量 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
11	30	1b面 遺構161	かわらけ	(8.0)	(6.2)	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色
11	31	1b面 遺構161	かわらけ	(13.0)	(9.7)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2 g:内外面黒色に変色
11	32	1b面 遺構161	山茶碗	-	-	-	a:ロクロ b:砂粒・白色粒・長石多・石英多 粗土 c:灰色 e:良好 f:口縁部片
11	33	1b面 遺構163	かわらけ	(11.8)	(9.0)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
11	34	1b面 遺構163	山茶碗	(13.4)	-	-	a:ロクロ b:砂粒・白色粒・黒色粒 良土 c:灰色 e:良好 f:口縁部片
11	35	1b面 遺構167	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3 g:底部粘土版貼り付け
12	1	1面 構成土	てづくね	(9.6)	-	(2.1)	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭・ナデ b:雲母・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/6
12	2	1面 構成土	てづくね	(9.7)	(8.0)	1.9	a:てづくね・内底ナデ b:赤色粒・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	3	1面 構成土	てづくね	(13.2)	-	(2.8)	a:てづくね・内底ハケによるナデ・外底指頭・ナデ b:雲母・海綿骨針・小石粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/6
12	4	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.3	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
12	5	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.3	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	6	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.1)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	7	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
12	8	1面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
12	9	1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.8)	1.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
12	10	1面 構成土	かわらけ	(8.5)	(5.7)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色
12	11	1面 構成土	かわらけ	(7.9)	(6.5)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針少量・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
12	12	1面 構成土	かわらけ	(8.1)	(6.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒多・雲母多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 () = 復元値 [] = 残存値
				() = 復元値 [] = 残存値			
12	13	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
12	14	1面 構成土	かわらけ	8.3	6.4	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:内面油煤痕
12	15	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	16	1面 構成土	かわらけ	(8.7)	(6.8)	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4 g:内面に黒色物質付着
12	17	1面 構成土	かわらけ	(8.8)	(7.7)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
12	18	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
12	19	1面 構成土	かわらけ	(7.5)	(6.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	20	1面 構成土	かわらけ	(7.9)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	21	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	22	1面 構成土	かわらけ	7.9	5.6	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内外面口唇部油煤痕
12	23	1面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.7)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	24	1面 構成土	かわらけ	(7.7)	(6.5)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・小石粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/6
12	25	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒多・雲母・海綿骨針少量・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	26	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	27	1面 構成土	かわらけ	7.9	6.3	1.5	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
12	28	1面 構成土	かわらけ	8.3	6.0	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	29	1面 構成土	かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	30	1面 構成土	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・白色粒・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4 g:全体に黒色に変色
12	31	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
12	32	1面 構成土	かわらけ	(7.7)	(6.4)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底静止糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
12	33	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内外面黒色に変色
12	34	1面 構成土	かわらけ	(8.0)	(5.5)	2.0	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
12	35	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	36	1面 構成土	かわらけ	(9.3)	(7.2)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:赤色粒・雲母多・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	37	1面 構成土	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2 g:全体に磨耗
12	38	1面 構成土	かわらけ	(11.0)	(8.2)	2.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	39	1面 構成土	かわらけ	(11.7)	(8.8)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
12	40	1面 構成土	かわらけ	12.4	8.0	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	41	1面 構成土	かわらけ	(12.0)	(9.0)	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:見込み・底部中央黒色に変色
12	42	1面 構成土	かわらけ	(11.9)	(7.6)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕ナデ消され不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	43	1面 構成土	かわらけ	11.8	6.9	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:3/4
12	44	1面 構成土	かわらけ	(11.9)	(8.6)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:内外面一部黒色に変色
12	45	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	8.2	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:暗褐色 e:良好 f:1/2
12	46	1面 構成土	かわらけ	12.8	8.0	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4 g:内外面口縁～底部黒色に変色
12	47	1面 構成土	かわらけ	(12.5)	(8.2)	2.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕ナデ消され不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	48	1面 構成土	かわらけ	(13.3)	(10.0)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:淡黄灰色 e:良好 f:1/3 g:内外面口唇部油煤痕 灯明皿として使用
12	49	1面 構成土	かわらけ	(13.2)	(9.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3 g:内外面口唇部油煤痕 灯明皿
12	50	1面 構成土	かわらけ	(13.8)	(8.9)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ()=復元値 []=残存値
				()=復元値 []=残存値			
12	51	1面 構成土	かわらけ	(10.0)	(6.0)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	52	1面 構成土	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	b:灰色 精良堅緻 d:暗灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:細かな貫入あり
12	53	1面 構成土	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:外面蓮弁文
12	54	1面 構成土	白磁 口元皿	(10.8)	-	[2.5]	b:白色 精良堅緻 d:乳白色 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部露胎
12	55	1面 構成土	白磁 口元碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片
12	56	1面 構成土	白磁 口元碗	-	-	-	b:白色 精良堅緻 d:淡青灰色 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部露胎
12	57	1面 構成土	青白磁 皿	-	-	-	a:ロクロ b:白色 精良堅緻 d:水青色 e:良好 f:口縁部片 g:型押し 内面蓮弁文
12	58	1面 構成土	瀬戸 入子	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 黒色粒微量 精良土 e:良好 f:輪花型
12	59	1面 構成土	山茶碗	(13.0)	-	-	a: b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 やや粗土 c:灰色 e:良好・やや軟質 f:1/5 g:6型式
12	60	1面 構成土	山茶碗	(14.9)	-	-	a:ロクロ b:砂粒・白色粒・小石粒 やや粗土 c:灰色 e:良好 f:口縁部片 g:6a類か?
12	61	1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c:灰色 降灰部灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式
12	62	1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒多・小石粒 c:灰色 降灰部灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式
12	63	1面 構成土	金属製品 釘	(4.2)	0.5	0.3	a:鍛造 断面長方形 f:下端部欠損
12	64	1面 構成土	金属製品 釘	(4.4)	0.4	0.4	a:鍛造 断面方形 f:先端部欠損
12	65	1面 構成土	金属製品 銅銭	外径2.4・孔幅0.7×0.7			g:熙寧元宝 北宋1068年 真書
12	66	1面 構成土	瓦 宇瓦	-	-	-	b:淡灰白色 砂粒多 c:灰黒色 e:良好 g:瓦当面微砂粒多に付着 上向剣頭文・三つ鱗文 瓦当貼付け
14	1	2面 面上	てづくね	13.0	-	3.3	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭・ナデ b:雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3 g:歪みあり
14	2	2面 面上	かわらけ	8.1	6.1	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
16	1	3面 構成土	須恵器 坏	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 白色粒・海綿骨針 良土 c: e:良好 f:口縁部片 g:南比企8c代
17	1	表土採集	白かわらけ	(11.6)	-	2.0	a:てづくね・外底指頭ナデ消し・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・小石粒 やや粗土 c:乳白色 e:良好 f:1/4
17	2	表土採集	かわらけ	4.6	3.6	0.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c: 橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内折れ極小かわらけ
17	3	表土採集	かわらけ	7.3	5.4	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/2
17	4	表土採集	かわらけ	7.6	5.2	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c: 橙色 e:良好 f:2/3
17	5	表土採集	かわらけ	(7.8)	5.4	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/5
17	6	表土採集	かわらけ	(7.5)	(5.8)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:1/3
17	7	表土採集	かわらけ	7.8	6.0	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:3/4 g:内外面口唇部に油煤痕
17	8	表土採集	かわらけ	(7.7)	5.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:2/3
17	9	表土採集	かわらけ	7.7	5.8	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:2/3
17	10	表土採集	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
17	11	表土採集	かわらけ	8.0	5.9	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c: 黄灰色 e:良好 f:3/4
17	12	表土採集	かわらけ	(8.0)	(5.7)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/3
17	13	表土採集	かわらけ	(8.5)	(6.5)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
17	14	表土採集	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/3
17	15	表土採集	かわらけ	7.8	5.0	1.9	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:3/4
17	16	表土採集	かわらけ	7.3	5.6	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c: 黄灰色 e:良好 f:3/4
17	17	表土採集	かわらけ	(7.3)	(5.6)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:1/3
17	18	表土採集	かわらけ	(7.4)	(5.5)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/2
17	19	表土採集	かわらけ	(8.2)	(6.0)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/3
17	20	表土採集	かわらけ	(8.8)	(7.4)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/3

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				()=復元値 []=残存値			
17	21	表土採集	かわらけ	(9.0)	(5.8)	2.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
17	22	表土採集	かわらけ	11.4	8.3	2.6	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
17	23	表土採集	かわらけ	(13.2)	(8.8)	2.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
17	24	表土採集	かわらけ	(13.4)	(9.0)	2.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
17	25	表土採集	かわらけ	(11.2)	(6.9)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5 g:内外面僅かに黒色に変色
17	26	表土採集	かわらけ	11.4	7.8	3.0	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
17	27	表土採集	かわらけ	(11.6)	(7.5)	3.2	a:ロクロ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
17	28	表土採集	かわらけ	(12.4)	(8.2)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切痕をナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
17	29	表土採集	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面僅かに黒色に変色
17	30	表土採集	かわらけ	(11.8)	(6.0)	3.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
17	31	表土採集	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片
17	32	表土採集	青磁 鎚蓮弁文碗	(17.1)	-	-	b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:淡灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:内底面に沈線巡る 蓮弁文横位の削りによる調整
17	33	表土採集	青磁 折腰鉢	-	-	-	b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片
17	34	表土採集	青磁 蓮弁文鉢	-	(13.6)	-	b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:暗灰緑色 e:良好 f:高台部片 g:内面蓮弁文・外面無文 高台底部露胎 高台内部施釉
17	35	表土採集	白磁 口元皿	(11.4)	-	-	a:ロクロ b:淡灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:口縁部内外面に厚く油煤痕
17	36	表土採集	青白磁 梅瓶	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:水青色 e:良好 f:体部片
17	37	表土採集	緑釉 壺・甕類	-	-	-	b:灰白色 黒色粒・褐色砂粒 やや粗土 d:緑色 e: f:体部片 g:外面銀化している 体部小片の為器種は定かではない
17	38	表土採集	瀬戸 入子	(6.4)	(4.3)	1.8	a:ロクロ b:灰色 精良土 c: e:良好 d:自然釉(灰緑色) f:1/4
17	39	表土採集	瀬戸 碗	-	-	-	a:ロクロ b:淡黄灰色 黒色砂粒 精良土 c: d:淡黄灰色 e:良好 軟質 f:口縁部片
17	40	表土採集	瀬戸 片口鉢	-	-	-	a:輪積み b:淡赤褐色 砂粒・長石粒・白色粒・小石粒 c:淡赤褐色 e:良好・硬質 f:口縁部片
17	41	表土採集	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a:輪積み b:暗灰褐色 砂粒・長石粒・石英粒多 c:暗赤褐色 d:自然釉(暗緑色) e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型
17	42	表土採集	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・石英粒 良土 c:灰褐色 d:自然釉(灰緑色) e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型
17	43	表土採集	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	(14.0)	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石粒・石英粒・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:高台部片 g:貼付け高台 6a型
17	44	表土採集	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	(14.7)	-	a:輪積み b:淡赤褐色 砂粒・石英粒・長石粒・小石粒やや多い c:淡赤褐色 e:良好・硬質 f:1/4 g:貼付け高台 6a型
17	45	表土採集	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒やや多い c:暗赤褐色 降灰部灰緑色 e:良好・硬質 f:口縁部片
17	46	表土採集	瓦器質 火鉢	-	-	-	a:輪積み b:淡橙灰色 砂粒多・雲母・白色粒 c:黄灰色 e: f:口縁部片 g:内面黒色に変色 V類
18	47	表土採集	土器質 火鉢	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒多・白色粒・雲母 c:暗灰色 e: f:口縁部片 g:内外面横位のヘラナデ 内面黒色に変色 I類
18	48	表土採集	土器質 火鉢	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒 c:暗灰色 e: f:口縁部片 g:内外面横位のヘラナデ I類
18	49	表土採集	瓦 丸瓦	-	-	1.8	a:凹面離れ砂若干付着 布目痕 縦位ナデ 凸面離れ砂若干付着 縄目叩き 縦位ナデにより不鮮明 叩き板幅不明 側面ケズリ 側縁幅広のケズリ b:灰白色 砂粒・若干小石粒 c:灰色 e:良好
18	50	表土採集	金属製品 火箸	(18.5)	0.5	0.4	a:鍛造 断面三角形 f:上下先端欠損 錆の付着が著しい
18	51	表土採集	金属製品 釘	(6.0)	0.55	0.35	a:鍛造 断面長方形
18	52	表土採集	金属製品 釘	(6.0)	0.4	0.3	a:鍛造 断面長方形
18	53	表土採集	金属製品 釘	(5.0)	0.5	0.3	a:鍛造 断面長方形
18	54	表土採集	金属製品 釘	(4.2)	0.4	0.3	a:鍛造 断面長方形
18	55	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.5・孔幅0.7×0.7			g:元祐通寶 北宋1086年 行書
18	56	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.4・孔幅0.6×0.6			g:熙寧元宝 北宋1068年 篆書
18	57	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.4・孔幅0.6×0.6			g:聖宋元宝 北宋1101年 篆書
18	58	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.3・孔幅0.8×0.8			g:天聖元宝 北宋1023年 篆書

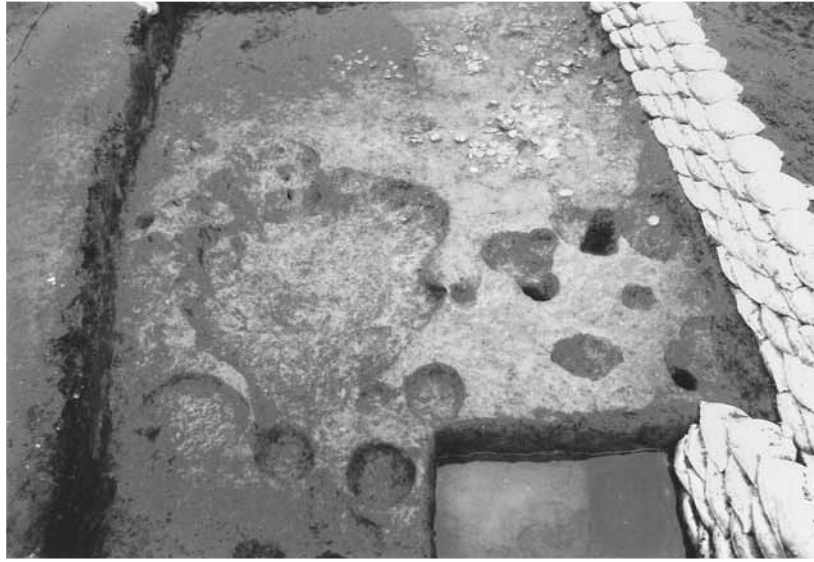
出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ()=復元値 []=残存値
				()=復元値 []=残存値			
18	59	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.3・孔幅0.7×0.7			g:澠寧元宝 北宋1068年 篆書
18	60	表土採集	石製品 砥石	[3.8]	[3.7]	[0.7]	c:淡黄白色 f:破片 g:鳴滝産仕上砥 頁岩 上面のみ細かな擦痕(刃物痕)あり 砥面1面 側面切り出し痕遺存
18	61	表土採集	石製品 火打石	-	-	-	f:破片 g:石英
18	62	表土採集	石製品 基石	2.4	2.0	0.45	c:暗緑灰色 f:完形
18	63	表土採集	石製品 基石	1.9	1.6	0.4	c:黒色 f:完形
18	64	表土採集	骨製品 駒	2.0	1.0	0.5	c:白色 f:1/2 g:双六の駒
18	65	表土採集	骨製品 筭	[7.6]	1.5	0.3	f:1/4

単位 (cm)

出土遺物破片数表

KGS 川越重頼邸遺跡		表土遺物集計	1面遺物集計	1b面遺物集計	2面遺物集計	3面遺物集計	最終トレンチ遺物集計	合計	%	
かわらけ	糸 大	639	2810	260	36	2		3747	73.0	
	糸 小	127	760	73	9			969	18.9	
	糸極小	1						1	0.0	
	手 大	2	13	1	1			17	0.3	
	手 小		3	1				4	0.1	
	白かわらけ	3	9	7				19	0.4	
	内折かわらけ			1				1	0.0	
	用途不明 転用品		1					1	0.0	
舶載陶磁器	青磁	蓮弁文碗	7	22	2				31	0.6
		蓮弁文小型碗		1					1	0.0
		碗	15	5					20	0.4
		折縁皿		1					1	0.0
		皿	3						3	0.1
		器種不明		2					2	0.0
	米色青磁	蓮弁文碗		1					1	0.0
		青白磁	梅瓶	2	1				3	0.1
			小型皿		1	1			2	0.0
			碗		1				1	0.0
	染付碗			1				1	0.0	
	器種不明		1				1	0.0		
	白磁	皿		2					2	0.0
		碗		1					1	0.0
		口兀皿		6					6	0.1
		口兀碗		1					1	0.0
		口兀	8	2					10	0.2
染付		1						1	0.0	
器種不明										
彩釉陶磁器	緑釉	盤	2	3				5	0.1	
		瓶子	1					1	0.0	
	緑青釉	皿		1				1	0.0	
国産陶器	瀬戸	碗	3	2	1			6	0.1	
		折縁皿		1				1	0.0	
		入子	1	1					2	0.0
		盤		1					1	0.0
		瓶子	1						1	0.0
		縁釉小皿			1				1	0.0
	器種不明		1					1	0.0	
	常滑	甕	50	41	10				101	2.0
		片口鉢Ⅰ類	19	16	4				39	0.8
		片口鉢Ⅱ類		6	1				7	0.1
		山茶碗	1	3	2		1		7	0.1
		山茶皿		1	1				2	0.0
	鉢			1				1	0.0	
	不明陶器	1						1	0.0	
土製品	丸瓦	1						1	0.0	
	平瓦		2					2	0.0	
	軒平瓦		1					1	0.0	
瓦質製品	火鉢	9	5	1				15	0.3	
土器質製品	火鉢		1					1	0.0	
	器種不明		1					1	0.0	
石製品	砥石	4	2					6	0.1	
	基石	3	2					5	0.1	
滑石製品	鍋	3	1					4	0.1	
	器種不明		1	1				2	0.0	
金属製品	鉄釘	8	14	2				24	0.5	
	銅銭	10	2					12	0.2	
	器種不明	1						1	0.0	
自然遺物	玉石		14	1				15	0.3	
	木片	1	1			2	5	9	0.2	
	貝	1						1	0.0	
	炭化材			1				1	0.0	
	果核	5						5	0.1	
	骨		1					1	0.0	
	獣骨	1	2					3	0.1	
高師小僧					1		1	0.0		
合計	合計	934	3772	373	47	5	5	5136	100.0	
%	%	18.2	73.4	7.3	0.9	0.1	0.1	100.0		



◀ I 区
第 1a 面 (北から)



▲
II 区
第 1a 面 (北から)



▲ II 区 遺構 120・121・130 (南から)



◀ I 区
第 1a 面
かわらけ出土状況
(西から)



◀ I区
第1b面（北から）



▲
II区
第1b面（北から）



▲ I区 1b面南東隅



◀ II区
第1b面
遺構検出状況



◀ I区
第2面（北から）



▲ II区 第2面（北から）



▲ II区 第2面（北から）



◀ 第2面
遺構 212（西から）



▲ II区 第3面 (北から)



▲ I区 第3面 (北から)



▲ II区 最終確認トレンチ



▲ I区 最終確認トレンチ



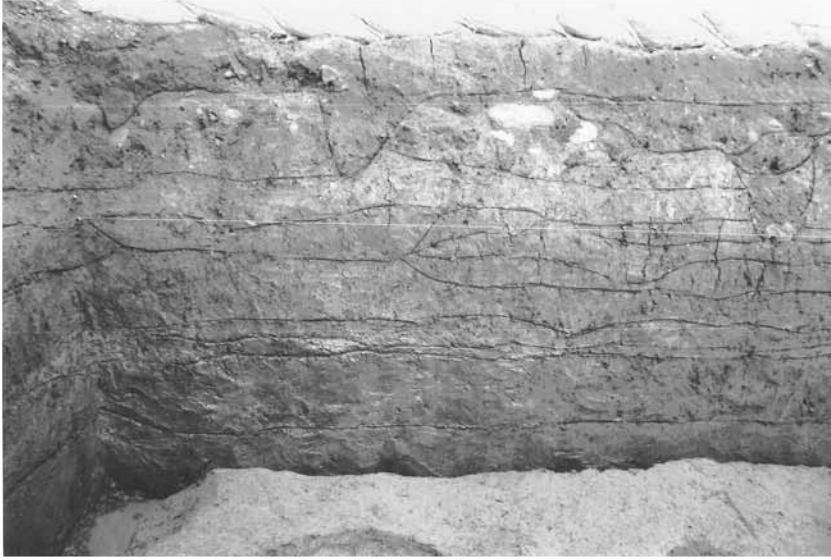
▲ I 区 東壁堆積土層（北側）



▲ I 区 東壁堆積土層（中央）



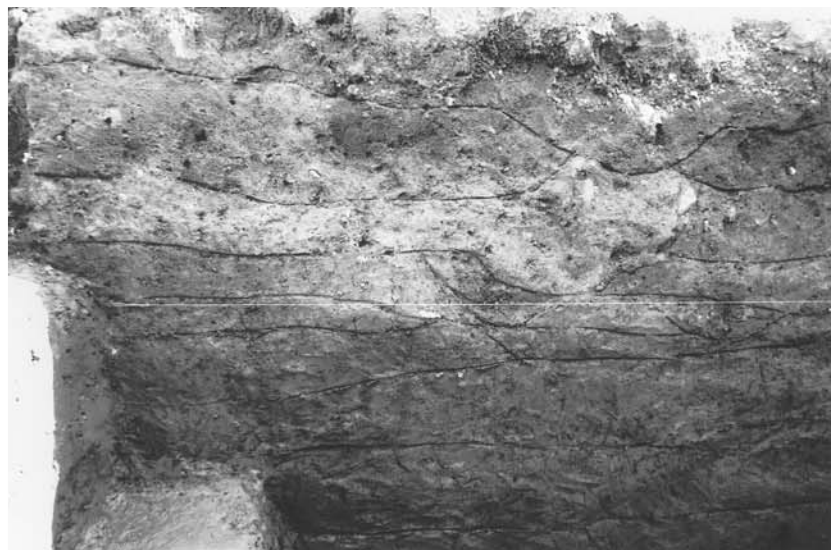
▲ I 区 東壁堆積土層（南側）



▲ II区 西壁堆積土層 (南側)



▲ II区 西壁堆積土層



▲ II区 南壁堆積土層



◀ I区 南壁



◀ II区 北壁



◀ 最終確認トレンチ



5-1

▲第 1a 面遺構 6



5-4



5-7



5-8

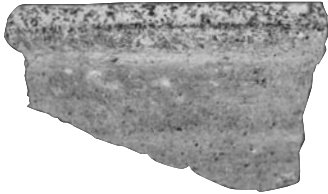


5-9

▲第 1a 面遺構 125



▲第 1a 面遺構 116



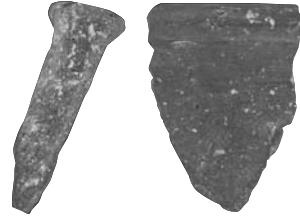
5-10

▲第 1a 面遺構 127



5-13

▲第 1a 面遺構 129



5-18

▲第 1a 面遺構 132



6-1



5-11

▲第 1a 面遺構 128



5-17

▲第 1a 面遺構 130



6-7



6-10



6-11



6-13



6-16



6-17



6-20



6-28



6-29



6-34



6-35



6-37



6-39



6-40



6-42



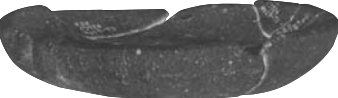
6-43



6-45



6-48



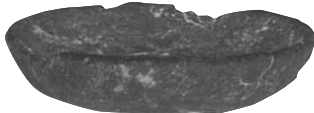
6-53



6-56



6-58



6-60



6-62



6-63



6-64



6-67

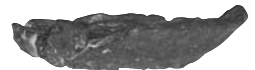


6-69

▲第 1a 面遺構 24



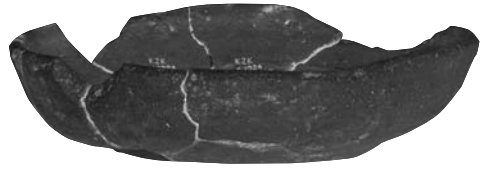
6-70



6-71



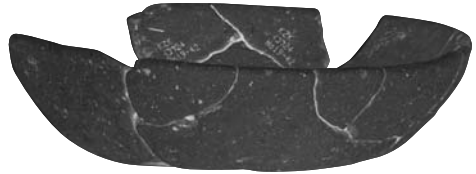
6-75



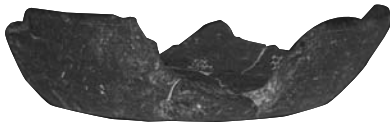
6-81



6-82



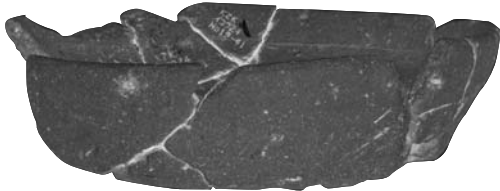
6-85



6-86



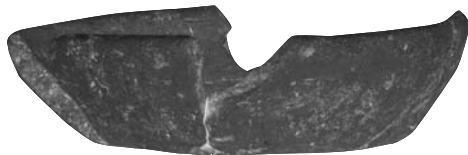
6-88



7-91



7-95



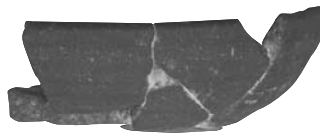
7-97



7-101



7-102



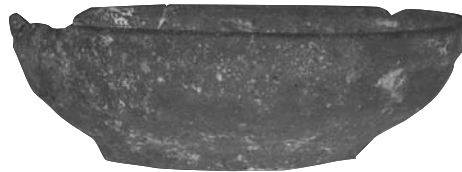
7-104



7-106



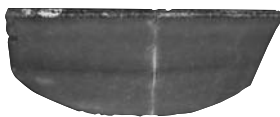
7-107



7-108



7-110



7-119



7-120



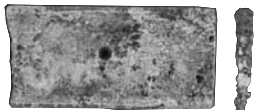
7-123



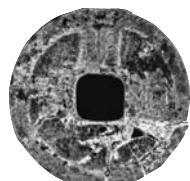
7-124



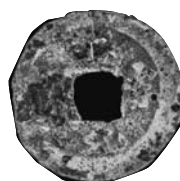
7-125



7-126



7-128



7-129

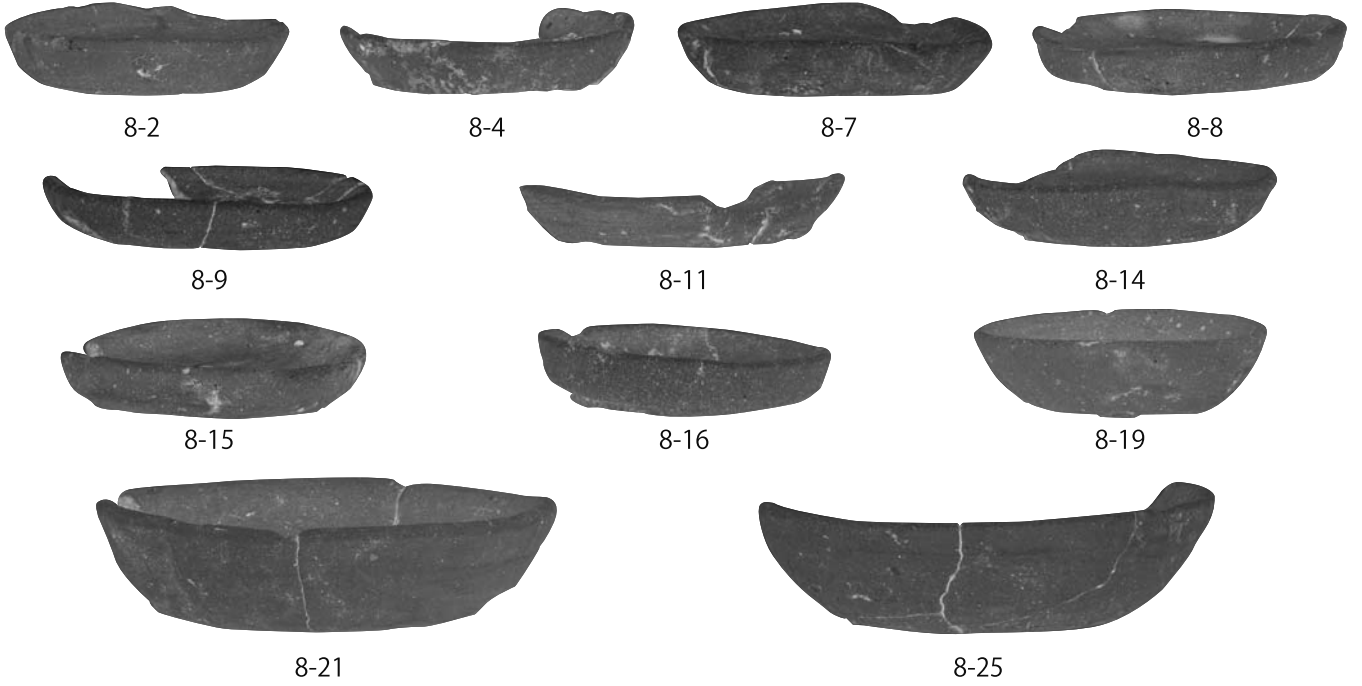


7-131

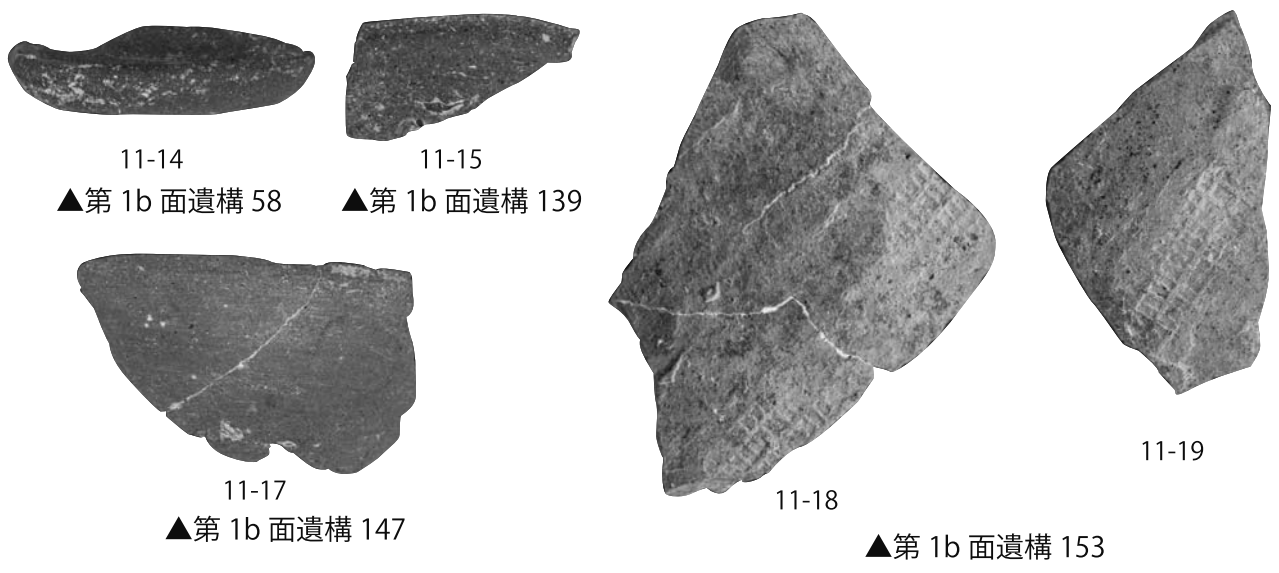
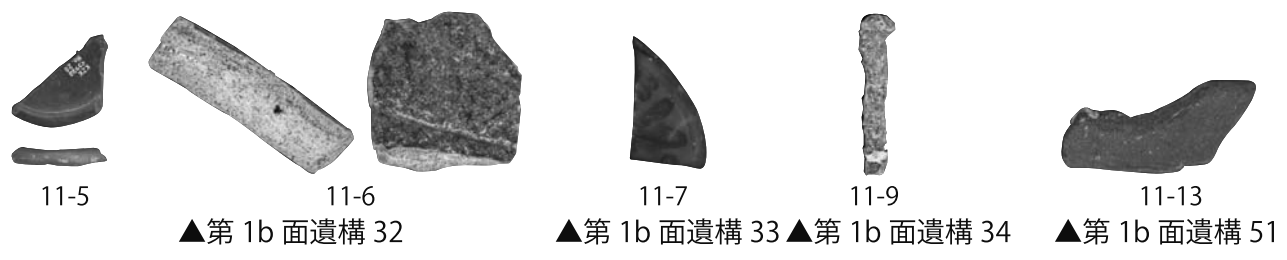


7-132

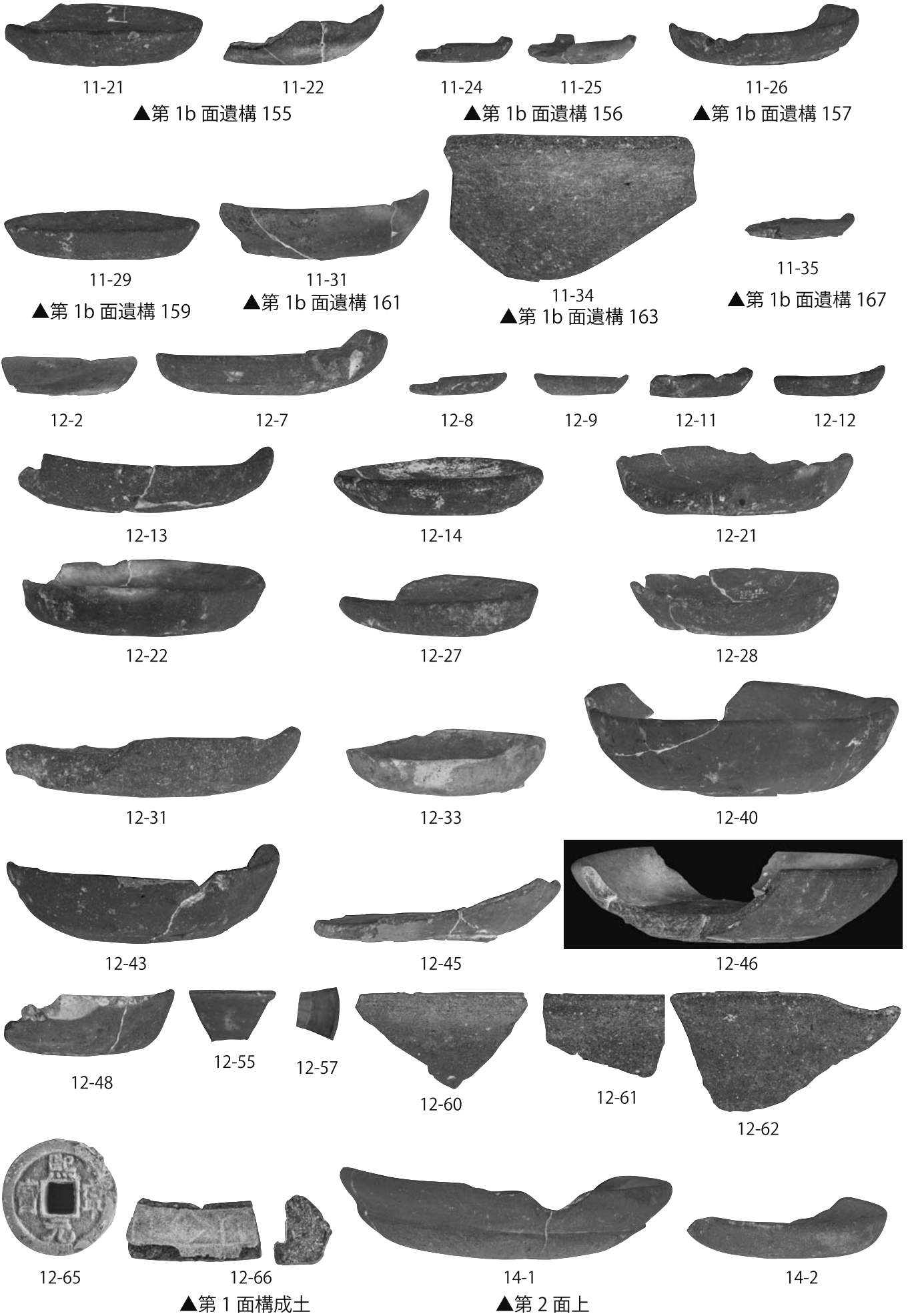
▲第 1a 面遺構 24



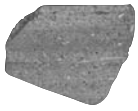
▲第 1a 面面上出土遺物



図版 11



図版 12



16-1



17-1



17-3



17-4



17-6

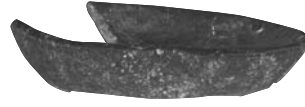
▲第3面構成土



17-7



17-9



17-11



17-14



17-15



17-16



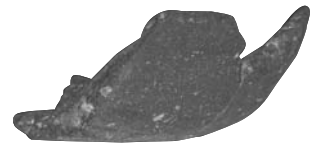
17-22



17-26



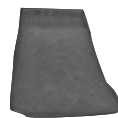
17-29



17-30



17-32



17-33



17-34



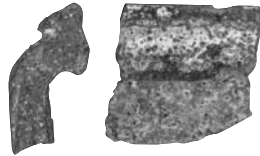
17-35



17-38



17-41



17-45



17-46



18-47



18-48



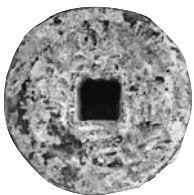
18-51



18-55



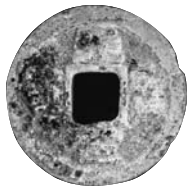
18-50



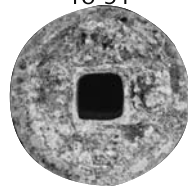
18-56



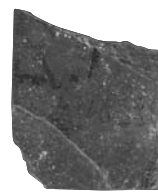
18-57



18-58



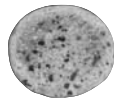
18-59



18-60



18-61

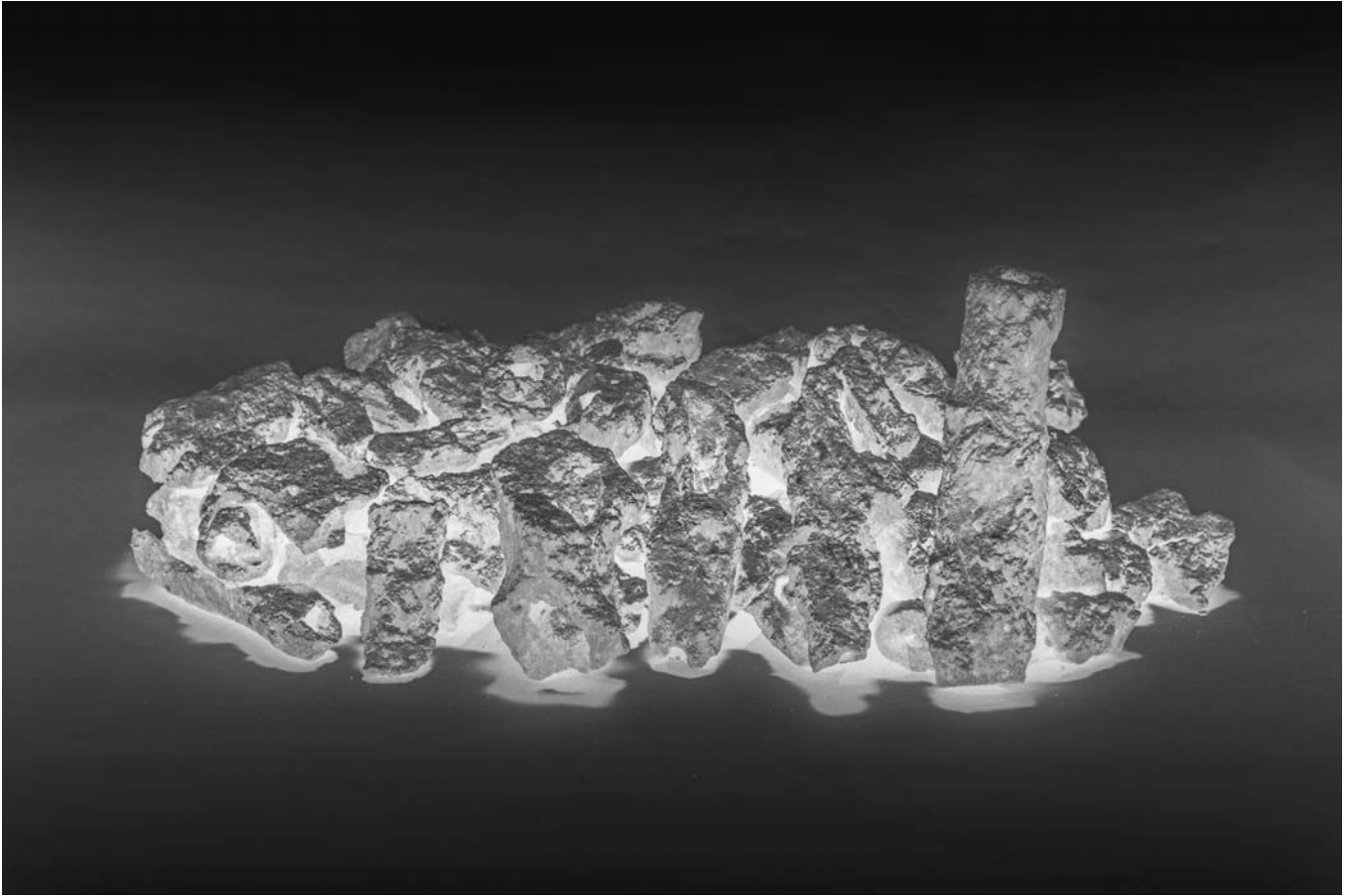


18-62

▲表土採集



18-65



▲出土した高師小僧(一部)

桑ヶ谷療病院跡 (No.294)

長谷三丁目 630 番 1 地点

例言

- 1 本報は桑ヶ谷療病院跡（神奈川県遺跡台帳 No.294）に所在する鎌倉市長谷三丁目 630 番 1 地点における個人専用住宅の建設に伴う緊急発掘調査報告である。調査面積は約 107 m²である。
- 2 調査は平成 23 年 1 月 28 日から同年 4 月 28 日にかけて実施した。
- 3 調査体制は以下の通りである。

主任調査員	原廣志・伊丹まどか
調査員	榎岡ケイト・根本志保・平井里永子・渡邊美佐子
調査作業員	浅香文保・牛嶋道夫・宇都宮和信・江津兵太・佐藤淳一・杉浦永章・中須洋二 根市真古人・宝珠山秀雄(鎌倉市シルバー人材センター)
- 4 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測	清水由加里
遺構図版作成	吉田桂子
遺物図版作成	伊丹まどか
遺物観察表	伊丹まどか・渡邊美佐子
遺構計測表	伊丹まどか
遺構写真	根本志保・原廣志・須佐仁和・伊丹まどか
遺物写真	須佐仁和
写真図版作成	小野夏菜・吉田桂子
執筆・編集	伊丹まどか
- 5 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。
- 6 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図	: 1/50	個別遺構図	: 1/40	遺物実測図	: 1/3	* 銭は原寸
-------	--------	-------	--------	-------	-------	--------

なお各挿図にはスケールを表示してある。
- 7 検出した遺構の計測値は表にまとめて掲載した。
- 8 復原して実測した遺物は計測値の欄に還元値は（ ）を、残存値は[]を付して表した。
- 9 「かわらけ」と記載したものは回転ロクロ成形の物を指し、手づくね成形の物は「手づくね」と記載している。
- 10 ロクロ整形のかわらけの底径は回転糸切りの外径部分で計測し、手づくね成形のかわらけは底径を記載していない。
- 11 出土遺物に関しては、生産地での編年を参考に観察表に年代を示したが、破片の為に不安の残るものに関しては割愛した。常滑製品は中野晴久氏。瀬戸製品は藤澤良祐氏。火鉢は河野眞知郎氏の編年に基づいて分類した。
- 12 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。
(五十音順・敬称略)
小野夏菜・松尾宜方・馬淵和雄・山口正紀

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	432
第1節 歴史的環境(図1)	
第2節 遺跡位置とグリッド配置図(図2)	
第3節 堆積土層(図3)	
第二章 発見された遺構と遺物	440
第1節 第1面の遺構と遺物	
第2節 第2面の遺構と遺物	
第3節 第3面の遺構と遺物	
第三章 まとめ	456
第1節 検出した遺構と遺物	
第2節 まとめ	

表目次

遺構計測表	458
遺物観察表	460

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	433	図11 第2面構成土出土遺物	446
図2 遺跡位置とグリッド配置	435	図12 第3面個別遺構図(1)	448
図3 調査区堆積土層図	436	図13 第3面個別遺構図(2)	449
図4 第1面全測図	437	図14 第3面個別遺構図(3)	450
図5 第2面全測図	438	図15 第3面個別遺構図(4)	451
図6 第3面全測図	439	図16 第3面遺構出土遺物(1)	452
図8 第1面個別遺構・出土遺物	440	図17 第3面遺構出土遺物(2)	453
図8 第1面遺構106・堀方出土遺物	422	図18 第3面面上・構成土出土遺物	454
図9 第1面面上・構成土出土遺物	443	図19 表土採集遺物	455
図10 第2面個別遺構・遺構出土遺物	445		

図版目次

図版1	469	図版5	473
I区第1面全景・遺構106石垣(II区部分)		第1面遺構(遺構2・遺構104・遺構105遺構106)・第1面 面上・第1面構成土・第2面遺構(遺構112)出土遺物	
図版2	470	図版6	474
I区・II区第2面全景・II区石列検出状況		第2面構成土・第3面遺構(遺構30・遺構31)出土遺物	
図版3	471	図版7	475
I区・II区第3面全景・遺構30検出状況		第3面遺構(遺構41・遺構115・遺構118)・ 第3面面上・第3面構成土出土遺物	
図版4	472	図版8	476
I区・II区最終確認トレンチ・I区南壁土層堆積		第3面構成土・表土出土遺物	

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境(図1)

本調査地は鎌倉市長谷三丁目 630 番 1 に所在する。鎌倉市街地の西端に位置し、JR 鎌倉駅から西南に 1600 m、江ノ電長谷駅から北へ約 400m、高德院大仏殿から南西に 300m の位置となる。東南に向かって開口する桑ヶ谷と呼ばれる谷戸のほぼ中心に位置し、開口部には現在の県道藤沢鎌倉線が南北に走る。この道路は高德院大仏殿の北西方の丘陵を笛田方面に超える道となる旧大仏切通しの下を明治 12 年 (1879) に掘削し鎌倉の中心部から深沢・藤沢方面に抜ける隧道を通してしている。旧大仏坂切通しは掘割道になっている部分が多い道であり、現在でも往時の陰しさを遺す道である。大仏坂は極楽寺坂、仮粧坂、亀ヶ谷坂、巨福呂坂、朝比奈(峠坂)、名越の切通しと合わせ、鎌倉七口と呼ばれる。中世鎌倉において「鎌倉中」と呼ばれ、鎌倉の「内」であると考えられていたのは、この七口の内であるが、鎌倉の内と外を分ける境の位置については諸説あり、元仁元年(1224)十二月二十六日、疫病が流行ったので幕府は四角四境の鬼気祭を行い、このときの四境は、東は六浦、南は小壺、西は稲村、北は山の内であったとされている。四境祭とは鎌倉の外で行う祭りである。遡って治承四年(1180)十月十一日・頼朝妻北条政子が伊豆国の阿岐戸郷から到着した際には、日次がよくないとこのことで稲瀬川辺の民屋に止宿し鎌倉の内に入ることを禁じられている。この稲瀬川辺は調査地の南に位置する現在の長谷付近を指し、調査地辺は鎌倉中ではなかったことを示していると考えられる。また、調査地の北に位置する高德院大仏殿は暦仁元年 (1238) 三月二十三日、浄光が勧進となり相州深沢里大仏堂建立事始めが行われ、同年五月十八日に頭部を上げた記事が『吾妻鏡』に見え、仁治二年(1241)三月二十七日の条にも「深沢の大仏殿」の上棟の儀があったと記している。この記事では深沢を「相模国深沢」とし調査地付近が深沢里に属していた事がわかる。また「鎌倉の深沢」とは言っておらず、深沢が鎌倉の内では無かったことを想像させ、この記事もまた、調査地辺が鎌倉中でなかったことを示すと考えられる。調査地の位置する桑ヶ谷という谷戸は、極楽寺を開山した忍性が弘安十年(1287)に癩病患者を中心とする療病所を建てており、遺跡名の「桑ヶ谷療病院跡」の由来となる。この療病所では 20 年間に癒ゆる者 46800 人、死するもの 10450 人であったと伝わり、多くの患者を助けている。その他に忍性は社会事業の一環として施薬非田院・馬病舎・癩宿・薬湯寮等の施設を開いており、極楽寺での活動以前には「関東往還記」に弘長二年 (1262) 五月一日、叡尊が鎌倉滞在中に忍性と頼玄という二人の高僧が二か所の非田で病者や貧者に食を与え十善戒を授けたとある。この二か所の非田とは前浜 (由比ガ浜一帯) と調査地辺にある大仏坂である。また、文永元年(1264)、新宮の跡で非人施行を三千余人に対して行い、極楽寺においては療病所の他に、文永十一年(1274)に大仏谷で飢饉に苦しむ人たちを集めて施粥を行い、永仁六年(1298)には調査地の南西に位置する坂の下で馬の病舎を建てている。また、忍性の伝記である『性公大徳譜』によると非人三千人分に馬衣や帷子を与えた事、189 箇所橋を作ったこと、71 箇所道を作ったこと、井戸を 33 箇所掘り、63 箇所に殺生禁断を行い、浴室・病室・非人所を 5 箇所建てたこと等が述べられている。

桑ヶ谷に関する記事では『日蓮聖人註画讃』に、建治三年 (1277) 六月、龍象房なる僧が「大仏殿門西桑ヶ谷」に法筵を開き日夜法を講じていたところ、僧日真 (三位房) がまみえて論議に及んだと記され、「桑ヶ谷問答」として知られている。

調査地北方、大谷戸と称する谷戸の開口部には先に述べた大仏を有する高德院がある。大異山高徳院清浄泉寺と号し、浄土宗。元光明寺奥の院。開山・開基は未詳である。南隣の谷奥には光則寺がある。日蓮宗。

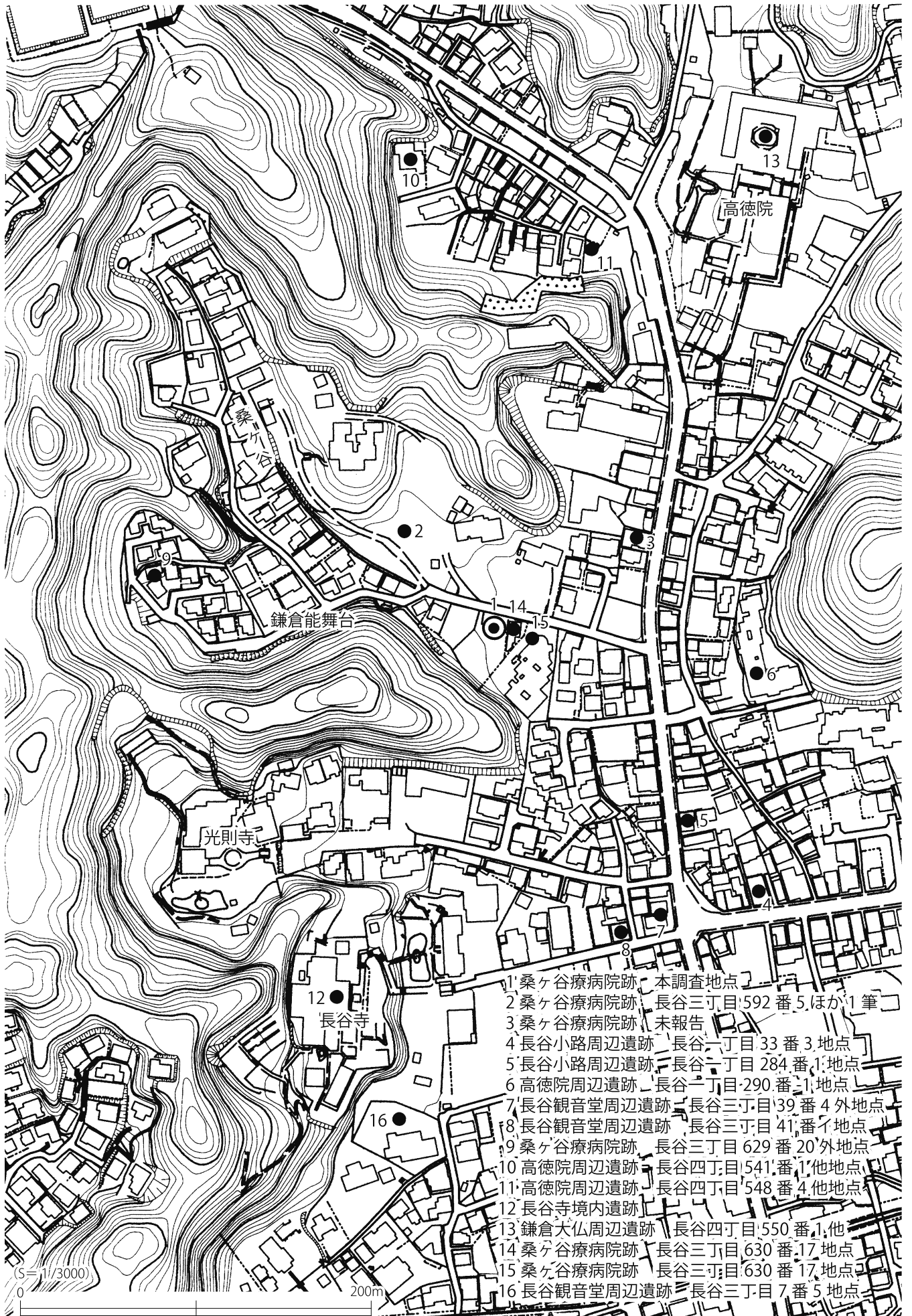


図1 調査地点と周辺の遺跡

行時山光則寺と号する。開山日朗、開基は北条時頼の近臣宿谷（屋）光則、寺域は光則の居宅跡。元妙本寺末。創建は文永十一年（1274）と伝える。光則寺の南側支谷には長谷寺がある。海光山慈照院と号し、元浄土宗光明寺末。開山徳道、開基藤原房前。天平八年（736）の創建と伝えるが、大和長谷寺の縁起に倣ったもので明確な開創年次は不明とされ、文永元年（1264）七月に物部季重が鑄造した当寺鐘銘に「新長谷寺 当寺住真光 勸進沙門浄物」とあるため、鎌倉時代末期には成立したことがわかっている。

「桑ヶ谷療病院跡」では、本調査地点の東隣、地点 14 と地点 15 で 13 世紀後半から 14 世紀前半にかけての 3 時期のわたる生活面を発見し、谷戸中央を東西に走る道路に沿った石垣による溝、谷戸開口部に向かって傾斜する地形を泥岩による石垣によってひな壇状に造成した様子を報告している。道路を挟んだ北側の地点 2 では泥岩を用いたひな壇状の造成を検出し、13 世紀前半から 16 世紀代の 5 期にわたる生活の痕跡を検出している。谷戸奥地点 9 でも 2 時期にわたる生活面とともに泥岩による石垣を使ったひな壇状の造成が発見され、ある時期に谷戸全体で大掛かりな造成が行われたと想像できる。

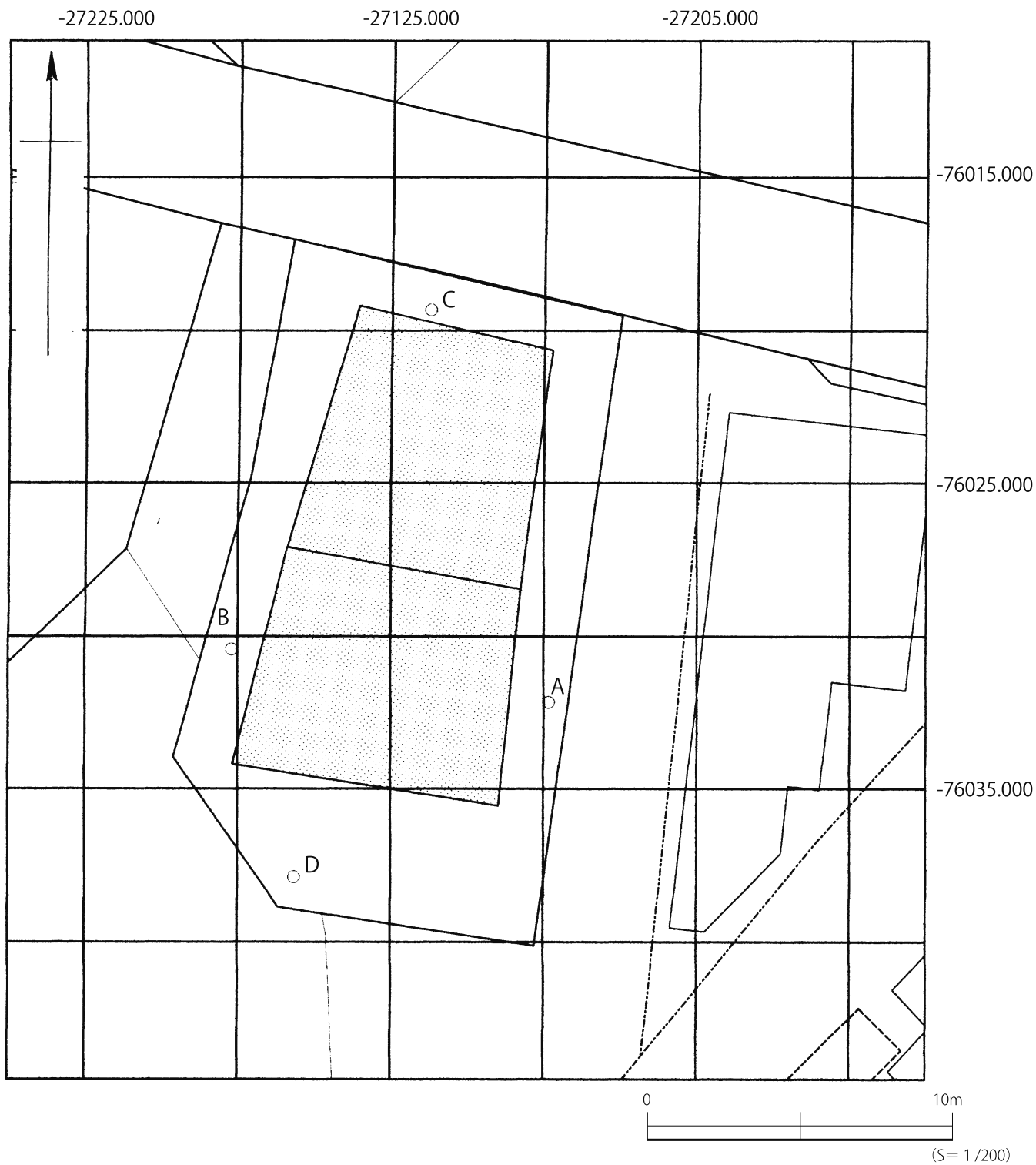
現在までに谷戸内での調査事例は少ないが、今後調査を重ねることによって、遺跡名となった「桑ヶ谷療病院」に関する諸々が明らかになることが期待される。桑ヶ谷の現在は、『鎌倉能舞台』のある谷として知られ閑静な住宅街となっている。

第 2 節 遺跡位置とグリッド配置(図 2)

調査区内で廃土を処理する場所を確保するために、調査地を I 区・II 区に分け、ともに任意の方眼軸を調査区に設けて調査を開始した。両区に設定した基準点の内、調査区の南北軸となる基準点 A と、基準点 B を使い調査地の位置とグリッドの配置を図面に示した。基準点 A と、基準点 B は鎌倉市 4 級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系（座標 AREA 9）の国土座標値を使用しているため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB 版 TKY2JGD」で世界測地系 IX 形に変換し、図 2 に表記した。

第 3 節 堆積土層(図 3)

本調査では 3 枚の生活面を発見した。調査前の現地表海拔高は 12.30m～11.20m で、南から北・西から東に向かってやや傾斜する地形であった。調査区西壁・南壁で観察した土層堆積図を用いて調査地の様相を上層より説明する。調査は、廃土の処理を調査区内で行うために I 区（調査区南側）・II 区（調査地北側）に分けて調査を行ったため、西壁土層図は中央付近に若干の空間を残す。現地表は南から北に向かって緩やかな傾斜を見るが、調査区北側は大きく現代埋土によって攪乱され大きく傾斜している。第 1 面検出海拔高は 11.50m。I 区・II 区ともに大きく現代埋土によって攪乱を受けていた。II 区北側では石垣の溝を検出している。第 1 面構成土は炭化物・褐鉄・泥岩・破碎泥岩を多く含む暗茶褐色弱粘質土。第 2 面は第 1 面同様に破碎泥岩による地業層上で遺構を検出した。調査区東端で南北に延びる石垣を検出しており、石垣を境にひな壇状の造成を行っている第 2 面構成土は泥岩・破碎泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。南壁、海拔高 10.50m 辺で第 2 面構成土は黒色粘土・青灰色砂がブロック状に混入し、堆積層が混乱していることを観察しており、洪水、あるいは津波の影響ではないかと指摘を受けた。第 3 面は I 区・II 区ともに平坦な地業層上で遺構を検出した。第 3 面構成土は褐鉄・泥岩・泥岩粒・破碎泥岩を多く含む青灰色弱粘質土。

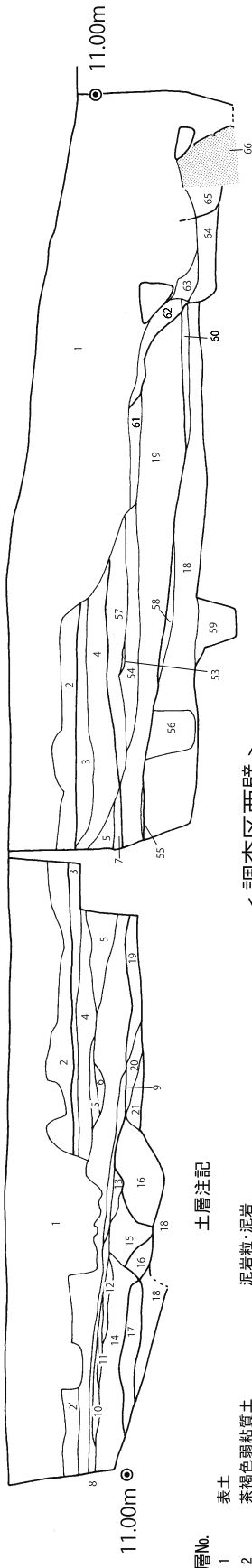


地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76388.936	-26916.439	-76032.1593	-27209.8412
B	-76387.193	-26926.792	-76030.4159	-27220.1936
C	-76376.100	-26920.330	-76019.3233	-27213.316
D	-76394.653	-26924.751	-76037.8758	-27218.1530

図2 遺跡位置とグリッド配置図

I 区

II 区



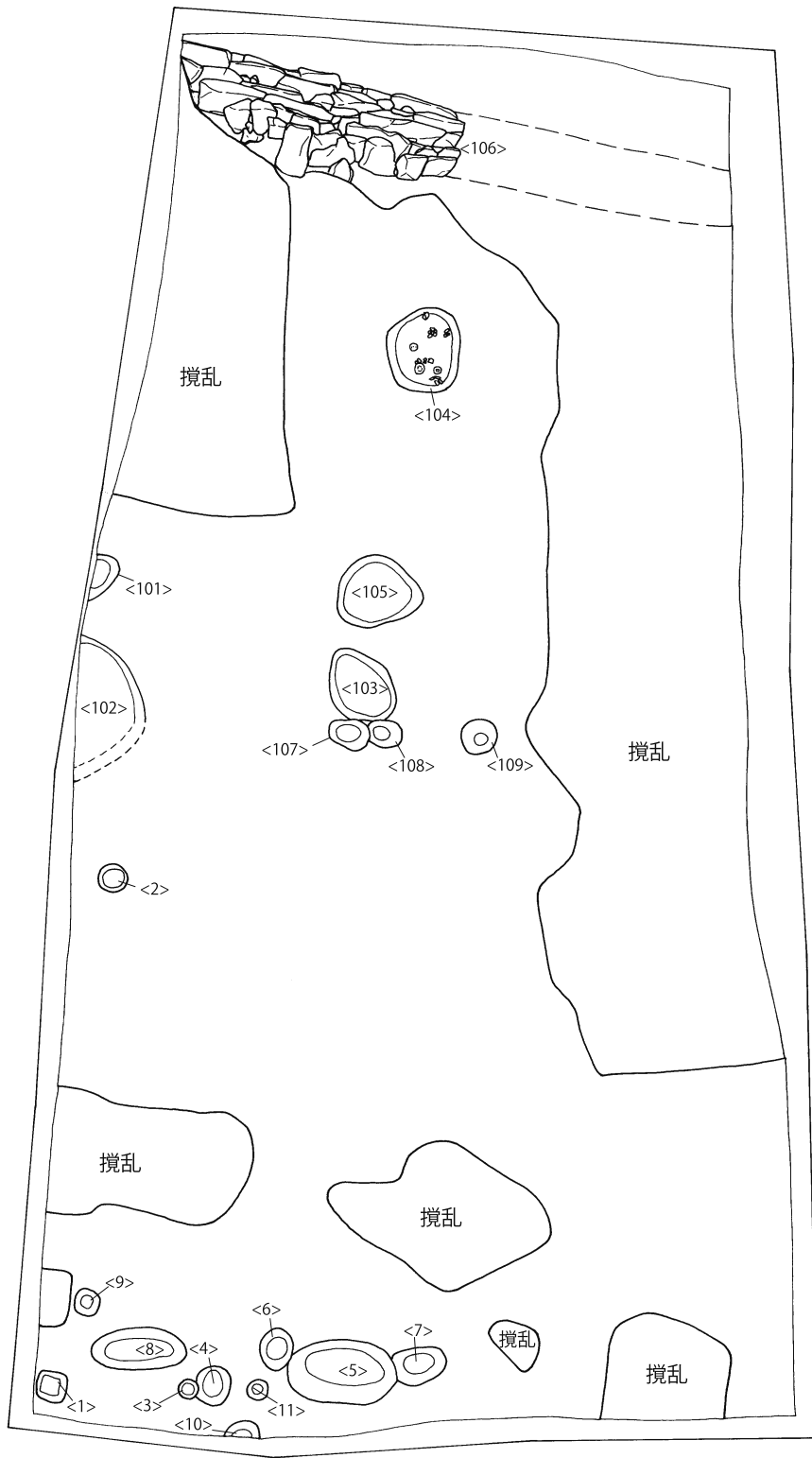
土層No.

表土

1	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩	38	黑褐色弱粘質土	泥岩粒・褐鉄・黑褐色粘土	53	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	褐色砂質土
2	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩(第1面構成土)	39	黑褐色弱粘質土	泥岩粒・褐鉄・黑褐色粘土	54	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
3	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物・褐鉄(第1面構成土)	40	青灰色弱粘質土	泥岩粒	55	茶褐色弱粘質土	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
4	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩(第1面構成土)	41	青灰色泥岩層	泥岩粒	56	黑褐色弱粘質土	黑褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
5	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐鉄	42	黑色弱粘質土	泥岩粒・青灰色泥岩	57	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	泥岩
6	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩(第1面構成土)	43	黑色粘土	黑色粘土塊	58	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
7	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄	44	灰青色粘土	黑色粘土塊	59	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄
8	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄	45	青灰色泥岩層	黑色粘土塊	60	茶褐色弱粘質土	茶褐色弱粘質土	泥岩粒
9	暗褐色弱粘質土	灰褐色粘土	46	青灰色粘土	褐鉄	61	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
10	暗褐色弱粘質土	泥岩粒	47	青灰色粘土	黑色粘土塊	62	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
11	茶褐色弱粘質土	泥岩粒	48	茶褐色粘土	黑色粘土塊	63	茶褐色弱粘質土	茶褐色弱粘質土	泥岩粒
12	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄	49	青灰色粘土	黑色粘土塊	64	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	泥岩塊
13	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物	50	黑色粘土	黑色粘土塊	65	暗褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩塊
14	暗褐色泥岩層	暗褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・黑色粘土粒	51	青灰色泥岩層					
15	明褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩	52	青灰色泥岩層					
16	明褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩							
17	青灰色弱粘質土	泥岩・褐鉄・黑色粘土							
18	青灰色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐鉄(第3面構成土)							
19	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩(第2面構成土)							
20	黑褐色弱粘質土	泥岩粒							
21	黑褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩							
22	黑色粘土	褐色砂質土微量							
23	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・黑色粘土							
24	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色粘土							
25	暗褐色泥岩層	暗褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・黑色粘土粒							
26	暗褐色泥岩層	泥岩塊							
27	暗褐色泥岩層	明茶褐色弱粘質土							
28	暗褐色泥岩層	褐色粘土							
29	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩							
30	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・黑色粘土							
31	暗褐色泥岩層	黑色粘土塊							
32	暗褐色弱粘質土	灰褐色粘土							
33	褐色泥岩層	灰褐色粘土							
34	褐色泥岩層	青灰色砂							
35	青灰色泥岩層	泥岩粒・炭化物・褐鉄・黑色粘土							
36	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩							
37	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩							

土層注記

図3 調査区階堆積土層図



0 2m
(S=1/50)

图4 第1面全测图

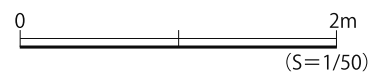
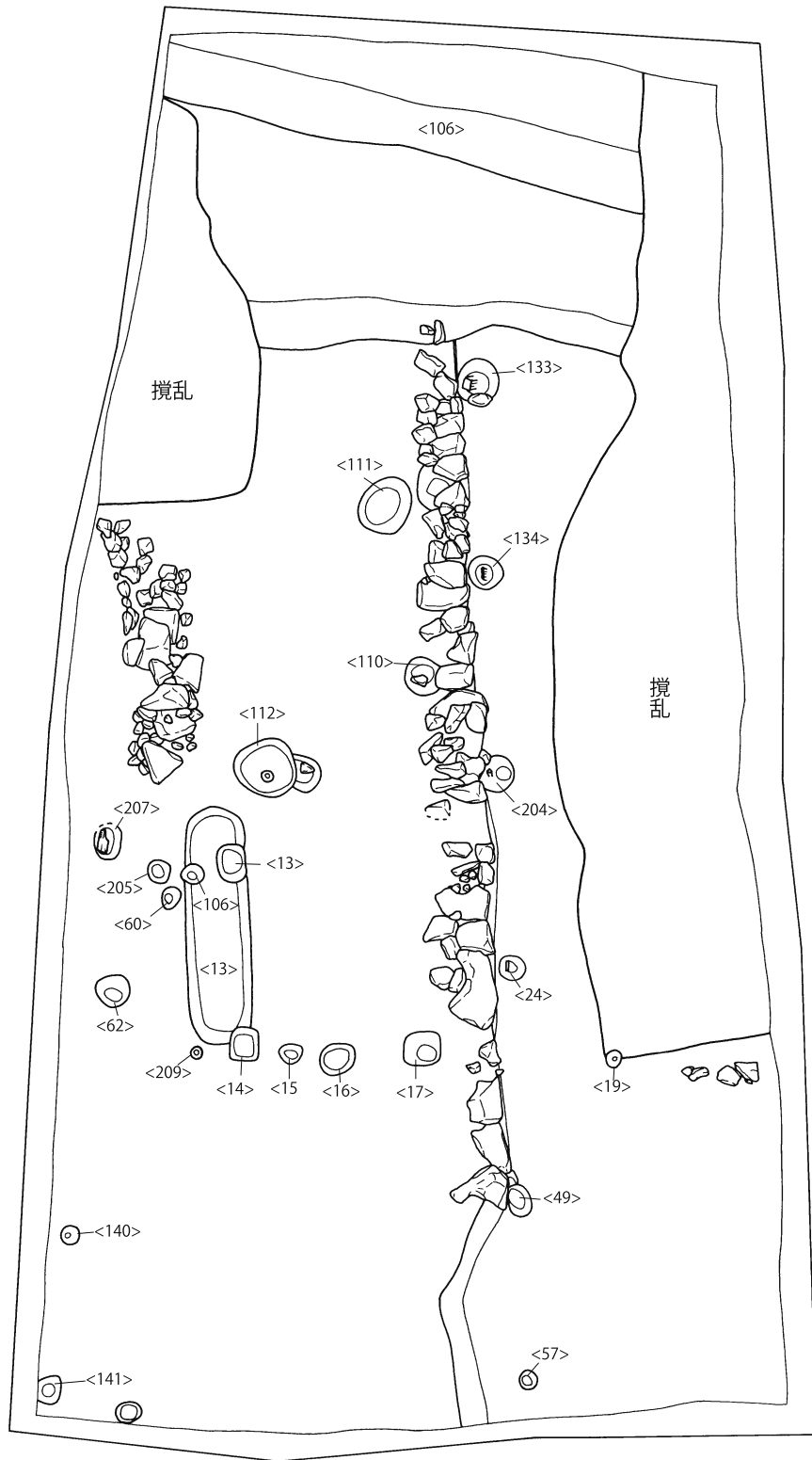


图5 第2面全测图

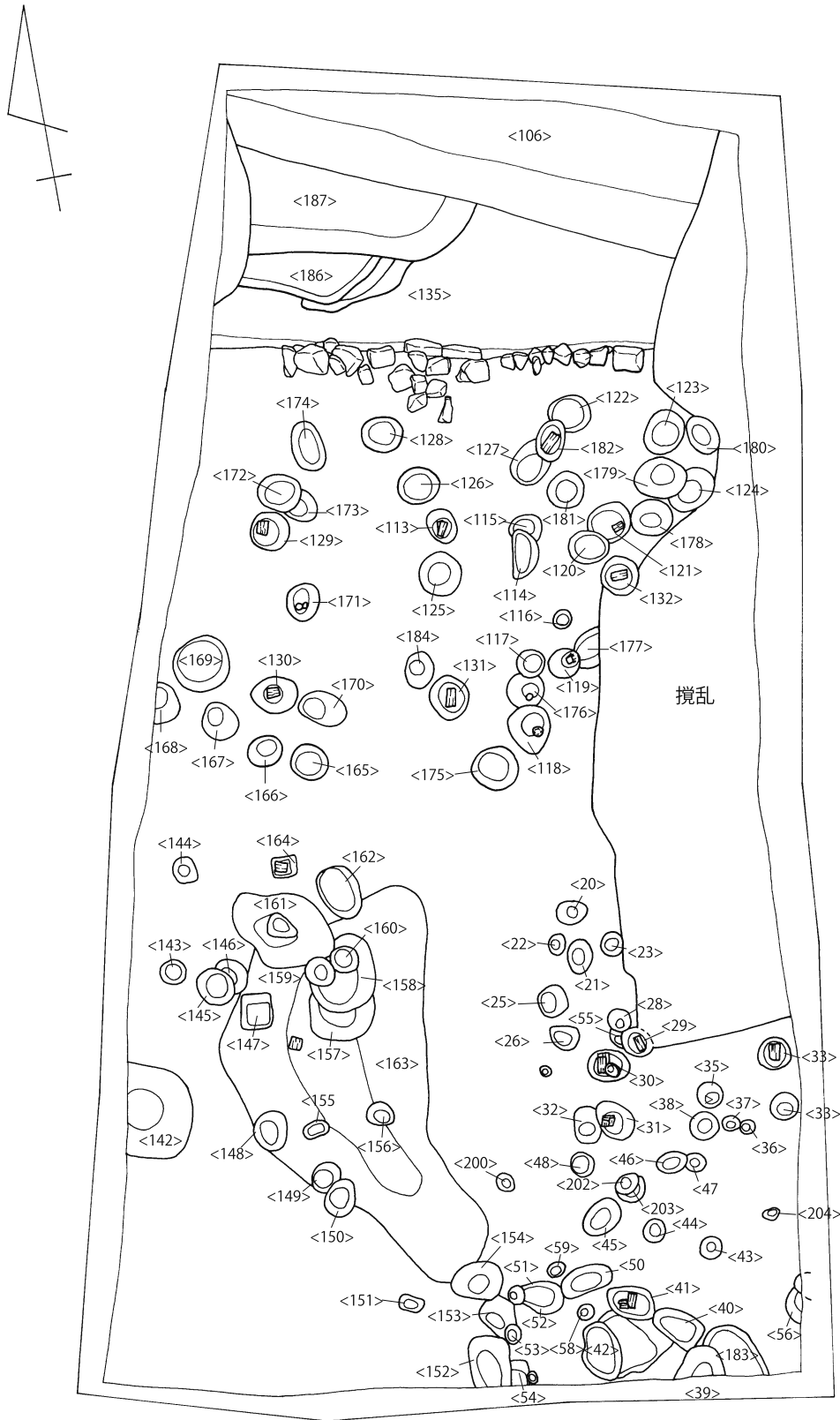


图6 第3面全测图

第二章 発見された遺構と遺物

第1節 第1面の遺構と遺物(図4・図7～図9)

表土から約90cmを重機によって除去し、泥岩塊・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土の地業層上で第1面を検出した。地業層は現代の攪乱によって大きく削平を受けており、発見した遺構はわずかである。精査・遺構プラン確認時に大型の泥岩塊を覆土に多く含む遺構を発見したが、その多くは地業の一環として地業に混入した泥岩塊の抜き取り痕であった。同様に調査区南側で報告している数穴の遺構も泥岩の抜き取り痕が含まれている可能性が否めない。調査区北側では東西に延びる溝を発見している。発見した溝は南壁に石垣を伴うが、遺構の東側は現代の攪乱によって大きく削平を受けていた。

第1面の遺構覆土からは大型の泥岩とともに、概ね15世紀代の遺物が混入していた。第1面構成土は、第1面を確認した暗褐色弱粘質土下層に薄く炭化物層が広がり、その下層は褐鉄を含む堅く締まった黒褐色粘質土が堆積していることを確認した。第1面で発見した遺構は溝1条・土坑6基・ピット13穴である。

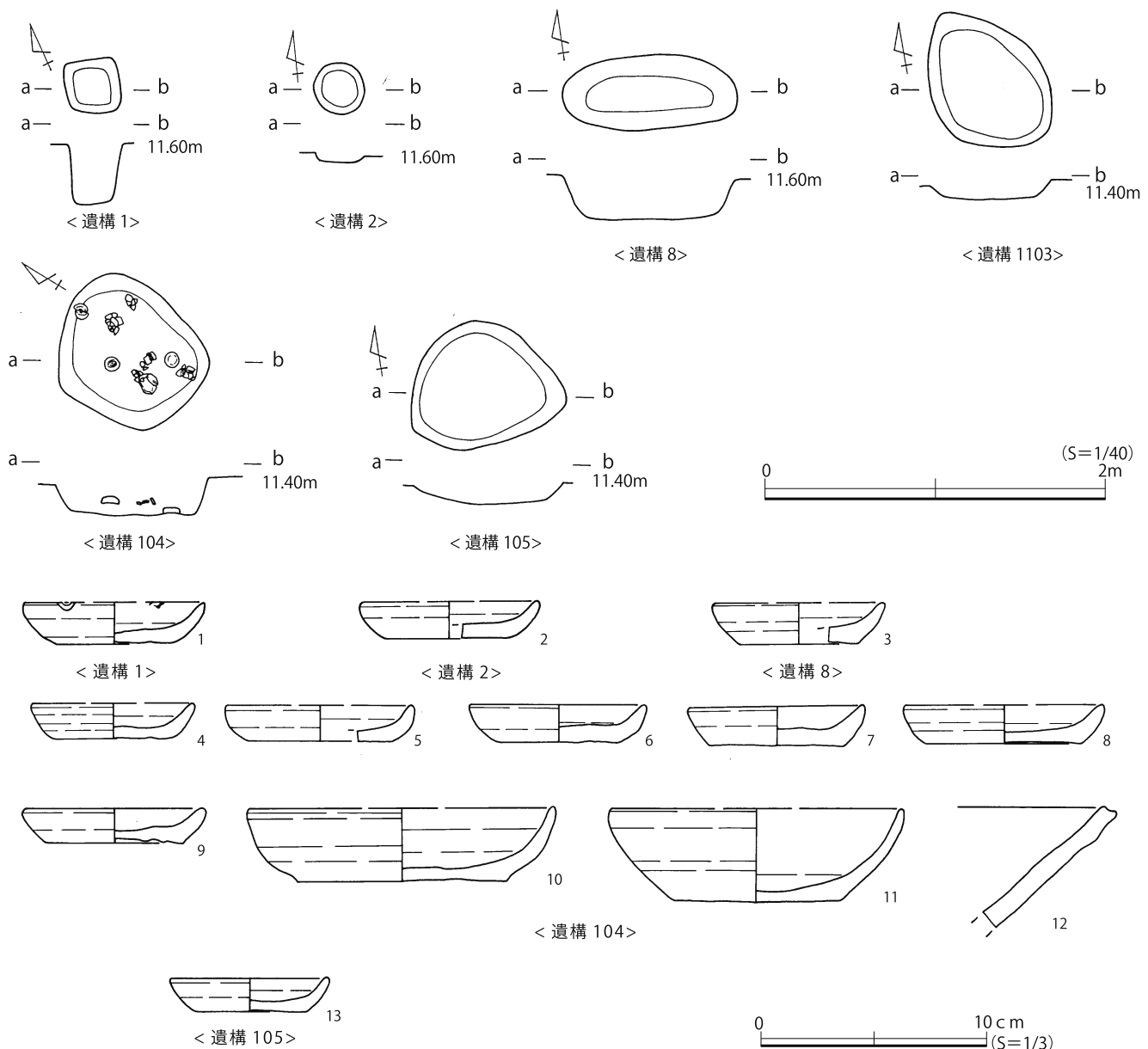


図7 第1面個別遺構・出土遺物

遺構 1(図 7)

方形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む明茶褐色弱粘質土。

・出土遺物(図 7)

1 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構 2(図 7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。

・出土遺物(図 7)

2 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構 8(図 7)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む明茶褐色弱粘質土。

・出土遺物(図 7)

3 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構 103(図 7)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 104(図 7)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む明褐色弱粘質土。覆土内にはかわらけが多く廃棄されていた。

・出土遺物(図 7)

4～11 はかわらけ。12 は常滑片口鉢Ⅱ類。実測したかわらけは 8 点だが、破片で(大)117 片・(小)46 片が出土している。その他に金属製品釘が破片で出土した。

遺構 105(図 7)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物(図 7)

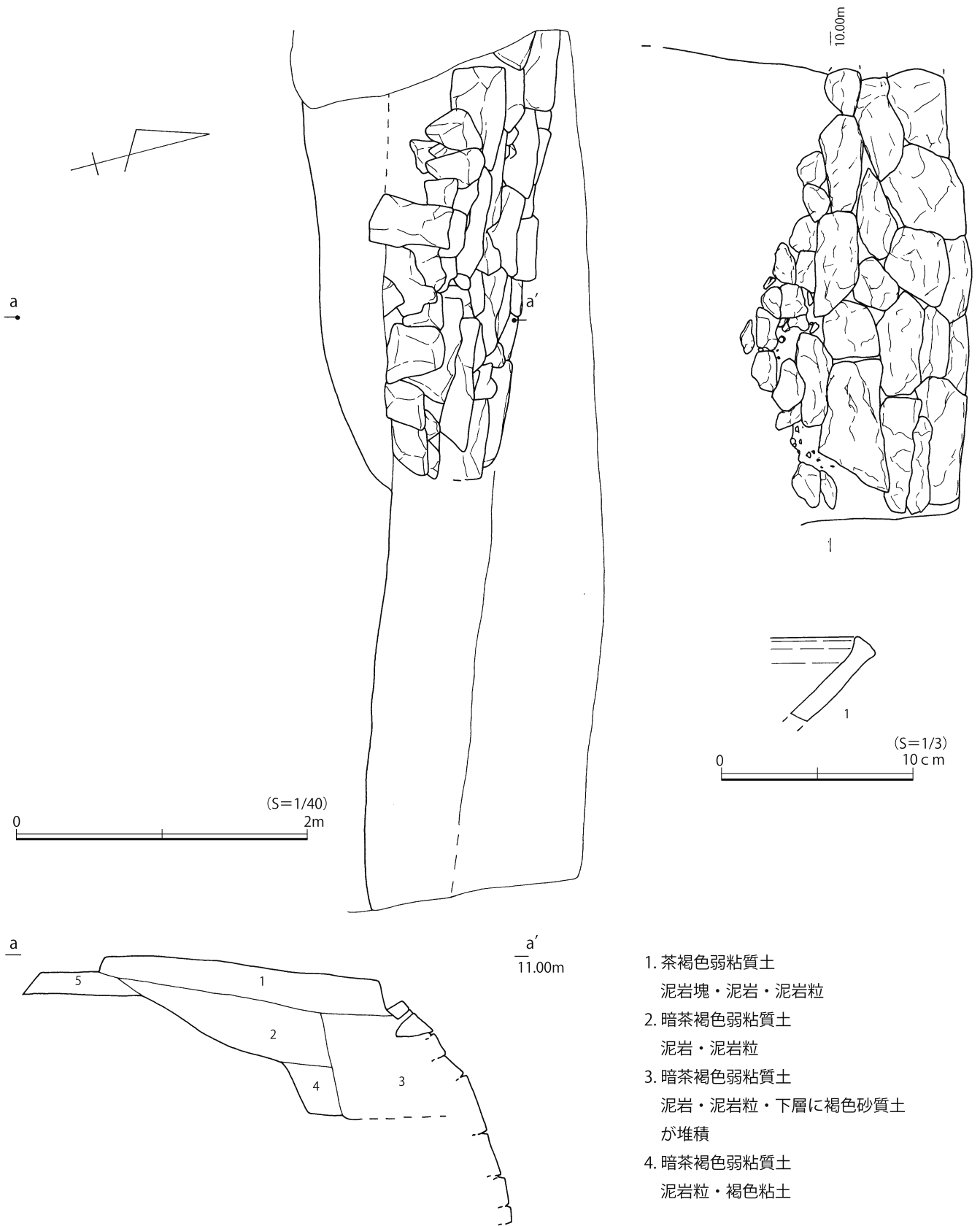
13 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構 106(図 8)

調査区北側で発見した東西に走る溝である。溝壁は不整形な泥岩を使った石垣によって護岸されているが、溝北側は調査区外に遺構が伸びていたため南壁の石垣のみが遺存していた。また、その南側石垣も遺構の東側を現代の攪乱により削平されていたため、調査・記録が出来たのは検出した遺構の西半分である。遺存する上段の石から溝底面までは深さ約 160 cm、幅は調査区内に遺存している部分だけで約 150 cm を測り、大型の溝であったことがわかる。断面は逆台形である。遺存している部分だけで判断することは危ういが、不整形な泥岩を使用した乱層積みの石垣は、溝底面から上 3～4 段までは大型の切石を使用し、不整形ではあるが石面は正面を意識して整形した切石で積まれている。その上段部分は不整形な泥岩を乱雑に積み、使用した石の大きさは小型で不揃いである。使用した石の形状、積み方から少なくとも二時期の溝改修があったのではないかと考えている。現在、調査地の北側には遺構 106 上端の海拔高から約 100 cm 下方で、谷戸内を突き抜ける道路が並行して走っている。

・出土遺物(図 8)

1 は常滑片口鉢Ⅱ類。掲載した遺物は 1 点だが、その他にかわらけ・瓦器質火鉢の破片とともに、染付の皿・徳利・水滴・蕎麦猪口等の近世遺物が多く出土した。



1. 茶褐色弱粘質土
泥岩塊・泥岩・泥岩粒
2. 暗茶褐色弱粘質土
泥岩・泥岩粒
3. 暗茶褐色弱粘質土
泥岩・泥岩粒・下層に褐色砂質土
が堆積
4. 暗茶褐色弱粘質土
泥岩粒・褐色粘土

図8 第1面遺構106・堀方出土遺物

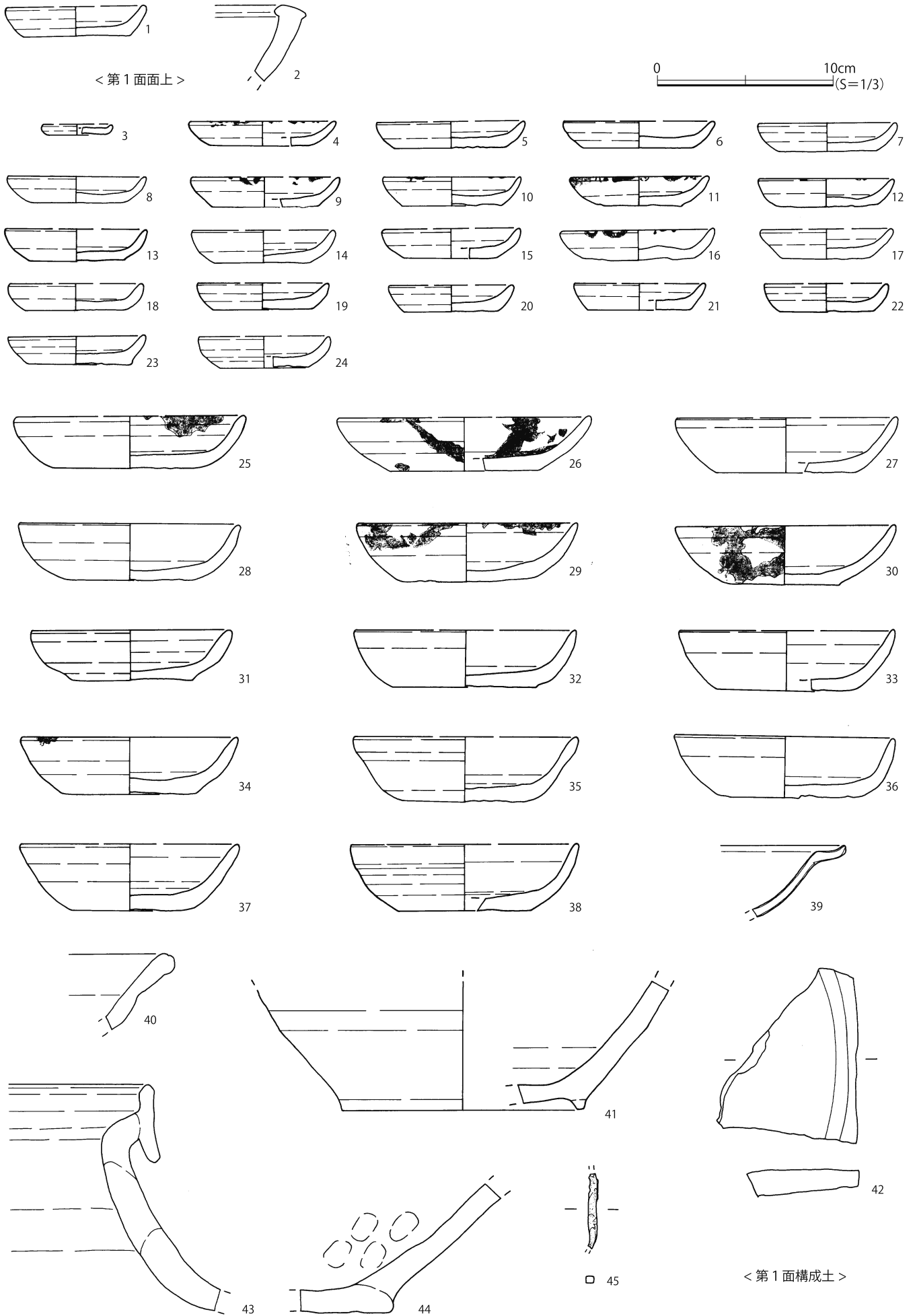


図9 第1面面上・構成土出土遺物

・第 1 面面上出土遺物(図 9)

第 1 面面上精査時に発見した遺物である。1 はかわらけ。2 は土器質火鉢。その他に常滑甕・常滑片口鉢 II 類・瓦器質火鉢・金属製品釘・獣骨が破片で出土している。

・第 1 面構成土出土遺物(図 9)

第 1 面遺構検出後、第 2 面検出までの堆積土から出土した遺物である。3～38 はかわらけ。39 は青磁折縁深皿。40～41 は常滑片口鉢 I 類。42 は常滑片口鉢転用品。43～44 は常滑甕。45 は金属製品釘。その他に遺物は出土していない。

第 2 節 第 2 面の遺構と遺物(図 5・図 10～図 11)

第 2 面は泥岩粒・破碎泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土の地業層上で遺構を検出した。I 区・II 区を通して南北に石列が並び、石列を境に東西で段差が形成され、石列東側は約 40 cm 低くなる。この段差は本調査地の東に隣接する調査においても同様に東に向かって下がる段差を発見しており、谷戸内でひな壇状造成をしたことが示唆されている。この石列は北側で約 30 cm の高低差を持つ段差によって切られ、南は調査区外に遺構が延びている。また、西側段上全体には泥岩による地業土が広がっていたと考えられ、調査区西端でやや大きめの破碎泥岩の広がりを確認し図示している。(図 5)、調査区中央付近に数穴の遺構を確認しているが、建物址などは推定できなかった。発見した遺構は段状遺構・土坑 1 基・ピット 25 穴である。また、第 1 面同様に出土した遺物は少ない。

遺構 13(図 10)

楕円形を呈する土坑である。ピット 14・ピット 18・ピット 206 に切られる。遺構覆土は泥岩・泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 14(図 10)

円形を呈するピットである。遺構 13 を切る。遺構覆土は泥岩粒を含む暗褐色粘土。遺物は出土していない。

遺構 18(図 10)

楕円形を呈するピットである。遺構 13 を切る。遺構覆土は泥岩粒を含む暗褐色粘土。遺物は出土していない。

遺構 111(図 10)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色粘質土。遺構底面に腐食した木質が遺存しており礎板であった可能性を考えている。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 112(図 5)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩を多く含む暗褐色粘質土。遺構中央に木質を覆土に多く含む小型のピットを伴い、杭痕であった可能性を考えている。

・出土遺物(図 10)

1～2 はかわらけ。その他に常滑片口鉢 I 類が破片で出土している。

段状遺構・柱穴列(遺構 57・遺構 49・遺構 24・遺構 204・遺構 134・遺構 133)(図 10)

調査区ほぼ中央で南北に延びる不整形の泥岩による石列を発見した。北側は約 30cm の高低差を持つ段差に切られ、南側は調査区外に遺構が延びる。石列は東面が正位置になるように並べられている。石列を境に

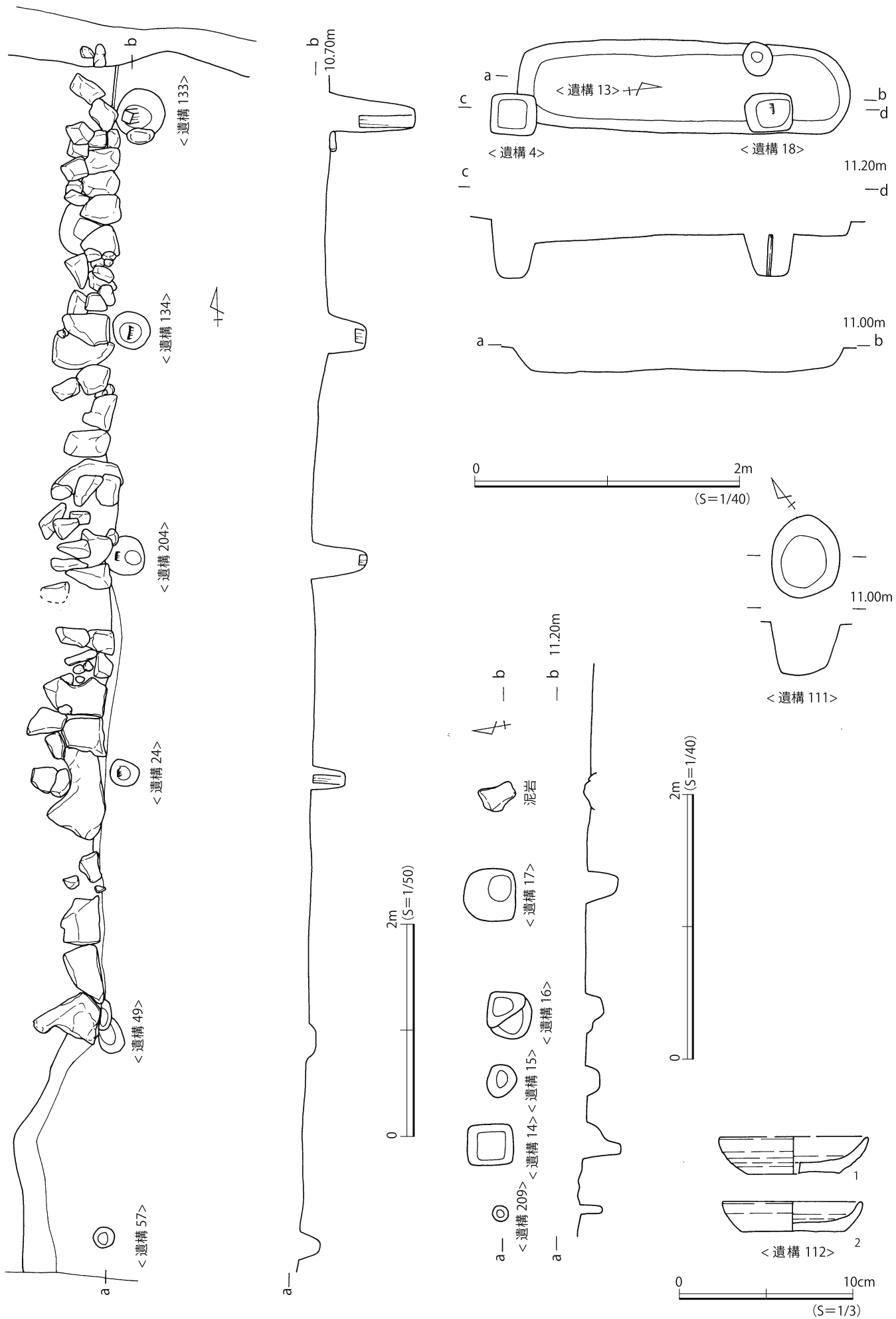


图 10 第 2 面個別遺構・遺構出土遺物

約 40 cm 石列の東側が低くなり、石列下に並行する柱穴列を伴う。石列の泥岩下層には細かく砕いた破碎泥岩と礫を敷き上部の泥岩を固定していた。前述したように、調査地の東隣の調査でも同様の石列を伴う段状の遺構が発見されており、「段状遺構」「ひな壇造成」と報告されている。また一部ではあるが、泥岩・破碎泥岩の広がりをも第 2 面検出層西端で発見し図示している(図 5)が、石列の西側全体に不整形な泥岩と破碎泥岩による地業が広がっていたと考えている。

柱穴列の柱間は北側から、遺構 133 と遺構 134 の芯芯の距離 165cm、遺構 134 と遺構 204 の芯芯の距離 170cm、遺構 204 と遺構 24 の芯芯の距離 165cm、遺構 24 と遺構 49 の芯芯の距離 197cm、遺構 49 と遺構 57 の芯芯の距離 155cm であった。それぞれの柱穴をつなぐ距離に統一性はないが、遺構 133 は礎板と柱材が、遺構 134・遺構 204・遺構 24 には柱材が遺存しており、段状遺構に伴う柵あるいは土留めのための柱穴列であったと考えている。

遺構 133 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構 134 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・泥岩を含む茶褐色弱粘質土。遺構 204 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構 24 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土。遺構 49 は楕円形を呈する。覆土は泥岩粒・茶色有機質土を含む暗褐色弱粘質土。遺構 57 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・茶色有機質土を含む黒褐色弱粘質土。どの遺構からも遺物は出土していない。

柱穴列<遺構 209・遺構 14・遺構 15・遺構 16・遺構 17>(図 10)

調査区やや南で発見した東西に並ぶ柱穴列である。

遺構 209 は円形を呈する。遺構 14 は方形を呈する。遺構 15 は不正円形を呈する。遺構 16 はピットが切り合っているが円形を呈すると思われる。遺構 17 は不正円形を呈する。それぞれの遺構覆土は粘性の強い暗褐色粘土であり近似していた。それぞれの柱間は芯芯で 50cm を測った。柵列であった可能性を考えている。どの遺構からも遺物は出土していない。

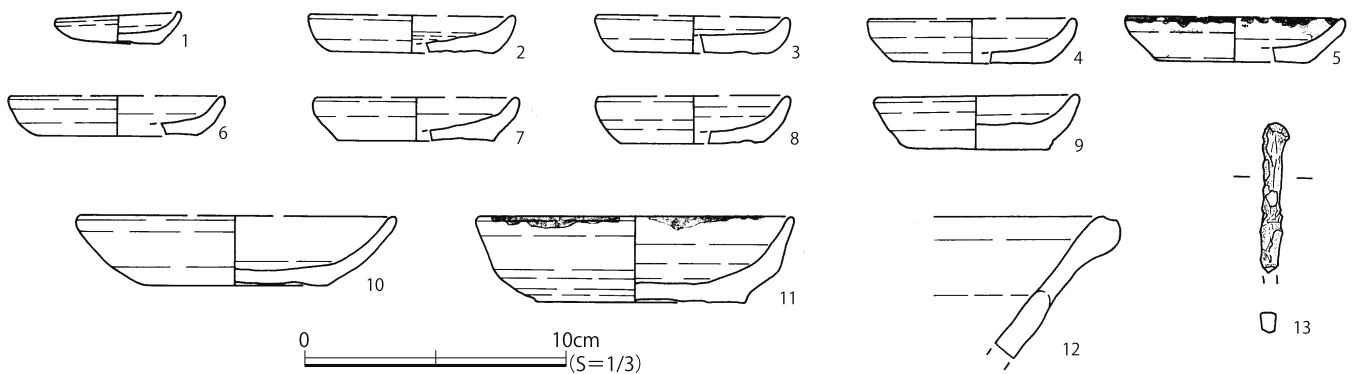


図 11 第 2 面構成土出土遺物

・第 2 面構成土出土遺物(図 11)

第 2 面遺構検出後、第 3 面検出までの堆積土から出土した遺物である。第 2 面では遺物出土量が少なく、第 2 面の面上精査時にも出土遺物がなかった。

1~11 はかわらけ。12 は常滑片口鉢 I 類。13 は金属製品釘。その他に青磁碗・常滑甕が破片で出土している。

第 3 節 第 3 面の遺構と遺物(図 6・図 12~図 18)

第 3 面は I 区・II 区ともに破碎泥岩による平坦な地業層上で遺構を検出した。

第3面では多くの遺構を発見している。発見したピットの多くには礎板・柱材が遺存し、建物址の存在を窺わせた。調査区北側で東西に延びる不整形な泥岩による石列を発見した。石列に使用した泥岩は不整形ではあるが北面を正位置に並べ、北側に向かって約30cmの高低差を持つ段差が形成されている。この段差は第2面で発見したひな壇造成を形作る南北に延びる石列と同様に、土留めの機能を持つと考えている。段差北側には第1面で発見した東西に延びる溝（遺構106）堀方との間に土坑を発見している。土坑は現代の攪乱によって削平されており、図面上は土坑として報告したが遺構106同様に東西に延びる溝であった可能性を考えている。第3面構成土は褐鉄・泥岩・泥岩粒・破碎泥岩を多く含む青灰色弱粘質土であり、遺構覆土はすべて粘性の強い黒色粘質土を含んでいた。発見した遺構は段状遺構・土坑8基・ピット97穴である。

第3面検出後、調査区南端にトレンチを入れ下層の堆積を確認した。

調査区西側で表土から130cm、東側で表土から250cmで黒色粘土の層（図3-22層）が西から東に下がる様子を確認した。粘土層上層（図3-35・51・52層）には、黒色粘土と青灰色砂、茶褐色弱粘質土が混乱して堆積している状況を土層観察から確認しており、津波、あるいは洪水によって堆積土が混乱したのではないかと指摘を受けた。（写真図版No.4）

遺構115(図6)

円形を呈するピットである。遺構114に切られる。個別に遺構図は報告していない。遺構覆土は泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。

・出土遺物(図17)

12～14はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構117(図6)

円形を呈するピットである。遺構176を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。

・出土遺物(図17)

15はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構118(図6)

不正円形を呈するピットである。個別に遺構図は報告していない。遺構覆土は泥岩・泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。

・出土遺物(図17)

16～19はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構122(図12)

円形を呈するピットである。遺構182に切られる。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。遺構覆土中央に固まって茶色有機質土が遺存しており、柱材であった可能性を考えている。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構124(図12)

楕円形を呈するピットである。遺構179に切られる。遺構覆土は泥岩粒を含む黒褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構128(図12)

円形を呈するピットである。遺構覆土は覆土上層に泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑壺が破片で出土している。

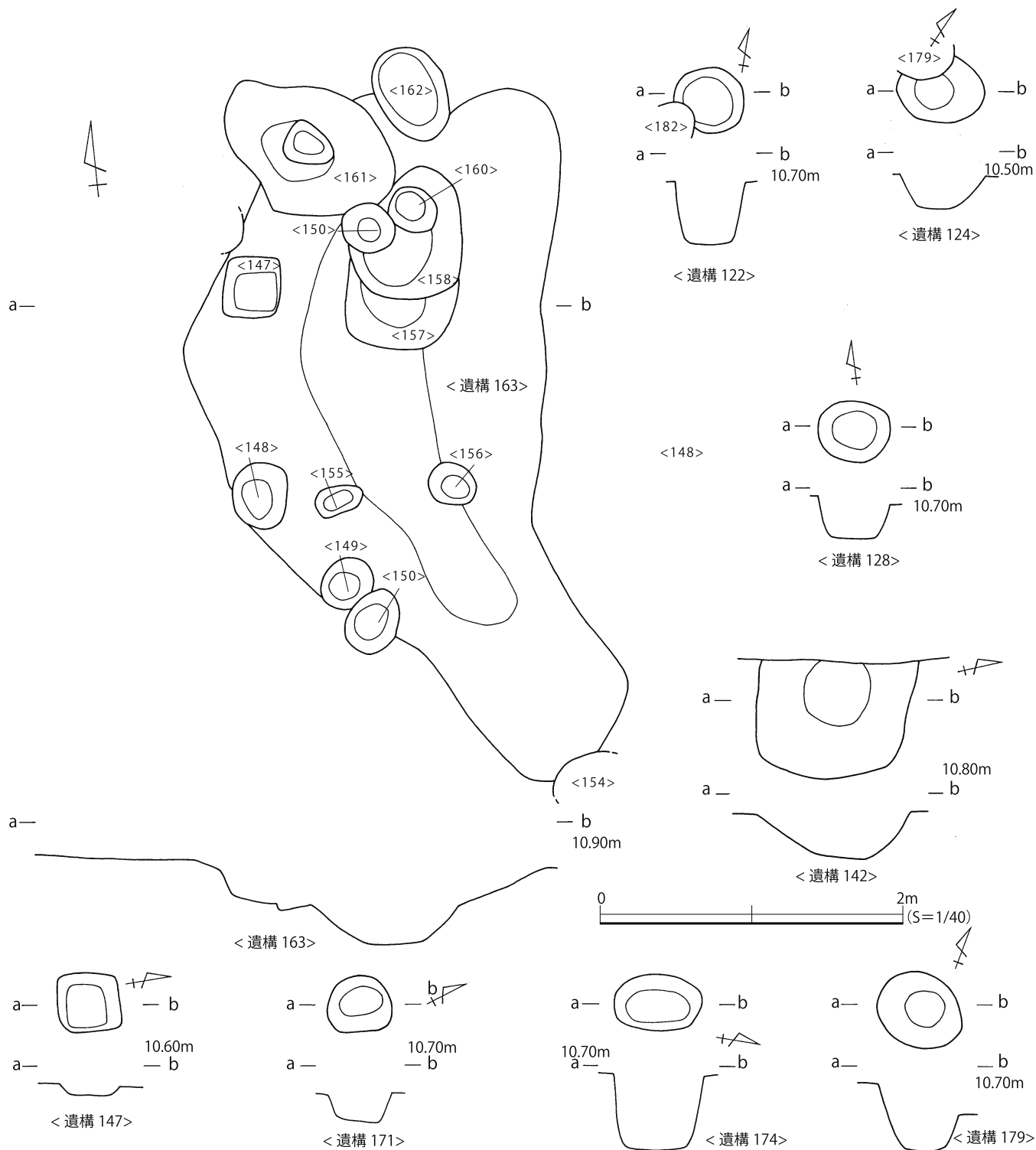


図 12 第 3 面個別遺構図 (1)

遺構 142(図 12)

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

遺構 147(図 12)

方形を呈するピットである。遺構 163 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

遺構 163(図 12)

土坑である。当初は大型の円形を呈する土坑と考え検出したが、地業の一環であったと考えている。覆土は泥岩塊・泥岩・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺構 163 の上層でも、同位置で大きな土坑状の落ち込み

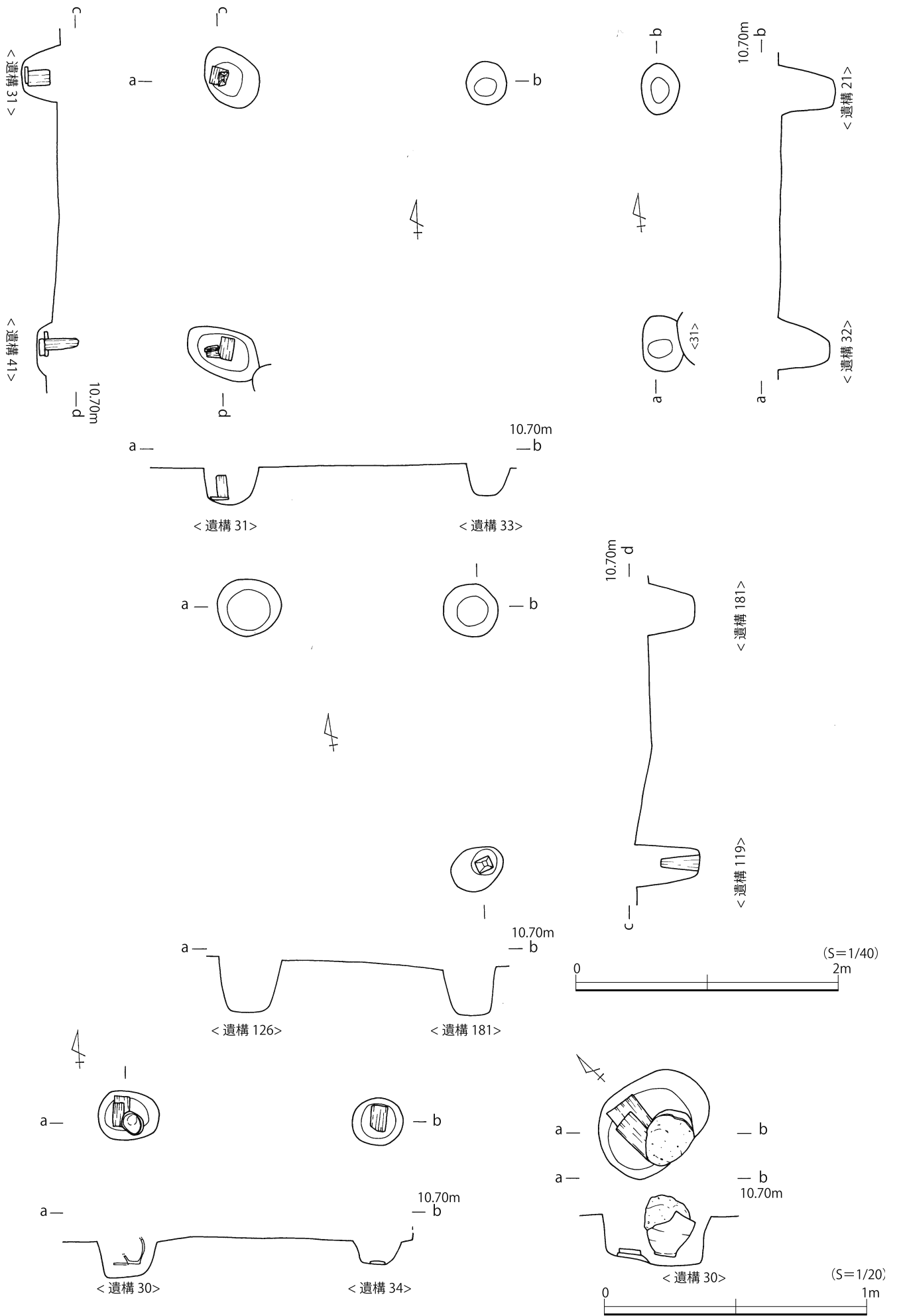


图 13 第 3 面个别遺構図 (2)

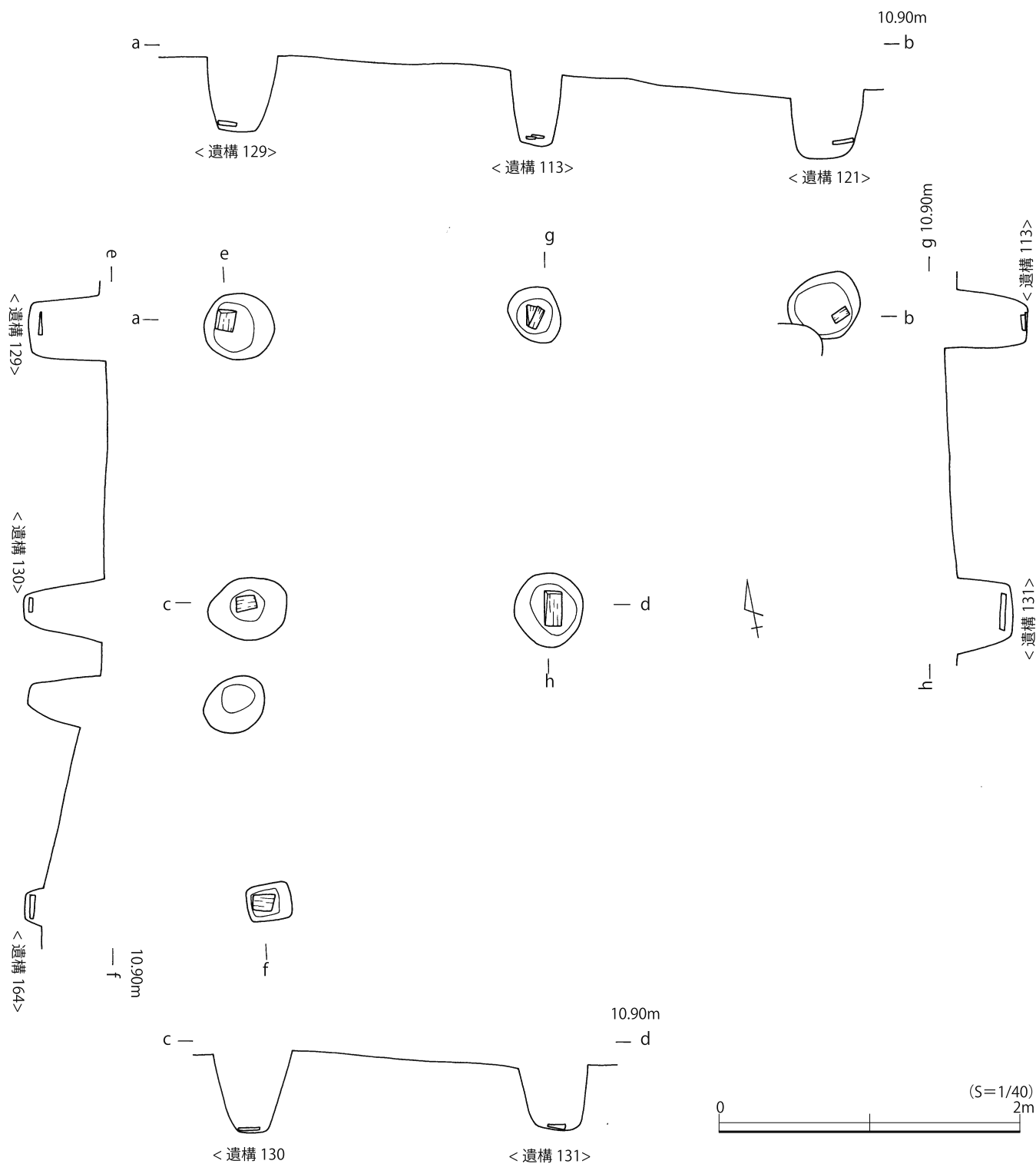


図 14 第 3 面個別遺構図 (3)

を発見している。遺物は出土していない。

遺構 171(図 12)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩塊を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

遺構 174(図 12)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

遺構 179(図 12)

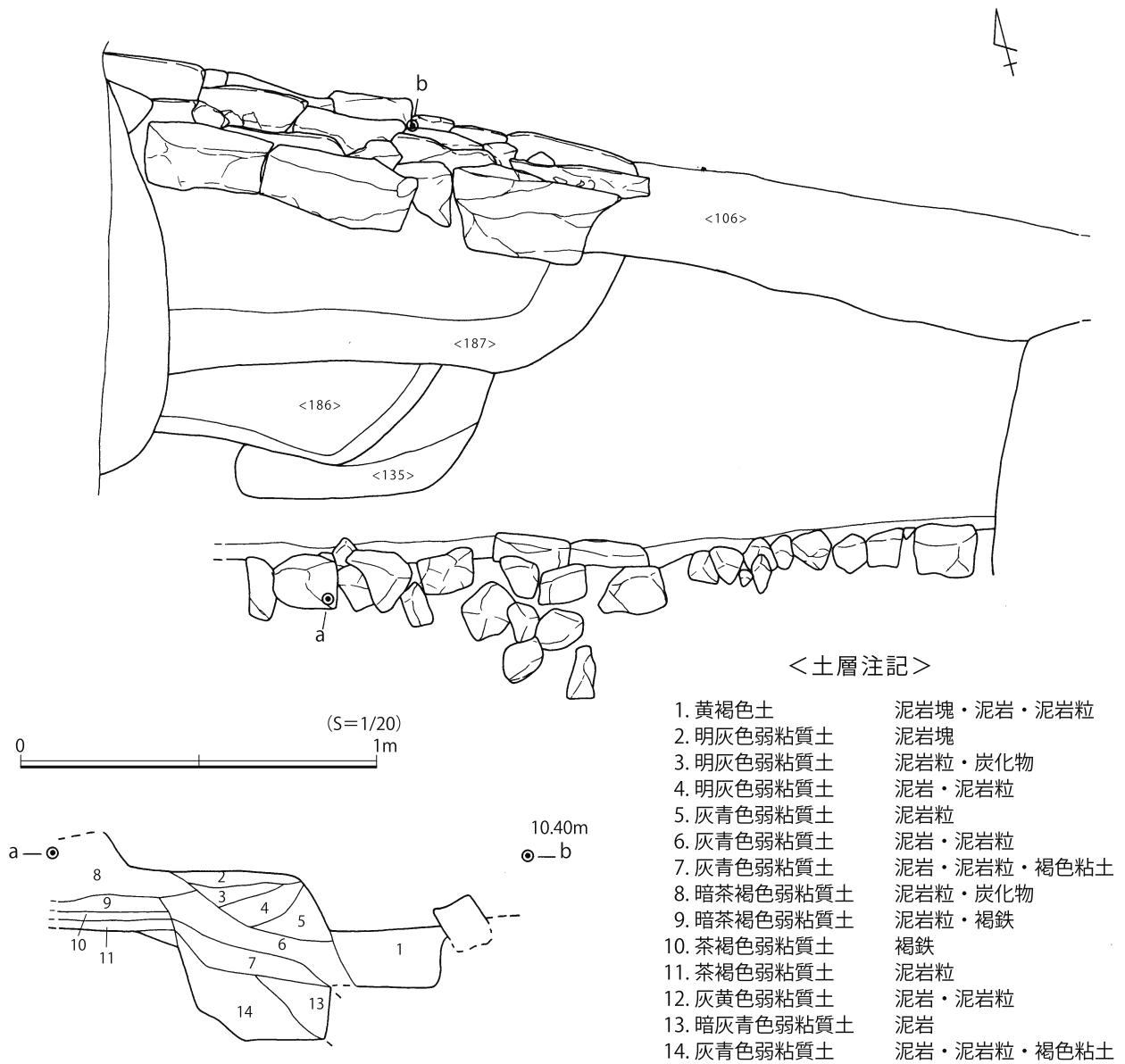


図 15 第 3 面個別遺構図 (4)

円形を呈するピットである。遺構 124 を切る。遺構覆土は泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

柱穴列<遺構 31・遺構 33・遺構 41>(図 13)

調査区南東側で発見した掘立柱建物の柱穴列である。検出した柱穴は、調査区外に遺構が延び 1 間×1 間である。柱間は芯芯で東西に 205 cm。南北に 210cm を測った。

遺構 31 は不正円形を呈する。覆土は泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む茶褐色弱粘質土。遺構 33 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺構 41 は楕円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む黒褐色弱粘質土。遺構 31・遺構 41 は礎板の上に柱材が遺存していた。

・出土遺物(図 16・図 17)

5~7 は遺構 31 出土。礎板である。その他に常滑甕が破片で出土している。8~11 は遺構 41 出土。8~10 は礎板。11 は柱材。その他に遺物は出土していない。遺構 33 は遺物が出土していない。

柱穴列<遺構 21・遺構 32>(図 13)

調査区南側で発見した南北に延びる柱穴列である。柱間は芯芯で 200cm を測った。調査区外に遺構が延

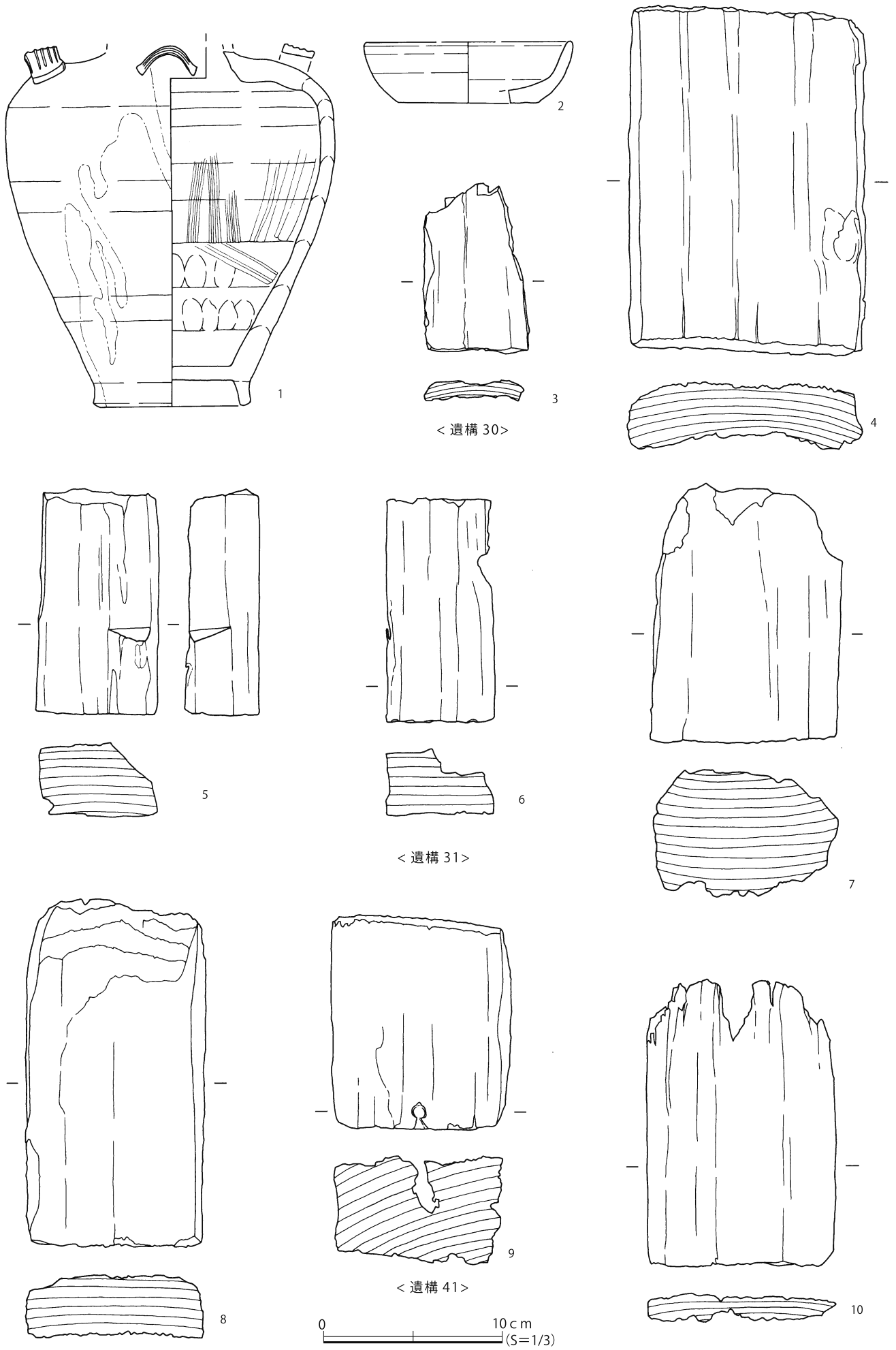


图 16 第 3 面遺構出土遺物 (1)

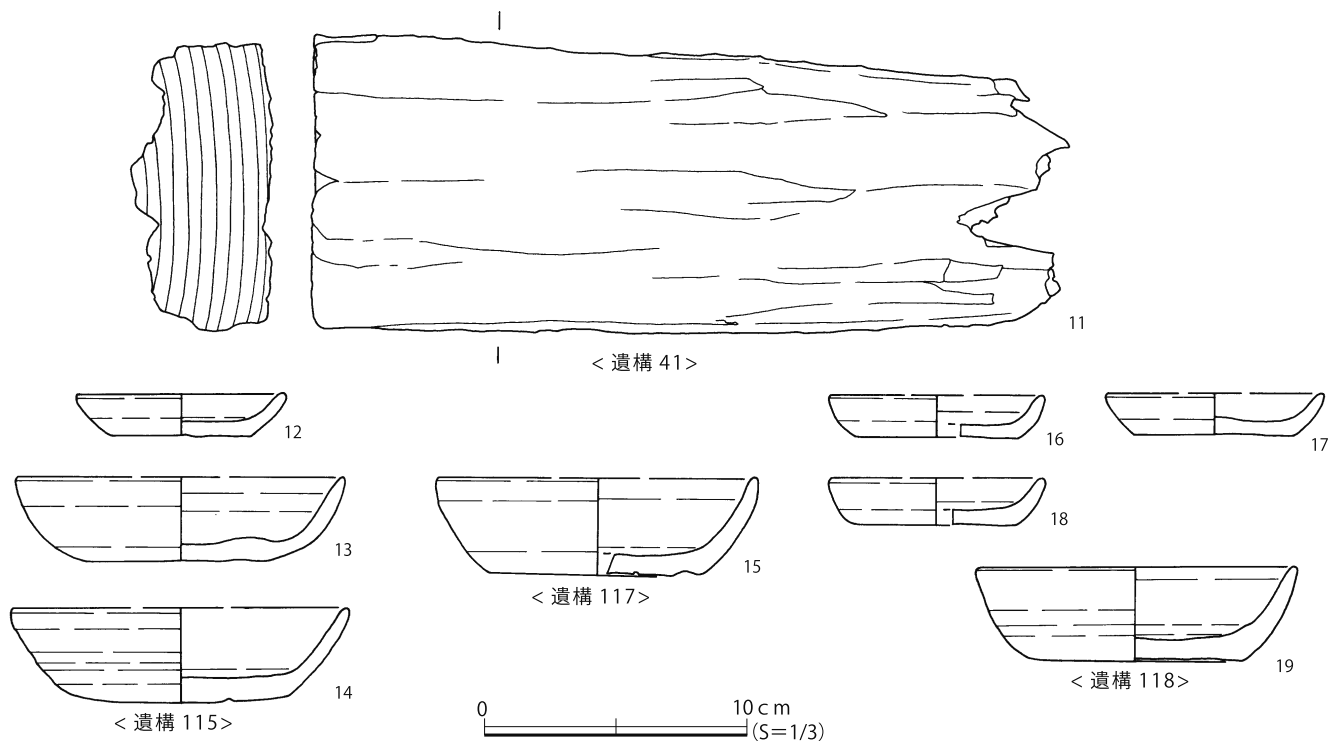


図 17 第 3 面遺構出土遺物 (2)

び、攪乱によって削平を受けている。遺構 21 は楕円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土。遺物は木製品用途不明が破片で出土している。遺構 32 は楕円形を呈する。覆土は泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む。遺物は出土していない。

柱穴列〈遺構 119・遺構 126・遺構 181〉(図 13)

調査区北側で発見した柱穴列である。遺物は常滑甕が破片で出土している。それぞれの柱間は芯芯で 200cm を測る。遺構 119 は楕円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。柱材が遺存していた。遺物はかわらけが破片で出土している。遺構 126 は円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物はない。遺構 181 は円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物はない。

柱穴列〈遺構 30・遺構 34〉(図 13)

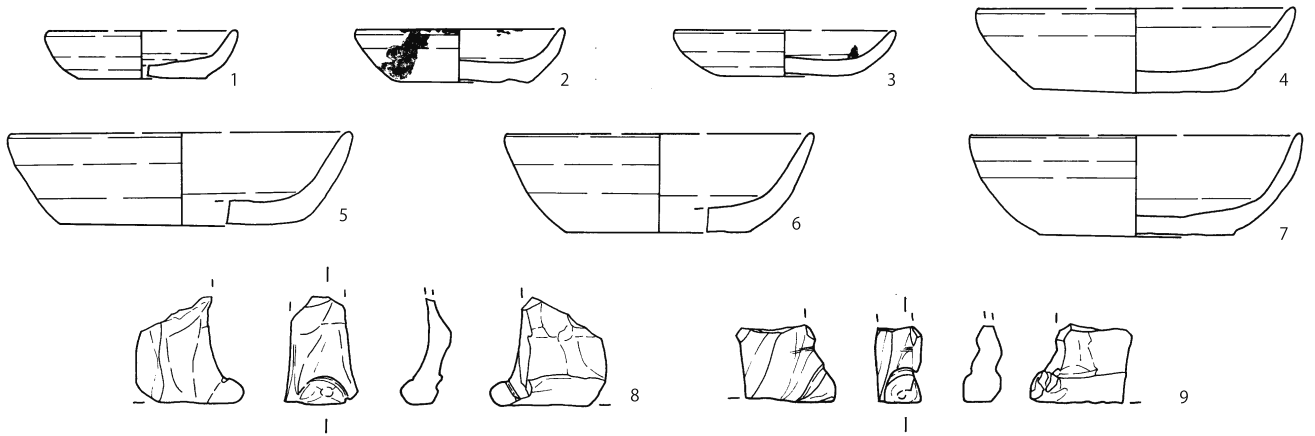
調査区南側で発見した柱穴列である。柱間は芯芯で 200cm を測る。遺構 30 は円形を呈する。遺構底面に礎板が遺存し、覆土内には四耳壺が埋納されていた。四耳壺内に人骨、あるいは襖等が埋納されている可能性も考えて堆積する覆土を採集し観察したが、特徴的な遺物・堆積物を発見することはできなかった。また四耳壺は肩から上の部分を欠いている。覆土は泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土。遺構 30 はやや拡大して埋納状況のわかる図面を別に掲載した。遺構 34 は円形を呈する。遺構底面に礎板が遺存する。覆土は泥岩粒・泥岩・褐鉄を含む茶褐色弱粘質土。

・出土遺物(図 16)

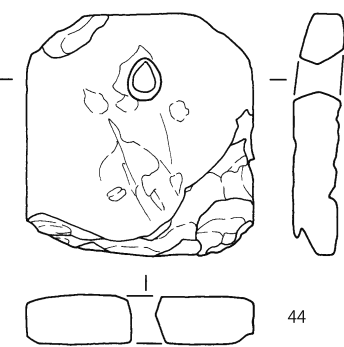
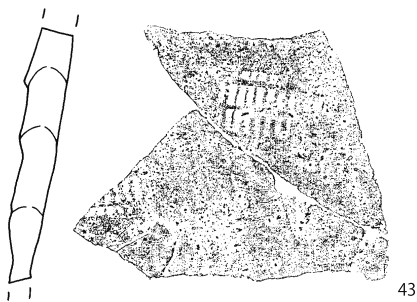
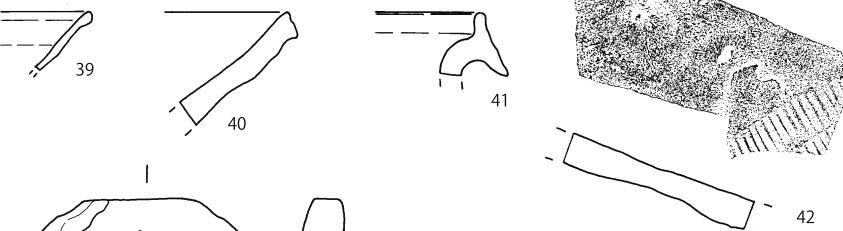
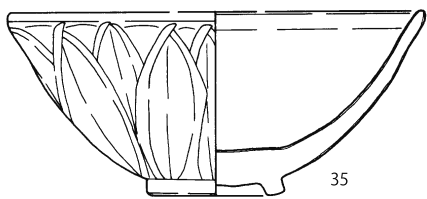
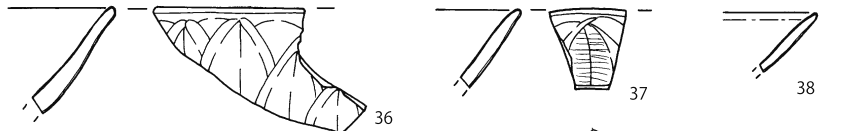
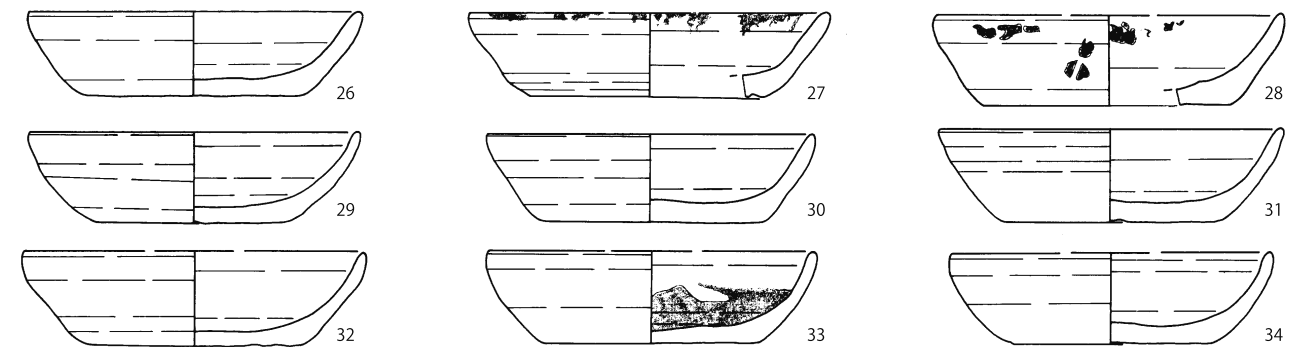
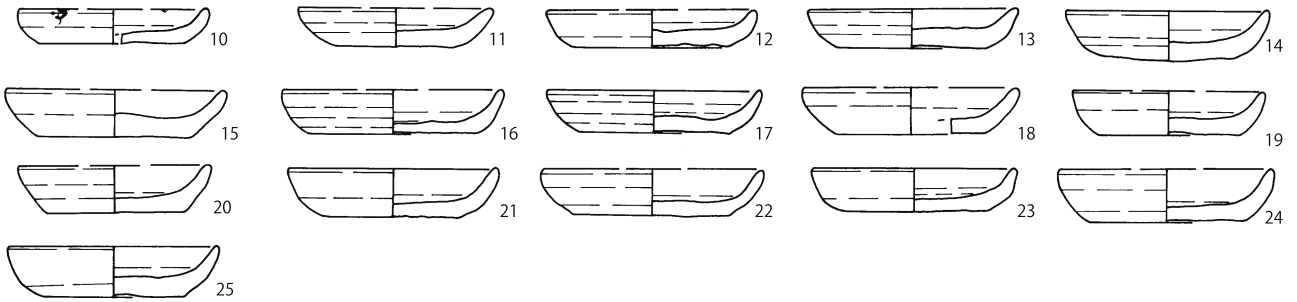
1～4 は遺構 30 出土遺物である。1 は瀬戸四耳壺。2 はかわらけ。3～4 は礎板。その他に遺物は出土していない。遺構 34 は遺物が出土していない。

建物址〈遺構 113・遺構 121・遺構 129・遺構 130・遺構 131・遺構 164〉(図 14)

調査区北側で発見した掘立柱建物の柱穴列である。検出した柱穴は 2 間×2 間。柱間は芯芯で 200cm を測った。それぞれの柱穴には底面に礎板が遺存している。採集した礎板は接合を試みたが、それぞれ廃材を再活用したらしく接合する礎板はなかった。遺構 113 は不正円形を呈する。遺構底面に礎板が遺存する。遺構



<第3面構成土>



<第3面構成土>

0 10 cm (S=1/3)

图 18 第3面面上・構成土出土遺物

覆土は泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。遺構 121 は不正円形を呈する。遺構覆土は泥岩塊・泥岩を含む茶褐色弱粘質土。遺構 121 には礎板と柱材も遺存していた。泥岩塊は根固めのために使用している。遺物はかわらけが破片で出土している。遺構 129 は円形を呈する。遺構覆土は泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。遺構 130 は楕円形を呈する。遺構覆土は泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。遺構 131 は円形を呈する。覆土内に礎板と柱材が遺存していた。遺構覆土は泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。遺構 164 は方形を呈する。覆土内に礎板が遺存していた。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

遺構 135(図 15)

土坑である。遺構 186・遺構 187 に切られ規模は不明である。遺構覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗灰青色土。遺構プラン確認時には後述する遺構 186・遺構 187 とともに、上層で検出した遺構 106 の掘り方覆土、あるいは遺構 106 以前の溝覆土の可能性も考えて調査を進めたが、遺構の東端が調査区内で完結しており、大型の土坑であったと思われる。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 186(図 15)

土坑である。遺構 187 に切られ、遺構 135 を切る。前述したように、当初は上層遺構 106 の掘り方の可能性を考えて掘り進めたが、遺構の東端が調査区内で完結しているため、土坑であったと考えている。遺物は出土していない。

遺構 187(図 15)

土坑である。遺構 186 を切る。遺構覆土は大・中・小の泥岩で構成される黄褐色土。遺構 135・遺構 186・遺構 187 は遺構の東を現代の攪乱によって削平を受けており、調査時の図面は土坑として報告しているが、第 1 面で発見した溝(遺構 106)同様に東西に延びる溝であった可能性を考えている。遺物は出土していない。

第 3 面面上出土遺物(図 18)

第 3 面遺構精査時に出土した遺物である。1～7 はかわらけ。8～9 は土製品人形。その他に青磁碗・白磁口元皿・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・漆器皿・獣骨が破片で出土している。

第 3 面構成土出土遺物(図 18)

第 3 面遺構検出後、下層の堆積・遺構を確認するために任意で設けたトレンチから出土した遺物である。10～34 はかわらけ。35 は青磁蓮弁文碗。36～37 は青磁鎬蓮弁文碗。38 は白磁口元碗。39 は山茶碗。40 は常滑片口鉢Ⅱ類。41～43 は常滑甕。44 は石製品温石。45 は金属製品用途不明。46～47 は金属製品釘。その他に出土遺物はない。

表土採集遺物(図 19)

調査区内、表土及び現代埋土から出土した遺物である。1～2 はかわらけ。3 は常滑甕。4 は常滑片口鉢Ⅱ類。5 は金属製品釘。

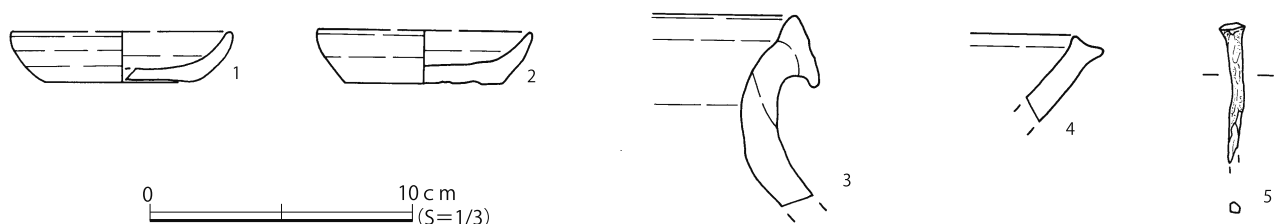


図 19 表土採集遺物

第三章 まとめ

本調査地が所在する「桑ヶ谷」は、極楽寺を開山した忍性が弘安十年(1287)に癩病患者を中心とする療病所を建てた谷戸として知られており、本調査では遺跡名の由来ともなる「桑ヶ谷療病院跡」の所在を立証する成果が期待された。谷戸の開口部前には観光地としても有名な高德院大仏殿前を通り、鎌倉七口の一つ「大仏坂の切通し」下を抜ける隧道を通る県道藤沢鎌倉線が南北に走る。観光客で溢れ喧騒とした県道を西に入る調査地一帯は閑静な住宅街が広がっている。

第1節 発見した遺構と遺物

第1面地業層は現代の攪乱によって大きく削平を受けており発見した遺構は少ない。また、第1面遺構を検出した地業は多くの泥岩を用いていたが、その大半は細かく砕いた破碎泥岩ではなく、大型の泥岩塊であった。第1面で発見した主たる遺構は、調査区北側で発見した護岸に石垣を用いた東西に延びる溝(遺構 106)である。調査区外に遺構が延び、さらに遺構の大半を現代の攪乱によって壊されていたために、石垣は一部しか検出できなかった。溝覆土からは中世の遺物とともに近世の染付などの遺物も出土しているが、遺構の大半を攪乱によって失い遺物の採集が混乱してしまったこともあり、溝の存続時期を推定することは難しい。1点のみの出土ではあるが、溝の堀方から出土した常滑片口鉢Ⅱ類の年代観から、溝の構築年代は14世紀中頃～15世紀初頭ではないかと考えているが、第1面構成土に15世紀代の遺物が混入していたため、第1面は15世紀代の年代を与えた。

第2面も泥岩を多く含む地業層で遺構を検出したが、第2面地業土に混入する泥岩は細かく砕いた破碎泥岩が主となる。第2面では不整形な泥岩による土留めの石列が南北に並び、石列を境に東西でひな壇状の造成をしている様子を確認した。また、その石列は北側で東西に延びる高低差約30cmの段差によって切られていた。北側の高低差では土留めの石列を伴っていない。この東西に延びる段状遺構は、南北に延びる段状遺構よりも新しい遺構である。第2面は面上・遺構出土遺物がほとんどなく、出土遺物から年代を与えることが困難であった。

第3面は破碎泥岩による平坦な地業層で多くの遺構を発見した。柱材・礎板等が遺存するピットを多く発見し、調査時及び整理作業時に建物址の復元を試みている。柱穴間の芯芯の距離は200cmを主とし、200cmから210cmを測った。調査区の北側では不整形な泥岩による土留めの石列が東西に延び、南北で約30cmの高低差を持つ造成が形成されている。この造成は上層の第2面でもほぼ同位置に構築されている。段差の北側、第1面で発見した溝(遺構 106)堀方との間に切り合う土坑を3基発見している。土坑は西が調査区外に延び、東を現代の攪乱によって削平されていたために図面上は土坑として報告しているが、遺構 106以前の溝として東西に延びる可能性を考えている。第3面は構成土から14世紀中頃～15世紀に比定される常滑片口鉢Ⅱ類が出土しており、14世紀後半の年代を与えたい。

第3面検出後に調査区南端でトレンチを掘り下層の堆積を確認したところ、調査区西側で表土から130cm、東側で表土から250cm下で地山と考える黒色粘土の層が西から東に下がる様子を確認し、粘土層上層の堆積土からは黒色粘土と青灰色砂、茶褐色弱粘質土がブロック状に混入しており、津波、あるいは洪水によって堆積土が混乱したのではないかと指摘を受けた。全ての生活面は、泥岩塊・破碎泥岩を多く混入する固く締まった地業上で発見している。

第2節 まとめ

鎌倉市街地は北・東西の三方を低い丘陵に囲まれ、南は相模湾に面して開いている。防御には適した地形であるが、居住に適した平坦な土地が狭いため周囲の丘陵裾部を削り、切り拓き、丘陵を削った際に出る大小の泥岩・凝灰岩を使い低地を埋め、平坦地を造るという鎌倉の特色ともいえる造成を繰り返している。また、丘陵の間には小谷が入り組み複雑な地形もつ「谷戸」が広がり、低地のみならず谷戸の開発・造成も盛んに行われてきた。

本調査地点と道路を挟んだ北側の地点 2 の調査成果では、13 世紀前半～16 世紀頃までの痕跡と斜面地に平場を作るために大量の泥岩を用いて数段の雛壇造成を行い、土留めのための石垣状の構築物を築いていた事がわかっている。また、東に隣接する地点 14・15 の調査成果では 13 世紀後半か～14 世紀前半にかけての痕跡と土留めのための石垣状の構築物とひな壇状の造成が同様に発見されており、調査地の位置する「桑ヶ谷」の谷戸全体で、開口部に向かって傾斜している土地に石垣による土留めを組み、平場を幾段にもわたって造成していたと想像できる。本調査地で発見した 3 枚の生活面上でも、近隣の調査成果と同様に泥岩による地業と、土留めのための石垣状の構築物とひな壇状の造成を確認した。泥岩は軟質なため、ほとんど削り出したままで利用され加工・整形されることはまれで、通常はある程度細かく砕いて利用される。本文でも触れているが本調査地で検出した地業、あるいは石垣・土留めには削り出したままの様な大きい泥岩塊を利用している。本調査では第 1 面から第 2 面までは主に地業層の検出にとどまり、遺跡の性格を考える遺構の発見は出来なかったが、第 3 面は様相が変わり、建物址の存在を窺わせる礎板あるいは柱材が遺存するピットを多く検出している。

調査全体で出土遺物の量が少ないため年代を比定することが難しく、漠然とした年代観しか示すことが出来なかったが、14 世紀後半から 15 世紀にかけての遺構の変遷を確認した。調査地辺は弘安十年(1287)に忍性によって療病所が開かれた谷と言われ、調査地で発見した造成遺構が無関係であるとは考えられないが、出土遺物等からは療病院が存在した時期にずれがある。また、近隣の調査成果では出土した遺物から中世以前の生活痕を示唆されているが、本調査では確認できなかった。

<参考資料>

- ・『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 7』「桑ヶ谷療病院跡 長谷三丁目 630 番 4・17 地点」田代郁夫・木村美代治 1990 年
- ・『桑ヶ谷療病院跡発掘調査報告書』「長谷三丁目 592 番他 1 筆」(懶齋藤建設 降矢順子 2017 年 3 月
- ・『日本歴史大系 14 巻』 「神奈川県の名」 平凡社 1984 年
- ・『鎌倉市史 総説編』 高柳光寿 吉川弘文館 1959 年
- ・『鎌倉市史 考古編』 赤星直忠 吉川弘文館 1967 年
- ・『鎌倉市史 社寺編』 高柳光寿・佐藤榮智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972 年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成 4 年 白井永二
- ・『廃寺事典』 有隣堂 貫達人・川副竹胤 1980 年
- ・『中世瀬戸窯の研究』 高志書院 藤澤良祐 2008 年
- ・『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』 愛知県 常滑・中野晴久 2012 年
- ・『大宰府条坊跡 X V - 陶磁器分類編一』 太宰府市教育委員会 2000 年
- ・『考古論叢 神奈川第 2 集』 「中世火鉢考」 神奈川県考古学会 河野真知郎 1993 年

遺構計測表

遺構No.	面	長軸	短軸	深さ	遺構No.	面	長軸	短軸	深さ
1	1	32	32	34	39	3	57	(35)	18
2	1	29	29	5	40	3	60	38	15
3	1	21	20	10	41	3	53	38	12
4	1	45	38	10	42	3	67	45	38
5	1	117	67	20	43	3	25	24	15
6	1	46	37	23	44	3	26	24	13
7	1	56	38	25	45	3	47	35	17
8	1	104	44	24	46	3	35	24	19
9	1	29	27	20	47	3	23	(21)	3
10	1	37	(18)	9	48	3	28	27	6
11	1	24	23	16	50	3	59	31	14
101	1	47	(26)	12	51	3	(47)	40	13
102	1	(75)	(71)	19	52	3	22	17	32
103	1	93	68	9	53	3	21	18	21
104	1	90	78	17	54	3	(37)	(23)	6
105	1	91	75	11	55	3	(25)	(14)	30
106	1	(608)	(137)	160	56	3	(42)	(27)	39
107	1	(33)	29	26	58	3	18	18	26
108	1	42	32	24	59	3	22	17	14
109	1	39	39	40	113	3	40	33	46
13	2	252	70	12	114	3	58	30	18
14	2	35	30	46	115	3	38	(30)	48
15	2	26	22	10	116	3	21	18	34
16	2	35	35	25	117	3	31	30	58
17	2	41	38	29	118	3	49	46	18
18	2	36	28	45	119	3	41	33	48
19	2	17	15	54	120	3	50	37	39
24	2	27	24	33	121	3	(44)	44	43
49	2	(35)	27	7	122	3	43	(37)	43
60	2	22	18	11	123	3	50	42	40
62	2	36	34	28	124	3	53	(33)	22
110	2	38	38	12	125	3	47	45	47
111	2	60	52	39	126	3	49	42	41
112	2	66	63	4	127	3	(54)	36	46
133	2	48	44	79	128	3	48	38	25
134	2	37	36	34	129	3	45	45	52
204	2	15	14	9	130	3	52	43	53
205	2	25	24	12	131	3	52	46	38
206	2	25	22	15	132	3	46	43	24
207	2	(29)	28	13	135	3	130	(18)	41
209	2	11	11	17	142	3	100	(77)	25
20	3	34	29	11	143	3	28	28	11
21	3	39	29	40	144	3	31	27	21
22	3	23	20	8	145	3	42	39	23
23	3	27	(24)	7	146	3	40	(19)	24
25	3	35	33	30	147	3	40	37	18
26	3	35	29	8	148	3	44	36	32
28	3	27	26	24	149	3	36	(29)	12
29	3	(37)	(32)	38	150	3	45	34	10
30	3	47	38	28	151	3	29	19	14
31	3	52	37	29	152	3	(53)	46	6
32	3	42	(26)	39	153	3	42	40	16
33	3	31	29	23	154	3	59	50	35
34	3	38	36	18	155	3	31	19	13
35	3	31	27	14	156	3	33	27	35
36	3	18	18	9	157	3	71	(33)	23
37	3	21	17	6	158	3	88	74	34
38	3	32	32	10	159	3	36	32	32

単位 (cm)

遺構計測表

遺構No.	面	長軸	短軸	深さ	遺構No.	面	長軸	短軸	深さ
160	3	32	29	42	176	3	49	(37)	15
161	3	122	88	44	177	3	37	(32)	19
162	3	65	45	39	178	3	46	40	23
163	3	450	236	45	179	3	57	48	42
164	3	28	25	18	180	3	48	32	20
165	3	43	43	40	181	3	42	32	41
166	3	40	35	35	182	3	41	41	35
167	3	42	38	48	183	3	(61)	(57)	12
168	3	43	(28)	43	184	3	42	33	37
169	3	63	62	10	186	3	(100)	(52)	(85)
170	3	57	35	28	187	3	(250)	(70)	(80)
171	3	42	36	15	200	3	35	27	15
172	3	48	42	35	201	3	22	22	16
173	3	36	(23)	59	202	3	39	22	37
174	3	58	37	51	203	3	33	(13)	22
175	3	51	50	14					

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
7	1	1面 遺構1	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.8	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:口唇部一部打ち掻き痕・内面一部黒色に変色
7	2	1面 遺構2	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
7	3	1面 遺構8	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.8	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
7	4	1面 遺構104	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
7	5	1面 遺構104	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/5
7	6	1面 遺構104	かわらけ	7.6	5.4	1.7	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:完形
7	7	1面 遺構104	かわらけ	7.6	6.0	1.8	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:完形
7	8	1面 遺構104	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/2
7	9	1面 遺構104	かわらけ	7.8	6.0	1.5	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:完形
7	10	1面 遺構104	かわらけ	(13.4)	(9.2)	3.2	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/3
7	11	1面 遺構104	かわらけ	(12.8)	7.4	4.1	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:4/5
7	12	1面 遺構104	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6b型式
7	13	1面 遺構105	かわらけ	6.8	5.0	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:ほぼ完形
8	1	1面 遺構106 石垣裏込	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒・小石粒 良土 c:暗褐色 d:明茶褐色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:8形式
9	1	1面 面上	かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/2
9	2	1面 面上	土器質 火鉢	—	—	—	b:微砂・黒色粒・白色粒 c:灰色 d:炭素吸着し黒色 e:良好 f:口縁部片 g:Ic類
9	3	1面 構成土	かわらけ	(3.8)	(3.4)	0.6	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒 やや良土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4 g:極少の器形 口唇部内折れ
9	4	1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.4	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4 g:口唇部油煤痕
9	5	1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.2)	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2 内面黒色に変色
9	6	1面 構成土	かわらけ	(8.4)	(6.2)	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
9	7	1面 構成土	かわらけ	7.6	5.4	1.6	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
9	8	1面 構成土	かわらけ	7.6	5.4	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
9	9	1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:口唇部油煤痕
9	10	1面 構成土	かわらけ	(7.6)	5.6	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4 g:口唇部油煤痕
9	11	1面 構成土	かわらけ	7.6	4.6	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部油煤痕
9	12	1面 構成土	かわらけ	7.4	5.8	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
9	13	1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.8	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:淡橙色 e:良好 f:1/3
9	14	1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.8	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:淡橙色 e:良好 f:3/4
9	15	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
9	16	1面 構成土	かわらけ	8.4	6.4	1.7	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:口唇部油煤痕
9	17	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.7	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 内底ナデ b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
9	18	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
9	19	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.5	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
9	20	1面 構成土	かわらけ	(6.8)	(5.2)	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
9	21	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.8)	1.5	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
9	22	1面 構成土	かわらけ	(6.8)	(5.4)	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
9	23	1面 構成土	かわらけ	7.6	5.8	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
9	24	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.8	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
9	25	1面 構成土	かわらけ	(12.6)	(8.6)	3.0	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:内面黒色に変色
9	26	1面 構成土	かわらけ	(14.0)	(8.4)	3.0	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色
9	27	1面 構成土	かわらけ	(12.2)	(7.8)	3.1	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
9	28	1面 構成土	かわらけ	12.2	7.2	3.2	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
9	29	1面 構成土	かわらけ	12.1	7.6	3.3	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:内外面黒色に変色

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
9	30	1面 構成土	かわらけ	12.2	6.4	3.4	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4 g:外面黒色に変色
9	31	1面 構成土	かわらけ	(11.0)	6.8	2.8	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
9	32	1面 構成土	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.2	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
9	33	1面 構成土	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.4	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
9	34	1面 構成土	かわらけ	(12.0)	7.6	3.2	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:口唇部一部黒色に変色
9	35	1面 構成土	かわらけ	(12.6)	(7.0)	3.6	a:口クロ・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:内面摩耗
9	36	1面 構成土	かわらけ	12.2	8.0	3.4	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
9	37	1面 構成土	かわらけ	(12.2)	(6.4)	3.7	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
9	38	1面 構成土	かわらけ	(12.6)	(7.4)	3.7	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
9	39	1面 構成土	青磁 折縁深皿	—	—	—	a:口クロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 f:口縁部片 g:内外面無文 g:竜泉窯 Ⅲ類
9	40	1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
9	41	1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	(13.6)	—	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:底部片 g:高台貼り付け 内面摩耗
9	42	1面 構成土	常滑片口鉢 加工品	(9.5)	(8.7)	1.3	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:型式不明 体部意図的に磨っている 用途不明 内面摩耗 片口鉢
9	43	1面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:7型式
9	44	1面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒・小石粒 やや粗土 c:暗褐色 e:良好・硬質 f:底部片
9	45	1面 構成土	金属製品 釘	(4.2)	(0.5)	0.5	g:断面方形 鍛造
10	1	2面 遺構112	かわらけ	(8.4)	(5.0)	2.1	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/2
10	2	2面 遺構112	かわらけ	7.8	5.8	1.7	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:完形
11	1	2面 構成土	かわらけ	4.6	3.2	1.3	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:赤橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:極少の器形 口唇部内折れ
11	2	2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(6.2)	1.4	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	3	2面 構成土	かわらけ	(7.2)	(6.0)	1.4	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	4	2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.7	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/2
11	5	2面 構成土	かわらけ	(8.2)	(5.4)	1.7	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:口唇部厚く油煤痕
11	6	2面 構成土	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.5	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/5
11	7	2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.8)	1.6	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	8	2面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.8	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	9	2面 構成土	かわらけ	7.6	5.6	2.1	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5
11	10	2面 構成土	かわらけ	(12.0)	(6.8)	2.6	a:口クロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
11	11	2面 構成土	かわらけ	11.8	7.9	3.3	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 内底ナデ b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形 g:口唇部黒色に変色
11	12	2面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6b形式
11	13	2面 構成土	金属製品 釘	(5.6)	(1.0)	(0.9)	g:断面方形 鍛造
16	1	3面 遺構30	瀬戸 四耳壺	—	8.8	—	a:輪積み b:微砂 良土 c:灰色 d:灰緑色 e:良好・軟質 f:胴部～底部 g:高台貼り付け 肩部に四耳・2か所遺存
16	2	3面 遺構30	かわらけ	(11.4)	(7.8)	3.4	a:口クロ・回転系切り不明瞭・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
16	3	3面 遺構30	木製品 礎板	(9.4)	(5.8)	1.1	
16	4	3面 遺構30	木製品 礎板	19.2	13.1	3.6	
16	5	3面 遺構31	木製品 礎板	12.4	6.8	4.1	
16	6	3面 遺構31	木製品 礎板	12.3	6.0	3.6	
16	7	3面 遺構31	木製品 柱	(14.3)	10.7	7.0	
16	8	3面 遺構41	木製品 礎板	19.1	10.0	3.5	
16	9	3面 遺構41	木製品 礎板	11.8	10.0	5.9	
16	10	3面 遺構41	木製品 礎板	15.8	10.4	1.5	
17	11	3面 遺構41	木製品 柱	(28.4)	11.1	5.5	

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
17	12	3面 遺構115	かわらけ	7.8	5.2	1.6	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや良土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4
17	13	3面 遺構115	かわらけ	(12.4)	7.0	3.2	a:ロクロ・回転系切り・内底ナデ b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
17	14	3面 遺構115	かわらけ	(12.6)	(8.2)	3.6	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
17	15	3面 遺構117	かわらけ	(12.0)	(8.2)	3.7	a:ロクロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
17	16	3面 遺構118	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
17	17	3面 遺構118	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
17	18	3面 遺構118	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.8	a:ロクロ・回転系切り不明瞭・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
17	19	3面 遺構118	かわらけ	12.0	8.0	3.6	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形
18	1	3面 面上	かわらけ	(7.0)	(4.8)	1.8	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/3
18	2	3面 面上	かわらけ	7.8	5.0	2.0	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:完形 g:内外面・口唇部油煤痕
18	3	3面 面上	かわらけ	(8.2)	(5.0)	1.7	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 内底油煤痕
18	4	3面 面上	かわらけ	(11.8)	(7.8)	3.2	a:ロクロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
18	5	3面 面上	かわらけ	(12.6)	(9.2)	3.5	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
18	6	3面 面上	かわらけ	(11.4)	(7.0)	3.7	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
18	7	3面 面上	かわらけ	(12.4)	(7.4)	3.8	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
18	8	3面 面上	土製品 人形	(4.0)	(2.5)	(4.2)	a:形押し b:硬質 精良 e:良好 g:右脚部分 衣が足先までかぶる 18-8と18-9は両方とも右足部分が遺存しており、二体の人形であった。表面に採色の痕は残っていない。
18	9	3面 面上	土製品 人形	(2.9)	(1.3)	(3.5)	a:形押し b:硬質 精良 e:良好 g:右脚部分 衣が足先までかぶる
18	10	3面 構成土	かわらけ	(7.0)	(5.4)	1.3	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/3
18	11	3面 構成土	かわらけ	(7.2)	(4.4)	1.5	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
18	12	3面 構成土	かわらけ	(7.8)	6.0	1.4	a:ロクロ・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:4/5
18	13	3面 構成土	かわらけ	7.8	5.6	1.5	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形 内面に鉄分付着
18	14	3面 構成土	かわらけ	7.6	5.2	1.7	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
18	15	3面 構成土	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.8	a:ロクロ・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
18	16	3面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.7	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:2/3
18	17	3面 構成土	かわらけ	8.0	5.6	1.6	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:完形
18	18	3面 構成土	かわらけ	(8.0)	(5.6)	1.8	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
18	19	3面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a:ロクロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
18	20	3面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.8	a:ロクロ・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3 器壁摩耗
18	21	3面 構成土	かわらけ	7.8	5.2	1.9	a:ロクロ・回転系切り不明瞭・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:4/5
18	22	3面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.8	a:ロクロ・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
18	23	3面 構成土	かわらけ	7.6	5.6	1.6	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形
18	24	3面 構成土	かわらけ	(8.0)	(5.8)	2.0	a:ロクロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
18	25	3面 構成土	かわらけ	7.8	5.4	1.9	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
18	26	3面 構成土	かわらけ	12.4	8.2	3.2	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
18	27	3面 構成土	かわらけ	(13.4)	(8.8)	3.2	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:口唇部油煤痕
18	28	3面 構成土	かわらけ	(13.0)	(9.2)	3.4	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:内外面鉄分付着
18	29	3面 構成土	かわらけ	12.4	7.6	3.5	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:外面鉄分付着
18	30	3面 構成土	かわらけ	12.2	8.6	3.4	a:ロクロ・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4 g:器壁摩耗
18	31	3面 構成土	かわらけ	12.8	8.0	3.5	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
18	32	3面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.6	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3
18	33	3面 構成土	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.5	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3 g:内面黒色に変色 外面油煤痕と鉄分付着
18	34	3面 構成土	かわらけ	(12.0)	7.5	3.4	a:ロクロ・回転系切り・板状圧痕。内底ナデ b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
18	35	3面 構成土	青磁 蓮弁文碗	(15.6)	5.2	6.9	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 f:2/3 g:内面無文・内面見込みに草花文の印刻 外面蓮弁文(鍋不明瞭) 高台部露胎 竜泉窯 II類

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
18	36	3面 構成土	青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	—	a:口クロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 f:口縁部片 g:内面無文・外面鎬蓮 弁文 竜泉窯 III類
18	37	3面 構成土	青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	—	a:口クロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 f:口縁部片 g:内面無文・外面鎬蓮 弁文 竜泉窯 III類
18	38	3面 構成土	白磁 口兀碗	—	—	—	b:精良堅緻 c:灰白色 d:透明 f:口縁部片 g:内外面無文 IX類 口唇部口兀 口唇部油煤痕
18	39	3面 構成土	山茶碗	—	—	—	a:口クロ b:精良堅緻 c:明白色 d:灰色 e:良好 f:口縁部片 g:東濃型
18	40	3面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6b型式
18	41	3面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒・小石粒 良土 c:灰褐色 d:暗褐色 e:良好・硬質 f: 口縁部片 g:6a型式
18	42	3面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒 良土 c:灰色 d:暗褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g: 格子の叩き文
18	43	3面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒 良土 c:灰色 d:灰緑色 e:良好・硬質 f:胴部片 g: 格子の叩き文
18	44	3面 構成土	石製品 温石	9.1	8.5	1.8	g:滑石製 滑石鍋胴部加工品 端部に孔があく
18	45	3面 構成土	金属製品 用途不明	5.2	4.9	1.5	g:ほぼ円形を呈する 中央に摘み状の突起あり 蓋か 遺存状態悪
18	46	3面 構成土	金属製品 釘	(6.2)	(0.9)	(0.8)	g:断面方形 鍛造
18	47	3面 構成土	金属製品 釘	(5.0)	(0.8)	(0.6)	g:断面方形 鍛造
19	1	表土	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.9	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗 土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
19	2	表土	かわらけ	(8.0)	(6.0)	2.0	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 c:黄褐色 やや 粗土 e:良好 f:1/2
19	3	表土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 d:暗褐色 e:良好 f:口縁部片 g:6 a形式
19	4	表土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 d:暗褐色 e:良好 f:口縁部片 g:9 形式
19	5	表土	金属製品 釘	(5.7)	(0.4)	(0.4)	g:断面方形 鍛造

単位 (cm)

市内遺跡発掘調査花粉等分析業務委託
報告書

2012年5月

株式会社 パレオ・ラボ
Paleo Labo Co.,Ltd

1. はじめに

珪藻は、10~500 μ mほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている (小杉, 1988; 安藤, 1990)。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などに生育する珪藻種 (陸生珪藻) が知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

桑ヶ谷療病院跡 (No. 294) は、鎌倉市長谷三丁目地内に所在する13世紀後半~14世紀代の遺跡である。調査では、ひな壇状の造成、大型泥岩敷きの地業等の遺構が検出されている。ここでは、堆積物の堆積環境を検討するために珪藻化石群集を調べた。

2. 試料と方法

試料は、南壁において採取された堆積物5試料である (表1)。

表1 珪藻分析を行った試料と特徴

分析No.	位置	層位	時期	堆積物の特徴
1	南壁	22層	13世紀後半 ~14世紀代	黒色 (2.5Y2/1) 土壌 (シルト質粘土)
2		47層		黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土
3		50層		黒色 (2.5Y2/1) 粘土
4		51層		暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘土
5		52層		暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘土質シルト (固結)

各試料について、以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 湿潤重量約1g程度を取り出し、秤量した後ビーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートを顕微鏡下600~1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形 (半分以上残っている殻) に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g当たりの殻数を計算した。

3. 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉 (1988) および安藤 (1990) が設定した環境指標種群に基づい

た。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種 (W) として、海水～汽水種は不明種 (?) としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明 (?) として扱った。以下に、小杉 (1988) が設定した汽水～海水域における環境指標種群と安藤 (1990) が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

〔外洋指標種群 (A) 〕 : 塩分濃度が35‰以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

〔内湾指標種群 (B) 〕 : 塩分濃度が26～35‰の内湾水中を浮遊生活する種群である。

〔海水藻場指標種群 (C1) 〕 : 塩分濃度が12～35‰の水域の海藻や海草 (アマモなど) に付着生活する種群である。

〔海水砂質干潟指標種群 (D1) 〕 : 塩分濃度が26～35‰の水域の砂底 (砂の表面や砂粒間) に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

〔海水泥質干潟指標種群 (E1) 〕 : 塩分濃度が12～30‰の水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

〔汽水藻場指標種群 (C2) 〕 : 塩分濃度が4～12‰の水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

〔汽水砂質干潟指標種群 (D2) 〕 : 塩分濃度が5～26‰の水域の砂底 (砂の表面や砂粒間) に付着生活する種群である。

〔汽水泥質干潟指標種群 (E2) 〕 : 塩分濃度が2～12‰の水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

〔上流性河川指標種群 (J) 〕 : 河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

〔中～下流性河川指標種群 (K) 〕 : 河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

〔最下流性河川指標種群 (L) 〕 : 最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。

〔湖沼浮遊生指標種群 (M) 〕 : 水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。

〔湖沼沼沢湿地指標種群 (N) 〕 : 湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。

〔沼沢湿地付着生指標種群 (O) 〕 : 水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態が優勢な出現が見られる種群である。

〔高層湿原指標種群 (P) 〕 : 尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

〔陸域指標種群 (Q) 〕 : 上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である (陸生珪藻と呼ばれている)。

4. 珪藻化石の特徴と堆積環境およびその変遷

5試料から検出された珪藻化石は、海水種が8分類群6属6種、淡水種が6分類群5属6種であった。これらの珪藻化石は、海水域において1環境指標種群(B)、淡水域において2環境指標種群(O、Q)に分類された(表2)。以下に、各地点の堆積物の珪藻化石群集の特徴と堆積環境について述べる。

分析No. 1 (22層) と分析No. 3 (50層) では、検出された珪藻化石は少ないものの、陸域指標種群(Q)の*Hantzschia amphioxys*などが特徴的に出現した。

したがって、22層と50層の堆積時には、ジメジメとした湿った陸域環境であったと推定される。なお、分析No. 1は、イネ科植物の葉身に形成されるプラント・オパール化石が多産すること、堆積物が黒色土壌であることから、旧地表面であったと考えられる。

その他の分析No. 2 (47層)、No. 4 (51層)、No. 5 (52層) では、海水種珪藻化石は検出されるものの、淡水種珪藻化石はほとんど含まれていなかった。検出された海水種珪藻化石は基盤層に含まれる珪藻化石の再堆積と考えられる。47層、51層、52層の堆積当時は、珪藻が繁茂することができない乾いた環境あるいは堆積速度が速い環境であったと考えられる。

5. おわりに

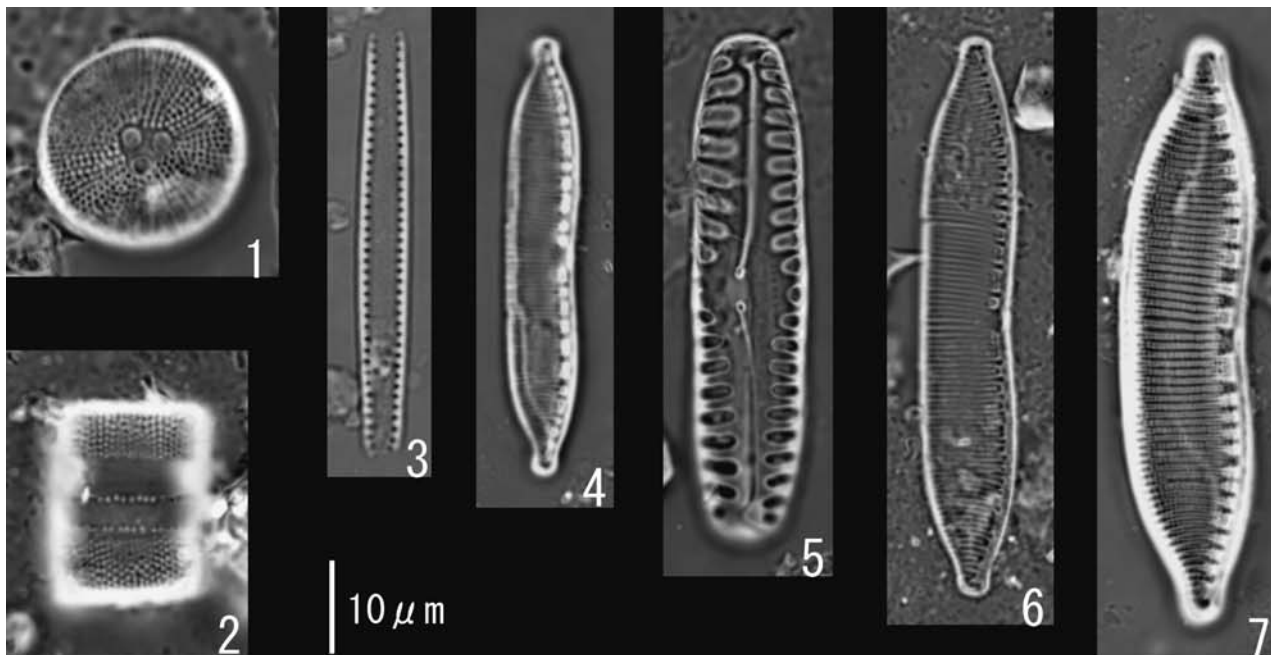
南壁において採取された堆積物5試料について珪藻化石を調べた。その結果、分析No. 1 (22層) と分析No. 3 (50層) の堆積時にはジメジメとした湿った陸域環境であったと推定された。分析No. 2 (47層)、No. 4 (51層)、No. 5 (52層) の堆積時は、珪藻が繁茂することができない乾いた環境か堆積速度が速い環境であったと推定された。

引用文献

- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.

表2 堆積物中の珪藻化石

分類群	種群	1	2	3	4	5
<i>Actinoptychus</i>	<i>senarius</i>	?	1		1	4
<i>Coscinodiscus</i>	<i>marginatus</i>	?		2		1
<i>Coscinodiscus</i>	spp.	?	2			1
<i>Grammatophora</i>	<i>macilenta</i>	?				1
<i>Navicula</i>	<i>lyra</i>	?		1		
<i>Thalassionema</i>	<i>nitzschioides</i>	B		1		10
<i>Thalassiosira</i>	<i>excentrica</i>	B			1	
<i>Thalassiosira</i>	spp.	?				1
<i>Hantzschia</i>	<i>amphioxys</i>	Q	23		10	
<i>Melosira</i>	<i>roeseana</i>	Q	2			
<i>Navicula</i>	<i>contenta</i>	Q	1			
<i>Navicula</i>	<i>mutica</i>	Q	3			
<i>Stauroneis</i>	<i>phoenicenteron</i>	O				1
<i>Pinnularia</i>	<i>borealis</i>	Q	6		2	
	Unknown	?	2			
内湾指標種群(B)			0	1	0	1
海水不明種(?)			3	3	0	2
沼沢湿地付着生指標種群(O)			0	0	0	1
陸域指標種群(Q)			35	0	12	1
不明種(?)			2	0	0	0
合計			40	4	12	5



図版1 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

1・2. *Melosira roeseana* (No. 1) 3. *Thalassionema nitzschioides* (No. 5)

4. *Hantzschia amphioxys* (No. 3) 5. *Pinnularia borealis* (No. 1)

6. *Hantzschia amphioxys* (No. 1) 7. *Hantzschia amphioxys* (No. 3)



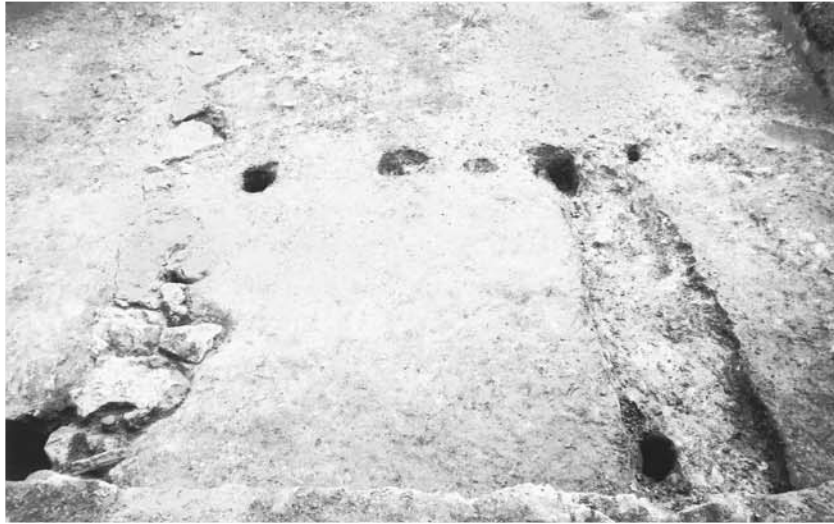
▲ I 区 第 1 面・泥岩塊による地業の状況



▲ I 区 第 1 面 (南から)



▲ II 区 遺構 106 石垣



◀ I 区
第 2 面 (北から)



◀ II 区
第 2 面石列検出状況 (南から)



◀ II 区
第 2 面 (西から)



▲ I区 第3面 (南から)



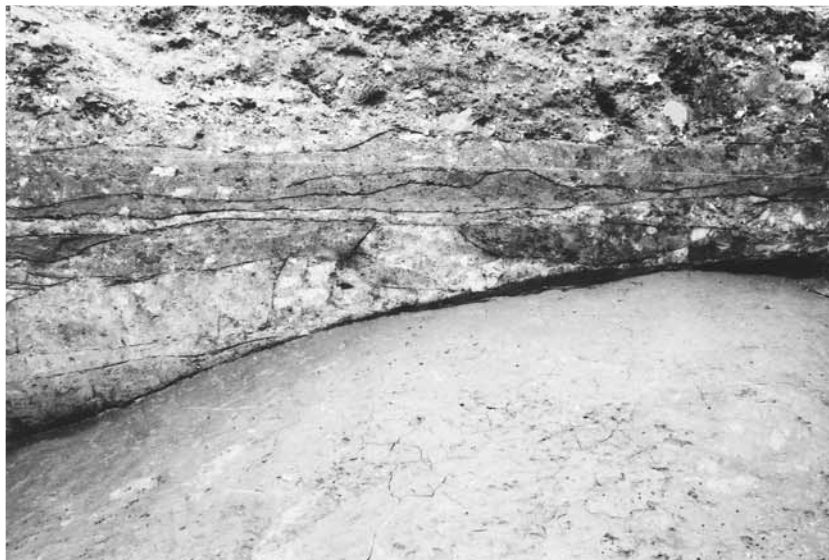
▲ II区 第3面 (東から)



▲ 第3面遺構 30 検出状況



▲ I 区 最終確認トレンチ（南から）



▲ I 区 南壁土層堆積（西側）



▲ I 区 南壁土層堆積（東側）



7-2

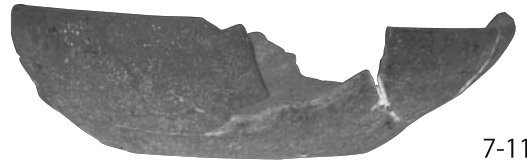
▲第1面遺構 2



7-7



7-9



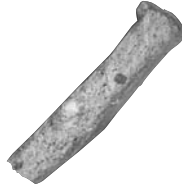
7-11

▲第1面遺構 104



7-13

▲第1面遺構 105



8-1

▲第1面遺構 106 石垣裏込



9-2

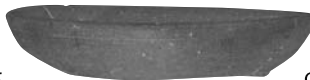
▲第1面面上



9-5



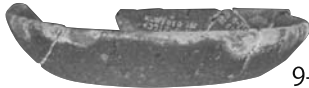
9-6



9-7



9-8



9-11



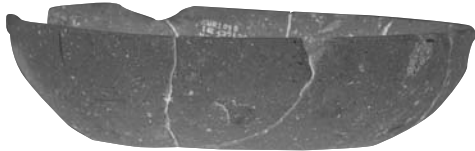
9-12



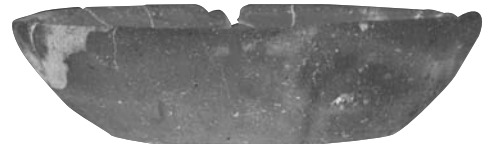
9-16



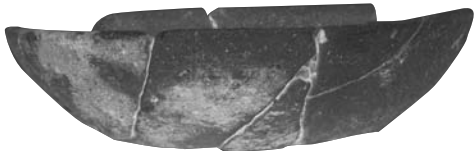
9-23



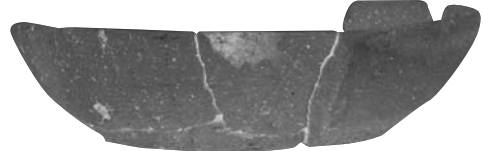
9-28



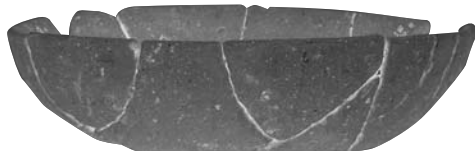
9-29



9-30



9-34



9-36

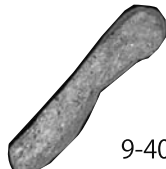


9-43

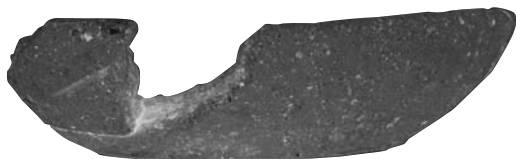
▲第1面構成土



9-39



9-40

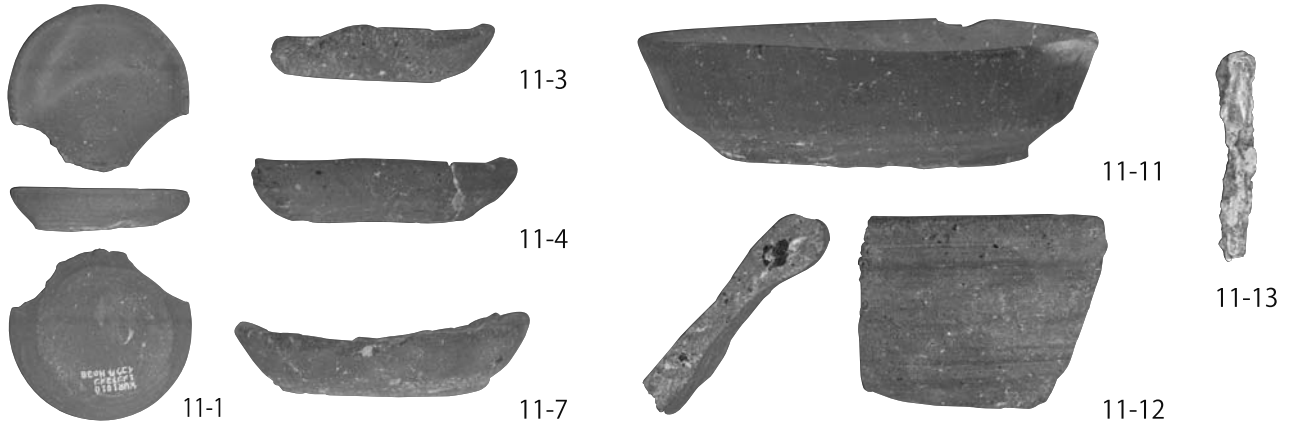


10-1

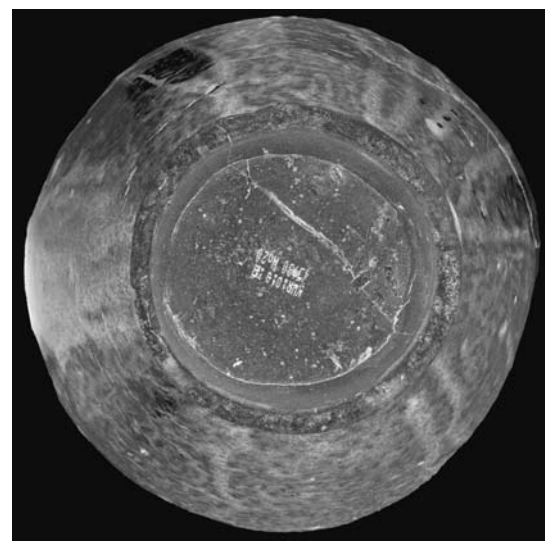
▲第2面遺構 112



10-2



▲第2面構成土



▲第3面遺構 30



▲第3面遺構 31



16-9



16-10

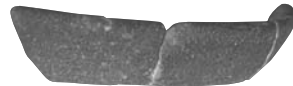


17-11

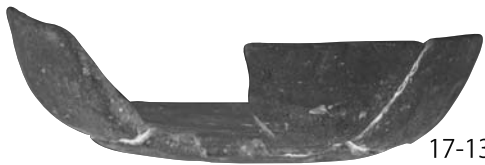
▲第 3 面遺構 41



17-12

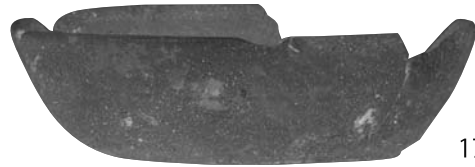


17-16



17-13

▲第 3 面遺構 115

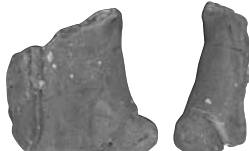


17-19

▲第 3 面遺構 118



18-1

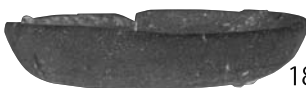


18-8

▲第 3 面上



18-9



18-13



18-14

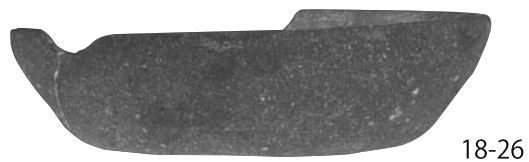


18-17

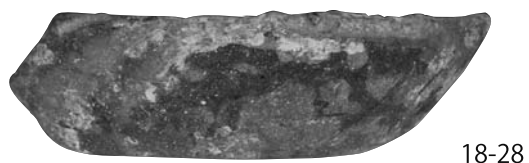


18-23

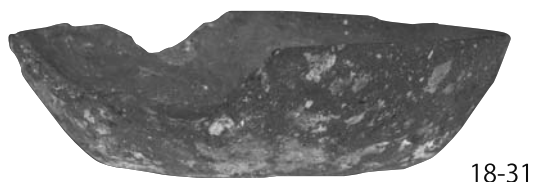
▲第 3 面構成土



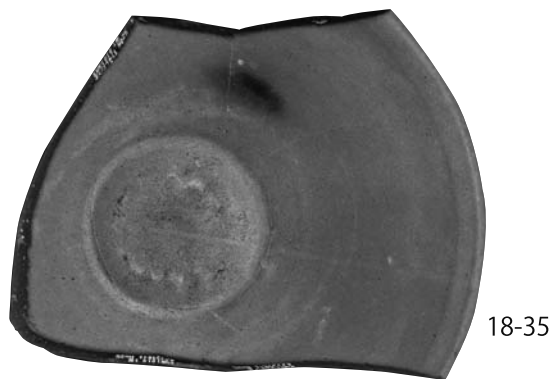
18-26



18-28



18-31



18-35

▲第3面構成土



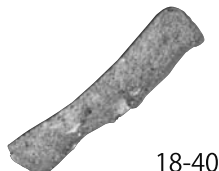
18-36



18-37



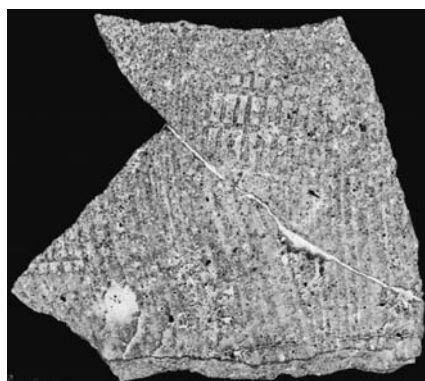
18-39



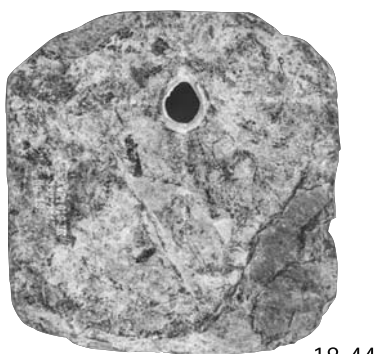
18-40



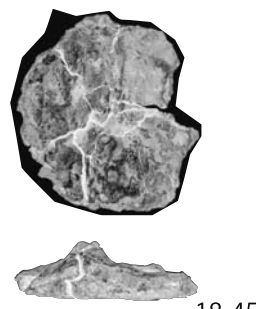
18-42



18-43



18-44



18-45



18-46

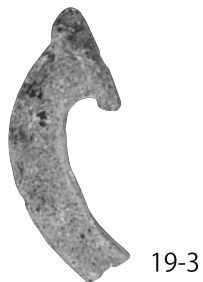
▲第3面構成土



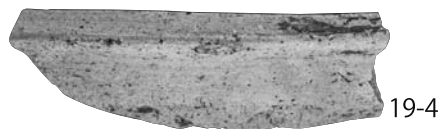
19-1



19-2



19-3



19-4



19-5

▲表土

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成30年度調査報告							
巻次	35 (第1分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	福田 誠／押木弘己／押木弘己／田畑衣理／伊丹まどか／伊丹まどか							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2019年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(㎡)	
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市 大町三丁目 1230番4、7、10	14204	231	35° 18' 52"	139° 33' 27"	20060213 ～ 20060228	5.00	個人専用住宅 (鋼管杭工事)
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 二階堂字荏柄 3番6外	14204	49	35° 19' 24"	139° 33' 47"	20061030 ～ 20070115	122.40	個人専用住宅 (柱状改良工事)
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 二階堂字荏柄 3番6外	14204	49	35° 19' 24"	139° 33' 47"	20080228 ～ 20080423	54.00	個人専用住宅 (柱状改良工事)
げぼしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜二丁目 113番5、9	14204	200	35° 18' 56"	139° 32' 50"	20091013 ～ 20091113	12.00	自己用店舗併用住宅 (柱状改良工事)
かわごえしげよりていあと 川越重頼邸跡	神奈川県鎌倉市 浄明寺五丁目 423番1、4	14204	270	35° 19' 05"	139° 34' 29"	20100701 ～ 20100826	45.00	個人専用住宅 (表層改良工事)
くわがやつりょうびょういんあと 桑ヶ谷療病院跡	神奈川県鎌倉市 長谷三丁目 630番1	14204	294	35° 18' 51"	139° 32' 01"	20110128 ～ 20110428	107.00	店舗併用住宅 (鋼管杭工事)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	城館跡	古墳時代・中世	溝、柱穴	土師器、かわらけ、国産陶器	柱穴や溝等中世の生活痕跡を検出。
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	都市遺跡	中世	道路状遺構、掘立柱建物、土坑、溝、ピット	弥生土器、かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、金属製品、石製品、土製品	12世紀末～14世紀前葉の遺構を確認。12世紀末～13世紀初頭の縁のつく掘立柱建物、13世紀第2四半期～14世紀前葉に存続する道路を検出。道路は現在の荏柄天神社参道に並行。
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	都市遺跡				
げぼしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	都市遺跡	中世	土坑、ピット、方形堅穴建物、溝状遺構、	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品、骨製品	13世紀後半～14世紀の遺構を確認。建物は短期間に4回建替えられていた。
かわごえしげよりていあと 川越重頼邸跡	城館跡	中世	土坑、ピット、かわらけ廃棄遺構、	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、木製品、金属製品、石製品、骨製品、須恵器	13世紀～15世紀前半の生活面を確認。第1面でかわらけ廃棄遺構を検出。
くわがやつりょうびょういんあと 桑ヶ谷療病院跡	病院跡 遺物散布地	中世	溝、土坑、ピット、石列、柱穴列、掘立柱建物	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、金属製品、石製品	14世紀後半～15世紀の3面の地業層を確認。谷を雛壇状に造成した形跡。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35

平成30年度発掘調査報告

(第1分冊)

発行日 平成31年3月29日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 文一堂印刷株式会社